

タメ若クハ糧食準備ノ爲メ寄港シタルモノハ積荷目録入港届書ヲ差出スノ義務ナク又其船舶ニシテ貨物ノ積卸ヲ爲サ、ルトキハ噸稅ヲ課セラル、コトナカルヘシ

第五條 船舶出港セントスルトキハ船長ハ輸出積荷目録ヲ稅關ニ差出スヘシ輸出積荷目録ハ輸入積荷目録ト同シク詳細ニ記載スヘシ

前項ノ手續アリタルトキハ稅關ハ出港免狀ヲ與ヘ同時ニ露國領事ノ船書類受領證明書ヲ返附スヘシ但船書類ハ右受領證明書ヲ領事ニ返納シタル後船長ニ返附セラルヘキモノトス

第六條 船舶前條ノ手續ヲ履行セスシテ出港シタルトキハ其船長ハ墨銀二百弗ヨリ多カラサル罰金ニ處セラルヘシ

第七條 露國汽船ハ同一ノ日ニ同一ノ稅關ニ於テ入港及ヒ出港ノ手續ヲナスコトヲ得此場合ニ於テハ其港ニ於テ陸揚ヲ爲シ又ハ他港ニ運送スル爲メ他船ニ轉載スル貨物ノ外積荷目録中ニ掲記スルコトヲ要セス

第二章 物貨ノ積卸及ヒ稅金

第一條 輸入貨物引取主ニ於テ其貨物ヲ陸揚セント欲スルトキハ陸揚願書ヲ稅關ニ差出スヘシ陸揚願書ニハ左ノ事項ヲ記載スルヲ要ス

貨物引取主ノ姓名、船名、貨物ノ記號、數量、種類、各種物品ノ價額

稅關ハ輸入貨物ニ對シ積荷目録ノ提出ヲ要求スルコトヲ得若積荷目録ヲ差出サ、ルカ又ハ其差出サ、ル

理由ノ不充分ナルトキハ貨物引取主ハ二倍ノ稅金ヲ納ムルニ非ラサレハ陸揚ノ許可ヲ受クルコトヲ得ス此場合ニ於テ納メタル稅金ノ過額ハ積荷目録ヲ提出シタルトキハ返還セラルヘシ

第二條 前條ノ陸揚貨物ハ稅關官吏ニ於テ特ニ撰定シタル場所ニ於テ検査ヲ行フコトヲ得

貨物ノ検査ハ遲滯ナク若クハ其貨物ヲ破損セサルコトニ注意シテ之ヲ行ヒ検査ヲ終リタルトキハ其貨物ハ稅關官吏ニ於テ可成之ヲ元形ノ通りニ包裝スヘキモノトス

第三條 稅關官吏ハ從價稅ヲ拂フヘキ貨物ノ價格ニ關シ貨物取引主若クハ送り主ノ報告ヲ不相當ナリト認ムル場合ニハ稅關ノ評價ニ相當スル稅金ヲ納メシムルコトヲ得貨物ノ引取主及送り主ニ於テ其納稅ヲ承諾セサル場合ニハ其所有主ハ二十四時間以内(日曜祭日ヲ除ク)ニ其理由ヲ稅關長ニ申出テ評價委員ヲ撰定シ其委員ノ評定シタル價額ヲ稅關長ニ報告スヘシ此場合ニ於テ稅關長ハ自己ノ意見ニヨリ其貨物ニ對シ改定價格ニ依リテ稅金ヲ徵シ若クハ改定價格ニ百分ノ五ヲ加ヘタル代價ヲ以テ其貨物ヲ買取ルコトヲ得但之ヲ買上ルトキハ價格改定ノ日ヨリ五日間ニ其代價ヲ拂渡スヘシ

第四條 航海中ニ損傷シタル物貨ハ其損傷ノ程度ニ應シ納稅額ヲ低減スヘシ此場合ニ於テ稅金ノ低減價格ニ異議アルトキハ前條ノ規定ニヨリテ之ヲ處置ス

第五條 輸出貨物ハ船積前ニ之ヲ稅關ニ届出ツヘシ届出ハ筆記ヲ以テシ之ニ左ノ事項ヲ記載スルヲ要ス

物貨ヲ積載スヘキ船舶ノ名、物貨ノ數、記號、數量、種類及各種物品ノ價格、届出人ハ確實ヲ證スルタメ届書ニ署名捺印スヘシ

第六條 税關ノ特ニ撰定シタル場所ノ外又ハ日没ヨリ日出ニ至ル期間若クハ日曜及祭日ニ於テ貨物ノ積卸ヲナスヲ要スルトキハ特ニ税關ノ許可ヲ受クヘシ此場合ニ於テ税關ハ別ニ手数料ヲ徴收スルコトヲ得

第七條 輸出入人ニ於テ税金ヲ過納シタルトキハ其納メタル日ヨリ三十日以内ニ其返還ヲ請求スヘシ此期限ヲ過クレハ請求ノ權ヲ失フ

税關ハ税金ノ徴收不足ヲ發見シタルトキハ前項ノ期限内ニ追納ヲ命スヘシ此期限ヲ過クレハ命令ノ權ヲ失フ

關稅々率表

千八百八十四年露曆六月二十五日
(七月七日)露韓條約 附則

輸入商品	從價稅
一 旅客小荷物	無稅
二 本表ニ名目ヲ特示セサル菓實ノ製品及各種ノ罐詰	〇、〇七五
三 竹類(切片若クハ全長物)	〇、〇五〇
四 絹製天鵝絨	〇、二〇〇
五 麵類	〇、〇七五
六 鑛山用爆發物及特ニ許可ヲ經タル爆發	〇、一〇〇
七 各種ノ葡萄酒(樽詰及壘詰)及「ヅェルモット」	〇、一〇〇
八 毛氈	〇、〇七五

九 毛類(人毛ヲ除ク)

一〇 人毛	〇、〇七五
一一 蜜臘又ハ木臘	〇、一〇〇
一二 各種ノ臘布若クハ油布	〇、〇七五
一三 刺繡品(金銀及絹)	〇、二〇〇
一四 扇類	〇、〇七五
一五 衡器	〇、〇五〇
一六 瓷器	〇、〇七五
一七 鳥糞及其他ノ肥料	〇、〇五〇
一八 護謨	〇、〇七五
一九 香木(各種)	〇、二〇〇
二〇 軟性ノ木板	〇、〇七五
二一 硬性ノ木板	〇、一〇〇
二二 寶石(象眼ヲ有スルモノ又ハ有セサルモノ)	〇、二〇〇
二三 貴重品及其模造品	〇、二〇〇
二四 火酒	〇、二〇〇

二六	人參(紅參、白參 <small>精製シタルモノ又ハ精製セサルモノ</small>)	〇、二〇〇
二七	農具	無稅
二八	穀物	〇、〇五〇
二九	金及ヒ銀(棒狀純金銀)	無稅
三〇	金及銀貨	無稅
三一	金銀細工品	〇、二〇〇
三二	紙傘	〇、〇五〇
三三	綿布傘	〇、〇七五
三四	絹傘	〇、一〇〇
三五	齒磨粉	〇、一〇〇
三六	針及留針	〇、〇七五
三七	石灰	〇、〇五〇
三八	學術器械(物理、數學、氣象、外科用品、及其附屬品)	無稅
三九	石材及石盤石(研キタルモノ又ハ炭板)	〇、〇七五
四〇	粗製樟腦	〇、〇五〇
四一	龍腦	〇、一〇〇
四二	網索及ヒ繩(大小各種)	〇、〇七五

四三	傘骨	〇、〇七五
四四	洋紅	〇、一〇〇
四五	繪畫、銅板畫、各種寫真(梓ヲ有スルモノ又ハ有セサルモノ)	〇、一〇〇
四六	樹膠(生又ハ精製品)	〇、一〇〇
四七	明礬	〇、〇五〇
四八	石油及礮性油	〇、〇五〇
四九	朱	〇、一〇〇
五〇	煉瓦及瓦	〇、〇五〇
五一	膠	〇、〇五〇
五二	魚膠	〇、〇七五
五三	書籍、圖譜及地圖	無稅
五四	敷物、「デパート」製、麻布製、毛製若クハ壁絨	〇、〇七五
五五	上等敷物(ブラセルス、キツデルミンステル及ヒ本表中別ニ名目ヲ示サル者)	〇、一〇〇
五六	天鵝絨製敷物	〇、二〇〇
五七	各種ノ床敷物	〇、〇七五
五八	皮革(柔革、普通皮、着色革)	〇、〇七五

- 五九 上等皮革(模様ヲ打込ミタルモノ、紋様ヲ印シタルモノ及着色シタルモノ) 〇、一〇〇
- 六〇 各種ノ皮革製品 〇、一〇〇
- 六一 繭 〇、〇七五
- 六二 菓子類 〇、一〇〇
- 六三 珊瑚(細工品又ハ半製品) 〇、二〇〇
- 六四 各種樹皮及製皮用品 〇、〇五〇
- 六五 骨 〇、〇五〇
- 六六 「コチニール」 〇、二〇〇
- 六七 染料(油質染料及其他)及染料ノ原料 〇、〇七五
- 六八 燧石 〇、〇五〇
- 六九 漆 〇、〇七五
- 七〇 普通漆器 〇、一〇〇
- 七一 上等漆器 〇、二〇〇
- 七二 各種ランプ 〇、〇七五
- 七三 氷糖 〇、一〇〇
- 七四 各種ノ藥品及肉豆蔻(表中別ニ名目ヲ示シタルモノヲ除ク) 〇、〇五〇

- 七五 亞麻、麻、「ヂュート」 〇、〇五〇
- 七六 活字(新舊トモ) 無稅
- 七七 建築及其他ニ用ユル軟性木材 〇、〇七五
- 七八 建築及其他ニ用ユル硬性木材 〇、一〇〇
- 七九 種油 〇、〇五〇
- 八〇 各種ノ植物油 〇、〇七五
- 八一 油糟 〇、〇五〇
- 八二 各種礦物(塊狀、型狀、錠狀、板狀、角材狀、桿狀、薄葉狀、繖狀、布狀、綯帶狀、扁平狀鐵、烙印用鐵、測度用鐵、古鐵、及鐵粉、) 〇、〇五〇
- 八三 礦物(管狀、波狀、若クハ「ブリキ」、針金、白金、水銀、トムバク、黃銅及未製金銀、) 〇、〇七五
- 八四 金屬製品(釘、捻鋸、器械及鐵道材料等) 〇、〇七五
- 八五 各種ノ家具 〇、〇七五
- 八六 發明品ノ模型 無稅
- 八七 昆布 〇、〇五〇
- 八八 海産物(表中別ニ名目ヲ示スモノ則黒魚等ヲ除ク) 〇、〇七五
- 八九 各種ノ樂器 〇、一〇〇

關稅々率表

九〇	音樂機械	〇、一〇〇
九一	各種ノ粉類	〇、〇五〇
九二	麝香	〇、二〇〇
九三	普通石鹼	〇、〇五〇
九四	上等石鹼	〇、一〇〇
九五	各種ノ生肉	〇、〇五〇
九六	乾肉、鹽藏肉	〇、〇七五
九七	飲料(酸酒、檸檬水、生薑水、ラムネ及礦泉)	〇、〇七五
九八	酒類(陶器入)	〇、〇七五
九九	火酒及リキウ(樽詰若クハ罐詰)	〇、二〇〇
一〇〇	「ネフリット」製品	〇、二〇〇
一〇一	糸類(絹糸ヲ除ク)	〇、〇五〇
一〇二	容量大ナラサル見本	無稅
一〇三	蔬菜(生、鹽藏及乾物)	〇、〇五〇
一〇四	夜着及蒲團	〇、〇七五
一〇五	武器、彈藥、銃器、及刀劍類、狩獵用及護身用トシテ特ニ許可ヲ得テ輸入セラル、銃器	〇、二〇〇

一〇六	眼鏡	〇、〇七五
一〇七	帆木綿	〇、〇七五
一〇八	粒狀胡椒	〇、〇五〇
一〇九	麥酒、「ポルテル」、酒及林檎酒	〇、一〇〇
一一〇	火工品	〇、二〇〇
一一一	普通寫字紙	〇、〇五〇
一一二	色紙、包紙、及壁紙	〇、一〇〇
一一三	本表中特ニ名目ヲ示サ、ル紙類	〇、〇七五
一一四	各種文具、手帳等	〇、〇七五
一一五	被服及履物(帽子、靴、長靴等)	〇、〇七五
一一六	絹地被服	〇、一〇〇
一一七	絹地ニアラサル蚊帳	〇、〇七五
一一八	絹帳	〇、一〇〇
一一九	各種ノ麻布等	〇、〇七五
一二〇	模造銀製品	〇、一〇〇
一二一	各種ノ織糸(綿糸、麻糸、毛糸)等	〇、〇五〇
一二三	各種ノ香料	〇、二〇〇

一二三	燕窩	〇、二〇〇
一二四	飾鈕、止鈕「ホック」等	〇、〇七五
一二五	羽毛類	〇、〇七五
一二六	草木	無稅
一二七	印度產竹(切片及全長物)	〇、〇五〇
一二八	各種ノ角及蹄(本表中特ニ名目ヲ示スモノヲ除ク)	〇、〇五〇
一二九	犀角	〇、二〇〇
一三〇	上等毛皮(貂皮、水獺皮、臘虎皮、臘膾臍皮等)	〇、二〇〇
一三一	生魚	〇、〇五〇
一三二	乾魚及鹽藏魚	〇、〇七五
一三三	油臘	〇、〇七五
一三四	「サバン」樹	〇、〇七五
一三五	砂糖(粗製、精製)及糖密類	〇、〇七五
一三六	蠟燭	〇、〇七五
一三七	線香	〇、二〇〇
一三八	象牙及ヒ其細工品	〇、二〇〇
一三九	樹脂	〇、〇七五

一四〇	瀝青及「タール」	〇、〇五〇
一四一	鹽	〇、〇七五
一四二	清國產及日本產醬油	〇、〇五〇
一四三	燐寸	〇、〇五〇
一四四	玻璃(各種白色若クハ着色窓玻璃)	〇、〇七五
一四五	鏡玻璃(汞和金ヲ有スルモノ若クハ之ヲ有セサルモノ及粹ヲ有スルモノ若クハ有セサルモノ)	〇、一〇〇
一四六	各種ノ玻璃製品	〇、一〇〇
一四七	菽豆類	〇、〇五〇
一四八	馬具	〇、一〇〇
一四九	各種ノ種子	〇、〇五〇
一五〇	硫黃	〇、〇七五
一五一	各種ノ煙草	〇、二〇〇
一五二	亞麻布(綿糸、毛糸、及絹糸ヲ混スルモノ若クハ混セサルモノ)	〇、〇七五
一五三	望遠鏡雙眼鏡	〇、一〇〇
一五四	消防唧筒	無稅
一五五	石炭及コークス	〇、〇五〇

一五六	木炭	〇、〇七五
一五七	頭飾(金製銀製)	〇、二〇〇
一五八	包裝用品(袋、莖、繩及茶函用ノ鉛板)	無稅
一五九	普通磁器	〇、〇七五
一六〇	上等陶器	〇、一〇〇
一六一	金銀箔	〇、一〇〇
一六二	錫箔及銅箔等	〇、〇七五
一六三	提燈	〇、〇五〇
一六四	寫真器械	〇、一〇〇
一六五	各種ノ生菜	〇、〇五〇
一六六	乾菓、鹽藏菓若クハ其罐詰	〇、〇七五
一六七	化學的製品及其原料	〇、〇七五
一六八	棉	〇、〇五〇
一六九	各種ノ綿布	〇、〇七五
一七〇	綿毛混合布	〇、〇七五
一七一	絹ヲ混シタル綿布	〇、〇七五
一七二	美術品	〇、二〇〇

一七三	造花	〇、二〇〇
一七四	セメント	〇、〇七五
一七五	下等莫産(清國産日本産)及下等「バナマ」製莫産類	〇、〇五〇
一七六	上等日本産蠶	〇、〇七五
一七七	茶	〇、〇七五
一七八	懷中時計及其附屬品(ニッケル若クハ銀)	〇、一〇〇
一七九	懷中時計及其附屬品(金若クハ鍍金)	〇、二〇〇
一八〇	時計及其附屬品(掛時計置時計屋上時計)	〇、一〇〇
一八一	旅櫃、提囊及革袋	〇、一〇〇
一八二	鼈甲及其細工品	〇、一〇〇
一八三	生糸、絹糸、及絹屑糸	〇、〇七五
一八四	絹糞糸及飛白形絹細紐	〇、一〇〇
一八五	絹製品(本表中別ニ名目ヲ示シタルモノヲ除ク)	〇、〇七五
一八六	絹布(紗、縮緬、日本産琥珀織、縮子、緞子、紋縮子、羽二重)	〇、一〇〇
一八七	生羊毛	〇、〇五〇
一八八	各種ノ毛布類	〇、〇七五
一八九	絹毛混合布	〇、〇七五

- 一九〇 皮革(未製品) 〇、〇五〇
- 一九一 精製皮革 〇、〇七五
- 一九二 印章及印材 〇、一〇〇
- 一九三 各種ノ馬車 〇、二〇〇
- 一九四 七寶 〇、二〇〇
- 一九五 鍮及鑽 〇、〇五〇
- 一九六 琥珀 〇、二〇〇
- 各種ノ未製品(本表中別ニ名目ヲ示サ、ルモノ) 〇、〇五〇
- 各種ノ半製品(本表中別ニ名目ヲ示サ、ルモノ) 〇、〇七五
- 各種ノ製品(本表中別ニ名目ヲ示サ、ルモノ) 〇、一〇〇
- 外國製帆船 一噸ニ付 二五仙
- 外國製汽船 同上 五〇仙

輸入禁制品

- 一 各種ノ模造貨幣
- 二 阿片(藥用品ヲ除ク)
- 三 刀劍類、火器及其附屬品(重砲、野砲、砲彈、空彈、各種ノ火器、火藥ヲ有スル藥莢及小銃彈、各種ノ刃物、
槍、劍、硝石、普通火藥及綿火藥、「ダイナマイト」及其他ノ爆藥)
韓國官憲ハ刀劍類銃器及彈藥等單ニ護身用若クハ狩獵用ノ目的ニシテ條約上ノ禁止ヲ犯スノ意思
ニ出テサルヲ確認シタルトキハ特ニ其輸入ヲ許スコトアルヘシ
- 四 模造肉豆蔻及藥品

輸出商品(從價稅)

- (一) 無稅品
- (イ) 旅客小荷物
- (ロ) 純金及純銀(錠狀)
- (ハ) 各種ノ金銀貨幣
- (ニ) 容量大ナラサル見本
- (ホ) 各種ノ花卉草木
- (二) 第一項ニ記載セサル物品 〇、〇五〇

稅率ニ關スル規定

一 輸入品ノ價格ハ生産地ノ實價及運送費並ニ保險料等ヲ併算シテ之ヲ定メ輸出品ノ價格ハ韓國ニ於ケル市價ヲ標準トシテ之ヲ定ム

輸入禁制品 輸出商品 稅率ニ關スル規定

二 關稅ハ墨弗若クハ日本圓銀ヲ以テ納附スルコトヲ得
三 本表ノ從價稅ハ必要アルトキハ兩國當局官吏ノ協商ニヨリ定法トナスコトヲ得

カー、ウエーベル印

金炳始印

特別約定書

本條約記名調印ノ際兩國ノ委員ハ更ニ左ノ條々ヲ合議決定セリ

本條約第三章ニ關スル規定

韓國ニ在ル露國人民ニ許サレタル治外法權ハ向後韓國ノ法律及裁判法著シク改良シ且其裁判官ハ相當ノ知識ヲ有シ露國裁判官ノ權利ニ於ケルカ如ク獨立ノ權利ヲ取得シ露國ノ臣民ヲシテ其裁判ニ服從セシムルニ充分ナリト認定スル迄ニ進歩シタルトキハ露國政府ニ於テ之ヲ廢止スヘシ

本條約第四章ニ關スル規定

韓國ノ締盟諸國若クハ今後條約ヲ締結スル諸國ニ於テ京城内ニ自國ノ商館ヲ設置スル權利ヲ廢止シタルトキハ露國モ亦此權利ヲ廢止スヘキモノトス

本書ハ本條約ノ批准ヲ了ルノ後同時ニ實施ノ效力ヲ有スルモノトス

右確定ノタメ兩國ノ委員爰ニ記名調印ス

耶蘇紀元千八百八十四年露曆六月二十五日

韓曆開國四百九十三年清曆光緒十年五月十五日

京城ニ於テ

カー、ウエーベル印

金炳始印

覺書

下記ノ露西亞帝國全權委員兼韓國駐在露西亞帝國總領事五等官「カルル、ウエーベル」及ヒ韓國外部大臣「チン」(キム、ユン、シク)ハ耶蘇紀元千八百八十四年露曆六月廿五日清曆光緒十年五月十五日京城ニ於テ署名ヲ了シタル露韓條約批准交換ノタメ韓國外部衙門ニ會見シ批准交換ニ關スル證書ヲ示シ原本ト同一ナルヲ確認シ成規ノ方式ニヨリ耶蘇紀元千八百八十五年露曆四月二日露國皇帝陛下ノ批准シタル條約書及耶蘇紀元千八百八十五年露曆九月十二日韓國々王陛下ノ批准シタル條約書ヲ交換シタリ
此覺書ハ耶蘇紀元千八百八十五年露曆十月二日韓曆開國四百九十四年(清曆光緒十一年)九月八日京城ニ於テ之ヲ作ル

特別約定書

本條約第三章ニ關スル規定

本條約第四章ニ關スル規定

覺書

カー、ウエー、ベル、印

ナン(キム、ユン、シク)印

露韓陸路通商規則

千八百八十八年露曆八月八日京城ニ於テ訂
結同年露曆十一月廿三日露國皇帝陛下批准

露國皇帝陛下韓國々王陛下ハ兩國ノ交誼ヲ厚クシ兩國邊境ニ於ケル貿易ノ進捗ヲ謀ランカクメ露國皇帝陛下ハ五等官「カルル、ウー、ベル」ヲ韓國々王陛下ハ外部大臣ニ品題乘式ヲ全權委員ニ任シ兩國全權委員ハ左ノ事項ヲ協定シタリ

第一章

第一條 露國貿易ノタメニ開カレタル仁川、元山、釜山、京城揚花鎮(若クハ其附近ニ於ケル他ノ場所)ノ外慶興府ヲ開キ兩國臣民ノ貿易ヲ許ス但韓國カ他ノ諸外國ニ對シ京城ノ貿易ヲ禁止スル場合ニハ露國臣民モ亦同一ノ權ヲ失フヘシ

第二條 露國政府ハ慶興府ニ領事及ヒ副領事ヲ置クコトヲ得

露國領事官ハ韓國々王陛下若クハ韓國政府ニ於テ其資格ヲ確認スルニ非レハ其職務ヲ執行スルコトヲ得ス

領事官着任スルマテハ南島蘇里國境事務官若クハ相當ノ方式ニヨリテ代理權ヲ有スル其他ノ官吏韓國

政府ノ承諾ヲ得テ領事ノ職務ヲ臨時代理スルコトヲ得

第三條 慶興駐劄露國領事ハ韓國地方官憲ニ對スル會見又ハ文書ノ往復ニ關シ他ノ韓國貿易場ニ於ケル領事ト同一ノ權利及特典ヲ有ス

第四條 露國ノ外交官竝ニ領事官及國境事務官ハ韓國ノ何レノ場所ニモ自由ニ旅行スルコトヲ得此場合ニ於テ韓國地方官吏ハ之ニ助力ヲ與ヘ旅券ヲ交附シ且必要アルトキハ護衛者ヲ附スヘシ
前項ノ露國官吏ハ韓國政府ノ郵便ヲ使用シテ文書ヲ往復シ其緊急重要ナル文書ハ露國人若クハ他國人ニ附シテ之ヲ發送スルコトヲ得此場合ニ於テハ其書信送達者ハ特別ノ證書ヲ携帶シ途中ニ於テ韓國官吏ノタメニ妨阻セラル、コトナカルヘシ

第二章

第一條 露國臣民ハ慶興ニ於テ地所若クハ家屋ヲ賃借購求シ家屋倉庫若クハ製造所ヲ設立シ自由ニ宗教上ノ儀式ヲ執行スルコトヲ得

慶興ニ於ケル露國居留地ノ撰定其境界ノ設定及其區劃竝ニ土地ノ販賣及ヒ地稅ノ年額ハ韓國官憲ニ於テ露國當局官吏ト商議決定スヘシ

慶興ニ於テハ後來居留地議會ヲ設置スルコトヲ得其居留地議會ノ設置竝ニ墓地ノ給與ニ關シテハ他ノ貿易場ニ於ケル諸國居留民ニ關シテ定メラレタル規則ヲ適用ス

韓國當局官吏ハ慶興ヨリ五韓里以內ノ地ニ長サ一韓里ヲ超エサル空地ヲ設ケ露國臣民ノ駄獸及食獸飼

養場ニ供スヘシ此地所ノ撰定看守及ヒ使用法ニ關スル事項ハ韓國地方官憲ニ於テ露國官吏ト商定スヘシ
貿易品トシテ飼養セラル、家畜ハ其輸出入ノ際成規ノ税金ヲ拂フヘシ但露國臣民單ニ自家用若クハ商品運送ノタメ用ユル駄獸ハ其稅ヲ免セラルヘシ

露國臣民ハ慶興居留地區劃十韓里以内ニ於テ土地家屋ヲ賃借購求スルコトヲ得但其地稅ハ韓國政府ノ定ムル所ニ從フヘシ

第二條 露國臣民ハ慶興ヨリ百韓里以内ノ地若クハ今後兩國委員ノ協商ニヨリテ定メラル、範圍内ニ於テハ旅券ヲ有セスシテ自由ニ旅行スルコトヲ得

露國臣民ハ旅券ヲ有スルトキハ韓國各地ニ旅行シ商業ノ目的ヲ以テ土地ノ生産物ヲ購求シ并ニ各種ノ商品(韓國政府ノ禁止ニ係ル書籍印刷物ヲ除ク)ヲ輸入販賣スルコトヲ得其旅行券ハ韓國地方官吏ノ署名捺印ヲ要件トシ露國官吏ニ於テ之ヲ旅行者ニ交付シ旅行者ハ旅行中韓國地方官吏ノ要求アルトキハ之ヲ示シ韓國地方官吏ハ其旅券ニ異狀ナシト認ムルトキハ遲滞ナク旅行ノ繼續ヲ許スヘシ
露國臣民相當ノ旅券ヲ有セスシテ前記ノ定限ヲ越エタルトキ若クハ内地ニ於テ罪ヲ犯シタルトキハ韓國官憲ハ之ヲ逮捕シ其逮捕地ヨリ最近ノ領事ニ送致スヘシ
旅券ヲ有セスシテ定限ヲ越ヘタルモノハ墨銀百弗ヨリ多カラサル罰金ニ處シ一ヶ月ヨリ多カラサル禁錮ヲ加フ但禁錮ハ情狀ニヨリ之ヲ除クコトヲ得

第三條 韓國臣民ハ露國ニ旅行シ各種ノ商品(露國政府ノ輸入禁止ニ係ルモノヲ除ク)ヲ輸入シ竝ニ土地

ノ産物ヲ購買スルコトヲ得此場合ニ於テ韓國臣民ハ本國稅關官吏ヨリ品行ヲ證明シタル旅券ヲ受ケ露領ニ入りタルノ後之ヲ露國當局長官ニ提示シ又旅行中各地ノ地方官ニ提示スヘシ前記露國官吏ハ其旅券ヲ正當ナリト認ムルトキハ遲滞ナク旅行ノ繼續ヲ許スヘシ

韓國臣民ハ露領内ニ於テ旅行又ハ商品輸送ノタメ隨意ニ人夫、馬車端船及ヒ其他ノ運搬具ヲ雇使スルコトヲ得

第四條 韓國臣民旅券ヲ有セスシテ露領ニ入ランコトヲ謀リタルトキハ露國官吏ハ審問ノ後之ヲ抑留シ其本國ニ送還スヘシ

露國臣民トシテ旅券ヲ有セス韓國ニ入ランコトヲ謀ルモノアルトキ韓國官吏ノ之ニ對スル處置モ亦同シ
第五條 韓國ニアル露國臣民并ニ露國ニ在ル韓國臣民ハ隨意ノ時ニ歸國スル權利ヲ有ス此場合ニ於テ兩國當局官吏ハ事故アラサルトキハ旅券ヲ給スヘシ

第三章

第一條 露國臣民ハ慶興ニ於テ本規則ノ禁止セサル商品ヲ賣買スルノ權ヲ有シ露國韓國若クハ其他諸國ノ産物ヲ慶興ニ輸入シ又ハ慶興ヨリ輸出シ貨幣ヲ用ヒテ賣買シ又ハ現品交換ヲ爲スハ其便宜ニ任セ凡テ韓國官吏ノ干涉ヲ受クルコトナカルヘク又一切ノ工業ヲ營ミ其營業ヲ阻礙セラル、コトナカルヘシ

第二條 露國臣民商品ヲ携帶シテ國境稅關ニ到着シタルトキハ其旨ヲ稅關長ニ届出テ貨物目錄ヲ呈スヘシ

シ其貨物目錄ニハ其目錄提出者ノ姓名件數并ニ其記號、商品ノ數量、種類及ヒ價格ヲ明記スヘシ

第三條 前條ニヨリ届出テタル貨物ハ特定ノ場所ニ於テ税關吏ノ検査ヲ受クルコトヲ得税關吏ハ故ナクシテ其検査ヲ遅延シ若クハ貨物ヲ毀損スルコトヲ得ス貨物ハ税關吏ニ於テ検査ヲ終ハリタル後務メテ原裝ニ復セシムヘシ

第四條 貨物ハ税關ニ到着後五日以内ニ關稅ヲ納メ證券ヲ受領シテ輸出入スヘシ

第五條 露國臣民ノ韓國ニ輸入スル各種貨物ハ既ニ關稅ヲ完納シタルトキハ無稅ニテ内地ニ輸送シ追加稅、物品稅若クハ通過稅ヲ課セラル、コトナカルヘシ輸出ノ目的ヲ有スル貨物モ之ト同シク輸出稅ノ外生産地ニ於テモ運送ノ沿道ニ於テモ一般稅、物品稅等又ハ通過稅等ヲ課セラル、コトナシ

第六條 販賣ノタメ慶典ニ輸入シ既ニ關稅ヲ納メタル露國又ハ外國ノ貨物ハ其貨主及引受人ニ於テ之ヲ逆送セントスルトキハ輸入ノ日ヨリ起算シテ十三ヶ月以内ハ税金下戻證書ヲ受クルコトヲ得但其貨物輸入當時ノ包裝ヲ保全スル場合ニ限ル

前項ノ税金下戻證書ハ韓國税關ニ引換ヲ請ヒ又ハ韓國ノ各通商港場ニ於テ税金ニ代納スルコトヲ得

第七條 通商港場若クハ内地ニ於テ購買シタル韓國物產ヲ陸路露國ニ輸入セント欲シ既ニ納稅ヲ完了シタル後再ヒ韓國ニ於テ販賣センカ爲メ其輸出ヲ止メタルトキ若クハ途中ニ於テ紛失シタルトキハ十分ナル證據ノ提出ヲ要件トシ當該税關ニ於テ既納ノ税金ヲ還付スヘシ

第四章

第一條 國韓官憲ハ密商ノ防止ニ關スル必要ト認ムル諸般ノ方法ヲ設クルコトヲ得

第二條 露國臣民ニシテ稅關ヲ避ケ迂曲シテ私ニ商品ヲ輸入シ又ハ輸入セントシタルトキハ其商品ヲ沒收シ其商品ノ價格ニ二倍スル罰金ニ處セラルヘシ

韓國官憲ハ前項ノ商品ヲ取押ヘ密輸入出ヲ行ヒ若クハ之ヲ行ハント企圖シタル者ヲ逮捕シ遲滞ナク之ヲ最近ノ露國領事ニ送致シ其商品ハ犯罪ニ對スル最終決定アリタル後之ヲ處分ス

第三條 露國臣民ハ韓國臣民ノ所有品ヲ自己ノ名義ニテ通商港場ニ輸入スルコトヲ得ス此規則ニ違犯シタルモノハ本則密商ニ關スル條項ニ依リテ罰金ニ處セラルヘシ

第四條 露國臣民ハ本國若クハ外國ノ商品ヲ密領ニ逆送スルノ口實ヲ以テ關稅ノ下戻ヲ請求シ本則第三章ノ税金下戻證書ヲ受領シタル後其商品ノ全部若クハ一部ヲ韓國ニ於テ密賣シタルトキハ其密賣シタル商品ノ數量ニ應シ本則密商ニ關スル條項ニ依リテ罰金ニ處セラルヘシ

第五條 沒收セラレタル商品ヲ受戻サント欲スルモノハ韓國官憲ニ就キ之ト協定シタル代價ノ全部ヲ拂ヒテ之ヲ領收スルコトヲ得

第五章

第一條 左記ノ物品ハ陸路韓國ニ輸入シ及ヒ韓國ヨリ輸出スルニ於テ無稅タルヘシ

旅客小荷物、動物(鶏、鶩、鶩ノ類)農具、純金銀(砂金ヲ除ク)各種ノ金銀貨幣、學術(物理、數學、氣象學、醫術等)ニ要スル器械及其附屬品、書籍、圖譜、地圖、印刷用活字、各種ノ模型、數量大ナ

ラサル見本、蔬菜、果實、各種ノ草木、魚類、消防用唧筒、包装用品(袋、蓆、繩等)

第二條 左記ノ物品ハ輸入ヲ禁ス者アルトキハ其輸入品ハ之ヲ沒收ス

阿片、模造肉豆蔻、模造藥品、兵器、及ヒ彈藥(重砲、野砲、砲彈、空彈、各種ノ火器、火藥ヲ有スル藥莢及小銃彈、各種ノ刀劍、鎗、硝石、普通ノ火藥及ヒ綿火藥「ダイナマイト」及ヒ其他ノ爆發物)右ノ外穀物質酒精ヲ露國ニ輸入シ及紅參ヲ韓國ヨリ輸出スルコトヲ禁ス但韓國ヲ旅行スル露國臣民ハ護身ノタメ各人一箇宛ノ「ピストル」ヲ携帯スルコトヲ得此場合ニ於テハ旅券ニ其記載アルヲ要ス

第三條 前記無稅品若クハ輸出入禁止品ヲ除クノ外陸路韓國ニ輸入若シクハ韓國ヨリ輸出スル商品ハ從價稅百分ノ五ヲ納ムヘシ

露國臣民カ海路ニ由リ韓國ノ通商港場ニ輸出シ若クハ其通商港場ヨリ本國ニ輸入スル商品ハ海關稅表ノ稅率ニ依リテ稅金ヲ徵收シ陸路貿易ノ規定ヲ適用セス

第四條 陸路韓國ニ輸入スル商品ノ價格ハ其商品ノ浦鹽斯德港ニ於ケル市價ヲ基本トシ之レニ運送費保險料及其他ノ費用ヲ加算シタルモノヲ以テ課稅標準トス

韓國ヨリ輸出スル韓國產商品ノ價格ハ韓國ノ市價ヲ以テ課稅標準トス
貨主ニ於テ届出テタル課稅商品ノ價格不相當ナルトキハ海港貿易章程ノ總則ニヨリテ之ヲ處決ス
慶興ニ輸入スル商品途中ニ於テ毀損セラレタルトキハ其關稅ハ其商品ノ毀損ノ程度ニ應シテ之ヲ低減ス

第五條 關稅ハ銀貨ヲ以テ之ヲ納メ又韓國銅貨ヲ以テ時價ニヨリテ納ムルコトヲ得

第六條 從價稅ハ露韓當局官吏ノ協商ニヨリ必要ノ程度ニ應シテ後來定法ト爲スコトヲ得

第七條 露國臣民ノ慶興稅關ニ提出シタル書類ハ露語ヲ以テ記載シ之ニ韓譯ヲ附スルト附セサルトハ隨意タルベシ

第六章

第一條 韓國ニ於ケル露國臣民及其財產ニ對スル法權ハ露國領事若クハ相當ノ資格ヲ有スル其代理官ニ專屬シ領事官及其代理官ハ韓國官憲ノ干涉ヲ受ケスシテ露國臣民間若クハ露國臣民及外國臣民間ニ生シタル一切ノ事件ヲ審問判決ス

第二條 韓國官憲竝ニ韓國臣民ノ韓國ニ在ル露國臣民ニ對スル一切ノ告發告訴及訴訟ハ露國裁判所ニ於テ露國ノ法律ニ依リ審問判決スヘシ

第三條 露國官憲竝ニ露國臣民ノ韓國ニアル韓國臣民ニ對スル告發告訴及訴訟ハ韓國官憲韓國ノ法律ニヨリテ審問判決ス

第四條 露國臣民韓國ニ於テ罪科ヲ犯シタルトキハ露國官憲露國法律ニヨリ判決處分スヘシ

第五條 韓國臣民韓國ニ於テ露國臣民ニ對シ罪科ヲ犯シタルトキハ韓國官憲韓國法律ニ依リ判決處分スヘシ

第六條 既ニ締結セラレタル條約若クハ本規則又ハ後來露韓兩國政府ノ協商ニヨリ締結セラルヘキ規則ノ違犯ニヨリ罰金若クハ沒收ニ該當スル露國臣民ノ罪科ハ露國領事ニ於テ之ヲ審問判決シ其罰金若ク

ハ沒收物件ハ韓國政府ノ收入トス

第七條 慶典ニ於テ韓國官憲ニヨリ取押ヘラレタル露國ノ商品ハ韓國官憲ニ於テ之ニ封印ヲ施スト同時ニ露國領事ニ通知シ露國官憲ノ最終決定アルマテ之ヲ保管シ犯則ニアラサルコト判明シタルトキハ遲滞ナク露國領事ニ移スヘシ但貨主韓國官憲ニ其商品ノ全價ヲ供托スルトキハ最終決定前ト雖トモ之ヲ受領スルコトヲ得

第八條 韓國ニ於ケル韓國若クハ露國裁判所ニ於テ審問セラルヘキ民事及刑事訴訟事件ニ於テハ原告ノ國ノ官憲吏員ヲ選任シテ其裁判ニ陪席セシムルコトヲ得陪席官吏ハ相當ノ待遇ヲ受ケ又ハ必要ト思料スルトキハ證人ヲ招喚シテ之ヲ訊問シ及ヒ對審ヲ命シ若クハ裁判ノ方法又ハ其判決ニ抗議スルコトヲ得

第九條 韓國臣民本國ノ法律ヲ犯シ韓國ニ在ル露國臣民ノ家屋倉庫若クハ船舶内ニ潜伏シタルトキハ露國領事ハ韓國地方官憲ノ通知ヲ受ケタル後之ヲ逮捕シ地方官憲ニ引渡スヘシ但露國官吏ハ露國領事ノ許可ヲ經ルニアラサレハ家主ノ承諾ヲ得シテ露國臣民ノ家屋ニ立入り又ハ船長若クハ其代理者ノ承諾ヲ得シテ露國船舶ニ立入ルノ權ナキモノトス

第十條 韓國官憲ハ露國當局官憲ノ要求アルトキハ露國ノ刑事被告人並ニ軍艦若クハ商船ノ逃亡者ヲ逮捕シテ引渡スノ義務ヲ有ス此場合ニ於テハ前條ノ規定ヲ適用ス

第七章

露國及韓國ノ沿岸貿易船ハ圖門江ヲ航行スルコトヲ得露韓兩國當局官憲ハ兩岸ノ交通及河船航行ノ秩序

ヲ保持スルタメ後日船業及河川警察ニ關スル特別ノ規則ヲ商議制定スヘシ

第八章

第一條 本規則ハ露語及清韓語ヲ以テ之ヲ記載シ其意義兩々相同シ但各條ノ意義ヲ解釋スルニハ露語原本ヲ以テ基礎トス

第二條 露國官憲ヨリ韓國官憲ニ照會スル公文書ハ露語ヲ以テ之ヲ記載シ當分ノ間ハ漢譯又ハ韓譯ヲ附スヘシ

第九章

本規則ハ調印ノ日ヨリ向五年間效力ヲ有ス

兩訂盟國ノ一方ニ於テ本規則ヲ改正セント欲スルトキハ本規則有効期限ノ六ヶ月前他ノ一方ニ通知スヘシ但兩國何レモ其通知ヲ爲ササルトキハ本規則ハ更ニ五ヶ年ノ有効期限ヲ生スルモノトス

本規則ハ耶蘇紀元千八百八十八年露曆八月八日韓曆開國四百九十七年七月十三日京城ニ於テ調印ヲ終ヘタリ

ウエーベル 印

趙秉式 印

デンニ 印

露國ノ韓兵教練士官

千八百九十六年九月中旬以後ニ係ル韓國軍隊ノ狀況ニ關シテハ唯韓國ニ備聘セラレタリシ露國教練士官ノ事業ニ就キ文書ニ其梗概ヲ見ルノミ其教練士官タリシ者ハ參謀大佐「フヤチトイ」以下數人ノ士官及下士官ニシテ同大佐ハ千八百九十六年ノ終末ヨリ千八百九十八年ノ初期マテノ間韓兵ノ教練ニ從事シ其狀況ニ關シテハ千八百九十七年ノ夏京城ヲ訪問シタルモノノ實驗談アリ以下記述スル所ハ殆ント凡テ此實驗談中ヨリ集輯シタルモノナリ

「フヤチトイ」大佐ハ補助員トシテ黑龍軍管區ニ屬スル二人ノ將校(陸軍中尉「アフナシエフ」陸軍少尉「シクステル」)ノ二人ニシテ後ニハ陸軍中尉「クジミン」モ之ニ加ハリタリ)一人ノ軍醫及ヒ十人ノ下士官ヲ伴ヒテ千八百九十六年十月中旬ニ京城ニ到着シ直チニ任務ノ實行ニ着手シ京城ニ駐屯スル日本式ノ兵五大隊ヨリ下士卒ノ精良ナルモノ八百人ヲ撰拔シ其後之ヲ補充シテ千人ト爲シ全ク露國ノ編制ニ從ヒテ五中隊トナシ大隊長トシテ韓國ノ大佐ヲ以テ之ニ補シ其他ノ下士官及ヒ將校モ亦皆韓人ヲ以テ之ニ充用シ露國ノ軍人ハ隊列ニ加ハラズシテ嚴ニ之ヲ監督スルノ任務ヲ取り將校中一人ハ用兵ニ關スル事務ヲ掌トリ他ノ一人ハ經理ニ關スル事務ヲ掌トリ單ニ教官長ニ隸屬シテ直接ニ陸軍大臣ト交渉スルノ便宜ヲ有セリ又露國ノ下士官ハ韓國ノ士官ヨリモ上位ニ在リテ韓國士官(中ニ中隊長モアリ)ニ隊務ヲ教習シタリ選拔セラレタル八百人ハ韓國大隊ノ一ニ屬スル當時使用セラレサリシ兵營中ニ置カレ露國下士官十人有リテ各八十人ノ兵ヲ掌トリ新兵教育ヲ分擔シ其教育法モ又露國ノ新兵教育法ヲ採用セリ

此年ノ十月韓兵ノ教育始マリ三週間ヲ經テ銃器ヲ與ヘ各個教練、諸種ノ體操、操銃法、隊列運動、銃器ノ分解裝置及ヒ小銃射擊法等一切露國式ニ據リテ之ヲ實行シ就中衛戍勤務ハ管ニ軍隊教育ノ爲メノミナラス不日君主ノ移轉ヲ期スル新宮ノ警戒勤務ヲ編成スルノ必要ニヨリ尤モ嚴密ナル注意ノ下ニ勵行セラレ其宮廷ノ周圍ニ在ル多數ノ哨所(三十六個所)ノ大隊ノ兵ニ其勤務ヲ實際ニ行フヲ得セシメタリ然レトモ此ノ如キ警戒勤務ノ偏重ハ射的教育ノ不進歩ヲ來タセシカ故ニ射距離ヲ五百步ニ制限スルノ止ムヲ得サルニ至レリ

三月ノ初メニ於テ兵ノ補充募集ヲ行ヒタルニ此時ニ於テハ教練士官ノ兵卒ニ對スル指導宜シキヲ得タルノ結果トシテ大隊ノ好況普ク民間ニ知ラレ徵兵要員二百人ニ對シ應募志願者千人ヲ出スニ至リ之カ爲メ容易ニ所要ノ人員ヲ充タスコトヲ得テ既ニ教育ヲ受ケタル下士卒百人ヲ他ノ軍隊ニ分遣シ國王及ヒ陸軍大臣ノ希望スル地方衛戍ニ於ケル軍隊教育ノ速成改良ヲ或ル程度マテ成就スルヲ得タリ千八百九十七年六月中旬大隊ハ以前ノ狹隘ナル兵舎ヨリ造幣局ノ建物ニ移轉シ是ヨリ營内勤務ヲ秩序正シク實行スルコトヲ得ルニ至リ營内勤務法ハ露國教官ノ指揮ニヨリ韓譯セラレタリ又六月下旬ヨリ散兵教練ニ着手シタルモ夏中ハ國王京城ニ在ルヲ以テ京城ノ大隊ヲ市街ニ出シテ野外演習ヲ行ハシムルコト能ハサリキ六月十日國王ノ觀兵式アリ此時軍隊ハ體操ヨリ中隊運動ニ至ルマテ之ヲ國王ノ面前ニ實演シテ教育ノ效果ヲ示シ軍隊運動ノ號令ハ韓人ノミニ依リテ行ハレ露語ヲ用ヒタリ此ノ如キハ京城ニ於ケル未曾有ノ事ニシテ國王深ク其成績ヲ嘉賞シタリ

大隊ノ經理ハ從來ノ習慣タル收賄ノ弊風ヲ除キテ相應ノ秩序ヲ立ルマテハ久シキ時日ヲ要シ千八百九十

七年七月十三日迄ニ辛ウシテ中隊ノ經理事務ヲ獨立セシムルコトヲ得タリ其方法モ亦同ク露國式ヲ嚴守シ總テ中隊及ヒ大隊ノ帳簿并ニ報告書類ノ様式ハ之ヲ韓譯シテ京城ニ於テ出版シ大隊經費ノ豫算ハ國家ノ歲計ニ編入セラレ從來ハ下士卒ノ俸給ハ半額ハ名義ノミニシテ實際ニ受クル所ハ僅ニ半額ナリシニ千八百九十七年六月十三日露國ノ教練士官ニ依リテ初メテ支拂ハレタル俸給ハ全額(軍人ノ手帳ニ記入シテ拂ヒ渡シタリ)ナリシヲ以テ之ヲ受ケタル近衛大隊ニ於テハ非常ニ驚喜シ他ノ大隊ニ於テハ之ヲ聞キ其長官ニ對スル下士卒ノ大不平ヲ起スニ至レリ

糧食ハ受負者ニ命シテ調達セシメ大隊ニハ各中隊ノ共同庖厨有リテ此處ニ韓語ニテ其日ノ食品ヲ揭示シ食事ハ一日ニ三回(朝六時飯及茶、晝十一時半飯及汁、夜六時「ソツプ」若クハ肉汁)ニシテ其食物中米蔬菜及ヒ醬油ハ露國軍隊ノ食物ト異ナルモノ、主タルモノトス

舊造幣局ノ舍屋ハ兵營生活ノ要求ニ適合シ兵員ハ手廣ク配置セラレ兵器庫、營倉及當直室アリテ當直室ハ宮廷ト電話ヲ通シ又應接室ノ設備モアリ經理上ノ必要ニヨリ事務室、工場、裁縫室設ケラレ是等ノ室内ニハ是マテ韓國人ノ知ラサリシ蒲團枕ノ設備モアリ

備考 「ハバロフスク」ヨリ「チルウインスキー」氏教練士官ト共ニ來任シタリ

被服及裝具ハ從來ノモノヲ用フト雖トモ追テ改正スル筈ナリ

教練士官等ハ京城ニ於ケル產業ノ甚タ幼稚ナルタメ其任務ニ關スル事業ノ經營上大ナル困難ヲ受ケ兵營ノ日用雜品ハ多クノ時間ヲ費シテ自ラ之ヲ造作スルノ止ムヲ得サルニ至リ又一方ニハ韓國大官ノ多數ハ教練士官ニシテ經理事務ヲ整頓スルトキハ從來ノ如ク私腹ヲ肥ヤスノ餘地ヲ失フノ恐アルヲ以テ痛ク教

練士官ノ業務ニ助力スルコトヲ忌ムカ故ニ教練士官等ハ之カ爲メニモ大ニ事業上ノ妨害ヲ受ケタリ

露國教練士官ノ事業ノ結果ハ時日ノ短少ナルニモ拘ハラズ大ニ見ルヘキモノアリテ大隊ハ國王ノ沿途ノ危險ナキヲ保證シテ新宮ニ移轉セシメ韓國未曾有ノ整肅ト安全ヲ保チテ之ヲ奉送スルコトヲ得以來國王ノ露國教練士官ニ對スル良感情ハ益々厚キヲ加ヘタリ若シ陸軍大臣其他陸軍當局官吏ニシテ妨害ヲ試ムルコトナカリセハ猶一層ノ好結果ヲ奏セシナランニ惜イ哉彼等ノ意向良好ナラサリシタメ凡テノ改良及ヒ設計ニ關スル事業モ非常ナル困難ヲ經テ僅ニ實行セラル、ニ至リタルノミニテ陸軍大臣ハ教練士官ニ於テ大隊ノ營内勤務ヲ整頓シ規則的ナル經理方法ヲ施行スルコトヲ妨害スルヲ以テ足レリトセス尙ホ露國教練士官ノ權力ヲ韓人ノ目前ニ於テ破壊センコトヲ企テ韓人等ニ對スル惡感情ヲ煽動シタリ

教練士官ノ改良事業ハ大ニ好結果ヲ奏シ其經理ニ關スル原則ハ韓國ニ於テ苟モ經費ノ消費セラル、部局ニハ普ク適用セラルヘキモノナルヲ證明シタリ然レトモ千八百九十八年三月中旬ニ於テ露國教練士官ハ本國政府ノ爲メニ召還セラレ彼等ニ訓練セラレタル大隊ハ韓國士官ノ支配スル所トナレリ

三月二十六日國王ハ上諭ヲ發シ韓國軍隊ニ於テハ露國教練士官ノ規畫シタル所ニ依リテ事ニ從フヘキコトヲ命シ次ノ宣言ヲ爲セリ曰ク『軍隊ノ利益ヲ保存スル爲メ軍隊編制ニ關スル一切ノ事ハ實際秩序ヲ嚴ニスルヲ要ス露國教練士官ノ孜孜トシテ倦マサル勵精ニヨリ我士卒戰術ヲ知ルニ至レルハ予ノ大ニ満足スル所ナリ然ルニ今ヤ該士官ハ其職務ヲ捨テ本國ニ歸レリ予ハ各聯隊ノ將校等カ善ク露國教練士官ニ學ヒタル所ヲ記シ敢テ之ヲ失フコトナカラントヲ希フ』ト

沿革ノ大要

支那及ヒ日本ハ韓國ノ開明ニ關シ古來重要ナル影響ヲ與ヘタルニヨリ韓國ノ歴史ハ兩國ノ歴史ト最モ近密ナル連絡ヲ有ス韓國ノ支那ニ於ケル管ニ國土相接スルノミニアラズシテ風俗習慣、宗教、文章、教化等苟モ文明ニ關スル事情ハ皆之ト其系統ヲ一ニス太古支那人ハ韓國ニ平和的移住ヲ爲シタルモアリ又漢唐、梁(耶蘇紀元後二世紀、五世紀、及八世紀)ノ屢々兵ヲ出シテ之ヲ征服シタルモアリテ韓國ノ廣大ナル部分ハ久シク支那人ノ權力ニ服シ支那人ノ支配ヲ受ケ此間ニ於テ支那ノ文明ハ韓國ニ流入シタリシナリ其後明朝及ヒ現今ノ清朝ニ至リ韓國ハ強ヒラレテ其附庸國タルヲ認メ但其内治外交ニ於テハ全ク獨立ノ實ヲ保有シタリ又一方ニ於テハ韓國ハ國土ノ位置ニヨリ亞細亞大陸ヨリ日本ニ渡ルノ橋梁ト爲リ古代東亞山地ノ人民東南ノ海岸ニ下リ進ンテ近岸諸島ニ出ヅルニ際シ宛然其兵站地タルノ用ヲ勤メシカ故ニ韓半島ノ事物ハ東亞山地ノ人民茲ニ日本人ノ事物ニ近接シ半島ノ事物モ亦東亞山地ノ人民茲ニ日本人ノ間ニ影響シタリ

政治上ノ見地ヨリスレハ韓國ハ日清兩國ノ間ニ介在シテ常ニ兩國競争ノ目的物トナリ極メテ不利益ノ位置ニ立テルモノニテ兩國カ半島ニ於ケル權力取得問題ハ十六世紀ノ終末ニ於テ特ニ甚シク發動シ千八百九十五年兩國戦争ノ主因ヲ結ヒ遂ニ兵ヲ韓國ニ入レテ干戈相交リ韓國ノ土地ハ爲メニ荒廢ノ區ト變シ韓國カ獨立保全ノ目的ヲ以テスル諸國トノ交通ハ斷絶シテ索居ノ状態トナレリ斯ノ如クニシテ兩國ハ殆ト三世紀ノ間韓國ノ文明的發達ト物質上ノ進歩ヲ阻礙シ僅ニ近來ニ至リ甫メテ其政略ヲ放棄シタリ

韓國太古ノ事情ニ關スル唯一ノ資料ハ支那及日本ノ年代記ニシテ耶蘇紀元ヨリ久シキ以前ノ著述ニ係ル支那ノ年代記ニハ太古韓半島ノ西北部ニ居住セシ民族ニ關スル事ヲ傳フルモノアリ然レトモ支那史家ノ異邦人ヲ叙スルヤ概シテ唯其異邦人ノ支那人ニ對シ平和的及戰爭的觸接ヲ有セシ時代ノミニ係ルカ故ニ其記載甚ク足ラサル所アルノミナラス事實ト虛誕トヲ辨別取捨スルノ能力ナキハ亦支那史家ノ重大ナル缺點ナリトス支那史家ノ深ク古昔ニ遡リテ傳フル所ヲ聞クニ當時支那ノ東北ニ諸多ノ民族アリテ其中ニハ支那ニ對シテ朝貢ヲ始メシモノアリシト雖トモ其附庸關係ハ一度トシテ久シク繼續シタル例ナク其民族ハ後ニハ反テ支那ニ侵入シテ勝ヲ制シ甚シキニ至リテハ朝廷ヲ顛覆シテ統治權ヲ奪ヒタルコトモ少カラス是等ノ民族ノ發達ハ極メテ低度ニシテ巖窟土穴ニ起居シ農耕ヲ知ラス火食ノ法ヲ辨セス許多ノ獨立團體ニ分レ互ニ鬪争ヲ事トシタルモノナリト云フ

支那及ヒ韓國ノ傳説ハ齊シク證言シテ曰ク韓土ノ北部ニ朝鮮國ヲ創建シ社會ノ體制ヲ組織シタルモノヲ箕子トス箕子ハ殷(耶蘇紀元千七百六十六年ヨリ千二百二十二年マテ治世)ノ王族ニシテ殷王、周ノ武王ノ爲メニ斥ケラレタルノ後王位篡奪者ニ服スルコトヲ欲セス同志ノ部下若干人ヲ率キテ支那ノ東北方ニアル地域ニ去リ此ニ國ヲ建テタリト支那年代記ニ於テ朝鮮ト稱スルモノ即チ是ナリ此ノ如クニシテ現今ノ韓人ハ韓國ニ箕子ナルモノ、存在セシコト及ヒ箕子カ韓國文明ノ植立ニ與リテ功勞アリシコトヲ稱シ之ニ對シテ斷乎タル信念ヲ抱ク然レトモ歐州ノ學術ニ由リテ之ヲ觀察スレハ此傳説ハ多クノ疑點ヲ有ス但朝鮮ノ起原ニ關スル意見、彼此相異ナルノ如何ニ關セス此國家ノ實際存在セシコトハ何人モ之ヲ争フモノナシ若シ夫レ其領土及ヒ境界ニ關シテハ最初ハ現今ノ滿州ノ盛京省ヲ、西ハ遼河ニ至ルマテ包括

シ、後ニ至リ現今ノ韓國ノ平安南北兩道之ニ屬シ、大同江ヲ以テ定限セラレタリト、支那及ヒ韓國ノ年代記ハ斷言セリ

耶蘇紀元ヲ遼ルコト三世紀ノ時、漢朝(耶蘇紀元前二百六年ヨリ耶蘇紀元後二十五年マテ治世)領土ノ擴張ヲ圖リ視線ヲ支那ノ東北方ニ在ル無主ノ域ニ注キタリ此時代以後ノ韓國歴史ハ前代ノモノヨリハ比較的正確ナリ

秦ノ始皇帝(耶蘇紀元前二百二十一年ヨリ同二百六年マテ治世)ノ死後、統一ノ領土瓦解シ大ナラサル邦國分立ス、中ニ燕ト云フ國アリテ其國ハ東ノ方、境ヲ朝鮮ニ接シタリ此時朝鮮、常ニ内亂ヲ絶タス燕主之ニ乘シ朝鮮ヲ併吞セント欲シ公然之ヲ略取スルノ行動ヲ開始シタリ是ニ由テ兩國ノ間ニ戰爭起ル此戰爭ハ禍福轉々ノ運命ヲ示シタルモノニテ此時、漢ハ燕ニ、漢ニ對シテ附庸國タルヲ認メンコトヲ要求シ燕之ヲ拒絶スルニ及ヒ兵力ヲ以テ其領地ヲ併吞シタリ燕ノ王族衛滿ハ難ヲ遁レタルモノ、一人ナリ東ニ奔リテ朝鮮ニ趨キ其王、箕準ニ臣事ス衛滿其後多ク同郷ノ亡命者ヲ集メ箕準ヲ廢シテ其位ヲ篡フ箕準韓國ノ南部ニ走ル、時ニ耶蘇紀元前百九十四年ナリ其後衛滿隣地ヲ略シ著シク朝鮮ノ境域ヲ擴メ現今ノ北韓ハ殆ント皆其版圖ニ入レリ此時朝鮮ノ繁榮、勢力及ヒ文明ハ迅速ナル膨脹ヲ始メ僭漢ノ羈轡ヲ避ケタル支那ノ名士幾千人亦朝鮮ノ領内ニ來リテ著シク其進運ヲ助ケタリ然レトモ強暴ナル漢朝ハ燕ヲ征服シテヨリ未ダ百年ニモ及バザルニ朝鮮ヲモ臣事セシメンコトヲ謀リ當時ノ朝鮮王右渠(衛滿ノ孫)ヨリ附庸關係認識ノ要求ニ對スル拒絶ヲ受タルノ後即チ耶蘇紀元前百八年兵ヲ韓國ニ送レリ右渠ハ能ク首都ニ於ケル支那ノ攻圍軍ヲ擊退スルコトヲ得タリト雖トモ變ハ反テ牆壁ノ下ニ發シ四人ノ臣下右渠ヲ殺シテ支

那兵ニ城門ヲ開キタリ

耶蘇紀元前百七年漢旗朝鮮ノ首都ニ植テラレテヨリ朝鮮ハ久シク國家トシテノ存在ヲ中止セラレ其領地ハ以來二世紀半ノ間支那ノ權内ニ屬シテ四州ニ分割セラレ其内二州ハ現今ノ韓國ノ大同江以北ヲ包有シ他ノ二州ハ遼東半島ニ在リテ東西各其半ヲ占有シタリ

朝鮮領地ヨリ東北方、白頭山附近ノ地、鴨綠江上流ニハ此時強勇ナル高勾麗人居住セリ其狀況ハ後漢朝(耶蘇紀元二十五年ヨリ二百二十年マテ治世)ノ一史家之ヲ語レリ高勾麗人ハ一見北方ノ出ナルカ如ク牛馬等ノ家畜ニハ富メトモ農耕ニ從事スルコト少ナク獨立不羈ノ氣象ヲ帶ヒ輕捷強健大膽ニシテ甚シク音樂ヲ好ミ裝飾及諸種ノ遊興ヲ愛スルコトモ亦其特性ニシテ金銀ヲ以テ縫ヒタル衣服ヲ着ケ葬式ハ尤モ盛觀ヲ極メ貴金屬寶石及ヒ刺繡燦爛タルノ狀ヲ呈スルヲ常トシ天神、地祇、穀神、曉星及ヒ怪力ニ獻牲シ獄舎ナシト雖トモ犯罪ノ現ル、アレハ領會相議シテ死刑ヲ宣告シ犯者ノ妻孥ハ沒シテ之ヲ奴隸ト爲シ祖先ノ墓地ニハ日本人ノ今モ尙爲スカ如ク碑ヲ建テ松樹ヲ植エタリ又支那著述家ハ高勾麗人カ孔子ノ古文ヲ知リタルコト及ヒ高勾麗人固有ノ文學ハ著シク發達シタリシコトヲ記述セリ而シテ其ト筮ニ堪能ナルコト彩衣ヲ着用スルコト及ヒ其他ノ禮儀作法ニ於テハ概シテ古昔ノ日本人ニ似タリト云ヘリ高勾麗人ハ相傳ヘテ曰フ彼等ハ松花江ノ中流地方ト長白山脈ノ間ニ住シ著明ナル文化ヲ以テ優レタリシ夫餘人ヨリ出ツト而シテ支那ノ文書ニ依レハ夫餘人ハ社會組織、宗教及ヒ法制ニ於テ實際高勾麗人ト多ク類似シタル所アリシト云フ

耶蘇紀元ノ初期ニ於テ高勾麗人ノ勢力ハ既ニ支那政府ノ注意ヲ惹クニ足リ紀元五十年ニハ高勾麗人支那

人ヲ助ケテ暴徒ヲ鎮壓シ紀元七十年ニハ其軍隊遼東ニ侵入シ其後ニ至リテハ現今ノ韓國ノ東北端ヲ占有セシ所ノ衛ヲ征服シ尙ホ數十年ノ間支那ト戰鬪ヲ繼續シテ好結果ヲ奏シ昔時ノ朝鮮國ノ領地即チ遼東並ニ大同江ヨリ北方殆ント豆滿江ニ互ル韓半島ノ一部ヲ占領シテ紀元百六十九年ニ其戰鬪ヲ終結シタリ高句麗ノ勢力ヤ此ノ如シ然レモ之ヲ後日ノ漢朝ニ比スレハ單ニ北方ノ一小國ナリト云フヘキノミ漢朝最後ノ皇帝ガ之ヲシテ幾ント領土擴張ノ終リヲ完ウスルヲ得セシメサリシノミナラス社稷ノ存亡ヲスラ間ヒテ其兵力ヲ破壞シ其首都ヲ占領シ遂ニ君主ヲ放逐シタルハ固ヨリ事實ナリ然レトモ漢朝滅シテ後支那ニ内亂起リテ荏苒第六世紀ノ終末ニ及ビタルニヨリ高句麗ハ其間支那ヨリ攻略壓迫ヲ受クルノ危險ヲ免カレ其勢力ヲ恢復シテ之ヲ強固ニシ耶蘇紀元第五世紀時代ニハ高句麗ノ騎兵隊進撃シテ既ニ西ノ方殆ント今ノ北京ノ所在地ナル地點ニ至ルマテ之ヲ侵略スルノ行動ヲ開始シタリ

高句麗ノ國力發達シ人口増加スルニ從ヒ其國民ハ第四世紀ニ於テ國ノ中央ヨリ南方ニ向ヒ間斷ナキ移住ヲ爲シ遂ニ韓半島ノ中央部及南部ノ住民ト衝突ヲ見ルニ至レリ

太古ヨリ韓半島ノ大同江以南ハ皆諸多ノ獨立民族ノ居住地ニシテ耶蘇紀元前百七年朝鮮滅亡シテ支那ニ併セラル、ニ至リ是等ノ獨立民族ハ集結シテ三箇ノ國即チ三韓トナリ西ニ在ルヲ馬韓ト云ヒ南ニ在ルヲ卞韓ト云ヒ東ニ在ルヲ辰韓ト云ヘリ

馬韓卞韓辰韓ハ孰レモ族宗制度ヲ建テ馬韓ニハ五十四族、卞韓辰韓ニハ十二族アリテ各族ハ全ク獨立シタルモノナリ風俗習慣ハ三韓ヲ通シテ一見同一ナルモ言語ハ各々方言ヲ有ス但其言語モ根元ハ同屬タリ人民ハ耕作ヲ知り棉麻ノ用ヲ知り住所ハ芝土ヲ以テ之ヲ造リ屋根ニ戸アリ衣服ハ絹布ニシテ足ニハ草鞋

ヲ穿テ頭髮、兩耳及ヒ顔面ニハ模造眞珠ヲ飾リ男子ハ甚々大膽粗暴ニシテ揮槍弓術ニ於テ巧妙ヲ極メタリト云フ是等ノ事跡ヲ考量シ又半島ノ南部ヨリ發生シタリト見ユル現今ノ韓國語ヲ印度ノ「トラヴィジアン」語ト比較シテ「ハルバート」氏ハ古昔ノ南韓ノ人民ヲ馬來人種ヨリ出デタルモノナリト推定セリ東洋ノ年代記ニ見ユル三韓即チ馬韓卞韓辰韓ハ皆毫モ諸姓ノ政治的統一アリシコトヲ指示セシ即チ是等ノ邦土ニ於テハ統一セル政治組織ヲ有セザリシナリ此ノ如ク三國分立シタル根元ハ未タ明瞭ナラサルニヨリ尙ホ以前ノ時代ニ遡リ南韓ノ歴史ヲ究明スルノ要アリト雖トモ想フニ西部南部及ヒ東部ノ住民各々其出處ヲ異ニシタルカ故ニ分立ノ結果ヲ生シタルモノニハアラサルカ

若シ支那ノ年代記ニシテ信スヘクンハ南韓ニ於テ開明ノ域ニ進ミ團結力ヲ有シタリシ民族ハ支那ヨリ移住シタル者ニシテ古昔朝鮮王、箕準ノ衛滿ノタメニ斥ケラル、ヤ多カラサル部屬ヲ率キテ南方ニ走り馬韓ノ一地方ニ上陸シタリ蓋シ此地方ノ民族ハ支那ノ亡命者ニシテ漢朝ノ治下ニ留ルヲ欲セス之ヲ去リテ黃海ニ山リ此地ニ移リ來レル者ナリト見エ、自ラ其名ヲ百濟ト呼ヘリ百濟ハ百ノ氏族ト云フ意味ニシテ蓋シ此地方ニハ初メ百ノ氏族アリテ社會ヲ組織シタルカ故ニ斯ク名ケラレタリシナリ箕準ハ或ハ征伐ヲ用ヒ或ハ懷柔策ニ依リテ百濟ノ王トナリ當時百濟ハ馬韓ノ最モ開化シタル部分ニシテ箕準及ヒ之ヲ承ケタル諸王ハ銳意治ヲ圖リ漸次勢力ヲ擴張シ耶蘇紀元第四世紀ニハ馬韓ノ全部ヲ從ヘタルノミナラス卞韓及ヒ辰韓ノ幾分ヲモ之ヲ併セテ頗ル著大ナル國家ヲ形成スルニ至リタリ

百濟ノ國名ノ起原ニ關シ韓國諸史ノ所說ハ本文ト稍異ナル所アリ其說ニ據レハ武力ヲ以テ高句麗國ヲ創立シタル高朱蒙ノ子ニ溫祚ト云フモノアリ溫祚、父ニ叛ク此時箕準ノ祖先、馬韓ヲ領シテ之ニ君タ

リ温祚、難ヲ逃レテ之ニ依リ後ニ至リテ叛ヲ謀リ其君ヲ放逐シテ主權ヲ奪フ初メ温祚ト共ニ本國ヨリ逃レ來レル者十人アリ因テ國ヲ十儕ト號シ其後北方ヨリノ亡命者其數ヲ増加スルニ至リ國號ヲ百儕ト改メタリト云フ

支那ノ秦朝滅亡ノ後其ノ逃亡人ノ大ナラザル團體、韓半島ノ東部ニ移住ヲ始メタルカ如ク其移住者ハ初メハ土著人ト相交ラサリシト雖トモ土著人ニ比スレハ藝能ヲ以テ優リ智力ノ發達高カリシニヨリ幾何モナクシテ百濟ノ如ク其權力ヲ擴ゲテ近隣諸姓ニ及ボシ漸次強大ナル國家ヲ形成スルニ至リ國ヲ新羅ト稱シタリ日本ノ年代記ニ依レハ耶蘇紀元第二十九年ヨリ第七十年マテノ間ニ新羅ノ使者鏡、刀、碧玉細工品及ヒ其他ノ工作品等ヲ携ヘテ日本ニ來貢セリト云ヒ支那ノ典籍ニハ新羅人ノ文雅ノ風アリシコト竝ニ世襲貴族アリテ防禦工事ヲ施シタル城邑アリシコト見ユ是ニ由テ之ヲ觀レハ當時新羅ノ文明ハ高ク發達シ恐ラクハ此點ニ於テハ日本ニ凌駕シタリシト判定スルヲ得ルナリ

此ノ如クニシテ韓半島ハ耶蘇紀元第四世紀ニ於テ三個ノ獨立領土ニ分裂シ北方ニ高句麗アリ東南ニ新羅アリ西南ニ百濟アリ百濟ハ夙ニ支那ノ文章及ヒ哲學ト相識リ又佛教ヲ輸入シタルヲ以テ半島開明ノ先導者ト爲リ是等ノ事物、其根ヲ新羅及ヒ高句麗ニ伸バシタル時ヨリ久シキ以前、即チ耶蘇紀元第四世紀ノ後半期ニ於テ佛教ハ既ニ百濟ノ領内ニ確乎タル根據ヲ定立シ遂ニ日本ニモ播及シタリシナリ

日本ノ南韓諸邦トノ交通ハ既ニ遠キ昔ヨリ頗ル盛ンニシテ且ツ甚ダ親密ナル關係ヲ有シタルコトハ前ニ新羅朝貢使ノ事ニ關スル記事アリテ之ヲ指示スト雖トモ尙ホ後ニ見ユルカ如ク百濟ノ王子教育ヲ爲スタメニ日本ニ派遣セラレタルノ事實ハ一層明カニ之ヲ證顯セリ

韓半島ノ政治史ハ耶蘇紀元第四世紀ヨリ第十世紀マテヲ通シテ支那ガ勢力植立ノタメニ施シタル諸般ノ企圖ト支那人ノ侵入ニ乘シ之ト手ヲ携ヘテ起リタル高句麗、新羅及ヒ百濟間ニ於ケル相互ノ内亂ノ事跡ヲ以テ充タサレ當時各韓ノ領地ノ境界ハ其内亂ノ結果ニ隨ヒ始終轉變シタリ

隋朝ノ治世中、耶蘇紀元第六世紀ノ初期及ヒ同第七世紀ノ終期、高句麗ハ獨立ノタメニ非常ニ苛重ナル戰鬪ヲ遂行スルノ必要ニ逼ラレタリ初メ高句麗支那ニ屬スル民族ヲ攻撃シタルニ隋ノ煬帝其民族ニ代リ高句麗ニ對シ海陸軍ヲ以テ三回ノ大征伐ヲ加ヘ獲爾タル高句麗、固ヨリ亦地上ニ國スルヲ得サルベキ理ナリト雖トモ然レトモ結果ハ世ノ豫想ト反對ニ出デ支那將帥ハ作戰ヲ誤リ高句麗ノ軍隊ハ狂勇ヲ極メ而シテ支那軍ノ通過スル土地ハ氣候不良ニシテ將士ノ健康ヲ害シ加フルニ支那軍ニ於ケル軍隊給養ノ狀況甚タ不良ナリシタメ支那軍ノ大舉皆遂ニ失敗ニ歸シタリ是等ノ戰爭中耶蘇紀元第六百十三年ニ起リタルモノハ初期ニ於テ支那軍ニ利アリ此時支那本國ニ暴徒ノ蜂起微カリセハ事ハ高句麗ノ悲運ヲ以テ終リヲ結ビタルヘキニ之アリテ遂ニハ煬帝モ殺サレ隋朝遂ニ顛覆セラレタルカ故ニ高句麗ハ尙ホ全キヲ得タリシナリ

煬帝ノ遠征後高句麗ハ北隣ニ反對シテ支那ヲ助ケタル百濟ト衝突ヲ繼續シタル南境ノ地ヲ除ケハ領内一般ニ靜穩ナリシト雖トモ此狀態ハ久シク續カス唐朝ノ政府ハ其領土ヲ鴨綠江マテ擴張スルヲ必要トシ高句麗ノ北境ヲ自然ノ地形ニ依リテ此處ニ限ラント欲シ更ニ視線ヲ東方ニ向ケ專ラ、警ヲ開キ目的ヲ達スルノ口實ヲ求メタリ唐朝ハ嚮ニ新羅ニ交渉シテ功ヲ奏シ新羅ヲシテ其附庸國タルヲ認メシメタリ其後高句麗新羅ニ對シテ兵ヲ擧ク唐ノ皇帝是ニ於テ口實ヲ得高句麗ニ對シテ兵ヲ新羅ヨリ撤センコトヲ要求セ

リ高句麗ハ之ヲ拒絕セリ唐ノ皇帝乃チ遲滯ナク戰爭行爲ヲ始メ兵ヲ遣リテ直チニ遼東ノ全部ヲ占領シ市街地又市街地漸次支那兵ノ手ニ歸スルニ至リ高句麗十五萬ノ軍、義州ヨリ遠カラサル地ニ於テ極メテ激烈ナル攻撃ヲ受ケタル後支那兵義州ヲ包圍セリ但支那兵ハ全力ヲ盡シタルニモ拘ハラズ義州ヲ占領スルヲ得ス途ニ遷延シテ冬期ニ近ツキ且糧食ノ欠乏ヲ來シタルカ故ニ已ヲ得スシテ退却シ本國ニ歸還シタリ此戰爭ニ於テ高句麗ハ市街地十個所ヲ取ラレ捕虜トナリシモノ七萬人戰場ニ死シテ歸ラサルモノ四萬人唐ノ皇帝再ヒ北韓ニ出兵セント欲シタルモ其準備中ニ没シタリ然レトモ久シキヲ經スシテ其承繼者ハ復タ高句麗ニ侵入スルノ口實ヲ得タリ其口實ノ所因ハ前ニモ記載シタルカ如ク既ニ支那ニ對シ附庸國タルヲ認メタル新羅ニ對シ高句麗カ百濟ト全盟シタルニ在リ此度(耶蘇紀元六百六十年)ノ戰爭ニ於テハ支那軍ノ主力ハ百濟ニ向ヒ百濟ハ支那兵ノタメニ擊破セラル、コト二回ニシテ國王ハ北方ニ奔リ邦土ノ全部支那軍ノ占領スル所トナル然レトモ耶蘇紀元六百七十年ニ至レハ既ニ佛僧ノ愛國心ニ富メルモノ一人僧軍ヲ編成シ之ヲ軍將「フク、シン」ノ召募シタル軍隊ト聯結シ最近ノ王ノ季子ニシテ當時日本ニ在リシ寶藏ヲ擁シテ王ト宣言シ寶藏ハ其佛僧及ヒ軍將ノ請ニヨリ日本兵ノ護衛ヲ得テ鄉國ニ歸還シタリ此企圖ヤ初メハ有利ノ狀況ニ在リテ支那兵ヲ窮蹙シ以前ノ百濟ノ地ハ皆之ヲ復スルコトヲ得タリト雖トモ後ニ至リ其中ニ不和起リテ一致セザリシタメ支那兵ヲシテ之ニ強烈ナル擊破ヲ加フルコトヲ得セシメ日本ノ援兵モ亦支那兵ノ襲撃ヲ受ケテ大敗シ寶藏ハ高句麗ニ奔リ百濟ハ支那兵ノ蹂躪スル所トナリ支那ニ併吞セラレテ支那ノ同盟者兼附庸國ナル新羅ニ隸屬スルニ至レリ是ニ於テ日本ノ敗殘兵ハ本國ニ還リ百濟人數千亦戰勝國ニ服從スルヲ欲セスシテ同シク日本ニ逃走シタリ此時百濟人工藝學術ヲ齎シテ大ニ日本

ノ文運ヲ助ケタルニヨリ日本ノ文運ハ爲メニ迅速ナル進歩ヲ遂グルコトヲ得タリ佛教ノ日本ニ入りタルモ亦此時ニ在リ

殆ント之ト同時ニ高句麗モ亦百濟ニ似タル運命ニ遭遇シタリ初メ高句麗ニハ才略豊富ノ宰相アリテ支那ニ對シテ善ク北韓ノ獨立ヲ保全シタルニ耶蘇紀元六百六十四年高句麗其名相ヲ喪ヒタルノ後ハ幾何モナクシテ支那軍之ニ侵入シ勝利ヲ續ケタルノ後高句麗ノ獨立ニ終焉ヲ與ヘ百七十六ノ市邑、數百萬ノ人民ヲ有スル高句麗ノ五州皆支那帝國ノ兼併スル所トナリ百濟ト同シク新羅ノ支配ニ歸ス數萬ノ高句麗逃亡民、北ノ方、頭滿江ヲ渡リテ渤海國ニ趨キ又南方日本ニ走リタルモアリテ兵燹ト飢餓ニ苦ミタル北韓ノ廣大ナル地域是ヨリ幾多世紀ノ間、空シク荒廢ノ區ト爲リテ殘レリ

此後新羅ハ名ニ於テ支那ノ附庸國タリシトハ雖トモ其實韓半島ニ於ケル唯一ノ獨立國トシテ殘存シタリ即チ新羅ハ支那ニ對シ善意ヲ以テ附庸國タルヲ認メ之カタメ支那ヨリ銳意ナル助力ヲ得テ大ニ隣國ヲ損シ自己ヲ強クスルノ便ヲ得タリシナリ然レトモ新羅ノ支那ニ對スル當時ノ附庸關係ハ全然唯名義ニ過キサリキ奈何トナレハ新羅ハ中央支那ヨリ著シク遠隔セルカ故ニ支那ニ於テハ新羅ノ事ニ關シ其權利ヲ實行スルノ便宜甚タ缺ケタリシヲ以テナリ

支那兵韓半島ノ大部分ヲ荒廢シ百濟及ヒ高句麗ヲ滅スノ後ハ新羅ノ國境ハ擴張シテ北ハ白頭山及ヒ豆滿江ニ至リ南ハ對島ニ達シテ今ノ韓國ノ全部ヲ包有シタリ是時ニ至リ韓半島ノ全部ハ歷史上初メテ統一ヲ見ルニ至リ新羅語ハ韓半島全部ノ公定通用語トナリ韓國ノ事ニ通曉スル諸學者ノ意見ニ依レハ現今ノ韓語ノ出所モ理論上新羅語ナラサルヘカラズト云フ又新羅ハ文明ニシテ名聲アリシ唐朝ノ時代ニ際會シテ

自國モ亦文明ト繁榮ヲ有スル黄金時代ヲ迎ヒ當時ノ首都慶州ハ手工、學術、建築、文學及ヒ宗教界ノ中心ト爲リ全國ノ學者此ニ來集セリ然レトモ泰平ノ繼續ト富力ノ増加ハ國ノ政治ニ不利益ナル影響ヲ與ヘ優雅ノ風、柔弱ノ俗ハ昔日ノ勇武質朴ニ代リ漸次ニ國威ノ墜落ヲ誘起シタリ耶蘇紀元第八世紀及ヒ第九世紀ノ新羅史ハ支那及ヒ日本ノ記者ノ傳フル所、殆ント皆歷代國王ノ事ニ係ルト雖トモ耶蘇紀元八百六十九年ノ條下ニ韓國沿岸ヨリ海賊起リ日本ノ船舶ヲ脅迫シタル記事アリ是レ讀者ノ注意スヘキ所、又耶蘇紀元八百九十三年ノ條下ニ「ジャンク」五十隻ヨリ成ル韓賊ノ船隊、對島嶼附近ニ於テ日本軍隊ト衝突シタル記事アリ此ノ如ク海賊ノ攻撃ニ關スル事項ノ屢々史上ニ見ユルハ新羅ニ於テ政綱ノ弛廢シタル現證ニシテ其究極スル所、韓半島ニ於ケル政治的革命ニ誘發スルニ至レルモノナリ

耶蘇紀元第八世紀ニ於テ韓國ノ北方ニ渤海國起リ今ノ西北韓國ノ大部分(咸鏡道全部)モ其領内ニ入り其國民ノ中ニハ高句麗人ニシテ本國滅亡ノ後逃ゲ來リタル者多カリキ渤海國ハ日本ニ對シテ臣下ノ禮ヲ乘リ日本ノ援護ヲ受ケテ支那ノ壓迫ニ抗シ得タリト雖トモ第九世紀ノ最初期ニ渤海ノ北隣ニ横互シテ一大強國ヲ成シタル契丹ノ突進ヲ支フルノ力ナク同世紀ノ初半期、契丹遂ニ渤海ヲ吞メリ渤海ノ滅亡ハ韓半島ニ影響ナクシテ已ムモノニアラス即チ渤海ノ逃亡民ハ潮ノ如ク北韓ニ流入シテ此ニ土着シ曾テ支那兵ノタメニ荒ラサレタル平原地ニ新ナル生活ヲ起シタリ此民族ハ健全ニシテ強勇ナリ半島ニ於ケル當時ノ政治ヲ以テ満足スルコト能ハス新羅ニ反シテ一揆ヲ起ス、王建トイフ者其首領タリ王建ハ曾テ高句麗ヲ統治セシ昔時ノ王族ノ後裔ナリ

新羅ノ主國兼全盟國ナル支那ニ内亂ト契丹ノ侵入アリテ、國歩甚々難メルニ乘シ王建ハ短時日ノ間ニ韓半島ノ全部ヲ征服シ更ニ支那ヲ離レテ獨立ノ國家ヲ創立シ國ヲ高麗ト稱シ松都即チ今ノ開城ヲ國都ニ撰定セリ松都ハ新羅ノ首都慶州及ヒ高句麗ノ舊都平壤ニ比スレハ之ヨリモ國土ノ中心點ニ近キ地ニシテ以來九世紀ノ間一等城邑、全國商業ノ主要中心點及ヒ學術ノ集中地トナレリ王建及ヒ其後歷代ノ繼承者ハ皆熱心ナル佛教信者ニシテ佛教ヲ以テ國教ト定メタルニヨリ高麗朝ハ韓國ニ於ケル佛教ノ黄金時代タリシナリ之ト同時ニ韓國ニハ學術及ヒ國民教育ノ盛ナル復興始リ宋朝ノ文學隆盛期ニ於ケル支那ノ影響興カリテ少ナカラサル助力ヲ與ヘタリ新羅ニ於テ「チヨル、ツカン」トカ稱スル人ノ發明ト思ハル、韓字モ此時半島ノ全部ニ普及シタリト云フ王建ハ耶蘇紀元九百四十五年ニ没シ其子位ヲ嗣キ支那ノ宋朝統治權ヲ握ルノ後十五年ヲ經テ之ト和親全盟ヲ約シタリ

其後幾ハクモナク韓國王ハ渤海ノ承繼者トシテ遼東半島要求ノ問題ヲ提起シ之カタメ契丹ト衝突シテ激戰ヲ交ヘ失敗シテ鴨綠江以北領地全部ヲ失ヒタリ契丹尙之ヲ以テ足レリトセス耶蘇紀元千十五年鴨綠江ヲ渡リテ韓國ニ侵入シタリ此時興凱湖附近古渤海ノ領地ニ女眞ト稱スル民族新ニ起リ勢ヒ強大ナリ韓國王乃チ之ト連衡ヲ急キ其援助ヲ得テ契丹ヲ鴨綠江外ニ窮蹙シ以來鴨綠江ハ韓國ノ定境ト爲レリ

其後韓國ハ平安安寧ナルコト二百年ノ後耶蘇紀元第十三世紀ニ至リ痛激ナル蒙古ノ危險ヲ受ケテ獨立安寧ヲ脅迫セラル、ノ事件起リタリ蒙古ハ成吉思汗ヲ首領トシ太平洋ヨリ露國ノ國境ニ至ル地域ヲ通シテ西細亞全州ヲ征服シ蒙古帝國ヲ創立シタルモノニテ韓國王ハ耶蘇紀元千二百十八年成吉思汗ノ屬國トナリタルヲ宣言シタリト雖トモ千二百三十一年韓國ニ於テ蒙古使節殺害事件起リテ亦戰爭ノ原因ト爲リ耶蘇紀元千二百三十二年韓國王ハ宮廷及ヒ其他政治機關ヲ舉テ江萃島ノ江萃ニ遷リ此時太祖ノ屍骸モ亦其

中ニ在リテ此地ニ葬ラレタリト云フ江萃ハ以來耶蘇紀元千二百七十年マテ韓國ノ首府トシテ存立セリ蒙古ハ韓半島ニ侵入シテ四十ノ市邑ヲ占領シ韓國王ヨリ臣屬ノ聲明ヲ受ケ己レノ部下ヲ分遣シテ地方ノ政治ヲ行ハシメ以テ韓國ノ獨立ヲ弱ムルノ事業ニ着手シタリ然レトモ他國ノ制度ニ快カラサル國民ハ新政府ニ抗シテ蜂起シタリ此事ハ耶蘇紀元千二百四十一年復タ蒙古ヲシテ侵入セシムルノ原因ヲ作り其結果ハ全ク蒙古ノ勝利ニ歸シ耶蘇紀元千二百五十六年韓國王自ラ蒙古帝ノ宮廷ニ趨キテ臣事ノ誓ヲ爲スニ至レリ

成吉思汗ノ孫、忽必烈ハ帝位ニ上ルノ後耶蘇紀元千二百六十六年日本ヲ服セント決シ再ヒ日本ニ遠征シ企テ爾ナカラ失敗ニ了レリ此時忽必烈ノ軍ニハ韓國ノ軍隊モ加ハリタリ韓國軍隊ノ蒙古ヲ助ケタルヤ固ヨリ強ヒラレタルニ由ルトハイトモ是ヨリ日本ハ韓國ニ對シテ敵愾心ヲ狭ムニ至レリ以來幾十年ノ間日韓ノ間ニ平和ノ關係ナク日本ノ海賊及ヒ暴險者ハ韓國沿岸ノ危險物トナリ韓國ノ商業ハ間斷ナク之ニ脅カサレテ杜絶シタリ

蒙古朝、支那ニ君臨スルノ晩年、蒙古ハ支那本國ニ於テ發生シタル騷擾ノ應接ニ遑ナカリキ因ツテ韓國ハ若干ノ期間全ク獨立ノ態度ヲ取り蒙古ニ朝貢ヲ絶テリ蒙古ハ固ヨリ附庸國ノ乖離ヲ制セント認ミタリシト雖トモ之カタメニ送ラレタル軍隊ハ皆撃退セラレタリ

支那ノ政權他國人ナル蒙古政府ノ手ヲ離レテ全ク本國ノ明朝ニ歸スルヤ韓國ニ於テモ政治的革命漸ク準備セララル抑々王建ノ創立シタル高麗ノ後年ハ宮廷及ヒ貴族ノ放肆懦弱其他政治上ニ於ケル諸般ノ弊害ヲ以テ特筆スヘキ状態ニアリテ殘忍ナル國王ニ對シテ怨望ヲ懷ク國民ハ自由束縛ノ救助者ヲ渴望シタリシ

ニ李成桂ハ卑賤ヨリ起リ「ゾロウト」ノ「溷」沿岸ノ州ニ生レテ其地ニ成長シタル人ニシテ韓國ノ軍務ニ就キ速ニ昇進シテ遂ニ軍總指揮官トナリタリ又當時ノ王妃ハ李成桂ノ女ナルヲ以テ李成桂ハ宮廷、軍隊及ヒ民間ニ於ケル已レノ勢力ヲ利用シ民怨ト革命ノ根本タル情弊ヲ説キ之ヲ防遏センコトヲ王ニ要請セリ王聽カス而シテ革命ハ此時支那ニ起リタル事件ノタメニ其期ヲ早メタリ

耶蘇紀元千三百八十六年支那ニ於ケル蒙古朝亡フ新朝、明ハ韓國ニ要求スルニ明ノ附庸國タラシコトヲ以テセリ之ヲ拒マンカ明ノ侵入免カルヘカラス明ノ侵入アランカ韓國ハ全ク之ニ應スルノ準備ナシ然レトモ韓國王ハ明ノ要求ヲ拒絶セリ是ニ於テ滅亡ヲ先見スル韓國ノ小軍隊間ニ於テ公然タル暴動ハ將ニ蜂起セントセリ李成桂乃チ之ヲ利用シ暴徒軍ニ將トシテ耶蘇紀元千三百九十二年韓國ノ首都ニ進撃シテ王ヲ逐斥シ其後遲滯ナク使ヲ南京ニ遣シテ支那皇帝ニ臣事スヘキコトヲ聲明シ且韓國ノ王ト爲リ全時ニ朝鮮ノ名ヲ復センコトヲ請フ支那皇帝李成桂ノ請ヲ容レ之ト同時ニ朝鮮ヲシテ全ク支那ノ屬國タル徵證トシテ支那ノ年鑑及ヒ曆本ヲ採用セシメタリ

李成桂ハ現朝ノ祖ニシテ此時代ハ管ニ政治ノミナラス社會及ヒ宗教ニ關スル百般ノ事、廣ク改造セラレタルヲ以テ特筆スヘキ時期ナリ然レトモ李成桂ハ支那ノ文物ニ傾心シ其改造ノ事ハ衣服ノ體裁、頭髪ノ結裝ヨリ國民ノ教育、官吏登庸試験ノ方式及ヒ文武ノ官制ニ至ルマテ皆支那及ヒ明朝ノ影響中ニ投シ置朝ノ時ニ傳ハリテ韓半島ノ全部ニ普及シ或程度マテハ國民的宗教ト爲リタル佛教スラモ官ノ遂放ヲ被ルニ至リ之ニ反シ孔子ノ禮儀作法其他支那聖賢ノ教訓ハ管ニ熱心ナル學習及ヒ弘布ノ科目ト爲リタルノミナラス之ニ國教ノ位置ヲモ附與シ又首都京城ノ新設ト共ニ此地ニ「シヨン、クエン、ゴアン」ト稱スル官

衙ヲ設立シ文部省ニ該當スル事務ヲ處理シ並ニ國家問題ニ對シ主要ナル事項ヲ論議スル處ト爲シタリ
 韓國ノ生活ニ關スル諸般ノ事、皆支那風ニ旨從シタルハ李成桂ニ始リ其承繼者ノ保守セシ所ニシテ韓國
 ハ是ニ由テ其外觀全ク支那化シ了リタリ善ク韓國ヲ識ル人々ノ評ニ依レハ韓國ハ現今ニ於テスラモ尙其
 外觀ハ明朝時代ノ支那ノ細畫的寫影ニ外ナラズト云フ特ニ佛教退擯ノ理由ニ關シテ考フルニ是レ韓國ニ
 於テ眞ニ支那ノ禮儀作法ヲ絶對的優勝ナリト信シタル爲メカ將タ凡テノ事、分別ヲ用ヒスシテ只管、中
 國ニ模倣スルノ意ニ出テタルカ抑々又寺院ノ領地ヲ沒收スルヲ願ヒテカ、動機違カニ判スヘカラスト雖
 トモ兎ニ角此變遷ハ適法ニシテ且一般的ナリト云フヘシ如何トナレハ韓國研究者ハ耶蘇紀元第十四世紀
 前ニ高度ノ發達ヲ爲シタリシ釋迦牟尼ノ宗教式ハ現今韓國ニ於テ全ク廢滅ニ歸シタルヲ證言スレハナリ
 李成桂ノ事業ニシテ前者ノ如ク重要ナラスト雖トモ次ニ記載スヘキハ遷都ノ事ニシテ此時舊來ノ首都松
 都ハ之ヲ廢シ新ニ漢江河畔ニ都ヲ創立シテ之ヲ漢城又ハ漢陽(京城)ト名ケタリ又耶蘇紀元第十九世紀マ
 テ存在シ近々千八百九十年代ニ於テ廢セラレタル八道ノ區劃ヲ立テテモ記載スヘキモノ、一ナリ
 李成桂耶蘇紀元千四百九年ニ沒シ京城ヨリ八里餘(日本里程)ヲ距ル楊州ニ葬ラル韓史ニ其諡號ヲ太祖康
 獻王或ハ單ニ太祖ト呼フ太祖ハ死ニ先ツコト十一年位ヲ其子定宗恭靖王ニ讓レリ恭靖王ノ在位期間(耶
 蘇紀元千三百九十八年ヨリ同千四百年ニ至ル)ハ甚タ短少ニシテ此間前朝黨ノ靜穩ナリシコトハ李氏王
 朝ノ歷史上唯一ノ例外ナリトス定宗恭靖王ノ後ハ太祖ノ子、太宗恭定王(耶蘇紀元千四百年ヨリ同千
 四百十八年マテ在位)之ヲ承ケ太祖ノ孫、世宗莊憲王(耶蘇紀元千四百十八年ヨリ同千四百五十年マテ在
 位)之ニ次キ此兩王ノ時代ニハ政治上ニ部分的改進行ハレ前朝ノ租稅制度中、其一部分ハ新ニ稅法ヲ制

定シテ之ニ代ヘ、體刑ヲ輕クシ農耕及ヒ國民ノ道德並ニ教育ノ普及ヲ獎勵スル方法ヲ施設シタリ世宗莊
 憲王ノ時代、耶蘇紀元千四百四十三年日本對島ノ國守ト對島ニ最近ノ韓國地方官トノ間ニ協約成立シ既
 ニ世ニ知ラレタル所ニ據レハ其協約ニハ第一ニ今ノ釜山ニ於テ兩國臣民ノ規則的貿易ニ關スルコトヲ規
 定シタリ是レ本協約ノ要部ナリトス世宗ノ後ハ其子文宗泰順王(耶蘇紀元千四百五十年ヨリ同千四百五
 十三年マテ在位)及ヒ其孫端宗泰懿王(耶蘇紀元千四百五十二年ヨリ同千四百五十六年マテ在位)之ヲ承
 ケ泰懿王ハ耶蘇紀元千四百五十六年其叔父、世祖惠莊王(耶蘇紀元千四百五十六年ヨリ同千四百六十八
 年マテ在位)ノタメニ斥ケラレ是ニ由テ若干年ノ間、韓國ニ内訌アリ

李朝ノ王ハ燕山王及ヒ光海王ヲ除クノ外、死後支那皇帝ヨリ與ヘラル、敬稱的諡號ヲ有ス諡號ハ四字
 ヲリ成リ第二字目ハ祖或ハ宗ノ字ニシテ祖ハ宗ヨリモ尊嚴ナリ祖ハ創立者ヲ意義シ戰爭其他擾亂ノ時
 ニ遭ヒ其王、宛然新朝ヲ創立シタルノ觀アルモノ之ニ該リ、宗ハ之ニ反シ平和ノ世ニ君臨シタル王ニ
 與ヘラル燕山王及ヒ光海王ノ諡號ヲ有セサルハ苛政ノ故ヲ以テ貶セラレ敬稱ヲ取得スルノ資格ナキニ
 由ルナリ又國王生存中ハ皆齊シク今上陛下ノ敬稱ヲ以テ呼ハル

世宗莊憲王、文宗泰順王、端宗泰懿王、世祖惠莊王ノ四代ハ文學ニ關スル事業特ニ歴史編纂ノ事ニ對シ
 保護獎勵ヲ與ヘタルヲ以テ著ハレ耶蘇紀元千四百四十五年世宗莊憲王ハ個々ノ記錄ヨリ王室年代記ヲ編
 纂スルコトヲ命シ文宗泰順王ノ時ニハ有名ナル「ヨ奥」、チ地、ソ勝、ナ鯉」ノ編纂事業起レリ此
 書ハ沿革ナル韓國地理及ヒ歴史ノ字書ニシテ二十卷アリ此事業ハ「ノ、サー、ツァー」ノ別名ヲ以テ廣ク
 知ラレタル「ノ、サー、シン」ト云フ人之ヲ始メ五十年ヲ經テ「ソ、ゴ、ツン」之ヲ完成セリ「ソ、

ゴ一、ツン」ハ別名ヲ「ソ一、サー、ガー」ト云フ、著者ノ採用シタル引用書ハ未タ明カナラス耶蘇紀元千四百五十八年世祖惠莊王ノ時、碩儒、シン、シユク、ツ一」活潑ナル歴史、國亂武鑑ノ編纂ヲ起セリ、睿宗襄悼王(世祖惠莊王ノ子)ノ治世(耶蘇紀元千四百六十八年ヨリ同千四百六十九年ニ至ル)ハ短期ニシテ其姪、成宗康靖王(耶蘇紀元千四百六十九年ヨリ全千四百九十四年マテ治世)位ヲ嗣キ其時代ハ貴族ノ間ニ大不和ヲ生シ遂ニ東人西人ノ兩黨ヲ形成スルニ至リタル事件ヲ以テ知ラル又成宗ハ文學及ヒ教育ヲ視ルコト家事ノ如ク、國費ヲ割キテ資力乏シキ學生ヲ養成スル等ノ費ニ供シ以テ之ヲ獎勵シ在位中耶蘇紀元千四百八十五年ニ「ソ一、ゴ一、ツオン」ノ著作ニ係ル歴史東國通鑑成リ又大明律ノ出版アリテ韓國法典ノ基礎ト爲レリ成宗ノ子ニシテ位ヲ嗣キタル燕山王(耶蘇紀元千四百九十四年ヨリ全千五百六年マテ治世)ハ殘暴放肆ヲ極メテ近臣ノ反抗甚シク耶蘇紀元千五百六年ニ至リ近臣遂ニ反逆ヲ謀リ王太妃モ之ニ與レリ燕山王、支ヘ得スシテ逃走シ其同胞、中宗恭僖王(耶蘇紀元千五百六年ヨリ千五百四十三年マテ治世)立テラレテ王位ヲ踐ム王ハ剛毅ノ性格ニ乏シク容易ニ倖人ニ動カサレ貴族ノ黨争アリテ底止スル所ナク此類ノ擾亂反逆ハ仁宗榮靖王(耶蘇紀元千五百四十二年ヨリ全千五百四十四年マテ治世)明宗恭憲王(耶蘇紀元千五百四十四年ヨリ全千五百六十六年マテ治世)及ヒ宣祖昭敬王(耶蘇紀元千五百六十六年ヨリ全千六百七年マテ治世)ノ朝ヲ通シテ其歴史ヲ填充シ中ニモ宣祖昭敬王ノ時代ニハ貴族黨更ニ分立シ以前ノ東人黨ヨリ南人黨及ヒ北人黨ヲ生シ又此時代ニハ日本トノ衝突アリテ其結果耶蘇紀元千五百九十二年ニ於ケル日本兵ノ侵入トナリ日本兵ハ韓國ヲシテ滅亡ニ瀕スルノ狀況ニ陥レタリ耶蘇紀元千五百九十二年以前ノ二世紀間韓國ハ貴族ノ黨争ヨリ起ル内訌ヲ以テ屢々動搖シタリト雖トモ

對外ノ關係ニ於テハ日本海賊ノ屢々侵入シタル事ヲ除ケハ常ニ平和ニシテ支那トノ關係ハ全ク友睦ヲ保チ韓國カ附庸國トシテ支那ニ對スル義務モ單ニ輕少ノ朝貢ヲ爲スニ止マリ惟リ前ニ記載セシ如ク蒙古軍侵入以來韓國ニ對シテ敵愾心ヲ懷キタル日本ヨリノ痛激ナル危險アリテ朝鮮ヲ脅迫シ得タリト雖トモ朝鮮ハ日本ニ對シテモ規則正シク使節ヲ遣ハシ贈獻ヲ行ヒテ當時ノ主權者タル將軍ノ感情ヲ和ケ耶蘇紀元千四百五十九年日本ノ政治界内亂ノ爲メ已ムコトヲ得ス一時朝鮮問題ニ從事スルコトヲ止ムルニ至ルマテ朝貢ノ禮ヲ繼續シタリ

對外ノ關係平和ニシテ久シク民心ヲ刺激スルノ事件ニ遭遇セザル結果トシテ韓國ハ武力ノ方面ヨリ見レハ大ニ衰弱シ來シ軍紀ハ頹敗シ城塞ハ朽敗シタルニ際シ不意ニ日本兵ノ侵入ヲ受ケタリ時ハ耶蘇紀元第十六世紀ノ終期ニシテ日本ハ此時マテニ重大ナル政治的變化ヲ經、間斷ナキ内亂ヲ喚起シタル是利氏ノ政治ハ信長及ヒ秀吉ノタメニ終滅ヲ宣セラレタリ秀吉ハ身卑賤ヨリ起リ氣力ト武略ヲ以テ皇帝ノ名ニヨリ無制限ノ權ヲ有シテ全國ヲ統治シ戰ニ於テ饋餼ヲ經タル大軍ヲ領シテ支那全土征服ノ大計畫ヲ懷抱シ此目的ヲ達スルコトヲ容易ナラシメンカクハ韓國ニ提言シテ支那侵入ノ事ニ與ランコトヲ要メタリ然レトモ宣祖王ハ秀吉ノ企圖ヲ以テ無謀ナリト爲シ其要求ヲ拒絕シタリ是ニ於テ秀吉十五萬ノ軍ヲ韓國ニ送ル日本兵ハ勇敢ニシテ必勝ノ習慣ヲ有スルノミナラス衛國ノ海員ヨリ傳ヘラレタル火器ヲ用キテ其武裝韓兵ヨリモ過カニ勝リ小西加藤ノ兩將之ヲ率キタリ小西ハ基督教信者ナリ戰爭ノ初期ヨリ兩將ノ作戰ハ異常ノ功ヲ奏シ市邑又市邑、續々日本兵ノ手ニ落チ日本兵ハ釜山上陸後十八日ニシテ既ニ京城ヲ占領シ其動作ノ神速ナル、毫モ戰爭ヲ準備セザリシ韓國政府ヲシテ全然錯亂セシメ京城ニ近キ忠州占領ノ報ハ

京城ニ無限ノ恐駭ヲ起シテ人皆ノ逃亡トナリ國王ハ遼東ニ奔リ使ヲ支那皇帝ニ遣シテ援兵ノ送達ヲ歎願ス日本將軍等ハ既ニ京城ヲ占領シテ二道ニ分ル、ノ策ヲ決シ加藤ハ東北ニ向ヒ小西ハ西北ニ進ミ小西ハ先ツ北韓ノ舊都ニシテ一等城塞ナル平壤ニ向ヒ三週間ヲ經スシテ之ヲ占領シ尙ホ其勝利ヲ利用セント欲シ支那ニ侵入スルノ目的ヲ有シタリシモ之カタメニハ釜山ニ在ル日本艦隊ノ援助ヲ求ムルノ要アリ是ニ於テ日本艦隊ハ半島ノ西岸ヲ迂回シテ大同江ニ向ヘリ然レトモ途中濟州島附近ニ於テ韓國ノ軍艦ニ攻撃セラレ殘酷ナル破壊ヲ受ケテ已ムヲ得ス退却シタリ

一説ニ日本カ韓國ニ對シテ開戦スルノ必要ニ迫ラレタル原因ハ軍隊ニ於テ要職ヲ帶ビタル基督教信者ノ諸將ヲ海外ニ亡ビシメ之ニ乘シテ國內ノ基督教徒ヲ根除スルニ在リト云ヒ又此意見ト關聯シテ次ノ如キ推定ヲ爲スモノモアリ曰ク基督教唱導者ノ事業ノ進捗ト人員ノ普及ハ秀吉ノ大ニ危ミタル所ニシテ秀吉ハ之カタメ在外ノ教徒ニ適時ノ救援ヲ制限シテ遠征ノ失敗ニ終ラシメタリト又其他ノ説ニ秀吉ハ内國ノ平和ヲ保證スルタメ不穩ナル將士ノタメニ業ヲ求メタルモノナリト云フ

然ルニ一方ヲ見レハ日本軍ハ附庸國援助ノタメニ送遣セラレタル大ナラサル支那ノ軍隊ヲ北方ニ擊破シ支那ハ尙ホ強大ナル兵力ヲ輸送スルノ時間ヲ得シカタメ講和談判ヲ提出シ其談判ノ行ハル、間ニ於テ潛カニ二十萬ノ大軍ヲ平壤ニ送致シタリ是ニ於テ小西ハ數ノ相敵セサルヲ見、夜間京城ニ引還リ他ノ友軍ト聯合シタリ其後平壤附近ニ於テ起リタル會戰ハ此戰爭中多ク死傷者ヲ出シタル激戰ノ一ニシテ支那兵及ヒ之ト結合シタル韓兵ハ歴スヘキ數ヲ有シナカラ此地ニ大敗シテ、急キ平壤方面ニ退却シタリ然レトモ日本軍モ亦少カラズ疲勞シ且其兵士ハ此時以前ニ於テ戰鬪ト疾病ニヨリテ多ク減員シタリ是故ニ京城

ノ戰後、講和談判再ヒ始マリ日本兵ハ半島ノ南岸ニ引返リ防禦シタル陣營ニ駐軍シテ休養ニ就ケリ

秀吉ノ講和談判ニ於テ韓國ニ要求スルニ韓國ハ諸地ヲ割クノ外、秀吉ノ主權ヲ認メ之ヲ支那ト同等視スヘキコトヲ以テセリ韓國ハ其要求ヲ以テ過大ナリトシ決然之ヲ拒絕セリ秀吉是ニ於テ軍ニ令シ再ヒ韓國ノ内地ニ進撃セシム然レトモ此時ハ韓國モ既ニ戰鬪準備ヲ爲シ且前同ノ經驗ニ由リテ多クノ教訓ヲ有シ加フルニ支那ノ大軍モ既ニ半島ニ駐屯スルアリ日本軍ハ數回ノ捷ヲ得テ再ヒ京城ニ達シタリト雖トモ其海軍ノ前同ノ如ク擊破セラレタルタメ京城ニ援兵ヲ得ルノ道ヲ失ヒ久シカラスシテ退却ヲ起スノ已ムヲ得サルニ至リ日本軍ノ行動ノ結果ハ之ヲ前同ニ比スレハ大ニ劣リタリ日本軍ノ退却スルヤ永久韓國ヲ放棄スルノ意思アリシト見エ沿途逢着スル所ノ物ハ皆之ヲ劫掠燒棄シ寺院其他建築物ノ豐富美麗及ヒ諸種ノ工藝品ノ饒多ナルヲ以テ著名ナリシ新羅ノ故都慶州府ハ就中犠牲ノ重大ナルモノナリ此ノ如クニシテ日本ノ退却軍ハ釜山及ヒ蔚山ニ陣地ヲ構ヘ支那兵之ヲ追ヒテ蔚山ヲ圍ム其包圍ハ約一年ノ久シキニ彌リ此戰爭ノ主要ナル段落ニシテ日本軍ハ非常ナル損害ヲ蒙リ將士皆疲勞ヲ極メタリト雖トモ釜山ヨリノ援隊、尙ホ時機ヲ得テ僅ニ全滅ノ境遇ヲ脱スルコトヲ得タリ

清韓軍並ニ日本軍ハ孰レモ冬期ノ戰爭ニ疲勞シ蔚山包圍ノ後、決戦ヲ爲スノ餘勇ヲ存セザリシト雖トモ戰爭ノ狀態ハ講和談判ノ時期ヲモ算入スレハ耶蘇紀元千五百九十二年ノ半ヨリ同千五百九十八年ノ終期マテ六年間繼續シ秀吉死シテ始メテ局ヲ結ビタリ

前後二回ノ戰役ニヨリ日本カ取得シタル現實ノ結果ハ釜山ヲ占領シテ守備兵ヲ留メタルノ一事ニシテ又此戰役ノ永久的紀念トシテハ京都ノ耳塚殘レリ耳塚ハ日本史家ノ言ニ依レハ清韓人二十一萬四千七百五

十二人ノ耳鼻ヲ埋メタルモノナリト云フ

韓國カ日本ニ釜山ヲ讓リクル條件ハ其範圍甚狹隘ニシテ釜山ノ日本人ハ韓國内地ト何等ノ關係ヲモ有セズ韓人トノ貿易ハ一ヶ月ニ一二回ニ止マリ其貿易ニモ猶且ツ時間ノ制限ヲ置キタリト云フ

此役ヤ日本軍ハ耶蘇紀元千五百九十二年ヨリ同千五百九十六年ニ至ル間遂ニ韓國ヲ破壊シテ荒廢ノ區トナシ生殘リシ國民ハ貧弱ニ陥リ飢餓ニ逼リ商業工業ニ關シテハ固ヨリ言語ニ絶ス此ノ如クニシテ破壊セラレ此ノ如クニシテ荒廢シタル韓國ハ其後二世紀ヲ費シテ僅ニ回復スルコトヲ得タリ

是時日本ニ於テハ重大ナル變動アリ變動トハ何ゾヤ頑固ナル内亂久シク續キタル後、家康天下ヲ統一シ皇武兩立ノ舊制ヲ復シタルコト是ナリ家康ノ孫ニシテ其承繼者ナル家光ハ朝貢ヲ復スルノ命ヲ韓國ニ傳ヘタリ此時韓國ハ仁祖憲文王(在位千六百二十二年ヨリ千六百四十八年ニ至ル)其叔父ニシテ兄弟ノ殺戮者並ニ國ノ暴主タル光海王(在位千六百八年ヨリ千六百二十二年ニ至ル)ニ嗣キテ王位ニ在リシカ當時其政府ハ内亂ニヨリテ甚タ衰弱シタリシカ故ニ異議ヲ唱ヘスシテ家光ノ命ニ從ヒ是ヨリ一定ノ條件ニヨリテ行ハル、韓國使節ノ來貢再ビ始リテ耶蘇紀元千八百十年マテ繼續シタリ

韓國ハ日本ノ侵入ヲ受クルノ後漸ク回復ノ緒ニ就クヤ否ヤ當時支那ト戰ヲ交ヘタル北方ノ滿州ヨリ復タ新タナル危險ノ來リ臨ムニ會ヘリ耶蘇紀元千六百二十七年滿州軍ハ水ニ山リテ鴨綠江ヲ渡リ支那軍ヲ擊破シテ京城ヲ圍ム仁祖王一旦和ヲ請ヒ臣事センコトヲ約ス然レトモ敵、兵ヲ韓國ヨリ撤スルヤ否ヤ王ハ大臣等ノ提議ニ依リ條約違犯ノ行動ヲ爲シテ復タ滿州軍侵入ノ口實ヲ作り滿州軍ハ京城及ヒ韓國王族ト多數ノ貴族ノ避難地タル江華島ヲ占領シタリ其後耶蘇紀元千六百三十七年ニ至リ更ニ條約ヲ訂結シ以テ

韓國ハ明朝ニ臣從ノ關係ヲ絶ツコト及ヒ毎年滿州朝ニ來貢スルコトヲ規定シ此條約ハ日清戰爭終局ノ下ノ關係約結バル、時マテ終始一貫シテ其効力ヲ有シタリ

朝貢ノ物品ハ米、粟、鼠皮、豹皮、鹿皮、水獺皮、花草莖、種々ノ紙、苧麻布等

日本ト交ヘタル多年ノ難戰及ヒ滿州軍二回ノ慘劇ナル侵入ハ韓國ノ政策ニ變動ヲ及ボシ韓國政府ハ以來鎖國主義ヲ取ルニ至リ殆ント耶蘇紀元第十七世紀十八世紀十九世紀ヲ通シテ之ヲ固守シ以テ只管外國ノ干渉ヲ避クルニ務メタリ但韓國ハ之カタメ支那ノ如キ大仕懸ケノ城壁ヲ備ヘサリシト雖トモ河海荒原ヲ利用シ又沿境ニハ連營ヲ設ケ以テ内國ト外國トノ交通ヲ遮斷シ故ラニ沿岸ノ地ヲ荒蕪ニ歸シテ外國海員ノ利欲心ヲ絶ツノ計ヲ爲シ沿岸ニハ特別ノ警戒機關ヲ置キ又沿岸ノ丘地ニハ秩序整然タル信號火ヲ設ケ外國船ノ接近スルモノアレハ輒チ之ヲ京城ニ急報スルノ用ニ供シ遠洋航海ハ嚴禁ニ係レリ蓋シ目今韓國ニ航海業ノ萎靡振ハサルハ主トシテ此禁令ノ結果タラスンハアラス當時外國船舶ノ韓國沿岸ニ於テ難破スルモノアルトキハ韓國ハ其乘員ハ捕縛シテ之ヲ禁錮ニ附シタリ是レ乘員ヲ鄉國ニ放ツトキハ更ニ外人ノ來航スル虞アンハナリ第十七世紀ニ於テ十四年間韓國ニ俘虜タリシ和蘭船舶「スバルツェール」號ノ有名ナル乘組員「ガメル」等ハ實ニ此運命ニ遭遇シタル者ナリ

清韓兩國ハ鴨綠江ヲ沿ヒテ中立地ヲ設定シ其區域内ニハ人民ノ居住ヲ嚴禁シ韓國ノ支那ニ對スル聯絡ハ年々ノ朝貢ニ由リテ保持セラレ又兩國ノ境界線ナル鴨綠江岸ノ支那領地ニシテ鳳凰城附近ノ場所ニ定期市場ヲ開キ兩國人民ノ貿易ニ供シタリシモ其貿易ハ之ヲ行フコト唯二三日間ニシテ其期間滿了後ハ兩國人民ハ各本國ニ歸還シ若シ其他ノ時ニ支那人及ヒ滿州人ニシテ鴨綠江南、韓領地ニ入ルモノアルトキハ

直チニ死刑ニ處セラレ韓人ト雖トモ支那人滿州人ト交通スルノ嫌疑アルモノハ其罰ヲ同クセリ日韓兩國ノ交通ハ之ヲ韓國ト支那滿州トノ關係ニ比スレハ尙一層微々タルモノニテ兩國ハ唯主權者ノ新ニ即位スルトキ互ニ之ヲ報知シタルノミ但韓國ハ別ニ十年毎ニ一回日本ニ使節ヲ送リテ所定ノ貢禮ヲ行ヘリ又日本ハ釜山ニ於テ甚タ瑣細ナル貿易ヲ韓人ト營ミタリト雖トモ千七百九十七年「プロットン」氏カ釜山ニ於テ一人ノ日本人ヲモ見サリシヲ以テ見レハ耶蘇紀元第十八世紀ノ終期ニ至リテハ這般ノ貿易關係ハ殆ント全ク斷絶シタリシモノ、如シ

清韓兩國間ノ中立地帯ハ設定後存續シテ千八百七十五年ニ至レリ然ルニ此地ニハ盜賊ノ巢窟ヲ構ヘテ出沒スルモノアリ仍テ李鴻章ハ同年軍隊ヲ送リテ之ヲ討平シ爾後兩國人民ノタメニ之ヲ開放シタリ韓國ノ即位報告使並ニ朝貢使ハ千七百八十九年マテ日本ノ首都ニ趨クヲ例トシタリト雖トモ是等ノ使節ノ旅費ハ日本政府ノ負擔ナルニヨリ日本政府ハ費用節減ノタメ對島ニ於テ使節ヲ受ケンコトヲ要求シ千七百九十年ヨリ之ヲ實行シタリ對島ハ韓國ヨリノ距離近ク且ツ使節滞在費モ著シク少額ヲ以テ支ヘ得ヘキヲ以テナリ

鎖國主義ノ政策ハ隣國トノ交通ヲ最極限マテ縮少シタルカ故ニ以來二百年間ノ韓史ハ日本及ヒ支那ノ資料ニモ中絶シテ見エス故ニ此部分ハ只之ニ關スル記事中ヨリ公ニセラレタル乏シキ資料ヲ以テ之ヲ填充スルヲ得ルノミ

仁祖憲文王ノ時韓國ノ滿朝ニ對スル關係終決シ孝宗宣文王（在位千六百四十八年ヨリ千六百四十九年マテ）之ヲ承ク其子顯宗彰孝王（在位千六百五十八年ヨリ千六百七十二年ニ至ル）之ニ次グ彰孝王ノ時ニハ

記載スヘキ事件ナク其承繼者肅宗元孝王（在位千六百五十八年ヨリ千六百七十二年ニ至ル）ノ初期ハ貴族ノ激烈ナル鬪爭ヲ以テ著ハレ此時昔ノ西人黨分レテ老論黨及ヒ少論黨トナリタリ肅宗王ハ務メテ國民教育ノ普及ヲ計リ多クノ舊法典ヲ復シ千七百七年ニハ租稅制度ノ改正ヲ行ヘリ肅宗王ノ後ヲ承ケタル景宗宣孝王（在位千七百十九年ヨリ千七百二十三年ニ至ル）ノ時ニハ一時靜穩ナリシ貴族黨、世子問題ヲ以テ復々激烈ナル鬪爭ヲ始メ一方ハ現王老イテ子ナキニヨリ王弟當ニ其承繼者タルベキヲ主張シテ之ヲ扶クル者ニシテ一方ハ之ヲ排シ王子ノ出生尙ホ期スヘシト爲ス者ナリ而シテ景宗王ハ遂ニ王子ヲ遺サスシテ没シ王子黨ノ希望ハ空シク絶エテ王弟位ニ即ク之ヲ英宗顯孝王（在位千七百二十三年ヨリ千七百七十五年ニ至ル）ト爲ス是ニ於テ王ノ踐祚ニ反對シタルモノニ對シ嚴酷ナル追捕行ハル千七百二十八年英宗王ノ長子没ス長子ハ世子ニシテ未タ實際ニ於テ國政ヲ統ベズト雖トモ死後王位ニ上セテ「チン、ツオン」ウー、ヤン」王ト稱ス其時英宗王ハ次子「ツァン、ホン」ヲ立テ、世子トス世子ハ氣魄雄大ヲ以テ秀テ事々多クハ父王ト意見ヲ異ニシ高ク韓國ノ勇氣ヲ計リ己レノ如キ少壯世子ノ唯一ノ目的ハ支那皇帝ノ位ニ在リト主張シ熱心ニ滿朝ヲ放逐シテ支那全土ヲ服從センコトヲ圖レリ父王ハ世子ノ空想管ニ王室ノタメニ危險ナルノミナラス國民ヲモ亡ホスモノナリト爲シ之ヲ抑制スト雖トモ世子ハ尙其意見ヲ固持シテ從ハス故ニ父王ハ遂ニ世子ヲ以テ狂疾患者ナリト信セサルヲ得サルニ至リタリ此ノ如ク父王ト世子ト相容レサリシハ尙他ニ何等カノ原因アリシハ蓋シ疑フヘカラス然レトモ其原因ノ如何ニ關セス父王ハ世子ニ死ヲ興ヘタリ韓國史料ニ依レハ世子ハ函ニ閉鎖セラレ數日ヲ經テ死セリト云ヒ又他ノ韓國史料ニ記載スル所ニ依レハ世子ヲ函中ニ閉鎖シ之ニ釘シテ死ヲ早メタリト云フ

肅宗元孝王ノ時ニ定立セル黨派ハ近年マテ在續シ南人黨、北人黨、老論黨及少論黨ノ四ニ分レテ貴族ハ皆其一ニ屬ス是等ノ黨ハ國利民福ヲ標榜スト雖トモ是只名義ノミニシテ實際ニ於テハ顯官ヲ獵シテ他黨ノ進路ヲ絶タンコトヲ務ムルノミ是ニ由テ各黨ノ間、鬭争起リ其鬭争ハ屢々領袖ノ死ト共ニ終局シタルモノアリキ

「チン、ツォン、ツー、ヤン」王ハ「ツイルキンソン」ノ説ニ於テハ「チン、ツォン、ヒョー、ツァン」ト爲ス

「ツァン、ホン」ヨリ王族ノ三系出ツ即チ第一系ハ父王ノ直系ノ承繼者タル正宗「ムン、ソン」王、純祖「ソン、ホー」王「イク、ツォン、ツァー、ムン」及ヒ憲宗「キョン、ムン」王ニシテ又「ツァン、ホン」ノ直系子孫(子、孫、曾孫、玄孫)ナリ其他ノ系統ハ「ツァン、ホン」ノ其他ノ子ヨリ出デタルモノニテ哲宗王及ヒ今上トス

第一系ハ一説ニ正宗莊孝王、純祖成孝王「イク、ツォン、ヒョー、ミョン」王及ヒ憲宗哲孝王ト爲ス然レトモ是等ノ諸王族ハ之ヲ「ツァン、ホン」ノ子孫ト認メス王ノ養子トシテ位ヲ繼承セリ故ニ韓人ハ謂フ是等ノ諸王族ノ系譜ハ此ノ如クニシテ真正ノ祖先ト分離セラレタリト
英宗王ハ犯罪者及ヒ奴隸ノ苦痛ヲ輕減センタメニ從來ノ死刑烙刑竝ニ犯人ノ家族ヲ偏境ニ追放スルノ刑ヲ廢シ奴隸ノ稅ヲ麻布一束ニ減シ奴隸女ハ全ク免稅ト爲シタリ之ヲ其子ニ對シテ宣シタル殘虐ニ比スレハ眞ニ奇妙ナル反象ト云フヘシ

正宗「ムン、ソン」王ノ時代(千七百七十五年ヨリ千八百年ニ至ル)ニハ洪水、飢饉、疫疾ノ凶災ニ由リ全國大ニ苦ム仍テ王ハ民力ヲ興起スルタメ諸多ノ方策ヲ施シタリ是レ此時代ノ主要ナル事件ニシテ又監獄ノ改良刑罰ノ輕減モ行ハレ千七百八十五年ニハ大^{カクサロシ、トホシロシ}全^{トホシロシ}通^{トホシロシ}法^{トホシロシ}(?)ノ補續成ル大^{カクサロシ、トホシロシ}全^{トホシロシ}通^{トホシロシ}法^{トホシロシ}(?)ハ十五世紀ノ編纂ニ係リ五卷ヨリ成リ明朝ノ制ニ倣ヒテ立テラレタル韓國ノ制度法律ヲ詳細ニ記載シタル書ナリ
千七百八十六年ニハ清國ト衝突アリ平安道沿岸ノ島嶼ノ一ツニシテ漁利ニ富ミ是マテ清人ノ利慾心ヲ誘ヒタルモノアリ清國是ニ於テ之ヲ占領シタリト雖トモ韓兵ノ突撃ニヨリ棄テ、走ルノ已ムヲ得サルニ至レリ千七百八十三年基督教初メテ韓國ニ入り政界ノ反對アリシニ拘ラス迅速ニ傳播シタリ千八百十年英宗沒ス其子純祖「ソン、ホー」王(在位千八百年ヨリ千八百三十四年ニ至ル)幼齡ニシテ祖母政ヲ攝ス純祖王ノ時ニハ基督教ニ對シ激烈ナル追放行ハル純祖在位ノ初期、貴族黨ニ老論黨ト稱スル一派起リ南人派ト隙アリ南人派ニ多クノ基督教徒アリ基督教徒放ノ事、蓋シ一部分ハ此兩派ノ不和ヨリ出テタリ而シテ南人派ノ勢ハ終始削小セラレテ振ハス又純祖ハ官奴ノ多數ヲ解放シタルヲ以テ知ラレ千八百十一年ニハ原因不明ノ六ヶ月暴徒平安道ニ起リテ國情恟々タリ暴徒ノ主唱者ハ地ノ住民「ホン、ギャオン、ナー」ナリ千八百二十七年賢明ニシテ國民ノ囑望スル王子「イク、ツォン、ツァー、ムン」交王ト政ヲ共ニス是レ韓國ノ政治上ニ未曾有ノ主義ヲ加ヘタルモノナリ然レトモ天ハ此賢明ニシテ民望アル好少年ニ年ヲ假サス千八百三十年ニ於テ既ニ之ヲ奪ヒ去レリ而シテ千八百三十四年ニハ純祖モ亦沒シ位ヲ其孫即チ「イク、ツァン、ツァー、ムン」ノ子ニ遺シタリ之ヲ憲宗與文王ト爲ス憲宗與文王ノ代千八百三十五年加特力致宣教師二人韓國ニ入り千八百三十八年監督僧「イムベルト」亦來ル此事原因ト爲リ千八百三十九年ニ至リ更ニ殘酷ナル基督教ノ退擯行ハレ是等ノ宣教師等ハ縲紲ノ苦ヲ受ケ痛烈ナル拷問ヲ加ヘラレタル後、刑

ニ處セラレ多クノ教徒モ亦之ト運命ヲ同シクセリ然レトモ是等ノ悲慘ナル運命ハ尙其他ノ宣教師ノ奮勵心ヲシテ沮喪セシムルニ足ラス宣教師ノ海陸韓國ニ入ルモノ多ク一方ニハ之ニ對スル搜索處罰尙ホ已マシテ共ニ行ハレタリト雖トモ然レトモ教徒ノ數ハ迅速ニ増加蔓延セリ千八百四十六年佛國政府ハ韓國ニ於テ信教自由ノ權ヲ得ント試ミタルモ此目的ヲ以テ韓國ニ向ヒ航行シタル船舶「ラ、クロアール」號及ヒ「ラ、ジイクトリユース」號ハ黃海ニ於テ座礁シ遂ニ韓半島ニ到着スルコト能ハサリキ

憲宗興文王ノ代(千八百三十四年ヨリ千八百四十九年ニ至ル)ニハ政權太妃及ヒ王妃ノ出處ナル金姓ノ手ニ歸シテ王及ヒ其一族ノ勢力萎靡振ハス金姓ハ兩班ノ大黨ノ首領ト爲リ時ノ政府モ專ラ其黨ノ利益ヲ標準トシテ行動シ遂ニ東學黨ノ反抗蹶起ヲ誘發スルニ至レリ此時期ニ於テハ東學黨ノ事アルニ至ルマテ兩班ノ弊害非常ニ增長シタルモノアリシハ殆ント疑ヒヲ容レサル所ニシテ兩班ハ實ニ農民ヨリ米穀ノ貢獻ヲ取り文明國ニ於テ一般ニ竊盜掠奪ト稱セラル、コトモ兩班ハ之ヲ以テ不法ト爲サザリシナリ

憲宗王子ナク未タ世子ヲ定メスシテ没シ御崩撰定ノ權亦太妃ニ歸シ不幸ナル「ツァン、ホン」親王ノ曾孫立テラレテ位ヲ嗣ク之ヲ哲宗王ト爲ス哲宗王ノ父ハ大院君「ツァン、ゲ」ニシテ大院君「ツァン、ゲ」ノ父ハ「ウン、オン」親王ナリ故ニ哲宗王ハ「ツァン、ホン」親王ノ曾孫タルナリ

年少ノ王金姓ニ娶ル故ニ王モ亦先人ノ如ク全ク金姓ノ勢力ニ服從シタリ

哲宗英孝王ノ時代(千八百四十九年ヨリ千八百六十二年ニ至ル)韓國政府ハ其主義タル鎖國孤立ノ保全ニ關シ痛切ナル危險ヲ感シ始メタリ是レ其隣國ナル日本及ヒ支那ハ外國人ニ對シ門戸ヲ開放シ千八百六十年ニハ支那ハ日本海ノ沿岸ニ於テ黑龍江以南韓國ノ北境ニ至ルノ地ヲ露國ニ讓リ因テ露國船舶ハ韓國ノ

沿岸ニ來リ半島ノ測量測圖ニ從事スルコトヲ始メタルカ爲メナリ是時ニ當リ歐羅巴諸國ノ中ニモ日本ノ紹介ニヨリ韓國ニ互市ヲ求ムルモノ現ハレ英國ノ如キハ日本政府ニ請ヒテ釜山ニ於ケル日本人ノ商業ニ加ハラントコトヲ求メ又千八百六十二年日本使節ノ巴里ニ在ルヤ那翁三世ノ政府ハ日本ニ請フニ佛國ニ對シ韓國開放ノタメニ盡力センコトヲ以テセリ然レトモ皆要領ヲ得サリキ

哲宗英孝王ハ先人ノ如ク男子ヲ有セス且後嗣ヲ指定セスシテ没セリ是ニ於テ後嗣問題ニ關スル紛議隱謀宮廷ニ出現シタル後「イー、ハー、キン」親王ハ其次子「イク、シヨ」ヲ推シテ候補者ニ撰定ス「イー、ハー、キン」親王ハ父ノタメニ虐殺セラレタル「ツァン、ホン」ノ孫ニシテ英孝王ノ一族ノ一人ナリ候補者ハ既ニ定レリ然レトモ事ハ尙ホ千八百二十七年以來ノ歷代諸王ノ未亡人三人ノ間ニ國權掌握ノ權ヲ爭ヒテ紛亂シ結局最故ノ未亡人「ツァン、ゲ」ノ勝ニ歸シ趙妃ハ「イク、シヨ」ヲ養子トセリ是ニ於テ「イク、シヨ」王位ニ即ク時ニ年十二即チ今上陛下ナリ

「イク、シヨ」ノ「ツァン、ホン」ニ於ケル系統ハ左ノ如シ

「ツァン、ホン」└「ナム、シヨ」└「イー、ハー、キン」└「イク、シヨ」

「イク、シヨ」王ハ「ツァン、ゲ」妃ノ養子トナリタルノ故ヲ以テ其父「イー、ハー、キン」トノ親族關係一變シ「ツァン、ゲ」妃ノ配偶者ニシテ既ニ三十餘年前ニ没シタル「イク、ツァン」王ノ子ト見做サル但父子ノ親族關係ハ法典ノ上ニ於テコソ變シタル實際ニ於テハ生父「イー、ハー、キン」ハ「イク、シヨ」ノ幼時之ニ對シテ猶ホ無限ノ權力ヲ有シ王ノ即位後十年間ハ理論上趙妃ハ主權ヲ掌握シタリト雖トモ實際ニ於テ王ノ指導者タルハ「イー、ハー、キン」ナリシナリ此ノ如クニシテ「イー、ハー、キン」ハ其子ノ即位ト共ニ

大院君「ヒン、シヨン」大院君ハ王ノ生ズニシテ即位セサル者ニ屬スル敬稱ノ敬稱ヲ享有シテ王ニ對スル權力ヲ保テリト雖トモ亦能ク趙妃及ヒ趙妃ノ任命シタル大臣等ト和親ヲ維持シテ衝突ナキヲ得タノ此ノ如クニシテ今上即位ノ始メ十年間ハ國家主權ノ實、王ノ手ニアラスシテ大院君之ヲ掌握シタリ大院君ハ甚タシク權力ヲ愛シ氣力非常ニ雄健ニシテ且ツ外人ヲ嫌惡スルコト甚タシ大院君ノ此性格ハ必然ノ結果トシテ其爲ス所歷代勢力ヲ積重シタル兩班トノ衝突ヲ生シ特ニ金姓ト相容レスシテ紛議絶ユルコトナカリキ

哲宗王ノ近親ノ一人ナル「イー、セー、ボー」親王(或ハ「キヨン、ヒヨン」親王)曾テ兩班ト相和セスシテ追放ニ處セラレタリ兩班之ニ死刑ヲ宣告ス王幾何モナクシテ没シ生前未タ親王ニ對スル刑ノ執行ヲ命セス大院君乃チ之ニ乘シテ親王ヲ救ヒタリ是レ適ニ大院君カ兩班ニ對シ威權從來隆々トシテ動モスレハ王室ニ對シテ猶且壓力ヲ加ヘタル兩班ノ全盛期ハ既ニ經過シ了レルヲ暗示シタルモノニテ大院君ハ兩班ト争フ毎ニ必ス之ニ強大ナル打撃ヲ與ヘタリ抑モ兩班トハ韓國ノ貴族ニシテ祖先ノ餘光ニ依リ家ノ系譜ニ基キテ特權アル地位ヲ領スルモノアリ其系譜ニ二種アリ一ハ私人カ領備ヲ尊敬スルタメニ設ケタルモノニシテ一ハ國家ニ對スル殊勳者ノタメニ政府ニ於テ諸道ノ「名譽」寺院ニ備フルモノ是ナリ然ルニ是等ノ系譜ハ星霜ヲ經ルニ從テ其數膨大シ貴族ノ班ニ列スヘキ子孫ノ人員非常ニ増加シ特ニ是等ノ系譜ハ屢々法律ニ違反シテ全ク其資格ナキ人々ニモ附與セラレ其子孫ハ亦法律ニ依ラスシテ兩班ノ特權ヲ取得シ此ノ如クニシテ兩班ノ地位、犯罪者及ヒ無資格者ノ爲メニ汚サル、コトアルハ弊ノ大ナルモノナリ是ニ於テ大院君ハ千八百六十八年個人ノ系譜ヲ廢シ千八百七十二年ニハ國家殊勳者ノ宗廟モ只四十八個ヲ保存

シテ其他ハ皆之ヲ破壊シ之ニ屬スル系譜ヲ廢シタリ又同年大院君ハ平民ノ爲メニ新政ヲ出シ専ラ下級民ニ屬スル舊來ノ兵役稅(人頭稅)ヲ廢シ現在ノ戶賦ノ制ヲ定メタリ戶賦ハ國民ノ上下ヲ通シテ均シク負擔スル所ノ稅ナリ系譜廢滅及ヒ戶賦制定等ノ施設ハ皆大院君カ政界ヲ去ル時ヨリ久シカラサル以前ノ事ニ係レリ

大院君ハ所謂「西蠻」ヨリ傳來シタル學問ノ研究者ニシテ基督教徒ヲ嫌ヒ蓋又基督教徒ハ外人ニ韓國ノ事ニ干渉スルノ原因ヲ與フヘキヲ危ミ千八百六十六年令シテ之ヲ追放シタリ教徒追放ノ舉ハ以前ニ於テモ之レ無キニ非スト雖トモ其激烈殘酷ナルコト未タ嘗テ此ノ如キハアラサリキ此時殺戮セラレタル者ノ中ニ佛國ノ監督僧「ベルニユー」アリ此事、原因トナリ歐州人兵力ヲ以テ韓國ニ臨ムニ至レリ初メ佛國政府ハ「ベルニユー」及ヒ其他ノ宣教師殺害ノ報ヲ得ルヤ當時韓國ヲ支那ノ屬國ト認メタルカ故ニ先ツ説明ヲ北京ニ要ム然レトモ北京外務衙門ハ佛國政府ノ質問ニ對シ韓國政府ノ事ニ責ヲ負フヲ避ケ又韓國ニ對シテ何等ノ權利ヲモ有セサルコトヲ明言シ一方ニハ佛國人ノ必ス韓國ニ來寇スヘキコトヲ其國王ニ豫報シタリ佛人ノ爲メニハ北京政府ノ表裏アル行動、實際要領ヲ得ス今ハ只韓國ニ轉シテ直接ニ罪ヲ問フノ一途アルノミ是ニ於テ北京駐劄佛國公使ハ千八百六十六年提督「ローズ」ノ指揮ニ屬シテ七隻ノ軍艦ヨリ成立スル艦隊ヲ韓國ニ送遣シ佛國民ヲ殺戮シタル被害者ノ處刑ヲ韓廷ニ要求セシム十月十三日艦隊ハ「ボイセー」島附近ニ投錨シ其翌日二隻ノ砲艦漢江ヲ遡リ既ニ京城ヲ距ルコト僅々十町計ノ處ニ達シ同月十五日先ツ韓國政府ト交渉ヲ開キタルニ事、殺氣ヲ帶ヒ來リテ江華島ノ一小港佛人ノ占領スル所トナル其翌日「ローズ」ハ此島ノ主都ヲ占領スルコトヲ令シ非常ナル努力ヲ以テ戰鬪ヲ行ヒ妨禦ノ鞏固ナルニモ拘

ラス之ヲ占領シ其際若干ノ兵士戰死シ住民ハ總テ遁走セリ韓國ハ江華島ヲ失ヒ佛軍ヲ擊退センカ爲メハ兵ヲ集メテ同島ノ對岸ニ於ケル通津ヲ固メ同時ニ勇敢ナル獵虎隊ヨリ編成シタル軍隊ヲ遣リテ江華島ノ防禦アル寺院ヲ占領セリ「ローズ」ハ江華島及ヒ通津ノ敵ヲ擊退セント決シ同月二十六日大ナラサル軍隊ヲ上陸セシメテ最近ノ防禦地ヲ占領シタリト雖トモ優勢ナル韓兵ノ來攻ニ遇ヒ止ムヲ得スシテ直チニ歸艦セリ其後佛人ハ韓兵ノ據守スル江華島ノ寺院ヲ攻撃セリ然レトモ此時寺院ノ防禦ハ既ニ甚ク鞏固ニシテ其戰鬥モ亦佛人ノ全部退却ヲ以テ了リ同月二十八日ニ至リ佛國艦隊ハ遂ニ其目的ヲ達セスシテ韓國ノ領海ヲ去レリ歐州人カ韓國ニ加ヘタル武的壓迫ハ此ノ如クニシテ遂ニ失敗ニ了レリ

同年北米合衆國ノ商船「ゼネラル、シャーマン」號大同江ノ河口附近ニ於テ座礁シタルニ韓國政府ハ令ヲ發シテ之ヲ燒燼シ其乘組員ヲ殺戮シタリ此事件ノ後四年ヲ經テ北米合衆國政府ハ提督「ロジャヤース」ノ指揮下ニ五隻ノ艦艇ヨリ成立スル艦隊ヲ韓國ニ派遣シ其艦隊司令官ハ北京ニ於ケル公使「ラッ」ト共ニ本國政府ヲ代表シテ米韓通商條約ノ締結及ヒ韓國ノ領海ニ於ケル米國難破船救助ニ關スル協商ノ任務ヲ帶ヒタリ

千八百七十一年五月二十三日北米合衆國ノ艦隊威容ヲ整ヘテ韓國沿岸ニ投錨シ韓國ノ代理官ト談判ヲ開始セリ然ルニ韓國代理官ハ八人ヨリ成立シ米人應迎ノ爲メニ派遣セラレ皆確實ナル全權ヲ有セサルモノニシテ韓國政府ノ意ハ專ラ時口ヲ遷延スルニアルカ如ク談判甚ク要領ヲ得ス是ニ於テ艦長「ブレーク」ハ軍艦二隻ヲ率テ漢口河口ニ向ヒテ進行シタルニ途中江華島附近ヲ通過スルニ當リ海岸ヨリ激烈ナル砲火ヲ受ケタリ米國砲艦時ヲ移サスシテ要塞ノ砲擊ヲ開始シ敵砲ヲ沈黙セシメ其間岩礁ニ觸レテ僅カニ漏水

シタルヲ除クノ外何等ノ損害ヲモ受ケスシテ僚艦ノ所在ニ引キ返シ乘組員中只一水兵ノ負傷シタルアルノミ其後十日ヲ經テ前ノ二艦、四隻ノ細長船及二十隻ノ端船ヲ武裝シ砲七門陸戰員六百五十一人ヲ載セテ六月十日更ニ漢口ニ入り陸戰員ハ上陸シテ陸ニアルコト四十八時間、其間要塞兵ノ狂暴ナル反抗ヲ受クルノ後、之ヲ屠殺シテ五個ノ要塞ヲ占領シ多量ノ彈藥及ヒ多クハ小口徑ノ小銃四百八十一挺ヲ鹵獲シ更ニ砲艦ヲ以テ要塞ヲ破壊シタル後、本隊ニ歸リ提督「ロジャヤース」ハ條約締結ノ事、到底、望無シト思惟シタルカ如ク韓國ヲ棄テ、芝罘ニ歸レリ

韓國ニ於テハ合衆國艦隊ノ突然ナル退却ハ佛國軍隊ノ退却ニ於ケル如ク韓國ノ好マザル外客カ痛切ナル擊破ヲ受ケタルニ原因スト説明セラレ大院君ハ其豫想ニ一致スル好成績ヲ以テ己レノ功ト爲スヲ躊躇セス以テ輿望ヲ集中スルニ便セリ此ノ如キハ固ヨリ韓人ノ迷誤ニ過キスト雖トモ又一方ヨリ之ヲ觀察スレハ佛國並ニ合衆國艦隊ノ遠征ハ歐羅巴ノ威望ヲ尊大頑迷ナル韓國政府ノ眼前ニ發揚スルコトヲ得スシテ基督教徒ノ進放ヲ防キ韓國開放ノ全圖ヲ助クルノ効ヲ見ルコト能ハザリシハ殆ント疑ヒナキニ似タリ歐羅巴列國ハ韓國開放ノ目的ヲ達セントシテ前記艦隊ノ遠征ト共ニ平和的ノ手段ヲモ併用シタリト雖トモ其効ヲ奏セサルコト尙以前ノ如クナリキ千八百六十四年露國船舶韓國沿岸ニ近キテ互市ヲ求ム然レトモ韓國政府ハ之ニ答フルニ韓國ハ支那ノ附庸國タルカ故ニ決答ノ事ハ支那ノ意見ニ在ルヲ以テシタリ又日本駐劄獨逸公使「ブランツ」ハ合衆國艦隊ノ韓國ニ來航シタル時ヨリ久シカラサル前、釜山ニ於テ東萊郡守ト關係ヲ結ハンコトヲ企圖シタリ然レトモ此企圖ハ日本ノ助力アリシニモ拘ハラズ遂ニ効ヲ奏スルニ至ラザリキ

其後韓國ニハ歐巴羅列國ヨリ起ラスシテ日本ヨリ來レル交渉事件發生セリ事ハ日本カ數世紀ノ間、韓半島ヲ繞シテ之ヲ外國ヨリ遮リタル支那ノ障壁ヲ破壞シテ韓國ニ入ルノ端ヲ開カントスルニ在リ日本ハ千八百六十八年ヲ以テ皇武兩立ノ制ヲ改メ王政復古ノ實ヲ擧ケテ政令一途ニ出ツルコト、ナリ改革後第一若ノ事業ノ一端トシテ千八百十一年以來中絶シタリシ朝貢使復舊ノ事ヲ韓國國王ニ要求シタリ此時大院君ハ佛國及ヒ合衆國ニ對シテ豫想ニ一致スル勝ヲ奏シタルヲ以テ意甚タ驕リ日本ノ要求ヲ峻拒シ之ト同シク幼王モ青年ニ達シタルノ後即チ千八百七十二年ニ於テ近臣ノ勸告ニ依リ亦日本ノ使節ヲ受クルコトヲ拒絶シタリ此ノ如キ日韓ノ關係ハ近キ將來ニ戰爭ナクシテ己ムモノニアラス然レトモ日本ハ此時内亂治リテ未タ久シキヲ經ス餘弊未タ復セストテ力尙ホ戈ヲ乘リテ要求ヲ主張スルニ堪ヘス況ンヤ韓國ト戰ヲ開ケハ必スヤ亦其主國タル支那帝國ト衝突スル理由アリ是ニ於テ日本ハ朝貢使復舊問題ノ終決ヲ延期シ以テ機會ノ到來スルヲ待テリ

千八百七十五年日本船舶韓國領海ニ到ル江華島ノ住民之ヲ以テ佛國人ニアラスンハ即チ亞米利加人ナリト爲シ其船ヲ射撃シタルニヨリ双方ノ間武力ノ衝突起ル日本政府ハ此報ヲ得テ徹頭徹尾韓國トノ關係ヲ整理セント決シ一定ノ方式ニ依リテ清韓ノ關係ヲ明カニセンカタメ森有禮ノ一行ヲ北京ニ遣シ同時ニ條約談判ノタメ黒田清隆ヲシテ二隻ノ軍艦三隻ノ運送船ヨリ成立スル艦隊ヲ率キテ京城ニ赴カシム北京政府ハ嘗テ宣教師殺害事件ニ原因スル韓佛ノ衝突ニ際シ佛國ニ對シテ行ヒタル政略ヲ襲用シ公然森有禮ニ證言スルニ韓國ノ事ニ關シテハ其責ニ任セサル旨ヲ以テシ同時ニ急使ヲ韓國ニ遣ハシテ清國ハ日韓條約ノ締結ニ干涉スルコトナカルヘキヲ通知シタリ清國ノ使者京城ニ到着シタルノ後、程ナク即チ千八百七

十六年一月ノ月末、黒田艦隊ハ韓國沿岸ニ出現シテ此處ニ投錨シタリ而シテ黒田清隆ハ北京ニ於ケル條約談判ノ經過良好ナルヲ聞カス之カタメ韓國ト戰端ヲ開クニ至ルヘキヲ先見シ務メテ其艦隊ノ威容ヲ張リ甚シキニ至リテハ非常ナル獵手段ヲ用ヒテ運送船ノ兩側ニ彩畫ヲ施シ之ヲ遠見スレハ眞ニ多數ノ砲ヲ以テ武裝セラレタルカ如キ觀ヲ示シ條約締結ノ期日ニ至リ禮裝ノ軍隊ヲ率キテ江華島ニ上陸シ京城政府全權委員ノ迎待スル處ニ赴キタリ全權委員等ハ清隆ヲ見テ事件ニ關スル謝罪ノ意ヲ述ヘタル後詳細ナル條約ヲ締結シ千八百七十六年二月二十日六江華島ニ於テ記名調印ヲ了ヘタリ

此條約ノ條件ニシテ最重要ナルモノハ謂ハバ韓國ニ於ケル領土ノ閉鎖及ヒ外教ノ禁斷ニ對シ第一若ノ窓口ヲ開キタルノ事項ニシテ從來日本トノ貿易ヲ許シタリト雖トモ尙極メテ制限的ナリシ釜山ハ以後日本商人ノ出入全ク自由トナリ且ツ後日日本貿易トノ爲メ二個所ノ海港ヲ開クヘキコトヲ規定セリ本條約書ニ於テ日韓兩國ノ同等ナルヲ明記シタルモ亦重要ノ事項ニシテ是レ單ニ韓國ノ獨立ニ關スル間接ノ申明ニ外ナラスト雖トモ而モ公然タルモノナリ

條約締結後韓國ハ使節ヲ日本ニ遣シ日本政府ハ町重ナル禮ヲ以テ之ヲ迎接シタリ
韓國政府ハ江華條約及ヒ其附則ニ依リ日韓貿易ノタメ半島ノ東岸ニ位スル元山ヲ開キタリト雖トモ第三ノ開港ハ務メテ之ヲ遷延セント欲シ千八百八十年之ニ關スル交渉ノ爲メ特使ヲ日本ニ發スルニ至レリ然レトモ京城駐劄ノ日本公使花房ハ斷乎トシテ第三ノ開港ヲ促シ固ク執テ動カス是ニ於テ該問題ハ結局日本ノ利益ニ解決セラレ千八百八十年十二月花房ハ沿岸ノ都府仁川ニ趣キ自ラ日本居留地ヲ劃セリ然ルニ此都府ハ千八百八十二年十月三十一日ノ條約ニ依リ是ヨリ若干距離ヲ隔ツル海岸ノ一村落濟物浦ヲ以テ

之ニ代ヘ濟物浦ハ千八百八十三年六月十六日ニ至リ外人ノ爲メニ開放セラレ、ニ至レリ

自國商業ノ爲メ韓國ニ談判シテ其國ヲ開放セシメタル日本ノ成果ハ歐羅巴諸國及ヒ北米合衆國ヲシテ亦韓國ニ對シテ同一ノ特權ヲ得ンコトヲ企テシムルニ至レリト雖トモ是等ノ企圖ハ尙數年ノ間皆其効ヲ奏スルコトナク即チ千八百八十一年五月英國艦隊ノ艦長二人ハ韓國政府ト條約ヲ締結スルノ任務ヲ帶ヒテ釜山ニ來リ同年六月佛國艦隊ノ一將校モ亦同一ノ目的ヲ以テ釜山ニ來レリト雖トモ皆目的ヲ達セスシテ韓國ヲ去ルノ止ムヲ得サルニ至レリ千八百八十年ノ春ニハ露國ノ船舶咸鏡道ノ沿岸ヲ訪問シテ互市ヲ求ム同年合衆國政府「シユフェリット」提督ヲ代表者トシテ釜山ニ於テ通商條約ヲ結ハンコトヲ試ミ同地ノ日本領事モ之カタメ斡旋スル所アリテ「シユフェリット」ノ書面ヲ王ニ進達スルコトニ務メタリト雖トモ釜山官吏ハ執レモ之ヲ京城ニ送達スルコトヲ諾セス其書面ハ朝鮮王ヲ高麗王ト記シタルノ故ヲ以テ遂ニ「シユフェリット」ニ却下セラレタリ

曩ニ佛韓衝突及ヒ日韓衝突ノ時ニ當リ支那政府ハ兩端ヲ持シテ其態度甚タ明白ナラス韓國政治界是ニ由リテ漸ク清國ノ勢力ヲ信セス且ツ清國カ韓國ニ對シテ其權利ヲ維持スルノ準備ニ疑ヒ之ニ加フルニ韓國ハ此頃支那ノ國威ヲ低落セシメタル西蠻ニ對シテ容易ニ豫想ニ一致スル勝利ヲ得タルニヨリ支那ノ兵力ヲ以テ其名ニ應スルノ實ナキモノト爲シタリ是等ノ事情ハ支那及ヒ韓國ノ結合及ヒ兩國ノ本屬關係ニ惡影響ヲ及ホシテ其結合ヲ弱カラシメ其關係ヲ薄カラシメサルヲ得ス然レトモ支那政府ハ尙ホ韓國々土ノ政治ニ對シテ自ラ其責ニ任シ之ト同時ニ毫モ韓半島ニ於ケル特權ヲ拋棄スルコトヲ志サ、リキ是故ニ支那政府ハ韓國ノ政界ニ支那ノ羈絆ヲ脱セントスルノ意向アルヲ察シ且ツ韓國ニ於ケル日本勢力ノ扶植セ

ラル、ヲ證知シテノ後ハ自己ノ權利ヲ脅迫スル危險ヲ豫防スルノ方法ヲ探求スルコトヲ始メ此目的ヲ達スルカタメ京城ニ常設代理官ヲ派遣シ韓國ノ事情ニ對シ親シク視察ヲ爲サシメタリ

此時支那ニ於テハ李鴻章アリテ對韓政略ヲ指揮シタリシカ李鴻章ハ韓國ニ對スル支那ノ權利ヲ維持スルノ目的ヲ以テ韓國政府ヲシテ外國貿易ノ爲メニ内地ヲ開放シ外國トノ條約ヲ締結スルノ意ヲ起サシメタリ蓋シ李鴻章ハ外國ノ競争ニ頼リテ韓國ニ對スル日本若クハ其他ノ國ノ敢爲ナル企圖ヲ防遏スルノ望ヲ繫キタリシナリ

此ノ如クニシテ韓國ト合衆國代表者「シユフェリット」トノ間ニ於ケル條約モ支那ノ助力ト承諾ヲ得テ千八百八十二年再ヒ談判ヲ開クニ至リ同年五月二十二日仁川ニ於テ通商條約ヲ結ヒ翌年五月十九日京城ニ於テ批准交換ヲ了セリ尋テ韓國ハ同條約ヲ英獨露佛伊及ヒ北米合衆國ト締結セリ

似那政府ハ韓國ノ開放ニ助力スルニ際シ固有ノ利己的目的ヲ逐ヒツ、韓國ト外國トノ條約ヲ利用シテ韓國ニ於ケル支那ノ主權ヲ公認セシムルノ企圖ヲ有シ之カ爲メ韓國ト亞米利加合衆國トノ條約ニ韓國ノ支那ニ對スル附庸關係ニ關スル條項ヲ置カンコトヲ提言セリ然ルニ「シユフェリット」ハ斷然此要求ヲ斥ケタルヲ以テ支那ハ更ニ他ノ方法ニ依頼セリ其方法タルヤ之ヲ前者ニ比スレハ其効力稍直接ナラスト雖トモ尙ホ遂ニ其目的ヲ達スヘキモノニテ即支那ハ韓國々王ヲシテ韓國ガ北米合衆國並ニ歐羅巴諸國ト條約ヲ締結スルト同時ニ一定ノ方式ヲ以テ條約國ノ君主ニ書ヲ送り以テ韓國ハ支那帝國ノ附庸國タルヲ認ムルコトヲ通知セシメタリ

然ルニ一方ニ於テハ日本カ韓國ニ於テ自己ノ目的ヲ遂フノ行動漸乎トシテ變セサルニヨリ韓人ノ間ニモ

遂ニハ其郷國ノ爲メニ改革ヲ施スノ願フヘキモノナルコト及ヒ之カ爲メ領國ヲ前提シタル舊思想ヲ一掃スルノ必要ナルコトヲ自覺シ始ムルニ至リテ一黨ヲ組織シ其重立チタルモノ、多數ハ舊ニ領國ノ状態ヨリ脱出シ炳乎トシテ進歩ノ方針ニ向ヘル日本ノ例ニ倣ヒ又其直接ナル指導ヲ受ケテ改革ヲ行ハント期望シタリ然ルニ舊習ヲ墨守スル輩ニ清國トノ同盟ヲ主張スル者多ク王ノ父大院君其首位ニ立テリ是レ韓國ニ於テ保守黨ト稱スヘキモノナリ大院君ハ權勢ヲ喜ヒ且頑強ナル排外家ニシテ日本人ニ對シテモ支那人ニ對シテモ毫モ愛想ヲ抱カス其唯一ノ目的ハ彼ノ手ヲ離レテ閔后及ヒ其一族ニ移リタル權勢ニ回收ニ在リ閔后ハ千八百八十六年當時十五歳ノ王ニ婚嫁シタル人ニテ前郡守タリシ貧貴族閔致祿ノ女タリ姉妹ナシ而シテ閔致祿ノ同胞ハ大院君即チ王父ノ配偶者タリ

千八百七十二年王ハ成年ニ達ス王妃氣力勇健ニシテ權勢ヲ好ム王其妃ノ補助ニ依リ大院君ヲ退ケ全ク其政治上ニ於ケル權力ヲ奪フ是ニ於テ政權閔妃及ヒ其同胞閔「シン、ホー」ニ移リ以來閔族漸ク隆盛ニ向ヒ同族中大院君及ヒ其他ノ反對黨ノ政治的陰謀ニヨリ其犠牲ニ陥リタルモノアルハ事實ナリト雖トモ而モ閔族ノ位置ハ尙ホ次第ニ強固ヲ加ヘ千八百九十七年閔妃死去ノ後ニ於テスラ國家ノ要職ニ在ルモノ千人以上ノ多キヲ算シタリ

保守黨ト改革黨トノ不和ハ一日ニ鋒芒ヲ現ハシ來リ只管殺傷ノ事ヲ構フルノ原因ヲ要望シツ、アリ千八百八十二年北米合衆國及ヒ歐羅巴諸國カ韓國政府ト通商條約ノ談判ヲ再復スルニ及ヒ此事忽チ導火線トナリ改革黨ハ王ニ説クニ外國ノ意向ヲ尊重スヘキコトヲ以テシ大院君及ヒ其同志者ハ之ニ反シテ韓國政府ハ自今外人ト關係ヲ有スルコトナキノミナラス千八百七十六年韓國政府ノ弱點ニ乘シテ締結セラレ

千八百七十九年追加セラレタル日國條約モ宜シク之ヲ廢棄シ日本人ハ公使ト共ニ境外ニ去ラシムヘシト要求シタリ

王ハ意志動搖シテ未タ決スル所ヲ知ラス然ニ不意ノ機會ノ改革黨ノ勢力ヲ強大ニシテ王ヲシテ之ニ傾心スルニ至ラシメシモノアリ此頃檄文ヲ飛バシテ外人排斥ノ必要ヲ引證論辨スルモノアリ其言大ダ詭激ニシテ王ノ非難ニ及ブモノアルコト政府ノ認ムル所トナル此時保守黨反ヲ謀リ王ノ生命ニ危險ヲ及ボサント欲フ是等ノ事情並ニ前ニモ記載シタル如ク外人ノ來邦ヲ以テ利トスル支那ノ干涉ニ依リ外人トノ條約問題ハ斷乎トシテ一決シタリ是レ保守黨ノ甚タ喜ヒサル所ニシテ遂ニ京城ノ人民間ニ一揆ヲ起サシムルノ原因トナレリ是ヨリ先キ千八百八十二年ニ大旱魃アリテ米穀稔ラス迷信ノ民此災害ヲ以テ神靈ノ西國惡魔ヲ國內ニ許スヲ怒リテ降シタルモノナリト爲ス保守黨是ニ於テ之ヲ利用シ以テ民衆ヲ起シ當時不平ヲ懷キシ京城ノ軍隊モ亦一揆ニ連合セリ蓋シ軍隊ノ不平ハ俸給支給ノ延滞及ヒ不作ノ爲メ日日ノ食料タル米量ノ減少ヨリ來レルモノニテ暴徒ノタメ第一着ニ殺害セラレタル將校中米倉管理官アリシハ後ノ原因ヲ説明スルニ尤モ有力ナル適證ナリトス

七月二十三日王兩ヲ祈ル此時大院君黨ノ一團王ヲ捕ヘント計レリ然レトモ王ハ宮廷内ニ於テ難ヲ免ル、コトヲ得タリ

此時京城ニアル外國人ハ只日清兩國民ニシテ暴徒ハ王ヲ捕フルヲ謀リテ事成ラサルノ後飛語ヲ作りテ日本王宮ヲ攻撃シ王及ヒ王妃ヲ捕虜セリト傳ヘタリ是ニ於テ輕信ノ徒躁狂シテ日本公使館ニ押寄せ其公使館ヲ燒キテ灰燼ニ歸セシメ日本人ノ捕ヘ得ヘキハ皆之ヲ捕ヘテ殺戮シタリ然レトモ暴徒ハ之ヲ以テ尙

ホ足レリトセス更ニ四千人ノ群ヲ爲シ前ニ内地開放ニ同意シタル大臣等ノ邸宅ヲ破壊セリ此ノ如クシテ

四六四

暴動ハ三日間繼續シ其間日本人ノ殺害セラレタルモノ十四人ニシテ其他ハ公使花房ヲ首トシテ皆軍刀ヲ手ニシ京城ヲ出テ、仁川ニ達シ英國船ニ乗シテ本國ニ飯レリ此ノ如クニシテ秩序未タ回復セサル間ハ閔妃世子並ニ其妃大臣閔臺鎬及ヒ閔泳翊ハ殺サレタリトノ想像アリシト雖トモ後ニ至リ彼等ハ總テ難ヲ免レ閔妃ハ危險ノ經過スルマテ「ヨ、シ、シュー」及ヒ忠州ニ至リテ一族ノ家ニ匿居シタリシコト判明セリ暴徒ノ力ヲ假リテ政權ヲ掌握セントスル大院君ノ謀計ハ是ニ於テ全ク其効ヲ奏シ第一着ノ結果トシテ多クノ官吏特ニ閔族出身ノ官吏ハ刑ニ處セラレタリ

日本政府ハ公使館破壊ノ報ヲ受クルノ后時ヲ移サスシテ海軍ノ動員ヲ行ヒ兵ヲ下ノ關及ヒ對馬ニ集中セリ戰機ハ既ニ迫レリ然レトモ韓國政府ハ日本政府ノ送リタル最後ノ通牒ニ對シ總テノ條件ヲ承諾シタルニヨリテ事ナキヲ得タリ其條件ハ日本人殺戮ノ加害者ヲ處刑スルコト被害日本人ヲ埋葬シ遺族ニ五萬圓ヲ拂フコト軍事ノ損害賠償トシテ日本ニ五十萬圓ヲ拂フコト日本ニ謝罪使ヲ派遣スルコト京城ノ日本公使館ニ日本ノ守衛兵ヲ置クコト是ナリ

前記條件ノ末項ニ依リ日本ハ七百人ノ兵ヲ仁川ニ送り其内二百人ヲ京城ニ留メ其他ハ程ナク本國ニ引還セリ

大院君ハ苦心勵刻ノ結果ニ樂ムコト久シカラス清國政府ハ大院君ヲ以テ將來韓國ニ葛藤ヲ生スルノ激因ト爲シ韓國ニ葛藤アレハ清國政府ノ韓國ニ於ケル勢力危險ヲ受クルヲ慮リ表ニ好意的口實ヲ設ケテ大院君ヲ自國ノ船舶ニ誘ヒ強テ之ヲ伴ヒ去レリ又清國政府ハ韓國ニ於ケル出來事ハ日本ヲシテ清國ニ對シ斷

然タル行動ヲ取ルニ至ラシムヘキヲ恐レタリト見エ千八百八十二年八月五千ノ兵ヲ韓國ニ送り仁川ノ南方七里弱ノ地馬山浦ニ上陸セシメタリ京城ニ於ケル清兵ハ袁世凱之ヲ指揮シ其數三千人アリ又韓國軍隊改造ノ爲メニ清國ヨリ士官ヲ招キテ之ヲ教練セシメタリ閔妃ハ大院君退ケラレタル後權力ノ回收シテ日本黨ノ官職ヲ奪ヒ強敵大院君ノ奸計ヲ免レタルハ清國ノ力ナリト爲シ爾來專ラ清國ノ勢力ニ信賴スルニ至リ清國ノ勢力ハ是ニ由テ一時韓國ニ盛ナルニ至レリ

此時日本ハ韓人多數ノ意向ニ適合スル新規ノ秩序ニ對シ公然反對スルトキハ必ス清國ノ衝突ヲ免レサルヘキヲ恐レ決然タル處置ニ出テサリシモノ、如ク日本ハ清國ニセヨ韓國ニセヨ之ヲ反對ニ立タシムルハ時ノ事情トシテ餘リ便利ニアラサルヲ感シタリシナリ加フルニ此時英獨及ヒ北米合衆國ノ公使モ亦京城ニ來リ日本外交官ハ之ト競争スルノ要アリ之ト同時ニ李鴻章カ韓國ニ於ケル新開港地ノ稅關監督ノ爲メ韓國政府ニ紹介シタル獨人「メレンドルフ」モ亦其行動ヲ開始シタリ「メレンドルフ」ハ多年清國ニ居住シテ蒙古人種ノ性質ヲ曉知シタル人ニテ程ナク國王及ヒ王妃ノ信用ヲ得テ親密ナル顧問トナレリ前記ノ人人ニ少シ後レテ露國公使「ウエーベル」韓國ニ來任シ千八百五十五年十月十五日信任狀ヲ國王ニ奉呈シタリ

改革黨ハ千八百八十二年ノ暴動ニヨリ政界ヲ退ケラレタル後曾テ其黨ヲ保護シタリシ閔妃ハ權勢ヲ回復シタリト雖トモ閔妃ハ既ニ前ニ記述セルカ如ク暴動ノ後ハ清國ニ依頼心ヲ起シタルカ故ニ黨ノ位地ハ猶多ク改善スル所ナカリキ是ニ於テ改革黨ハ反テ以前ノ如ク日本人ノ助言ト扶掖ヲ求メタリ是等ハ多クハ少壯ノ人ニシテ其中ニハ曾テ日本ニ於テ教育ヲ受ケタルモノモアリテ日本ノ政治家ハ力ヲ盡シテ之ヲ保

護シタリシカ如シ然レトモ此黨ノ人員ハ甚ク少數ニシテ金玉均、朴永孝、徐光範、洪英植及ヒ韓圭稷ノ如キ黨ノ領袖ハ尙ホ甚ク經驗ニ乏シク韓國ノ上下一人トシテ之ニ重キヲ置カザリキ然ルニ王及ヒ王妃ハ革新ノ事業ニ對シテハ主義ノ反對者ニ非ザリシカ故ニ改革黨ノ名士モ時アリテハ政界ノ要路ニ立チタル者アリ後ニ記スル所ノ人物ニ關シテハ姑ク之ヲ措キ千八百八十三年北米合衆國ニ派遣セラレタル閔泳翊一行ノ中ニハ改革黨ニ屬スル人人モアリテ其内金玉均ハ千八百八十四年歸國ノ後命ヲ拜シテ新制ノ外務省次官ノ列ニ入りタリ

然ルニ一方ニ於テハ權勢ノ地ニアル保守黨ト迅速ナル改革ヲ遂ケタル改革黨ノ間ニ於ケル關係ハ益々鋒芒ヲ現シ來リ千八百八十四年十一月遂ニ復々血ヲ見ルノ不幸ニ及ヒタリ其事件ノ直接原因ニ關シ或評論家等ハ日本人カ清國ノ困難ニ乘シテ韓國ニ於ケル自己ノ勢力ヲ強固ナラシメントスルニ出デタルヲ以テ尤モ眞ニ近シト爲セリ之ヲ外ニシテハ吾人亦其原因ヲ求ムルニ苦ム清國ノ困難トハ千八百八十四年ノ對佛事件ニシテ當時北京ノカト注意ハ皆此事件ニ集中シ之カタメ當時清國政府カ韓國問題ニ關シテ日本ト平和ノ關係ヲ破ルコトヲ敢テセサルヘキハ信シ得ヘキ事情ナリシナリ又其他ノ國々ヲ顧レハ當時清國ヲ除クノ外ハ英國北米合衆國及獨逸ノ單ニ京城ニ使節ヲ駐在セシメタルアルノミニシテ日本ハ其中ノ英國ニ對シテハ好意的補助ヲ期待スルコトヲ得タルカ如ク唯日本ノ企圖スル韓國改革ニ對シ痛烈ナル妨害ヲ與ヘテ好果ヲ迫害スルモノハ韓國國民ノ日本人ニ對スル惡感情是ナリ是ニ於テ日本ハ自ラ非常手段ヲ行ヒナカラ韓國國民ノ前ニハ事ノ真相ヲ瞞着シ其非常手段ハ京城ニ於ケル大院君ノ餘黨カ大院君ヲ以前ノ位置ニ復スルノ目的ヲ以テ之ヲ行ヘルモノナリト宣言スルニ決シタリシナリ

反徒ノ計畫ハ蓋シ先ツ保守黨ノ大臣及清國黨ヲ斥ケ之ニ代フルニ日本黨ノ領袖ヲ以テシ然レ後王ヲシテ新任大臣ノ革新ニ關スル案件ヲ採用セシムルニアリ

前記ノ謀計ヲ實行スル爲メ十二月四日ヲ選ヒタリ是レ此日ハ此頃新制ニヨリ設置セラレタル郵便局ノ開應式ヲ舉行ズル日ニテ政府員ノ若干ハ此郵便局ノ局長ニシテ改革黨ノ一人ナル洪英植邸ノ饗宴ニ集會スヘケレハナリ客ノ一人ナル將官閔泳翊ハ實ニ此日ノ第一若ノ犠牲トナリタル人ニシテ閔泳翊ハ臨席中警鐘ノ市中ニ響キ渡ルヲ聞ケリ是レ實ハ只反徒ノ信號ナリシコト後ニ至リ知ラレタリト雖トモ當時ハ皆火災ナリト思ヒ閔泳翊ハ當時京城ノ市長タリシニヨリ職務上其火災ノ場所ニ赴カンカタメ食卓ヲ離レ市街ニ出ツルヤ否ヤ面識ナキ人物之ヲ攻撃シ軍刀ヲ以テ頭部ニ重傷ヲ負ハシメタリ其他ノ客ハ狼狽シテ急遽家ニ歸リ只閔泳翊ノ從僕ノ狂叫ヲ聞キテ之ニ走リタル人々流血淋漓トシテ一見既ニ絶命シタルカ如キ不幸ナル體軀ヲ室内ニ運ヘリ

此事件ヨリ前ニ日本公使ハ公使館ヲ出テ譯官及ヒ百五十人ノ兵ヲ率キテ宮廷ニ至リ謁見ヲ請ヒ得テ王ニ都下ニ事變ノ發生シタルコト及ヒ保護ノタメ王ヲ移サント欲シ參内シタルコトヲ上奏セリ此時宮廷ハ改革黨ノ一人ナル韓圭稷ノ指揮ニ屬スル韓國軍隊之ヲ保護シ居リ其中ニハ日本ニ於テ軍務ヲ修習シ歸國ノ後改革黨ニ屬シタル十四人ノ少壯者モアリテ日本公使ノ護衛兵ヲ故障ナク宮廷ニ入ラシメタリ

其後大臣ノ一員ナル金玉均ハ御璽ヲ掌握シ國王ノ名ヲ以テ反對黨ノ領袖等ニ宮廷ニ出頭スヘキヲ命シ來ル者毎ニ之ヲ一ノ應接室ニ導キテ門戸ヲ閉鎖シ豫メ備ヘタル斬手(其中ニハ曾テ日本ニ滞在シタル前記ノ少壯者モアリ)ヲシテ不幸ナル犠牲ヲ刀下ニ殺戮セシメタリ其第一ニ殺サレタル者ハ閔泳翊及ヒ宦官

長「ミン、ダー、ホア」及ヒ四人ノ外務省次官ニシテ總計十一人ヲ下ラス

四六八

其翌日即チ十二月五日朝清國代理官ハ國王ニ謁見ヲ請ヒタレトモ許サレヌ之ニ於テ將官袁世凱ハ千五百ノ支那兵三千人ノ韓兵ヲ率キ刀ヲ以テ宮廷ニ侵入シ守衛ノ韓兵及ヒ日本兵ト衝突シテ一時間ニ餘ル闘争起レリ此時清兵ハ人員多キニヨリ在廷ノ日本人及ヒ日本黨ヲ塵殺シ得タルヘキハ疑ナキ所ナリト雖トモ袁世凱ハ何等カノ理由ニ依リ姑ク其兵ヲ靜メテ守衛兵ヲシテ墻垣ヲ踰エテ日本公使館ニ免ル、ノ便ヲ與ヘタリ

此時ニ至リ京城市民ハ宮廷ニ於ケル出來事及ヒ實際ノ首謀者ヲ知ルコトヲ得テ十二月五日ノ晩ハ殺氣全市ニ充滿シ其夜ハ擾亂ト殺傷ヲ以テ經過シ日本人ノ殺サレタル者七十餘人其内三十五人ノ兵士ハ宮中ノ擾亂ニ於テ斃レタル者ナリ夫レヨリ國民ノ怒氣ハ改革黨ノ首領及ヒ其黨員ニ對シテノミナラス單ニ此黨ト親密ナル嫌疑アル者ニ對シテスラ破裂シテ是等ノ人人ノ財産ハ劫掠燒棄セラレタリ此ノ如クニシテ平和ヲ愛スル韓人モ暫時血ヲ好ムノ猛獸ト變シ京城ニハ處々猛烈ナル火災ヲ起シタリ此時ノ實見者ノ言ニ依レハ喧騒ノ中ニ群衆ノ叫喚スルヲ聞キタリ曰ク「吾等ハ日本人ノ肉ヲ啖ハン」ト

十二月六日日本軍ハ韓國居留民及ヒ改革黨ノ首領四人(金玉均モ其中ニ在リ)ヲ收容シテ京城ヲ去リ自國艦隊ニ掩護セラレテ仁川ニ赴キ日本公使館ハ日本人ノ退却ニ次キテ炎燭ノ犠牲トナリ了レリ此ノ如クニシテ千八百八十四年ノ京城事件ハ了リ此事件ヲ始メハ日本ト連絡スル改革黨ニ屬スル少數過激派ノ清國ニ對スル反抗ニシテ終リニハ京城全市民ノ日本ニ反對スル大ナル示威運動トナリ改革黨ノ組織シタル内閣ハ僅ニ一晝夜ニシテ仆レ亦何等痕跡ヲ留ムルコトナク此事件ニ關與シタル者十二人ハ保守黨内閣ノ手

ニ捉ヘラレ裁判及ヒ拷問ニ付セラレタル後其十一人ハ翌千八百八十五年一月二十七日ニ至リ例ノ野蠻ナル方法ヲ以テ處分セラレ四裂ノ刑ヲ被リテ其骨肉ハ首府ノ市街ニ投棄セラレ日本人ト共ニ逃亡シタル反徒ノ中金玉均ヲ除クノ外ハ皆北米合衆國ニ避難セリ

日本政府ハ事件ノ報告ヲ得タルノ後遲滞ナク京城ニ行ハレタル殺戮ノ理由ニ關スル説明ヲ韓國政府ニ求メ韓國政府ハ同年十二月既ニ使節ヲ東京ニ派遣シテ談判ヲ爲サシメ韓國ハ暴動ニ際シ日本商人ノ被リタル損害要償十三萬弗ヲ拂フコトヲ約シテ局ヲ結ヘリ其後日本ハ使節ヲ清國ニ遣シテ韓國問題ニ關スル協商ヲ爲サシメ日本ノ使節伊藤伯及ヒ清國全權委員直隸總督李鴻章ハ條約ヲ締結シ千八百八十五年四月十八日天津ニ於テ調印ヲ終タリ之レ即チ李伊藤協約ト稱シテ世ニ知ラレタルモノニテ兩國ハ此條約ニヨリ次ノ義務ヲ負ヘリ即チ(一)兩國ハ韓國ヨリ徹兵シ爾來韓國ニ軍事顧問ヲ派遣セサルコト(二)韓國ニ事變ヲ生シ兩國ノ一方ニ於テ出兵ヲ必要トスル時ハ直チニ之ヲ他ノ一方ニ通知スルコト是ナリ

此條約成立後千八百八十五年五月二十一日日清兩國ノ軍隊ハ同時ニ仁川ニ於テ乘船シ本國ニ歸還シ大院君モ清國ニ在ルコト三年ノ後同年十月五日清兵ニ送ラレテ本國ニ歸レリ說ヲ爲スモノアリ曰ク清國政府ハ大院君ヲ還スニ當リ内心ニ現王ハ曩ノ事件ニ際シ優柔不斷ノ弱點ヲ示シタルニヨリ大院君ノ力ヲ假リテ之ヲ廢シ代フルニ大院君ノ他ノ子息ヲ以テシ自己ニ利益ナル改革ヲ行ヒ以テ日本カ天津條約ニヨリテ獲得シタル結果ヲ麻痺セシメシメコトヲ目的トセリト此說正確ニシテ根據アリヤ否ヤ容易ニ斷スヘカラスト雖トモ他方ヨリ之ヲ觀察スレハ清國カ千八百八十二年大院君ヲ韓國ヨリ斥クル爲メニ用ヒタル詐僞ノ手段ハ大院君ノ清人ニ對シテ不快ヲ挾マサルヲ得サル所ニシテ當時大院君ト日本トハ何レモ利己的計畫

ヲ逐フノ時ナルニヨリ自然ノ勢トシテ兩々親和スルニ至リタルハ疑ナキニ似タリ
 千八百八十五年ニ於ケル主要ナル事件ハ英國艦隊カ四月十四日ニ「ポルトハミルトン」ノ名ヲ以テ知ラレ
 タル南韓ノ小群島ヲ何ノ原因モナク占領シタルニ在リ而シテ吾人ノ知ル所ニ依レハ英國カ此ノ如キ橫暴
 ノ占領ヲ行ヒタルハ露國カ韓國ニ向テ突進スルノ危險ヲ豫想シタルニ原ツクモノニテ此時英國政府ハ或
 ハ金力ヲ以テシ或ハ政治上ノ壓力ヲ以テシタルニモ拘ラス韓國政府ハ其群島ノ占領ヲ拒絶シタリト雖ト
 モ英國艦隊ハ尙ホ久シク談判ヲ重ネ且ツ露國カ韓國ノ領土ヲ將來占領セサルヘキヲ信スルニ及ヒ始メテ
 退去シタリ時ニ千八百八十七年二月二十七日ナリ

天津條約ハ千八百八十五年ヨリ千八百九十四年マテ九年ノ間韓國ニ平和ヲ與ヘ此間ニ於テ歐州ノ文明ハ
 韓國ニ徐々タル第一著歩ヲ開キタリ是ヨリ先キ京城ニハ既ニ千八百八十四年ニ於テ官立學校ノ創立アリ
 テ譯官ノ養成ニ供シ英語ノ教師ヲ米國ヨリ聘シ其後程ナク西歐文明ヲ一層根本的ニ知得センニハ其他ノ
 學科ヲモ授クルノ必要ナルヲ覺リ英語ノ外尙ホ自然科學國語及ヒ理財學ヲ加ヘタリ千八百八十五年國
 月亞米利加ノ醫師「アルレン」ノ提言ニ依リ京城ニ「ハッス、オプ、シヅイライズト」、「ジャーチュー」ト
 稱スル病院ノ開設アリ同年九月韓政府ニ招聘セラレタル米國ノ青年三人ノ盡力ニ依リテ華族學校初メテ
 成リ華族ノ子弟三十五人ヲ養ヘリ又種々ノ學校ノ開設ニ關シテハ此時ヨリ來邦シ始メタル米國ノ「ブレ
 スヅイテリアン」及ヒ「メソヂスト」教會ノ宣教師特ニ貢獻スル所多ク千八百八十八年ニハ聖書韓譯ノ爲
 メ委員會ヲ組織シタリ千八百八十七年佛韓條約ノ批准アリ此際佛人ハ韓國ニ於テ久シク禁制ニ係リシ信
 教布教ノ自由ヲ取得スルコトヲ務メ翌年加特力派ノ宣教師ハ京城ニ於テ初メテ基督教寺院ノ建設ニ着手

セリ

天津條約締結後十年間ハ清國ノ間一モ變動ノ見ルヘキモノナシ是ヨリ先キ清國ノ韓國ニ對スル實際上ノ
 勢力ハ既ニ滿朝ノ時ヨリ微々タリシト雖トモ韓國人ノ腦髓ニハ尙ホ古來清國君主ノ偉大ナル勢力ニ關ス
 ヲ觀念ノ刻マレタルモノアリ然ルニ千八百七十年代清國カ佛國及ヒ日本ト衝突ヲ生シ其附庸國ヲ拋棄シ
 テ運命ニ任セテヨリ清國ナル威嚴ハ眞ニ韓國政界ノ眼ニハ幾分カ墜落シテ見エタリ然レトモ既ニ記述シ
 タルカ如ク清國政府ハ此現象ヲ認メ監般ノ方法ヲ盡シテ權勢ヲ回復センコトニ務メ尙クモ爲シ能フ所ニ
 ハ自カラ韓國ト外國トノ中間ニ立チテ其媒介者トナリ韓國カ清國ニ對シテ附庸關係ヲ示ス爲メノ形式及
 ヒ禮儀ニ關シテハ最モ周密ナル監視ヲ加ヘ韓國政治ノ監督及ヒ國王ニ對スル直接誘導ノ爲メ清國最高代
 理官ノ職ヲ置キ韓國新開港地ノ爲メニハ稅關官吏ヲ供シ其費用ノ一部分ハ自ラ之ヲ支辨スル等ノ事業ヲ
 施設シ一方ニハ千八百八十二年及ヒ千八百八十四年ノ事件ニ處シタル清國人ノ行動ハ韓國民多數ノ希望
 ニ一致シ此事情モ清國カ韓國ニ於テ上流社會ノ信用ト尊敬トヲ回復スルニ一部分ノ助力ヲ與ヘタリ蓋シ
 兩國關係ノ外形モ亦依然トシテ舊ノ如ク韓國ヨリノ朝貢使ハ相變ラス毎年北京ニ遣ハサレ韓國ハ歲月ノ
 經過ト共ニ此使節ヲシテ清國ニ人參ヲ輸出スルコトヲ辨セシメタルニヨリ此使節ノ一面ハ商業的性質ヲ
 有スルニ至レリ又公曆ハ前例ニ依リ清曆ヲ用ヒ國王ハ黃袍ヲ着用スルノ權ナク清國ノ使節及ヒ代理官京
 城ニ來ル時ニハ市外ニ出テ、之ヲ迎ヒ北京朝廷ニ重要ナル事アル時ニハ其朝廷ハ之ヲ附庸國ナル韓國ニ
 通知シ韓國ハ之ニ對シテ慶吊ノ爲メ使節ヲ發シ韓國高級王族ノ死去ノ時ニハ又全シク公文ヲ以テ之ヲ北
 京ニ通知スルヲ例トセリ

之ニ反シテ此十年ハ日本ニ取リテハ平和手段ヲ以テ經濟上ノ勢力ヲ確立シタル時期ニシテ經濟的勢力確立シタル結果ハ必然ノ勢トシテ政治上ノ勢力ヲ獲得スル地盤トナリテ其獲得ヲ容易ナラシメタリ日本ハ實際ニ於テ此十年間ニ韓國生活ノ諸方面ニ以前ヨリハ卓越セル役割ヲ演シタルモノニテ天津條約ハ日本ノ爲メニハ第一政略上ノ成効ニシテ日本カ韓國ニ於テ支那ノ專權ヲ失墜セシメンカ爲メニ逐ヒタル目的ノ方針ニ著シキ進歩ヲ爲シタルモノナルハ勿論ナリト雖トモ以來不撓不屈ノ氣力ヲ以テ漸ク韓國商業上及ヒ財政上ノ霸權ヲ掌握スルニ至リタルハ一層重要ナル現象ニシテ日本商人ハ韓國人ヨリハ活潑勵精ニシテ伶俐ノ性ヲ有シ且大ナル資本ヲ領シテ迅速ニ外國貿易ヲ其手中ニ收メ韓國諸開港地ニ銀行ヲ設立シ韓國人ノ間ニ巨額ノ資本ヲ融通シタリ日本ハ此ノ如クニシテ強大ナル勢力ヲ韓國ニ殖立シ以テ清韓ノ附庸關係ヲ空想ニ終ラシムルニ至ランコトヲ期望スルコト數年ナリキ然レトモ李朝當時ノ歴史ニ著名ナル國民ノ日本人排斥思想ハ其主因トナリテ日本ノ期望ヲ十分ニ満足セシメザリキ

天津條約ヨリ日清戰爭ニ至ル間韓國ノ政治上ニハ何等重大ノ關係ヲ有スル變化ナク只軍事及中央行政機關ノ中ニ多少ノ整理ヲ施シタルノミニシテ軍隊ノ教育及ヒ編成ヲ改善スル爲メ外國教師ヲ招キ中央行政部ニモ亦顧問及ヒ指導者トシテ歐羅巴的教育ヲ有スル人物ヲ招キテ秩序ヨク之ヲ配シ又首府ト各地トノ接近ヲ計リテ京義京釜及ヒ京元ノ三電線ヲ架設シ京義ハ千八百八十五年ニ京釜ハ千八百八十八年ニ京元ハ千八百九十一年ニ竣工セリ然レトモ地方ノ政治ニ關シテハ毫モ之ニ留意スルコトナク全ク放任シテ秩序ノ設定及ヒ政治ノ公平ヲ保ツコトニ對シテ何等施ス所ナク此ノ如キ地方政治ニ對スル怠慢ハ原因トシテノ作用ハ間接ナリト雖トモ韓國ノ爲メ慨嘆スヘキ結果ヲ惹起シタリ左ニ其狀況ヲ述フヘシ

平民ハ久シク官吏及ヒ貴族ノ強姦暴虐ヲ蒙リ終始暴動ト復讐行爲ニ訴ヘテ反抗シ以テ不平ヲ洩スノ方法トシタルニ其行動ハ常ニ殘酷ナル力ヲ以テ壓抑セラレタリ千八百九十三年國ノ東南地方ニ於テ起リタル東學黨ノ亂ハ不正ナル政治ノ壓制ニ反對スル民怨ト密接ノ關係ヲ有シテ起リタルモノニテ一度ハ清國辦理公使ノ機宜ニ適スル助言ニ基キタル手段ニ依リテ鎮定ニ歸シタリト雖トモ千八百九十四年ノ初メ又起リ此度ハ二倍ノ勢力ヲ有シテ迅速ニ北方ニ蔓延セリ或人ノ說ニ依レハ此時東學黨ノ中ニ若干ノ日本人アリ習ハ小本意ナカラシ此時日本カ東學黨ヲ助ケタルヲ思フト兎ニ角千八百九十四年ノ暴徒ノ蜂起ハ迅速ニ著シキ膨脹ヲ爲シ鎮定ノ爲メ派遣セラレタル官兵ノ小團體ハ反テ擊破セラレ其後ハ京城ニ於テスラ騷擾ヲ出現スルニ至レリ是ニ於テ國王ハ其年五月援ヲ清國ニ請ヒ清國ハ時ヲ移サス二千ノ兵ヲ送リ其兵一旦現レテ暴徒ハ忽チ南方ニ退キタリ

日本ハ清兵ノ韓國ニ上陸シタル報ヲ得ルヤ否ヤ將官大島ヲ指揮官トシテ大部隊ヲ韓國ニ輸送セリ此部隊ハ仁川及ヒ京城附近ニ駐屯シテ京城街道ヲ控制スヘキ諸地點ニ陣シタリ日本ハ天津條約以來平和手段ニ依リ自國ノ商人其他企業家ノ爲メニ韓國ヲ開放シ經濟上政治上ノ勢力ヲ此地ニ殖立スルコトヲ計リタリト雖トモ其結果比較的著シカラサルヲ以テ意甚タ滿タス是ニ於テカ今ヤ其企圖ヲ妨害シタル清國ノ權力ヲ破壞シテ韓國ヲ全然獨立セシムルノ時機到レリト爲セリ

東學黨既ニ退却シタレハ清兵韓國ニ留マルノ原因ハ既ニ消滅シタルカ如シ然ルニ清兵ハ尙ホ馬山浦ニ留マリテ去ラス是ニ於テ日本ハ多數ノ援兵ヲ送ラント準備シ其意韓國ノ占領ヲ繼續スルニ在ルモノ、如シ清國政府ハ日本ノ態度ニ關シ日本公使大島ニ對シ説明ヲ求メ之ト同時ニ自國兵ノ韓國駐在ヲ辨疏スルニ

韓國ハ清國ノ附庸國ナリト云フノ理由ヲ以テセリ日本カ之ニ對シテ與ヘタル七月十六日ノ答書ハ最後通牒ノ性質ヲ帶ヒタルモノニテ日本ハ韓國ニ內治ノ改良軍隊ノ改造ヲ施シ日本ノ出兵費ヲ拂ヒ袁世凱及ヒ清兵ヲ召還シ及ヒ韓國ノ獨立ヲ無條件ニテ確認スルコトヲ條件トシテ撤兵センコトヲ承諾セリ日本ノ要求ハ拒絕セラレタリ此ノ如クニシテ事實上戰鬪行爲ハ一ヶ月餘ヲ經テ始メテ開カレタリト雖トモ此時既に戰爭ハ免カルヘカラサリシナリ

一方ニ於テハ陣地ヲ據有スル日本軍ノ行動ハ甚ク韓國ノ上下ヲ騷カセ韓國政府ハ日清兩國兵ノ撤去ニ關シテ助力スル所アラシコトヲ京城ノ列國使臣ニ請ヘリ是ニ於テ露米佛英ノ使臣ハ六月二十五日協議シテ日清兩國ノ使臣大島及ヒ袁世凱ニ通牒シ兩國ノ兵ヲ同時ニ撤退センコトヲ勸告セリ大島及ヒ袁世凱ハ日本國政府ニ通知スヘキ旨ヲ答ヘ袁ハ其翌日本國政府ハ既ニ撤兵ヲ準備スト雖トモ日本政府ニ於テ其撤兵ヲ拒絕スルカ故ニ本國政府モ之ヲ遲引セサルヲ得ストノ本國政府ノ通知ヲ得タルコトヲ列國使臣ニ通牒セリ然ルニ日本公使ハ六月二十八日ニ至リ韓國政府ニ對シ二十四時間ヲ期シ韓國ハ清國ニ對シ附庸關係ヲ有スルヤ否ヤノ説明ヲ要メタルニ韓國ハ全ク獨立國ニシテ日本ト同等ノ權利ヲ有ストノ回答ヲ得タリ

韓國政府ハ同時ニ日本公使ノ要求スル改革ノ事項ニ關シ其調査ニ着手スヘキコトヲ承諾シタリ然レトモ其後改革ノ條項ニ關シ評議シタル後米國公使ノ勸告ニ依リ日本ニ對スル國民ノ反抗ヲ口實トシテ大部隊ノ國內ニ滞在スルハ國民ノ智慮ヲ擾亂シ改革ノ實行ヲ妨クル所以ナルヲ證言シ以テ豫メ撤兵センコトヲ日本ニ要求セリ其時國王ハ政府カ其意見ニ依リテ行ハント欲シタル改革案審議ノタメ調査委員ヲ任命シ

調査委員會ハ第一着ノ事業トシテ近年收稅上ノ弊害タル私誅ノ廢止ヲ決行セリ

然ルニ日本公使ハ七月二十日嚮ニ韓國政府カ韓國ハ既ニ獨立國ナルヲ公示シタルノ理由ニ基キ全國政府ニ要求スルニ千八百八十二年ノ清韓水陸交通條約ハ之ヲ廢スヘキコトヲ以テシタリ此條約ハ明ニ兩國間ノ附庸關係ヲ規定シタルモノナリ然ルニ日本ハ此要求ニ對シ満足ナル答ヲ得ス同月二十三日午後四時幕力ヲ以テ王宮ニ入り暫時力闘ヲナスノ後王及ヒ其家族ヲ奪ヒ王ニ說クニ目今首都ニ於テ陰謀アリ仍テ王ヲ救フカ爲メニ參内シタルコトヲ以テシ直チニ大院君及ヒ日本黨ノ內閣ヲ組織シタリ

日本ハ國王ヲ奪ヒ自黨ヲ以テ內閣ヲ組織シタル後ハ其要求スル所異議ナク聽カレテ韓國ニ於ケル改革事業ヲ遲滯ナク實施スルノ便宜ヲ有シ千八百九十四年六月二十五日ノ條約ノ調印ノ如キ皆好結果ヲ奏スルコトヲ得タリ此條約ハ清國ニ對シ日韓攻守同盟ヲ規定シ日本公使ニ清兵退擡ノコトヲ委任シタルモノナリ八月十五日新內閣ノ外務大臣金允植ハ各國使臣ニ通牒スルニ韓國ハ七月二十日日本公使ノ提出シタル要求ヲ承諾シテ清韓兩國間ノ條約ハ總テ之ヲ破棄スルコトヲ以テシ十二月十七日上諭ヲ以テ京城仁川釜山及元山ノ外ニ清國人ニ居住ヲ許サ、ルコトヲ公布シ同時ニ清國人ノ治外法權ヲ撤去セリ

其後日本カ清國ニ對シテ宣戰ヲ布告シタルハ八月一日ニシテ其間時間ヲ有シタリト雖トモ其戰爭ノ原因ハ既ニ前記六月二十五日ノ條約ニアリ此戰爭ニ於テ日本軍ハ清兵ヲ北馬山浦附近ニ破リ其殘兵多クノ小衝突ヲ爲シタル後滿州ニ於テ動員セラレ天津及ヒ上海ヨリ海路ニ由リ輸送セラレタル清兵ノ集中セル韓國ノ北境ニ向テ前進シ第一回ノ大戰大同口南平壤附近ニ發生シタリ清兵ハ強固ナル防禦造營物ト多數ノ砲兵トニ依リ初メハ頗ル強ク日本軍ノ突進ヲ支ヘタリト雖トモ日本軍城壁ニ近クニ及ヒ輜重及ヒ殆ント

總テノ砲ヲ遺棄シ暗夜ニ乘シテ北方韓國ノ境外ニ遁走セリ日本軍ハ數日間平壤ニ駐屯シ援兵ヲ得テ更ニ清兵ヲ鴨綠江ニ追撃シ首尾能ク架橋ヲ了ヘ何等ノ障害ヲ受ケスシテ清國ニ入り爾後兩軍戰ヲ交ヘ日本軍ノ勝ニ歸ス日本軍清國ニ入りタル後ハ兩軍ノ戰鬪地滿州ニ在リ故ニ韓國歴史ニ關スルコトナシ此戰爭ハ下ノ關係約ヲ以テ終結ヲ告ケ清國ハ其條約ニヨリテ全ク韓國ノ獨立ヲ確認シタリ

日本政府ハ清國トノ戰爭中モ熱心韓國ノ事情ニ注目シ公使ノ勢力ト指導ニ依リ千八百九十四年七月二十三日ノ改革以來十五ヶ月ノ間韓國ニ最モ重要ナル諸般ノ改革行ハレ又ハ少ナクトモ公布セラレ大島公使ハ改革ノ事項ヲ實行スル爲メ國王ヲ説イテ軍國機務處ヲ創設シテ法制ノ立案審議ニ供シ後日此官衙ヲ擴張シテ議會トナサント欲セシト雖トモ當分ハ尙ホ儘ニ議政府ノ一局即チ新政府ノ官房トシテ存立シタルノミニテ其長官ハ首相之ニ當リ其ノ職員ハ副議長及ヒ十人乃至二十人ノ議官ニシテ三人ノ秘書官之ニ屬シ各員ハ議案ヲ提出スルコトヲ得ルノミナラス人民ニモ建議書ヲ提出スルコトヲ得セシメ其建議スル所ノ改革ノ意見卓越ナルモノニハ官吏ト爲ルヲモ許シタリ此ノ官衙ハ初メ七月三十日ヨリ八月四日マテハ毎日集會シ其後中止スルコト四日ニシテ又八月十九日マテ毎日開會ヲ續ケ其後ハ隔日ニ開キテ十月十九日ニ及ヒ以後五日毎ニ一回開會スルコトニ改メタリ想フニ職員ハ各自ノ猜忌心ト利益心ノタメ職務ヲ視ルコト漸ク冷淡ナルニ至レルモノ、如ク七月ノ終リ八月ノ初メニ於テ既ニ各員ニ疾病ヲ除クノ外必ス出席スルノ義務アルヲ規定スルノ必要アルニ至レリ十月ノ初メニ及ヒ他ニ官職ヲ帶ヒサル者ニハ俸給ヲ與フルノ制ヲモ定メタリト雖トモ尙欠席スルモノ多ク十月二十九日ニ開カレタルヲ最後ノ集會トシ其後二日ヲ隔テ、司法次官「キム、ハク、ツ」ハ殺害ニ遭ヘリ「キム、ハク、ツ」ハ熱心軍國機務處ノ事

務ニ勵精シタル一人ニシテ殺害ヲ行ヒタルハ保守黨ノ代表者ナリト決定セリ彼ノ死ハ事業行進ノ一妨害トナリ大島ノ施設ハ蓋シ亦其後任者タル井上ノ賛成セサリシ所ニシテ軍國機務處ハ全年十二月十七日ノ上諭ヲ以テ遂ニ廢止セラレタリ

前記軍國機務處ノ制定ニ係リ國王ノ裁可ヲ經タルモノハ法律ノ効力ヲ有シ其後ニ廢止セラレサルモノハ縦令實行ヲ見サルモノアリトモ理論上韓國民ノ遵奉スヘキ義務アルモノニシテ各別ニ公布セラレタルモノアリ又官報ニヨリテ公布セラレタルモノアリ左ニ記スル所ハ是等ノ法律ノ重要ナルモノニシテ改革ヲ施サンカタメ二三ヶ月間許リ傳染蔓延シタル意向ノ反映ヲ認メ又幾分カ韓國政界ノ黑幕タリシ日本人ノ方針ヲ見ルニ足ルヘキモノナリ

- 一、兩班(貴族)及ヒ平民ハ法律上全等タルヘシ
- 二、奴隸ハ之ヲ廢止ス
- 三、官制ハ凡テ之ヲ改革ス
- 四、貴族ノ寡婦ニ再婚ヲ許ス
- 五、早婚ヲ禁ス
- 六、武官ニ對スル文官ノ特權ヲ廢シテ同等トス
- 七、官吏ノ濶袖ハ之ヲ窄縮スヘシ
- 八、公文書ノ日附ニ自今清曆ヲ用フルコトヲ得ス
- 九、犯罪者ノ家族ハ犯罪ノ責ニ任セス

- 十、必要ナル國費ノ支辨ヲ爲スダメ大藏省ヲ改革ス
- 十一、各階級ノ官吏ハ從來ノ儀式ニ拘ラス自由ニ市街ヲ通行シ乘馬、步行、各其意ニ從フ
- 十二、大官通行ノ際平民起立若クハ下馬スルノ習慣ヲ廢ス
- 十三、官吏正當ノ理由ナクシテ他人ノ金錢物品ヲ占有シタルトキハ之ヲ罰シ其占有物件ハ之ヲ沒收ス
- 十四、司法省部内及警察部内ノ官吏ニアラサル者ハ捕縛及ヒ刑罰ヲ行フコトヲ得ズ
- 十五、官吏ニシテ職ヲ辭シタルモノハ商業ヲ營ミ及ヒ法律ノ禁セサル其他ノ生産業ニ從事スルコトヲ得
- 十六、從來ノ科擧ヲ廢シ新ニ官吏登庸ノ法ヲ設ク
- 十七、位階及ヒ官職ハ罪ヲ免ル、ノ理由トナルコトナシ
- 十八、租稅ハ之ヲ納ムルニ穀物、織物、其他物品ヲ用フルヲ禁シ金納ニ改ム
- 十九、内地ノ穀物、賣買ハ何等ノ制限ヲモ受クルコトナシ
- 二十、度量衡貨幣ヲ整理ス
- 二十一、官吏ハ租稅ノ徵收及ヒ未納ニ對シテ其責ヲ負フ
- 二十二、品行方正ニシテ銳敏ナル少年ヲ撰ヒ海外ニ留學セシムヘシ
- 二十三、各省ニ外國顧問官ヲ招聘ス
- 二十四、拜謁ヲ賜ハリタル外國使臣ハ應接室ノ傍マテ轎行スルコトヲ得
- 二十五、文部省ハ小學校教科書ヲ編纂出版スヘシ

軍國機務處ニ於テ三ヶ月ノ短時間ニ議決制定セラレタル法律ハ實ニ二百八件ノ多キニ及ヒ勿論速カニ實行セラルヘキモノニアラスシテ加フルニ政府ノ怠慢ト適任者ノ不足トニ依リ久シク死文トナリテ殘存セリ日本人ハ大島ノ方法ヲ以テ目的ヲ達スルノ難キヲ見千八百九十四年十一月ノ初メ井上伯ヲ以テ之ニ代ヘタリ井上伯ハ先ツ韓廷ニ勸告シテ大院君ヲ政治圈外ニ却ケ尋テ十二月十七日ニ至リ軍國機務處ノ制定シタル法律ノ無益ナルモノヲ廢シ更ニ日本及ビ歐米ニ傾心スル過激黨ヲ以テ内閣ヲ組織シタリ其閣員中有名ナルヲ朴泳孝、徐光範及「ユン、ホン、ユリ」トシ此人等ハ千八百八十四年血ヲ流スノ事件ヲ起シタル主謀者トシテ十年間日本、北米合衆國及ヒ本國ニ亡命潜伏シ井上ノ盡力ニ依リ其他ノ全事件關係者ト全シク特赦ヲ受ケタル者ニテ其他「ユ、オアン、ユン」「エ、サト、ユ」「朴定陽及「ツン、ギヨン、オワン」ノ四名ハ曾テ米國ニアリテ所謂亞米利加黨ニ屬シタリ亞米利加黨ハ亞米利加宣教師ノ煽動ニヨリテ日本ニ興スルモノナリ大院君ノ息ニシテ現帝ノ全母弟ナル李載冕モ此時内閣ニ入レリ

千八百九十五年一月七日井上ノ主張ニ依リ國王ハ宗廟ニ於テ改革ノ宣誓ヲナシタリ其語ニ曰ク「朕ハ大法十四條ヲ採用シテ之ヲ實施スルコトヲ祖宗ノ靈ニ告ケ祖宗ノ德ニ頼リテ有終ノ美ヲ濟サンコトヲ希ヒ敢テ或ハ此誓ヲ變スルコトナケン希クハ祖宗ノ靈降臨シテ照監ヲ垂レヨ」ト其法律ノ大綱左ノ如シ

- 一、韓國ハ獨立ヲ全クセンカ爲メニ自今支那ノ羈絆ヲ脱ス
- 二、王位繼承ノ法ヲ制シ王族相互ノ關係ヲ定ムヘシ
- 三、王ハ各大臣ノ上奏ヲ親裁シテ國政ヲ視ル王妃及王族ハ國事ニ干渉スルコトヲ得ス
- 四、宮室ノ經濟ハ政治ヨリ分離スヘシ

- 五、内閣及ヒ各大臣ノ職責權限ハ明カニ規定スル所アルヘシ
 - 六、公租ハ法律ヲ以テ之ヲ定メ人民ハ法律ニ依ラスシテ何等ノ負擔ヲ課セラル、コトナカルヘシ
 - 七、租税ノ測定及ヒ收支ハ大藏省ノ管轄ニ屬ス
 - 八、第一ニ宮室費ヲ制限シ各省及ヒ各地方廳ヲシテ則ル所アラシム
 - 九、宮廷及ヒ各省ノ經費ハ毎年其豫算ヲ編成シ嚴ニ其豫算ニヨリテ支出スヘシ
 - 十、地方官吏ノ權限ヲ定ムル法律ハ速カニ改正セラルヘシ
 - 十一、學識アル少年ヲ海外ニ留學セシムヘシ
 - 十二、秩序アル兵制ヲ施行スル爲メ將校ノ養成及ヒ徵兵ニ關スル方法ヲ規定スヘシ
 - 十三、刑法及ヒ民法ノ範圍ハ嚴密ニ區別限定セラルヘシ
- 刑法及ヒ民法ハ嚴重ニ遵奉セラルヘク生命財產保護ノ爲メ拘禁及ヒ罰金ハ法律ニ規定スル場合ト程度トニ依ルヘシ

十四、官吏ノ選任ハ門閥ヲ撰ハス中央政府及ヒ地方廳ニ於テ廣ク人才ヲ登庸スルノ方法ヲ設クヘシ

日本政府ハ前ニ列記セル政治上ノ大綱ヲ施行スルコトヲ國王ニ誓約公布セシメ之ニ依リテ韓國民ノ感情ヲ一變シ以テ大ニ爲ストコロアラシコトヲ期待シタリト雖トモ此政略ハ實際上何等ノ効果ヲモ與フルコトナク其後ニ於テモ日本人ハ以前ト同シク到ル處ニ公然若クハ隱然ノ反抗ヲ受ケ京城ニ於テハ兩々相敵スル黨派ノ隱謀依然トシテ繼續シ大院君ハ日本人ト王妃ニ反對シ王妃ハ遂ニ保守黨即チ日本人ノ企圖スル改革ニ反對セシ所ノ黨派ニ與ミスルニ至レリ大臣等ハ互ニ相反擠シ地方官吏等モ唯之ヲ監視スル日本

兵ノ威力ヲ懼レテ僅ニ其危難ヲ免ル、ニ足ルダケノ程度ニ於テ中央政府ノ命令ヲ執行シタルノミ此時韓國ノ財政ハ千八百九十三年ニ、十三萬圓千八百九十四年ニ、二十萬兩ノ國債ヲ起シ之ニ依リ前後二回ノ收入ヲ得タリト雖トモ尙ホ一年ニ不良ノ状態ニ傾キ千八百九十五年ノ豫算ニ依レハ百五十萬圓ノ不足アリテ之カ爲メ官吏ノ冗員一萬七千人餘ヲ減員シタリト雖トモ實際上國庫ノ支出ハ尙ホ減少スル所ナシ當時之ヲ補填スルタメニハ日本私立銀行ニ借款ヲ結ビ能ヒシハ勿論ナリシト雖トモ其私立銀行等ハ非常ニ困難ナル條件ヲ提出スルニヨリ日本銀行ハ三百萬圓ヲ韓國ニ貸與シタリ

日本ノ韓國ニ於ケル改革事業ノ實際的結果ハ當時其範圍甚タ狭ク警察制度ノ改革ヲ爲シタリトハ雖トモ京城ノミニ限ラレ其他日本將校ノ指揮下ニ新ニ編制セラレタル一部ノ軍隊ヲ生シ行政組織ノ改正ヲ爲シ大臣ヨリ成立スル内閣ヲ組織シ及ヒ官吏ノ減員ヲ行ヒタルニ過キスシテ尙ホ日本人改革ノ熱心ハ韓人ノ身心ニ浸着スル瑣細ナル雜事、民俗及ヒ風習ノ廢止改革ニ傾注シタルモ唯適、韓人ノ惡感情ヲ強メタルニ過キス事情既ニ此ノ如シ故ニ韓國ヲ清國ヨリ離レテ之ニ獨立權ヲ與ヘタル下ノ關係約ノ結果モ日本ノ韓國經營事業ニ對シ直接ノ利益ハ甚タ少カリキ勿論此時ニ當リ國王ハ特ニ上諭ヲ發シ民衆ニ告クルニ獨立ノ慶ヲ以テシテ諸般ノ祝典ヲ指定シ又下ノ關係約批准ノ後ニハ外務大臣ヲ經テ日本皇帝ニ謝辭ヲ呈シタリト雖トモ由來此問題ニ關シテ毫モ利益ヲ有セサル韓國民ハ日本ノ勝利ニ對シ何等ノ注目スヘキ感覺ヲモ起サザリキ

京城ニ於テハ前ニモ記載シタルカ如ク根底深キ陰謀及ヒ鬭爭アリテ四月十九日大院君ノ孫李載先ハ國王ニ對スル叛逆及ヒ改革黨ノ名士「キム、ハク、ウー」ノ殺害ニ干與シタルノ故ヲ以テ捕縛セラレタリ大院

君ハ此時判官ノ間ヲ奔走シテ孫ニ代リ責ヲ負ハンコトヲ乞ヒタルモ遂ニ許サレズ李載先ハ國賊ト認メラレ五月十六日十年ノ流刑ヲ以テ「キヨードン」島ニ送ラレタリ大院君ハ孫ト共ニ謫地ニ趣カンコトヲ希望セシモ刑吏ノ爲メニ京城ニ近キ「マープ」ニ抑留セラレ其後大院君ノ息李載冕モ亦官職ヲ辭シ茲ニ大院君ノ政治上ニ於ケル勢力ハ全ク消滅シ了レリ此時内閣ノ主力ハ朴泳孝ニシテ朴泳孝ガ初メ露國人ト秘密關係ヲ有スルカ如キ風説ハ根據ナキモノナルコト判明セリ然ルニ其後朴泳孝ハ叛逆ノ徒黨ナリトノ報告國王ニ達シ政府ハ朴泳孝ヲ捕縛セント欲シ日本代理公使(井上ハ一時歸朝中)ニ此舉ヲ禦肘スルコトナク若シ朴泳孝ニシテ逃亡ヲ企ツルカ如キ場合ニハ少ナクトモ之ヲ保護スルナカランコトヲ請ヒタリ然レトモ日本代理公使ハ其請ヲ容レサルノミナラス却テ朴泳孝ヲシテ日本警察官ノ保護ニヨリ仁川ニ趣キ日本汽船ニ搭シテ日本ニ逃亡スルコトヲ得セシメタリ此事件ノ爲メ井上ハ任地ニ歸レリ之ト關聯シテ茲ニ觀察スヘキハ此事件後間モナク即チ九月一日公使ノ更迭アリテ三浦中將其任ニ當リタルコト是ナリ三浦公使思ヘラク日本ノ政略ニ對スル妨害物ハ王妃ナリト則チ先ツ王妃ヲ除カント決シ大院君ヲ索居ノ地ヨリ起シ來リテ之ニ與ラシメ自國ノ公使館一等書記官、軍隊、若干ノ個人及ヒ韓國擔夫ヲ用ヒテ此事ヲ遂行シタリ韓國擔夫等ハ王城ノ第一門側ニ於テ遮キラレタル爲メ直接殺害ノ事ニ與カラス個人トシテ日本人ノ中ニテ特ニカヲ與ヘタルハ京城ニ於テ發行スル漢城新報ノ記者三人及ヒ東京ニ於ケル諸新聞ノ記者五人ニシテ四十五歳ノ王妃ニ對スル猛獸的殺害ハ千八百九十五年十月八日宮廷内ニ行ハレ勝テ者ハ其後尙ホ總テノ妨害ヲ一掃センコトヲ圖リ日本人ノ爲メニ不便利ナル首相「バク、クン、ヨン」並ニ陸軍大臣、文部大臣、大藏大臣、農商務大臣ヲ斥ケ宮内大臣ヲ宮廷ニ於テ王ノ面前ニ殺シ大院君ノ子李

載冕ヲ以テ之ニ代ヘタリ李載冕ハ是ヨリ先キ此職ニ在リシカ李載先ノ流刑ニ處セラレタル後其職ヲ辭シタルモノニシテ此時舊ニ復シ李載先モ亦久シカラスシテ京城ニ召還セラレ宮中顧問官トナル然レトモ日本人ノ立場トシテハ王妃ニ關スル記憶ヲ消滅セシムルコト最急緊要ノ事ニ屬ス故ニ殺害ノ後二日ヲ經テ各大臣ノ副書ヲ有スル僞造ノ上諭ヲ發シ王妃ヲ廢シテ庶人トナセリ其翌日復上諭アリテ王妃ハ世子ノ生母ナルヲ以テ上級典侍ノ位階ニ叙セラレタリ

日本ハ斯ノ如クニシテ其事業著々功ヲ奏シタリト雖トモ王妃殺害事件ニ關シテハ不本意ナカラ大ニ國王ノ感情ヲ和グルノ必要アルノミナラス韓國ニ兵備ヲ有スル日本政府ニ對シテ十月八日以前ノ秩序ニ復セシコトヲ要求シタル列國公使ノ感情ヲ平ニスルノ必要モ感セラル是ニ於テ日本政府ハ王妃ノ遭難ニ對スル日本皇帝ヨリノ哀悼ノ辭ヲ國王ニ致スタメ十一月中旬前公使井上ヲ差遣シタリ十一月二十六日王妃生前ノ位班ヲ復シ十月八日組織セラレタル新内閣員中嫌疑最モ深キ二人ノ人物即チ陸軍大臣趙準永及ヒ司法大臣「コン、ヨン、チン」ハ殺害事件ニ關シタル形跡アルヲ以テ之ヲ其職ヨリ斥ケ十月二十七日司法大臣ニ命シテ九月二十六日事件ノ檢問糾明ヲ爲サシメ十二月三十日官報紙上ニ韓人三名ノ死刑宣告ヲ公布シ其宣告ハ直ニ執行セラレントシタルモ其後二人ハ全ク此事件ニ關係ナキコト判明シ一人モ亦唯少シク之ニ與リタルニ過キササルコト判明シタルカタメ已ミタリ

然ルニ一方ニハ十月二十八日何者カ王ヲ奪ハント試ミタル者アリタレトモ米國宣教師等ハ偶然ノ事ヨリ之ヲ知リテ通報シタルニヨリ宮廷ノ警衛兵ハ適當ノ時ニ防禦ヲ備ヘ得テ反徒ノ企圖無効トナル此時韓國ハ到ル處ニ暴動騷亂起リテ大事ニ及ハントスルノ形勢ヲ示シタリ然ルニ大臣等ノ從事スル所ハ

結髮ヲ禁スルカ如キ瓊々タル改革ノ事ニシテ十二月三十日ニハ上諭ヲ以テ斷髮ヲ獎勵シ國王自身モ既ニ歐風ヲ用ヒタルコトヲ告示シ内務省ハ同牒シテ上意ヲ遵奉スヘキコトヲ訓示シ警察官及ヒ軍隊ハ新法ノ實行ヲ人民ニ強制セリ洋服着用ノ件モ亦十一月二十九日附内務省令ヲ以テ獎勵セラレ又舊來ノ大陰曆ヲ廢シ開國五百四年十一月十七日(大陽曆千八百九十六年一月一日)ヨリ大陽曆ヲ用フルコトト爲シタリ是等ノ改革ハ韓人ノ大ニ喜ハサル所ニシテ嘗テ王妃殺害事件ニ關スル犯罪者ニ對シテ政府ノ處置ノ過寛ナルコトニ不滿ヲ抱キタル一般ノ民心ヲシテ益々激發セシメ國內多クノ處ニ於テ暴徒蜂起シテ日本人ヲ殺害シ日本軍隊及ヒ韓國軍隊ハ鎮壓ノ爲メ行動ヲ開クニ至リタリ想フニ千八百八十四年日本ニ反對スル保守黨ノ演シタル殺傷事件ハ又モ起ラントスルノ形勢アリ情報屢々宮廷ニ達シテ國王ノ危險ヲ傳フ是ニ於テ王ハ突然宮廷ヲ脱シ世子ト共ニ露國公使館ニ遁走セリ時ニ千八百九十六年二月十一日ナリ

國王ハ露國公使館ニ到着スルヤ直ニ次ノ意味ノ上諭ヲ發シ其上諭ハ京城ノ各處ニ貼示セラレタリ曰ク嗚呼子ノ不徳ノ爲メニ奸佞ノ徒跋扈シ忠良ノ徒去リ最近十年ノ間年トシテ亂アラサルハナシ而シテ亂ハ或ハ股肱ノ近臣ヨリ出テ或ハ骨肉ノ親ヨリ起ル開國五百年ノ我國之カタメ危險ニ頻スルコト一再ニアラス百千萬ノ臣民漸次窮乏ニ落ツ是レ余ノ衷慚愧焦慮スル所ナリ亂ハ子ノ黨心及ヒ頑迷ニヨリ誘發セラレタルモノニシテ不幸ノ原因ハ子ノ錯誤ニ存シ事終始ヲ通シテ皆子ノ罪ニ歸ス然レトモ子ハ幸ニ子ガタメニ害惡ノ徒ヲ攘ハンコトヲ希望スル忠良ノ友ヲ得前ノ暴逆ハ反テ國家ノ基礎ヲ固クシ暴風ノ後晴朗來ルノ望アリ人生久シク辛酸ヲ經テ自由ノ快樂來リ事業ハ敗レテ而シテ後ニ成ル子ハ平和ヲ務ムヘシ然レトモ千八百九十四年七月及ヒ千八百九十五年十月ノ事ニ關係セシ首謀者ノ爲メニ何等ノ寬典ヲモ與フルコト

能ハス彼等ハ天神ノ怒ヲ招キ罪死ニ當ル然レトモ其他ノ官僚軍人平民及ヒ勞働者ハ罪ノ輕重ヲ問ハス之ヲ赦免スヘシ爾チ衆庶ヨ自今純良ノ民トナリ其堵ニ安ンジテ公私ノ業務ニ從事スルコト前日ノ如クナルヘシ若夫レ斷髮ノ事ニ關シテハ亦何トカ云フヘキ是レ豈緊急ノ事ナランヤ而モ反徒ハ威力ト壓迫トヲ用ヒテ爾等ニ強フ是レ彼等ノ罪ニシテ子ノ意ニアラサルハ衆ノ知ル所ナリ然レトモ保守ノ思想ヲ抱キ公憤ヲ發シテ蹶起シタル者事實ニ非サル風説ヲ飛ハシ自他ノ殺害及ヒ損失ヲ來シ爲メニ軍隊ノ力ヲ以テ之ヲ鎮壓スルニ至ラシメタルハ是レ亦余ノ志ニアラサルナリ反徒ノ行動ハ志氣ノ汚壞ヨリ出テタルモノ其罪擧ケテ算フヘカラス兵士ハ子ノ赤子然レトモ亦同時ニ暴徒タリ指ヲ斷タハ其痛相同シカラン爭亂相續カハ血ハ川ヲ成シ屍體堆積ヲ成シ商業交通ハ杜絶セン嗚呼爭亂續カンカ民ハ亡ビシ一タビ想ヒテ此ニ到レハ涙注キテ心膽寒シ命ニ接スレハ直ニ兵士ハ首都ニ還リ暴民ハ郷ニ還リ木業ニ復セヨ子ノ冀フ所此ニ在リ頭髮ノ事ハ各自ノ意ニ任セ衣冠亦好ム所ニ從ヒテ可ナリ國民ノ苦痛ハ細心周到政府ヲシテ上奏セシムル所アルヘシ是レ子ノ誠實ナル約束ナリ汝衆庶其レ之ヲ諒セヨト

國王露國公使館ニ着シテ程ナク列國公使ハ皆參内シテ王ノ恙ナキヲ祝シ日本代理公使小村ハ之ニ趣キタレトモ最モ後レタリ京城ノ市民ハ今日ニ廢セラレタルバカリノ政治ニ對シ久シク隱然タル怨情ヲ包藏シタルニヨリ國王轉奔ノ報ニ接スルヤ市民ノ間非常ニ動搖シ狂奔制スヘカラサル民間ハ激烈ノ方法ヲ以テ改革ノ犯罪者ヲ搜索シ甚シキハ死骸ニ對シテヌラ復讐的殘虐ヲ加フルニ至レリ

國王ハ露國公使館ノ保護ニヨリ安然ヲ感スルヤ否ヤ直ニ新内閣ヲ組織シ其内閣ハ露國公使館ニ集合スルコトニナレリ

一方ニハ警察官周到ナル注意ヲ以テ舊内閣員ノ搜索ニ着手シ前司法大臣俞吉潯ハ壁頭第一ニ捕縛セラレタルモ日本軍ノ力ニ依リテ救ハレ首相金宏集「キム、ホン、チン」及ヒ農商工大臣「ツン、ソン、ハー」ノ兩人ハ官兵及ヒ暴徒ノタメニ殺害ノ不幸ニ遭ヒタリ

國王改革黨ノ手ヲ脱シタルコトハ國內ニ大ナル感覺ヲ起シ大ニ秩序ノ復舊ヲ助成シタリ然レトモ日本人ハ其勢力ヲ韓國ノ政治ニ及ボスノ便宜ヲ失ヒ韓國指導ノ事露人ノ手ニ移ラントスル形勢ナルヲ見心中自ラ不快ナラサルヲ得ス千八百九十六年三月ニ於テ王妃殺害事件ニ關スル司法次官「コアン、ツァー、ヒュン」ノ報告公布セラレタルノ後ハ日本人ノ境遇一層不良トナリ此報告ニ於テハ甚ク日本公使及ヒ日本ノ政略ヲ非難シ犯罪者ノ訊問ハ例ノ拷問法ニ依ラスシテ行ハレタルヲ以テ信用ヲ保チ且ツ米國合衆國總領事「グレートハウス」氏韓國司法省ノ顧問トシテ此事件ニ參與シ報告事項ノ公正ナルコトヲ證シタリ事情既ニ此ノ如シ日本ノタメニハ韓國問題ニ關シ露國ト協商スルコト極メテ必要ナリ是ニ於テ兩國談判ヲ開キ千八百九十六年五月十四日露國公使「ウヰーベリ」及ヒ日本公使小村ハ京城ニ於テ豫備的協商ニ關シ其後同年六月九日莫斯科ニ於テ露國外務大臣及ヒ當時露國皇帝戴冠式參列ノタメ差遣セラレタリシ日本特命大使山縣トノ間ニ最終協商確定シタリ

國王露國公使館ニ移ルノ後過去三年間ニ發布セラレタル法律ノ改正及ヒ官制調査ノ爲メ特別委員會ヲ組織シ其委員トシテハ韓國大官若干人之ニ任シ顧問トシテ米人「グレートハウス」及ヒ「レジヤンドル」英人「ブラウン」及ヒ韓人「デューメン」之ニ加リタリ韓人「デューメン」ハ十一年間北米ニ居留シ其國ニ歸化シタル「ソー、ジャイ、ビル」ノ改名シタルモノニテ京城ニ歸ルノ後千八百九十六年ヨリ「インデペンテン

ト」新聞ヲ發刊シタル人ナリ委員會ハ斯ノ如クニシテ成立シタリト雖トモ之ヲ開會スルコト僅カニ四回ニシテ廢セラレ何等ノ實効ヲモ奏スルコトヲ得サリキ

國王ノ露國公使館駐紮中即チ千八百九十六年二月十一日ヨリ翌年二月二十日マテノ間ニ行ハレタル政治上ノ施設ノ重要ニシテ且有益ナルモノハ左ノ數件トス

千八百九十六年九月二十四日内閣即チ千八百九十四年ノ末組織セラレタル最高政治機關ヲ廢止シ及ヒ從來ノ議政府ヲ復興スルノ旨出テ議政府ハ多少改新スル所アルモ成ルヘク舊來ノ規定ニ據ルヘキコトヲ示サレタルコト

此時韓國政府ハ鐵道布設及ヒ鑛山採掘ニ關スル若干ノ特權（之ニ關スル詳細韓國誌ノ運輸交通及ヒ生産ノ部ニ見ユ）ヲ外人ニ許與シタルコト

千八百九十六年春韓國政府ハ初メテ使節ヲ歐羅巴ニ遣シ「ミン、ユーン、ホアン」ヲ以テ之ニ任シ露國皇帝陛下ノ戴冠式ニ臨席セシメタルコト

此年春京城ニ於テ此年及ヒ其前數年ノ事件ニ關聯シテ獨立俱樂部ト稱スル韓人ノ團體起レリ團員ハ韓人中頭角ヲ顯ハシタル人物ニシテ前記ノ「デューメン」モ其中ニ在リテ牛耳ヲ取り其膨脹迅速ニシテ官吏社會ノ重立タル者ヨリ多ク入會スル者アルニ至レリ創立者ノ宣言ニ依レハ此俱樂部ハ有要ナル智識ノ普及及ヒ國民獨立ノタメニ必要ナル政治家ノ和協ヲ計ルヲ目的トシ政治ニ干渉スルコトナシト稱スルト雖トモ實際ニ於テハ近年ニ至リ政治ノ各方面ニ最モ活潑ナル働作ヲ顯ハセリ

「デューメン」ノ出版ニ係ル「インデペンデント」新聞ノ報知ニ依レハ此俱樂部ハ成立ノ初年ニ於テ約二千

人ノ會員ヲ有シタリト云ヒ其他ノ諸報ニ依レハ曾テ九百人乃至九百五十人ヲ超エタルコトナシト云フ該俱樂部ノ設立ハ國王ノ裁可ヲ經タルモノニテ世子ハ其費用ニ千弗ヲ與ヘタリ

「デューソン」ノ考案ニ基キ韓國カ清國ノ羈絆ヲ脱シタルコトヲ全世界ニ示ス爲メ獨立門建設ノ計畫アリテ千八百九十六年十一月二十一日起工式行ハルモヨリ先キ千八百九十五年ノ初メマテ京城ノ西方附近「モホソゴアン」ニ迎賓門アリテ國王清國使節ヲ迎ヒ以テ韓國カ清國ニ附屬スル徽章ト爲シタリ然ルニ迎賓門ハ千八百九十五年ノ初メ兩側ノ柱ヲ除クノ外ハ破壊セラレタリ則チ獨立門ハ建設ノ主旨ニ由リ地ヲ此處ニ撰ヒタリ獨立門ハ「デューソン」之ヲ計畫シ當時京城ニ在リシ露國技師「ツバチン」之ヲ助ケ起工式ニハ四五千人ノ來會者アリテ中ニ多クノ外國人モ見エタリ

千八百九十六年十一月一日宗廟及ヒ王妃ノ屍體ヲ建築中ノ新宮ニ移シ翌年二月一日國王ハ新宮ニ夜ヲ徹シ同月二十日ニ至リ王手ト共ニ露國公使館ヲ去リテ之ニ移リタリ新宮ハ英國總領事館及ヒ北米合衆國公使館ノ附近ニアリ

國王露國公使館ヲ去ルノ後同年十月十二日皇帝ノ尊稱ヲ取リタリ韓人ハ此時マテ唯清國皇帝及ヒ日本皇帝ヲ知ルノミニシテ皇帝ノ尊稱ヲ以テ完全ナル獨立君主ノ特質ヲ顯ハスモノト爲シ韓國ニ於ケル以前ノ國王ノ稱ハ清國ニ附庸タルノ徽章ナリト爲シタリ而シテ外國新聞ニ於テハ此儀式ハ韓國カ王國ヲ帝國ニ改稱シタルモノトシテ特筆シタリ韓國ノ獨立ヲ熱望シタル近臣等ハ韓國國民ノ多數ハ韓國カ著シキ動搖ナクシテ清國ニ對スル附庸關係ヲ脱シテ獨立ノ國家ト爲リタルコトスラ自覺セサルニヨリ其感覺ヲ喚起セント欲シ既ニ下ノ關係約ノ時ヨリ國王ニ皇帝ノ稱號ヲ取ランコトヲ勸說シタリ然ルニ國王ハ歐人ノ笑ヲ

招カンコトヲ恐レタルモノ、如ク久シク近臣ノ說ヲ容レサリシト雖トモ遂ニハ之ニ從ヒ新クニ尊稱ヲ取ルト共ニ從來ノ國號朝鮮ヲ大韓ト改稱シ新クニ洪武ノ年號ヲ建テ皇帝ト爲ルノ年即チ西曆千八百九十七年ヲ以テ洪武元年トシ皆之ヲ列國使臣ニ公然通牒シタリ

千八百九十五年十月八日王妃薨去後ハ君主ノ安全ト首都ノ靜穩ヲ保持スルタメ從來日本士官ノ指導シタル軍隊ヨリモ一層確實ナル兵力ノ必要ヲ感シ露國公使館ニ難ヲ避ケ得タル國王ハ露國政府ニ助力ヲ求め官兵訓練ノ爲メ士官ヲ派遣センコトヲ乞ヘリ露國ハ此照會ニ接シ極メテ慎重ノ態度ヲ取リ先ツ參謀大佐「ブチャートク」ヲ韓國ニ派遣シ就テ事情ヲ悉サシメタル後千八百九十七年八月三人ノ將校及ヒ十人ノ下士ヲ教官トシテ甫メテ派遣シタリ同時ニ韓國政府ハ又露國駐在韓國特命大使「ミン、ユーン、ホアン」ヲ經テ財政及ヒ稅關事務監督ノタメ經驗アル財政家ヲ露國ニ得ンコトヲ乞フ依テ露國ハ大藏省ノ官吏「アレクセーフ」ヲ以テ之ニ應シ韓國政府ハ大藏省顧問兼開港場總稅務司タル英人「ブラウン」ヲ罷メ「アレクセーフ」ヲ以テ之ニ代ヘタリ

「ブラウン」ハ清國稅關ノ官吏ニシテ他ノ稅關吏ト共ニ清國ヨリ韓國ニ派遣セラレテ韓國稅關事務ヲ總轄シ俸給ノ一部分ハ清國ヨリ受ケ下ノ關係約ニヨリ韓國ノ獨立確定シタル後モ尙ホ留職シ千八百九十五年國王ノ希望ニヨリ無報酬ニテ大藏省顧問トナリ千八百九十六年韓國財政ノ統轄ヲ托セラレタリ然ルニ「アレクセーフ」着任ノ後千八百九十八年一月十三日ヨリ「ブラウン」ハ其他ノ官吏ト共ニ清國稅關ニ對スル關係ヲ韓國ニ絶チテ解雇セラレタルナリ

然レトモ軍事教官及ヒ財政顧問官ハ韓國ノ爲メニ勞ヲ執ルコト久シキヲ得サリキ即韓國ニ於テ政治上ノ

紛亂上下ニ醸生シ獨立俱樂部及ヒ其他ノ黨派ノ外國人ニ反對スルモノハ韓國ハ既ニ獨立ノ途ニ就キタルコト且ツ之ニ依リテ内治上外人ノ力ヲ要セサルコトヲ宣言シタリ此事情ハ露國ノ軍事教官及ヒ財政顧問官ヲシテ其行事ニ甚シキ困難ヲ感セシメタルヲ以テ露國ハ韓國ニ質問スルニ韓國ハ猶ホ宮廷ノ護衛ニ露國軍事教官ヲ要シ財政ノタメニ露國顧問官ノ助力ヲ要スルヤ否ヤヲ以テセリ

然ルニ韓國政府ハ露國ニ對シ厚ク從來ノ援助ヲ感謝シ今日ノ狀況ニ依レハ既ニ露國ノ勞ヲ煩ハスノ必要ナキ旨ヲ以テセリ是ニ於テ露國政府ハ千八百九十八年三月財政顧問官ヲ召還スルノ處置ヲナシ其時露國ノ軍事教官モ亦其事業ヲ止メタリ

此後同年四月二十五日露協商成立シ其協商ニ依テ兩國ハ韓國ノ獨立ヲ確認シ爾來此國ノ内治ニ干涉セサルヘキヲ規定シタリ

極東ヨリ來ル最近ノ報道ニ依レハ韓國ハ千八百九十八年二月二十二日内治ノ改革事業ニ對スル主要ナル勢力家ノ一人ナル大院君ハ死セリト雖トモ内治改革ノ時期ハ猶經過シタルニ非スシテ紛亂沸騰反逆陰謀等ハ韓國ノ痼疾トナレリト云フ

大院君ニ三男二女アリ三男ハ宮内大臣タリシ李載冕今上及ヒ故「イ、ツァー、シヨン」ニシテ長女ハ會テ暫ク陸軍大臣タリシ「ツォー、ヒョシ、ホー」ニ嫁シテ數年前死去シ二女ハ同シク政府ノ要路ニ在リシ「ツォー、ツン、グー」ニ嫁シタリ孫ハ今上ノ子女ヲ除クノ外「イ、ツン、ヨン」及ヒ會藩國ニシテ「イ、ツン、ヨン」ハ千八百九十八年英國ニテ教育ヲ了ヘタリ

獨立俱樂部ハ漸次勢力ヲ擴張シ會員ノ多數ヲ有シ精神上ノ結合稀有ニ鞏固ニシテ意氣甚々旺盛ナリ皇帝

ハ柔弱ニシテ果斷ニ乏シク加フルニ露國顧問官去リタルノ後ハ軍隊ヲ信スルコト能ハス大臣等ハ各其位置ヲ危ムノ境遇ニ在リ獨立俱樂部獨リ盛ニシテ之ト拮抗スルモノナシ獨立俱樂部ハ皇帝ニ迫リ今集メラレタルハカリノ三十人ノ諸國守衛兵ヲ廢セシメタリ此守衛兵ニハ露國人モ加リ居タリ而シテ獨立俱樂部ノ要求中之一ヨリモ尙ホ重要ナルハ言論ノ自由及ヒ裁判所ノ決定ナクシテ人民ノ身體ヲ犯サ、ルコト及ヒ其他多クノ特典ヲ人民ニ附與スルコトニシテ是等ノ要求ヲ審議スル爲メ千八百九十八年十月三十日大會ヲ設ケ社會ノ各階級ノ代表者ヲ召集シ上ハ大臣ヨリ下屠獸業者ニ至ルマテ之ニ出席シ皇帝ハ大會ノ願意ヲ採用スルコトヲ約シタリ然レトモ皇帝ハ其請願運動ニ關係シタル大臣ヲ罷免シタリ

獨立俱樂部ハ大臣ノ罷免ニ激發シテ更ニ頻々示威運動ヲ爲シタリ此時皇帝ハ軍隊及ヒ警察ニ信任ヲ置カサルカ故ニ行商者ノ團體ニシテ國內ニ勢力アル負祿商ニ助力ヲ求メ負祿商ハ皇帝ノ召集ニ應シテ重挺ヲ携ヘ大ナル白帽ヲ戴キ大數京城ニ入來リ獨立俱樂部員ト數回ノ格闘ヲ爲シ俱樂部員ハ大臣及ヒ其他反對黨ナル大官ノ家屋ヲ破壊セリ皇帝ハ事ノ非ナルヲ見且ツ事ヲ極端ニ導クヲ欲セス負祿商ニ退却ヲ命シ千八百九十八年十一月二十六日獨立俱樂部ニ對シテ大讓歩ヲ爲シ是ヨリ京城ノ物情漸次平穩ニ復シタリ千八百九十八年九月十一日皇帝ヲ毒殺センコトヲ圖リ珈琲ノ中ニ毒ヲ混シタル藥物ヲ準備シタルモノアリ其嫌疑者トシテ「キム、ホム、ニユク」ナル者拘引セラレ裁判ニ附セラル此時司法大臣ハ之ヲ處スルニ韓國ノ舊法ニ依リ拷問、四裂、斬首、財産沒收及ヒ犯人ノ親族親友ノ死刑ヲ之ニ適用センコトヲ提言シタリ是等ノ法律ハ既ニ千八百九十四年ニ廢止セラレタルモノナリ獨立俱樂部員之ヲ聞クヤ公會ヲ開キテ判決ノ不當ヲ訴ヘ現司法大臣ハ殘酷ナル舊法ヲ回復シテ堂々タル皇帝ノ誓言ヲ破ルヲ願ミス國民ハ此ノ如

キ大臣ニ生命財産ヲ委スル能ハス宜シク之ヲ免黜スヘシト宣言シタリ然レトモ獨立俱樂部ノ反對ハ其效ヲ奏セスシテ「キム、ホン、ニユク」ハ拷問ニ附セラレ懸刑セラレ其死骸ハ一牛ニ牽カレテ碎裂セラレタリ」近來韓政府ノ施設ニシテ經濟上ノ發達ニ重要ナル關係ヲ有スル事項ハ新タニ貿易港ヲ開キタルコトニテ即チ千八百九十七年十月一日ヨリ木浦及ヒ鎮南浦ヲ千八百九十九年六月一日ヨリ馬山浦、群山、平壤及ヒ城津ヲ開キタリ

道路

道路ノ部分的記述ニシテ北韓ニ關スルモノハ「ルベンツォーフ」ストレリビーツキー「ウエーベリ」諸氏ノ精細ナル調査ト千八百九十四年「ヅキラード」氏ノ支那稅關ノ爲メニ編纂シタル韓半島ノ地圖トニ據リ本篇ノ終リニ示シタル簡單ナル南韓ノ道路誌ハ主トシテ「ヅキラード」氏ノ地圖及ヒ千八百九十七年千八百九十八年ノ官版韓國地圖ニ據リタルモノナリ

北韓ノ道路 本書ニ添付スル地圖ニ見ユルカ如ク北韓ニハ道路甚タ多カラス且ツ慶興元山間及ヒ義州京城間ノ道路ヲ除クノ外ハ駄道或ハ細小ナル歩行路ニシテ之ヲ良好ナル車道ト爲スニハ大ナル勞費ヲ要スル所ノモノナリ茂山及ヒ甲山間ニ於ケル清境ノ道路ハ殆ント人口ナキ土地ヲ通過スト雖トモ其他ハ皆道路ニ沿ヒテ住民地アラサルハナク二三十町ノ間部落若クハ村落ヲ見サル處ハ殆ント之無シト云フモ不可ナシ而シテ住民地ハ通常道路ヨリ少シ離レテ谷ノ麓ニ散在シ道路ノ直側ニハ只旅舍若クハ附近ノ人民ノ市場タル寂寥タル村落ヲ見ルニ過キス

以下記述スル所ノ北韓ノ道路ハ便利ノ爲メ之ヲ分チテ初メニ極北ノ三道路即チ慶興附近ニ於テ京城ト露境ヲ連絡スル道路、義州ニ於テ京城ト清境トヲ連絡スル道路及ヒ慶興義州ヲ連絡スル所ノ北境ノ道路ヲ記述シ次ニ此ノ三道路ヲ連絡スル所ノ小部分ニ及フヘシ

一、露境ヨリ京城ニ至ル道路 此道路ハ慶興市ノ豆滿江邊ニ起ル豆滿江ハ此ノ地點ニ於テ廣サ約二百六十間ニシテ徒涉スルコトヲ得

此道路ハ慶興ヨリ出テ初メハ北向シ夫レヨリ市ノ西壁ニ近キ處ニ沿ヒテ延長シ同市ヨリ二十町ノ地ニ在ル「ツー、コガ」嶺ニ登ル此ノ嶺ヨリ豆滿江ニ下ル所ハ距離短クシテ險峻ナリ尙ホ此ノ河ニ沿ヒ上流二里半ノ地、同河ノ支流ナル「ア、オ、チ」阿、晉、地河ノ河口ニ至リ更ニ延長シテ此河ノ支流ニ沿ヒ慶興ヨリ十三里ヲ距ル「ア、オ、チ」阿、晉、地村ニ達シ夫レヨリ慶興ヲ去ル三里三十二町及ヒ四里十六町ノ地ニ於テ二ヶ所ノ坂ヲ踰エ「トン、ミヨン」河ノ稍廣キ谷ニ入り其谷ニ沿ヒテ四里六町ノ延長ノ間高マリテ「ソ、リ、コガ」嶺ニ至ル

「トン、ミヨン」河ノ谷ハ其入口ヨリ三里二町ヲ距ル「トン、ミヨン」驛ヲ過キテ次第ニ狹クナリ「ソ、リ、コガ」嶺ハ之ヲ下ルニ漸次困難ヲ増スト雖トモ韓國ノ馬車ハ尙ホ自由ニ通過ス此嶺ニハ松樹アリ地名「ソ、リ」ハ松ノ意味ナリ此嶺ヨリ二十五町ノ所ニ至リ道路ハ「ド、ブ、トン、マ」河ノ小支流ニ沿ヒテ行キ「トン、ミヨン」驛ヨリ四里六町ノ地ニ於テ徒涉場(廣サ九間)ヲ過キテ「ド、ブ、トン、マ」河ノ谷ニ沿ヒテ上リ其河ノ左支流ノ谷ニ沿ヒテ遂ニ「トン、ミヨン」驛ヨリ四里二十六町ノ地ニ在ル「ドルモ、コガ」嶺ニ上ル道路ハ尙ホ進ミ前記ノ嶺ヨリ十町ニシテ「ノ、ク、ヤ」(「ド、イ、ヤ、ム」)驛ニ達シ其驛ヲ經テ二里半ノ

間、谷ニ沿ヒ「カー、ビルリヨン」嶺ニ向テ次第ニ上ル其嶺ヨリ「マングクテギ」河ノ谷ニ沿ヒ「トク、サン」
 (クルサン、ツアーム) 驛ニ至ル此開始メノ三十五町ハ廣葉樹ノ鬱林ヲ通過シ嶺ニ近ツキ昔ノ村落ノ跡ヲ
 過ク「トク、サン」驛ハ「ノーク、ヤー」驛ヨリ五里三十町ノ地ニシテ之ヲ過クハ丸太ノ堅固ナル橋二個ニ
 依リテ「マングクテギ」河ノ兩支流ヲ横斷シ然ル後夥多ノ谷及ヒ低地ヲ過キテ五里ヲ走り茲ニ「ブー、ゴ
 ー」河ノ谷ニ出ツ「ブー、ゴ」河ノ谷ノ入口ヨリ十町ノ地ニアル「ブー、ゴ」村ヲ出テ、此河ノ二個所(廣
 サ六間及ヒ七間河底ハ石)ヲ徒涉シ連綿タル稻田ノ谷ヲ斜ニ横キリ宛モ谷ノ右岸ノ厚壁部ヲ爲ス所ノ高
 カラサル粘土質ノ坂ヲ追ヒ一里四町ニシテ「サリク、コガ」嶺ニ至ル夫レヨリ此嶺ヲ下リ一里二十四町
 ノ間住民地少ナキ「サリク」河ノ砂礫谷ニ沿ヒテ其坂ヲ遡ル此谷ニハ苦蓬ノ生スル所多シ夫ヨリ一度ナ
 ラス前記ノ河ヲ徒涉シテ横キリ二里二十八町ヲ行キテ「オー、ソン、ドン、コガ」嶺アリ「オー、ソン、ドン」
 河ノ谷ニ向テ此嶺ヲ下リ夫レヨリ其河ノ右支流ノ谷ニ沿ヒ「コアン、チュウ、ウオン、ニヨン」嶺ニ進ム此
 嶺ハ「ブー、ゴ」村ヨリ五里二十町ノ地ニ在リ嶺ノ上ニ城壁ノ跡及ヒ小サキ堂宇一個アリ坂ニハ松樹及
 ヒ廣葉樹アリ

嶺ヲ下ルノ後二里半ノ間「ター、ゴリ」(ターゴリ)河ノ曲谷ニ沿ヒ其河ト「ター、チオン」(チー、ケン、チ
 ヨン)河ノ會流點ニ至ル

嶺ヨリ三十町ニシテ「トホー、マー、コリ」村アリ之ヲ過キ十五町ノ間狹クシテ兩岸ハ絶壁ナル峽地(廣サ
 五十八間ニ過キス)ニ沿ヒ此ノ峽地ノ末ハ廣キ谷ト爲リ數回「ター、ゴリ」河ノ徒涉場(廣サ七間乃至四間
 ニシテ河底ハ大粒砂)ヲ渡リ「ター、チオン」河ニ至リ之ヲ渡リテ「トホー、マー、コリ」村ヨリ一里二十四町

ノ地ニ進メハ又徒涉場アリソレヨリ同河ノ支流ニアル小サキ徒涉場ヲ渡ルコト二回ニシテ「スーシオン」
 (シユー、セン、ツアム)村ニ入ル此村落ヲ出レハ「ター、チオン」河ノ谷ノ右岸ニ沿ヒ夥多ノ粘土質ノ坂ヲ
 踰エ「スー、シオン」村ヨリ二里二十八町ニシテ「バオート、バー、ウイ」河ノ急流ヲ徒涉ス此河ハ秋ニハ橋ヲ
 架スト雖トモ夏ハ大雨ノ後汎濫シテ水勢ヲ増シ流失ノ恐レアルカ故ニ橋梁ヲ徹ス此河ヨリ三里二町ヲ行
 ケハ高カラサレトモ急峻ナル粘土質ノ坂アリ此坂ハ「バオー、バー、ウイ」河ト其次ニ來ル所ノ「ナー、チヨ
 ク、トー、イー」(ナーチヨフトイムリ)河ノ海岸ニ近キ谷トノ分水界ヲ爲ス道路ハ夫レヨリ三里十二町ヲ
 進ンテ二枝ニ岐レ何レモ鏡城ニ向フ西枝ハ東枝ヨリハ便ナリ「スー、シオン」村ヨリ三里三十二町ノ所ニ
 又嶺アリ此嶺ハ「ナー、チヨク、トー、イー」河ノ谷ト「ハー、サン、ドー」(チュンベイ)河ノ谷トノ分水界タ
 リ夫レヨリ一里二十四町ヲ行キ「ハー、サン、ドー」河ノ徒涉場アリ深サハ二呎半ニシテ廣サハ三間半ナリ
 尙ホ此河ニ沿ヒテ進メハ露境ヨリ三十六里二十四町ノ處ニ鏡城アリ

慶興鏡城間ノ道路ハ大概砂交リノ粘土若クハ純粘土質ニシテ處々多ク石礫ヲ混シ又時トシテ礫石ヨリ成
 立スル部分モアリ
 鏡城ノ西門ヲ出ツレハ「トク、サン」(ヲツヤーケンムリ)河ノ谷ニ沿ヒテ遡リ二十町ヲ行キテ此河
 ニ橋アリ然レトモ此河ハ到ル所徒涉スルコトヲ得但其兩岸ハ險峻ナリ尙ホ進ンテ谷ノ右岸ノ下ナル高地
 ヲ行キ二十町ニシテ「トク、サン、チオン」河ニ會注スル「シユブ、ニー、ケン、ムリ」ノ河口ノ二支流ヲ經テ
 徒涉シ其谷ヲ遡リ一里二十四町ニシテ粘土質ノ小嶺アリ一里四町ノ間「キコリ、ムリ」河ヲ一度ナラス徒
 涉シテ谷ニ沿ヒ夫レヨリ「ツー、ウイル、オン、チオン」(ブク、チオン)河「ナム、チオン」河及ヒ海岸ヨリ約

二十五町ヲ距ル^{市老知}「ボロデー、ムーリ」河ノ廣キ谷(四里マテ)ヲ横キル

鏡城ヨリ三里三十二町ニシテ「^水ヨン、^康ガン」(ヨン、カン、ツアーム)ノ郵便驛アリ此驛ノ附近ニテ道路ハ「^水ヨン、^康ガン」河ノ短カキ谷ニ入り之ニ沿ヒ「ヨン、ニヨン」嶺ニ向ヒテ遡ル嶺ハ鏡城ヲ距ルコト四里二十六町ニシテ之ヲ上下スルニ困難ナシ此嶺ヨリ「ヨン、ゴリ」(ヨン、コル、ムリ)河ノ谷ニ沿ヒテ行ク、此谷ハ粘土質大砂礫地ニシテ間隙ナク耕作セラル嶺ヨリ六里十六町ニ到リテ「ツ、ツホン、チヨン」(イルリ、ムリ)河ノ海岸谷地ニ入ル嶺ヨリ六里二十四町ニシテ再ヒ狭キ低地ニ入り之ニ沿ヒテ又嶺ニ上ル此嶺ハ前者ヨリハ著シク短カク車ノ通行ニ十分ナル便利ヲ有ス地質ハ粘土質ノ砂地ナリ嶺ヲ踰エテ二十町ヲ行キ更ニ瓊々タル嶺ヲ踰エ廣キ海岸谷地ニ到リ其左岸ニ沿ヒテ遡リ「ツ、ツホン」(チユー、ツホン、ツアーム)驛ニ至ル驛ハ鏡城ヲ距ルコト八里十二町

夫レヨリ「ツ、ツホン、チヨン」河ヲ徒涉シ「ツ、ツホン」驛ヨリ三十町ニシテ狭キ低地ニ入り之ニ沿ヒテ粘土石質ノ臺地ニ上ル

此ノ臺地ハ「ツ、ツホン、チヨン」河ノ谷ヨリ「ミヨン、ガン」河ノ谷ニ延長シ二個ノ土堤ヲ形リ右堤ハ道路ニ沿ヒテ計レハ長サ約一里十四町アリ夫レヨリ道ハ低坦ニ向ヒ約二里八町ヲ進ミテ其堤ヲ横キル低堤ハ殆ント其中央ニ於テ「ウ、オン」河ノ曲峽ヲ以テ横斷セラル此峽地ハ廣サ約三百五十町ニシテ兩岸屹立シ深サ約七十間アリ此峽地ノ底ニ急流アリ急流ノ底ハ石ニシテ廣サ六十四間深サ二呎半アリ峽地ノ登降ハ急峻ナリト雖トモ尙ホ二頭索馬車ヲ通過セシムヘシ

「ツ、ツホン」驛ヨリ六里四町ニシテ「^地ミヨン、^境ガン」河ノ三支流ヲ徒涉シ夫レヨリ「^地チ、^境ギヨン、^峴チヨン」

(チ、ゲンジャン)村(河ヨリ二十町)ヲ經テ樹木多キ支山脈ニ上ル此支山脈ハ「^水シヨン、^康ガン」河ノ谷ノ右岸ヲ成スモノニテ之ヲ下レハ再ヒ「^水シヨン、^康ガン」河ノ谷ニ出ツ

「チ、ギヨン、チヨン」村ヨリ一里十四町ニシテ明川ノ小都會アリ明川ヲ出ツレハ「^水ミヨン、^康ガン」河ノ一支流ノ砂石質底地ニ沿ヒ「チ、キヨン、チヨン」驛ヨリ一里三十四町ノ處ニテ歩々支山脈ニ上ル其支山脈ハ此支流ノ谷ノ右岸及ヒ「サン、スー」(シヤン、シユー、ムリ)河ノ谷ノ左岸ヲ形成ス「サン、スー」河モ同シク「^水ミヨン、^康ガン」河ニ注ク夫レヨリ「サン、スー」河ヲ徒涉スルコト二回ニシテ其河ノ谷ニ沿ヒ約二里三十三町ノ間上リ行ク

「チ、ギヨン、チヨン」村ヨリ三里二町ノ處「サン、スー」河ノ左岸ニ「サン、スー、チヨン」ト稱スル一寒村アリ「チ、ギヨン、チヨン」村ヨリ五里十町ニシテ嶺アリ其次ニ又高カラサル嶺アリ之ヲ踰ユレハ「^水チ、^康ム、^水ドー、^康ガン」(クフィン、クソレ)河ノ谷ニ入ル此河ノ右岸ニ「^水コー、^康ツアーム」(コーチヨム)或ハ「^水ウエー、^康ベル」ノ説ニハ「^水カーツ、^康ツアーム」驛アリ

「^水コー、^康ツアーム」驛ヨリ三十町ニシテ嶺アリ粘土質ノ狭キ底地ニ沿ヒテ之ニ登ル此底地ハ粘土ナルカ故ニ降雨ノ時ニハ通行甚タ困難ナリ嶺ヨリ三里十二町ニアル吉州マテノ間ハ漸次狭キ底地ニヨリテ下リ行ク

吉州ヨリ五里二十町ノ間「^水ブ、^康マン、^水チヨン」河ノ谷ニ沿ヒテ下リ「^水コー、^康ムン、^水デー」村ニ至ル

「^水コー、^康ムン、^水デー」村ヲ過キ底地ニ至リ之ニ沿ヒテ「^水チヤン、^康コガ」嶺ニ登ル(其間ニ「^水ブ、^康マン、^水チヨン」及ヒ「^水イー、^康マン、^水チヨン」兩河ノ分水界タル支山脈ヲ踰ユ)「^水コー、^康ムン、^水デー」村ヨリ一里四町ニシテ「^水イー、^康マン、^水チヨン」

マン、チヨン「驛アリ嶺ノ高サハ約八十二間ナレトモ其登降ハ傾斜緩ナリ」イー、マン、チヨン「驛ヨリ約二里半ノ間道路ハ」イー、マン、チヨン「河ノ廣キ谷ヲ横切り漸ク」ブラクシン「灣ノ岸ニ近ツク又」コー、ムン、デー「村ヨリ十里ノ處ニ」イー、マン、チヨン「河ノ橋アリ(徒渉スルコトヲモ得)而シテ三里二十二町及ヒ四里六町ノ處ニ」サム、ブホー「(サムブホー、ムーリ)河ノ支流ニ數個ノ橋アリ此處モ亦徒渉スルコトヲ得夫レヨリ些々タル」サン、ガー、コガ「嶺(」コー、ムンデー「村ヨリ四里十六町)ヲ踰エテ再ヒ廣キ海岸谷地ニ入ル此ノ谷地ハ」ブラクシン「灣ノ西岸ニ近シ

吉州ヨリ十一里四町ヲ距ル「シヨン、チン」驛ヨリ「マーチヨルリヨン」(マテリエンダ)嶺ノ登路漸ク始マル「マーチヨルリヨン」ハ海拔二千三百八十呎ノ高サヲ有シ地質ハ粘土質石ニシテ「オホー、サン、ドー」村(「シヨン、チン」驛ヨリ二里二十八町)ノ南端ヨリ登路甚タ困難トナル此村ヨリ道路ハ約一里四町ノ間低地ノ左岸ノ臺地ニ沿ヒテ屈曲纏綿シ此部分ハ車輛ノ通行殆ント難ク之ヲ過キテ頂上マテノ間ハ傾斜比較的緩ナリ頂上ニハ二個ノ小屋及ヒ一個ノ堂宇アリ此處ヨリ海面ノ絶景ヲ眺ムヘシ降路ハ登路ニ比スレハ甚タ容易ナリ

「シヨン、チン」驛ヨリ五里十町ノ所ニ「ツームー」(ツームーコリ)ト稱スル小村アリ夫レヨリ一里十九町ヲ行ケハ「マーゴク」(マア、コク、ツアム)驛アリ「ツー、ムー」村ヨリ初メノ二里半ノ間ハ「マー、ゴク、チヨン」河ノ低地ニ沿ヒ夫レヨリ「バク、サー、ガン」(ブーク、ター、チヨン)河ノ谷ニ沿ヒテ「トン、チュウ」村(「ツー、ムー」村ヨリ十八里)ニ至リ砂質粘土ノ坂許多ヲ經テ端川市附近ニ至ル「パーク、サー、ガン」河ノ谷ハ大ニ屈曲シ兩岸ノ大分部ハ峻險ニシテ道路ハ其河邊ノ臺地ニ沿ヒ蜿蜒タル所アリ「端川市アリ西南

門ヲ出テ數個ノ橋ヲ渡リテ斜ニ「ナム、ター、チヨン」(タン、チヨン)河及ヒ「タン、ニヨン」(「ウエーベリ」ノ説ニ依レハ「ブク、ター、チヨン」)河ノ共同谷地ヲ横斷シ右ノ橋梁ノ外尙ホ是等諸川ノ支流ニ架シタル數個ノ橋ヲ渡ル

夫レヨリ「タン、ニヨン」河及ヒ「ノー、ドン」河ノ分水界タル樹木多キ瑣々タル支山脈ヲ踰エテ「ノー、ドン」河ノ谷ニ入り之ニ沿ヒ次第ニ高マリテ「タン、グー、リヨン」嶺ニ登ル此嶺(端川市ヨリ四里二十六町)ノ頂上ハ其狀勢「マー、トヒヨルリヨン」嶺ニ於ケルカ如シ嶺ノ附近ニ臺地ニ沿ヒテ上下スル處アリ嶺ヨリ細流ノ狭谷(底ハ圓細石)ニ沿ヒ端川市ヲ距ルコト五里二十町ノ處ニ於テ「ナム、ター、チヨン」河ノ流域ナル廣キ海岸谷地ニ入ル此谷ノ左岸ノ麓ニ「コク、リ」驛アリ此驛ハ「コクツアム」トモ稱シ端川市ヲ距ルコト五里三十町ナリ

「タン、グー、リヨン」嶺ハ「ウエーベリ」ノ言ニヨレハ海拔千三百呎アリ夫レヨリ尙ホ二十二町ノ間「ナム、ター、チヨン」河ノ谷ヲ横キリ其河ヲ橋ニ依リテ渡リ「ラフ、チン」島附近ノ海ニ向テ突出スル小支山脈ヲ踰ユ此支山脈ハ「ツハン、ター、リヨン」嶺ト稱シ前記ノ谷ヨリ十七間高シ若シ此嶺ニ於テ長サ十二間ノ狭深ナル巖石ノ狹路ナクハ車輛ノ通行ノ爲メ全然便利ヲ有スヘシ夫レヨリ一部分ハ海岸ノ砂丘ニ依リ一部分ハ松樹ヲ有スル高カラサル礫地ヲ通過シ又一部分ハ稻田ノ谷ニ沿ヒテ利源市ニ到ル

利源市ヨリ十五町ノ處ニ於テ「ナム、ター、チヨン」小河流(利源市ニ於ケル廣サ六十五間)ノ橋ヲ經テ十町ヲ間稻田ニ沿ヒ「シリ、ン、ツアム」驛ニ至リ其驛ヨリ一里九町ノ間松樹アル高カラサル礫地ニ沿ヒ「バル、

ラダ「海ノ附近ニ到ル

五〇〇

端川市ヨリ二里十八町ノ處ニ高カラサル「ムーン、コガ」嶺アリ此嶺ヨリ一里三十四町ノ間狭キ低地ニ沿ヒテ進ミタル後端川市ヨリ四里二十六町ノ處ニ再ヒ支山脈アリ、踰エ行クコト二十町ニシテ終ル此支山脈ニハ松生ス尙進ミテ端川市ヨリ五里十町ト二十里ノ處ニ至リ海岸ノ小谷地ヲ横キル其谷地ニハ「ツサ^角ン、サー、チー」村(「ルベンツォーフ」之ヲ「コンサボ」村ト稱ス)アリ夫レヨリ十三町ノ間海岸ニ沿ヒ支山脈ノ斷崖ヲ迂廻ス

夫レヨリ「コー、サン」村(利源ヨリ六里二十町)ヲ通過シテ始メハ「ノー、ムレ、ガン」河ノ谷ニ沿ヒテ遡リ「ノー、ムン、ガン」河及ヒ「オー、チヨン」河(「ナム、ダー、チヨン」河ノ北青ニ於ケル名稱)トノ分水界タル支山脈ヲ踰エ三ヶ所ノ瑣々タル坂ヲ過キ「オー、チヨン」河ノ廣キ谷ノ左岸ニ浴ヒ北青ニ到ル北青ノ西南門ヲ出テ「オー、チヨン」河ノ諸支流ニ架スル橋ヲ渡ルコト十二回ニシテ同河ノ廣キ谷(一里十四町マテ)ヲ横キル此河ハ附近稻田ノ用水ニシテ到ル所徒涉スルコトヲ得ヘシ北青ヨリ一里三十四町及ヒ二里半ノ處ニ二小嶺アリ即チ「トル、コガ」嶺及ヒ「キム、ハン、ドン、コガ」嶺ニシテ皆登リ易シ此兩嶺ノ間ニ於テ鑿形谷地ヲ横斷ス其谷地ニ「カハシー、キム、ハン、ドン」村アリ

「ウエーベル」氏ハ北青ヨリ一里四町及ヒ三里三十二町ノ處ニ於テ登リ易キ二個ノ嶺アルヲ指示シ其名ヲ「サン、ガリーリヨン」嶺及ヒ「ボキルレイ」嶺ト呼ヘリ

北青ヨリ四里二十六町ニシテ前記ノ嶺ヨリハ高キ「ホー、デルリヨン」嶺アリ此處ハ稜アル砂利質ノ土地ナリト雖トモ道路ハ堅牢ニシテ石ヲ敷キタルカ如シ

夫レヨリ「フヒヨン、ブホー」村(北青ヨリ七里八町)ヲ經由シテ一里二十四町ノ間「ブーシク、チヨン」河ノ谷ニ沿ヒタル後海岸ヲ經、海ニ傾斜スル多クノ高カラサル支山脈ヲ踰ユ

夫レヨリ「ホン、オン」(北青ヨリ十二里半)ヲ經テ八里ノ間人口多キ「シヨ、ター、チヨン」河ノ谷ヲ横キル河ハ淺クシテ徒涉シ難キ處ナシ「ホン、オン」ヨリ三里三十二町ノ處ニ「ハム、オン」驛アリ此驛ハ「シヨ、ター、チヨン」河ノ右岸ノ廣キ谷ニアリ「此驛ヲ經テ次第ニ「ハム、コアーリヨン」嶺ニ向テ遡ル嶺ハ「ホン、オン」ヨリ五里ノ地ニ在リテ之ニ達スルノ前十町ノ處ヨリ特ニ險峻ナル坂トナル但此嶺ノ鞍形背ハ深サ七間開削セラレタルニ依リ最モ險峻ナル部分モ登ルニ易シ此嶺ヨリ「セスタコフ」港ノ絶景ヲ望ムヘシ道路ハ駄獸ノ通行ニハ概シテ便利ナリト雖トモ兩面ノ坂ノ險峻ナル部分ハ車輛ノ爲メニ困難ナリ進ミテ「インドン」村(「ホン、オン」ヨリ六里二十町)ノ前二十五町ノ處即チ「シン、プフン」村(シン、ブンヨリ)附近ニ至レハ「ホー、トハリ、チヨン」河ノ谷ハ急ニ西南ニ屈曲シ其方向ヲ違ヘスシテ咸興ニ到ル故ニ「シン、プフン」村ヨリハ既ニ咸興ノ白壁ヲ見ルヲ得ヘシ此間ノ道路ハ河ノ巖石多キ臺地ヲ通過スル部分モアリテ概シテ谷ノ右岸ニ沿フ「イン、ドン」村ヨリ二里二十八町ニシテ「トク、サン」驛アリ此驛ヨリ北ノ方甲山市ニ向フ

咸興ヨリ城川江ノ橋ヲ渡リ三里二町ノ處ニ於テ殆ント空隙ナク耕サレタル廣キ谷ヲ横キル此谷ハ城川江ノ外尙ホ數個ノ河川ヲ包有シ其河川ニハ皆橋アリ是等ノ川ハ何レモ徒涉ニ堪フト雖モ兩岸險峻ナルカ故ニ橋ナクテハ通行甚タ不自由ナリ城川江ハ咸興ノ上方及ヒ下方ニ於テ徒涉スヘシ咸興ヨリ元山マテハ比較的開廠地ニシテ夥多ノ粘土質ノ坂アリ、ソレヨリ定平ノ前二里二十八町ノ間ハ七度瑣々タル坂路ヲ踰

ニ其間多クハ橋梁ヲ架シタル數多ノ河アリト雖皆甚タ大ナラス定平市ハ咸興ヲ距ルコト五里二十町ナリ
 定平ヨリ七里八町ニシテ「ナムツホン」ニ到ル此間ノ道路ハ咸興定平間ノ道路ト其狀況ヲ同ク定平ヨリ
 四里六町ノ處ニ「ワホー、オン」^{草原}驛アリ同四里十六町ノ處ニ城川江アリ同五里二十町ノ處ニ「クキム、ブハ
 一オン」^院村ノ谷アリ谷ニ於ケル道路ハ甚タ惡シク殆ント總テ稜角アル砂利ヲ以テ充タサル
 夫レヨリ「ナームツホン」村ヲ經テ尙ホ一里四町ヲ進メハ永興市ニ來ル市ハ永興川ノ右岸ニ在リ永興川ノ
 三支流ハ何レモ徒涉スヘシ永興ヨリ三里二十二町ニシテ「サー、ツハン、ニー」ト稱スル大村落アリ戸數百
 五十ヲ算ス同五里ニシテ德川江（或ハ「ルン、ガン」）ノ橋アリ此處ノ道路ハ粘土質ニシテ降雨ノ時ニハ駄
 獸モ人モ歩行ニ難ム

尙ホ進ンテ「ナーム、ツホン」村ヨリ五里二十町ノ地ニ位スル高原市文川市（高原ヨリ四里十六町）文坪里
 村（文川ヨリ二里半）及ヒ德源市（文川ヨリ四里十六町）ヲ經テ元山（德源ヨリ一里九町）ニ至ル文川ヨリ元
 山ニ到ル間ノ道路ハ一度ナラス細流ヲ横キル其細流ハ皆徒涉スルコトヲ得

元山ヨリ京城ニ至ル大道路ハ元山ヨリ南折シテ「ナムチヨン」^{狹川}市ノ附近ニ至リ其間安邊、淮陽、金化ノ諸
 市ハ之ヲ側方ニ見金城市ハ之ヲ通過シ「ナム、チヨン」ヨリ西南ニ折レ永平抱川及ヒ楊州ノ諸市ヲ經楊州
 ヨリ直チニ京城ニ至ル元山京城ノ距離七十四里ヲ算ス

京城仁川間ノ道路ハ慶興京城間ノ道路ト直接ニ連絡シ京城ノ西門ヨリ出テ、先ツ平坦ナラサル場所ヲ通
 過シ其道路ハ極メテ惡シク京城ヨリ若干距離ヲ進ムノ後小河ヲ渡リ夫レヨリ坂ヲ踰ユ京城ヨリ一里三十
 四町ニシテ漢江ノ北岸ニ「ヨン、サン」村アリ其村ヨリ仁川マテノ距離ハ約九里二十六町ト稱ス「ヨン、サ

ン」村ニ於テハ漢江ヲ渡ルニ橋ナシ故ニ渡船若クハ端船ヲ用フ之ヲ渡レハ道路ハ稻田及ヒ大ナラサル森
 ノ中ノ小丘地ニ沿ヒテ直チニ仁川ニ到ル

此ノ道路ハ乾燥ノ時ニ於テモ甚タ不満足ニシテ降雨ノ時ハ全ク通行ニ適セス即チ降雨ノ時ニハ漢江ハ岸
 上ニ汎濫シテ京城附近ノ道路ノ一部分ヲ浸シ其ノ浸サレサル處ハ土壤溶解シテ泥濘トナリ車輛ノ通行ハ
 全ク杜絶ス但シ乾燥ノ時ニハ京城ト仁川間トニ貨物ノ運搬盛ンニシテ通行スルニモ賑カナリ貨物ノ大部
 分ハ馬ニ駄シ馬ハ十時間ヲ以テ達ス又牡牛ニ駄スルモアリ此ノ場合ニ於テハ片道ニ二三日ヲ費スコトア
 リ

路傍ニ里程表アリト雖モ其距離甚タ一定セス

前記慶興京城間ノ道路ノ通過スル部分ニハ幾多ノ支線アリ支線ハ幹線ヨリ出テ幹線ト並行シテ若干距離
 ヲ通過スルノ後又幹線ニ合ス

右ノ支道ヲ北ヨリ列記スレハ左ノ如シ

（イ）沿岸支線 此道路ハ慶興ヨリ一里十四町ノ地ニ於テ慶興京城間幹線ヨリ岐レ豆滿江ノ右岸附近ヲ通
 過シ分岐點ヨリ一里二十四町ノ地「タウリ」村附近ニ於テ谷地ニ入り之ニ沿ヒテ高嶺ニ登リ同三里十二
 町ニシテ又瓊々タレドモ險峻ナル嶺アリ同五里ニシテ「ヨン、グイ、リヨン」^蘆（オン、グイ、ニエング）嶺アリ
 此嶺ハ著大ニシテ歩行困難ナリ此嶺附近ノ道路ハ急斜セル高地ニ沿ヒ通行困難ナリト雖モ尙ホ概シテ車
 輛ノ運動ヲ許ス夫レヨリ慶興ヲ距ル六里十四町ノ地ニ在ル「ヨン、グイ」^蘆（オン、グイ）村ヲ經細小ニシテ何
 レノ處ニテモ徒涉シ得ヘキ若干ノ河川ヲ横リ是等ノ河川ノ内「ヨン、グイ」村ヨリ一里十四町ニシテ此道路

ヲ横キルモノアリ沼ノ性質ヲ帯ヒ降雨ノ時ニハ之ヲ徒渉スルニ幾分カ困難ナリ此川ノ左岸ノ高地ヨリ「ガシユケウイチ」灣ノ西部水面ノ絶景ヲ望ムヘシ

尙進ムコト三里十二町ニシテ「コアン、ゴ、リヨン」嶺アリ此嶺ハ概シテ韓國馬ノ通行ニ堪ヘ之ヲ下レハ「コルニ、ロフ」灣ノ北端ニ傾下スル廣キ谷ニ入ル谷ハ低クシテ粘土質ノ土壤ヨリ成リ道路ハ此處ニテ數個ノ小河川ヲ横斷ス是等ノ河川ニハ其兩岸ニ大ナラサル沼地ヲ有スルモノアリ

「ヨン、グイ」村ヨリ四里三十一町ノ地ニアル「ウリ、シヨン」(ウレ、シエング)村ヲ通過シ二里三町ノ間高カラサル支山脈ノ脚部ニ近キ「コルニドク」灣ノ低岸ニ沿ヒ海ニ向テ斗出スル多クノ小谷地ヲ横キル

「シエザブリ」村附近ニ於テ道路ハ海岸ヲ離レ低地ニ沿ヒテ支山脈ニ登ル此支山脈ハ急ニ海岸ニ傾キ其後面ノ平坦ナル部分及ヒ同方面ノ脚部ニ連ナル谷ニハ種々ノ草繁茂ス而シテ道路ハ此谷ヲ斜ニ通過シテ其右岸ノ脚部即チ殆ント灣ノ處ニ達シ夫レヨリ二百三間ノ間ハ五十一間ノ高サヲ有スル谷ノ右岸ヲ登リ以後「サー、ゴ、ミー」村マテハ道路ハ海岸ヲ通過ストハ雖モ其大部分ハ海ニ向テ突出スル所ノ支山脈ノ斜面ノ頂部ニ近キ處ニ沿フ「サー、ゴ、ミー」村ハ灣ニ突出スル所ノ谷ニアリ灣ハ東北ヨリ半島ヲ以テ限ラレ其半島ハ「リンデン」岬ヲ以テ終ル

「サー、ゴ、ミー」村ハ「ウーリ、シヨン」村ヲ距ルコト六里四町ニシテ道路ハ此村ヨリ小川ノ谷ニ沿ヒ入江ノ岸ニ出テ「サー、ゴ、ミー」村ヨリ三十町ニシテ「シヨ、チヨン」(シヨウウチエン、ハムムリー)河ノ徒渉場アリ廣サ三十五間「サー、ゴ、ミー」村ヨリ三里二町ニシテ「フィンコガ」嶺アリ同三里二十二町ニシテ谷アリ道路ハ此谷ニ沿ヒテ海ニ突出スル峽地ニ向ヒ之ニ入ラスシテ急ニ西ニ折レ夫レヨリ粘土石質ノ谷

ニ沿ヒテ高マル

「サー、ゴ、ミー」村ヨリ三里三十二町ニシテ「ブ、ゴ」^{宿居}谷ノ左岸ヲ成ス支山脈ニ頗ル艱難ナル坂路アリ之ヲ下リテ「ブ、ゴ」村ニ到ル「ブ、ゴ」村ハ「サー、ゴ、ミー」村ヨリ四里十六町露境ヨリ二十四里三町アリ

以上記載シタル所ノ支線ハ之ヲ同一地點間ヲ通過スル幹線ニ比スレハ幾分カ短シ然レトモ其代リニ大ナル坂路ヲ有スルヲ以テ通行不便ナリ

(ロ)「ス、シヨン」^{輸城}村ヨリ明川市ニ至ル道路「オ、ユ、ガ」^{魚游淵}「堡」^{吾村}「オ、ツホン」^森及ヒ「サン、サン、ツハ」^坡經由)

此道路ハ幹線ノ西方ヲ通過ス

(ハ)吉州ヨリ城津ニ至ル道路「ター、ブヒオン」「ターベン」及ヒ「サン、サン、ブハー」經由) 此道路ハ幹線ノ西方ヲ通過シ延長十二里三十三丁

千八百九十五年十二月「アリフタン」氏此道路ヲ踏査セリ

(ニ)利原ヨリ北青ニ至ル道路「コルリオン」^香嶺及ヒ「ターハーター」村經由) 此道路ハ幹線ノ西方ヲ通過シ其延長十三里六十二町

「アリフタン」氏此道路ヲ踏査セリ

(ホ)北青ヨリ「ホン、オン」ニ至ル道路「ムン、ドン」「ホン、マン、ブホー」「シン、ブホー」「シエスタコフ」港附近及ヒ「ヨン、ムー、ガヤン」經由) 此ノ道路ハ延長十五里三十二町

「アリフタン」氏此道路ヲ踏査セリ
(ハ)「^{洪原}ホン、オン」ヨリ成興ニ至ル道路(「ムンバン、ウイ」ヤツ、ター「ムリ、ゲイ」經由及ヒ「ウイチャイ」
ジ「^溇溇ノ傍ヲ過キテ「サク、コー、ニヨン」嶺經由) 此道路ハ大部分ハ海岸附近ヲ通過シ幹線ノ東南方ニ位
置ス延長十五里十町

「アリフタン」氏此道路ヲ踏査セリ
(ト)成興ヨリ高原ニ至ル道路(「コアン、ブホー」溇ノ傍ヲ通過シ「ブハン、グンヂヤン」村「シヨン、フン、
ニー」及ヒ「スン、アン」(「シユウナン」)經由) 此ノ道路ハ幹線ノ東方ヲ通過シ延長十八里十二町

「アリフタン」氏此道路ヲ踏査セリ
(チ)「^{德源}トク、オン」ヨリ京城ニ至ル道路 此ノ道路ハ「マンズイニエン」嶺ニ沿ヒ夫レヨリ「イーム、チン、ガ
ン」河ノ谷ニ沿ヒ伊川安峽「^{別壩}サン、ニヨン」澗川及ヒ楊州ヲ經由シ延長六十七里二十八町
二、義州ヨリ半島ノ西海岸ニ沿ヒ京城ニ至ル道路

此道路ハ義州(清境)ノ南門ヲ出テ六里十四町ノ間ハ一部分ハ高カラサル坂ニ由リ一部分ハ平原ニ沿ヒ道
路トシテ狀況甚タ良好ニシテ其幅二間二尺橋梁ハ完全ナリ地質ハ硬砂若クハ粘土質砂礫ニシテ天然ノ敷
石道ヲ爲ス義州ヨリ四里六町ニシテ「^{三巨里}シヨンコリ」村ヲ經、同シク五里ニシテ徒涉スヘキ川ヲ横キル但シ
此ノ川ニハ二十個ノ趾石ヨリ成立スル堅牢ナル一個ノ橋アリ道路ノ兩傍ニハ住民地頗ル多ク道路ノ附近
ハ坂路ヲ除ク外ハ殆ント空隙ナキ稻田タリ
義州ヨリ六里十四町ノ處ニ「^{口白馬}クハメ」村アリ之ヲ過キテ廣サ二町半乃至二十町ノ谷ニ沿ヒ次第ニ險阻ナ

ル^{四林}シ、エリーム、ニヨン」嶺ニ上ル嶺ノ上ニ牆壁ヲ有スル^{四林}シエリーム、チン」村アリ之ヲ過キテ後「^ケケ、
メー」村ヨリ二里半ニシテ龍川市ニ達ス市ノ道路ノ東方ニ支山脈高マリ西方ニ坂アリ坂ハ漸次低下シテ
海濱ニ至ル夫レヨリ道路ハ「^{鐵山}チヨリ、サン」市ヲ通過ス此市ハ龍川ヨリ三里十二町ニシテ之ヲ過クレハ道
路ハ谷ニ沿ヒ次第ニ嶺ニ上ル嶺ハ概シテ傾斜緩ニシテ其上ニ「^{東林}トン、イムシヨン」(トン、ニーム、シニン)
ト稱スル牆壁アリ

「チヨリ、サン」市ヨリ一里二十四町ニシテ道路ハ約一里ノ間舊市「^{東林}トン、イム」(トン、ニム、ブホーチー)ノ
牆壁ノ南側ヲ通過ス此市ハ日清戰爭ノ時破壊セラレタルモノナリ「チヨリ、サン」ヨリ二里二十八町ニシ
テ道路ハ「^{ツオン、サン、ザン}チヨン、サン、カン」川ノ廣キ谷ヲ横キル川ハ淺クシテ何レノ處ニテモ徒涉
シ得ヘシ此處ヨリ大ナラサル谷ニ入ル此處ノ通路ハ通行便利ニシテ天然ノ敷道ノ如シ

「チヨリ、サン」市ヨリ五里ノ處ニ「^{立川}シヨン、チヨン」市アリ之ヲ過キ險阻ナル坂ニ沿ヒテ谷ニ移リ「^宜シヨン、
チヨン」ヨリ二里二十八町ニシテ「^{郭山}バク、チヨン」川ヲ渡ル此河ハ何レノ處ニテモ徒涉シ得ヘシ「^宜シヨン、
チヨン」ヨリ四里十六町ニシテ「^{郭山}コアク、サン」市ニ達ス夫レヨリ若干ノ微々タル山嶺ニ由リ谷ヨリ谷ニ移ル
土壤ハ主トシテ砂質粘土ヨリ成ル「^{郭山}コアク、サン」ヨリ三里二町ノ處ニテ「^{定州}チヨン、チユウ」市ヲ過キ「^定チヨ
ン、チユウ」市ヨリ二十五町ニシテ細河「^{定州}ターリ、スーガン」(タルリヤシユウカン)ノ橋ヲ渡リ同シク三十
町ニシテ其河ノ支流ヲ渡ル夫レヨリ三里十七町ノ間ハ「^{定州}ターリ、スーガン」ノ谷ニ連接スル夥多ノ低地ヲ
横キリ然ル後七ツノ微細ナル山嶺ニ上ル道路ハ粘土質石礫ナリ^{定州}雖トモ谷ノ内ハ粘土ノミヨリ成ル低地
ハ到ル所稻田タリ夫レヨリ「^{定州}トク、トー、リー、ガン」河ノ谷ニ出テ「^{定州}チヨン、チユウ」市ヨリ四里六町ニシテ

巖石ヨリ成ル支山脈ヲ踰ユ其支山脈ハ連亘シテ河邊ニ達ス此支山脈ハ義州ヨリ平壤ニ到ル道路ノ最モ困難ナル處ナリト雖トモ工事周到ニシテ車輛ノ運動全ク自由ナリ而シテ西方ヨリノ登路ハ降路ヨリハ遙カニ短カシ「チヨン、チユウ」ヨリ四里十六町ニシテ「トク、トローリ、ガン」河ノ橋ヲ渡ル此ノ河ハ徒涉スヘシト強トモ水勢甚々急ナリ橋ノ兩端即チ川ノ兩岸ニ甚々寂寞タル「ナツブ、チヨン」(ラブチエン)村アリ此ノ村ヲ出ツルノ後粘土石質ノ狹低地ニ沿ヒ微々タル支山脈ヲ踰ユ「カー、サン」市ヲ過キ「カー、サン、ゴアン」驛ニ向フ

「カー、サン、ゴアン」驛ヨリ二里十三町ノ處ニ於テ許多ノ低地及ヒ微々タル嶺ヲ通過シ「ター、チヨン、ガン」河ノ右岸ニ近ツク河ハ此處ニ於テ廣サ百二十九間ニシテ海岸ヨリ遠シト雖モ滿潮ノ時ニハ水量六呎ニ達スルヲ以テ徒涉シ得ヘキハ只干潮ノ時ニアリ橋ハナシ然レトモ二個ノ小舟ヲ以テ之ヲ渡シ小舟ハ各馬四頭人八人ヲ容ルヘシ

「ター、チヨン、ガン」河ヲ渡リテ其河ノ谷ニ沿ヒ行ク、谷ハ到ル所稻田タリ夫レヨリ稍高マリタル土地ヲ通過ス此高地ハ「ター、チヨン、ガン」ト「チヨン、チヨン、ガン」トノ分水界タリ

「カー、サン」市ヨリ五里ニシテ「チヨン、チヨン、ガン」河ノ廣キ谷ニ入り「カー、サン」市ヨリ五里二十町ニシテ其河ニ達シ尙ホ五里ヲ行キテ谷ノ右方ニ小川アリ徒涉スヘシ「チヨン、チヨン、ガン」河ハ此處ニテ廣サ三百二十一間ニシテ中ニ長キ砂石嶋數個アリテ大ニ渡河ヲ助ク渡船場ノ上方五町ノ處ヲ徒涉場トス渡船ハ二隻ニシテ滿潮ノ水量ハ二呎半ニ及ヒ河ノ左岸ハ砂礫ニシテ多クハ疎鬆ナリ故ニ道路ヨリ數間ノ處ニ於テハ容易ニ砂中ニ陷リ易シ此ノ河ヲ經テ安州(「カー、サン」市ヨリ六里十四町)ニ至ル安州ノ南門ヲ

出テ徒涉ヲモ爲シ得ヘキ小川ノ石橋ヲ渡リ然ル後狹谷ニ沿ヒ大ナラサル坂ニ上ル坂ハ安州ヨリ一里十四町ノ處ニアリテ粘土質ナリ夫レヨリ五里二十町ノ間多クノ低地ヲ横斷ス土壤ハ一部分ハ粘土交リニシテ一部分ハ粘土ナリ坂ハ時トシテ石ヨリ成リ又其内ニハ巖石ヨリ成ルモノ一箇所アリ坂ハ概シテ傾斜緩ニシテ能ク耕サル丘陵ハ總テ小松ヲ以テ掩ハレ低地ハ總テ稻田タリ

「カー、サン」市ヨリ六里二十九町ニシテ「スク、チヨン」(シユリ、チヘン、シヨウブ)村アリ此ノ村ハ同名ノ市ヲ距ルコト二十町ノ處ニアリ此ノ村ヲ通過シテ始メノ一里三十四町ノ間ハ廣キ谷ニ由リ識ラス知ラス山嶺ニ登ル此ノ村ヨリ二里二十八町ヲ行キテ「スン、アン、ガン」河ノ廣キ谷ニ入ル河ハ此處ニテハ尙ホ微細ナリ夫レヨリ谷ノ右岸ニ登リタル後此ノ河ノ廣原ニ横ハル所ノ多クノ坂ヲ經テ峻險ナル嶺ヲ經由ス此ノ村ヨリ四里十六町ノ處「アム、チケ」村附近ニ「スン、アン、ガン」河ノ橋アリ河ハ此處ニテハ甚々淺シ「アム、チケ」村ヨリ前記ノ河ノ廣キ谷ノ左岸ヲ行ク此河ノ兩岸ハ傾斜緩ニシテ松林アリ夫レヨリ「スク、チヨ」驛ヲ距ル六里四町ノ「スン、アン」市ヲ經過シ此市ヨリ一里二十四町ニシテ「スン、ヤン、ガン」河ノ左岸ニ接シテ通過シ夫レヨリ再ヒ粘土質及ヒ砂質ノ坂ニ入ル坂ノ大部分ニハ松林アリ道路ノ土壤ハ一部分ハ土質ニシテ一部分ハ硬砂質ナリ

「スン、アン」市ヨリ五里二十町ノ處ニ平壤アリ

平壤ヲ出テ廣サ二百三十間餘ノ大同江(平底ノ渡船アリ)ヲ渡リ夫レヨリ其河ノ左岸ニ沿ヒ森ノ中ヲ行クコト三十町森ハ硬砂ノ美麗ナル道路ヲ有シ公園ノ並木ヲ見ルカ如シ平壤ヨリ三十町ノ處ニ昔ノ石橋アリ大ナル花崗石ヲ以テ組立テ橋床モ花崗石ヲ用ユ之ヲ過クレハ稍高マリタル開廠地始マル地質ハ赤粘土ニ

シテ空際ナク耕サレ且ツ樹木生シ諸處ニ松群アリ平壤ヨリ四里六町ニシテ細流ノ谷ニ向ヒ微々タル下リ坂アリ夫レヨリ「チエン、ホア」市マテ二十町アリ之ヲ過クルモ道路ノ成立ハ前ニ同シク粘土質ノ道路ハ降雨ノ時ニハ甚々シク且速カニ破壊セラレ道路ニ車輛通行ノ跡ナシ平壤ヨリ六里十四町ヲ過キテ「ホアン、チユウ」市ニ入ル「ホアン、チユウ」ト其次ノ「ボン、サン」トノ中間ニ山脈アリ此山脈ハ嘗テ韓國ノ「フエルモビル」ヲ演シタル處ナリ此處ニテハ昔ノ石壁高崖ヨリ他ノ崖ニ互リ其下ニハ狹谷アリテ谷ノ底ニ道路横ハリ山川流ル石壁ノ材料ハ自然石ニシテ其左側(北ヲ正面トシテ)ハ「キヨン、ツヒヨン」堡ノ上ニ立チ堡ハ小サクシテ高キ圓錐形丘ノ頂上ニアリ道路ハ谷ニ建テラレタル門ヲ通過ス夫レヨリ程ナク石質ノ道路始マリ其道路ハ坂ヲ有シ林ヲ通過ス坂ハ一里四町ノ間次第ニ傾斜ノ度ヲ増シ險峻ナル山嶺トナル其嶺ハ高サ約七十間ニシテ全ク工事ヲ施サス平壤京城間ノ道路中車輛通行ノ爲メ唯一ノ難所タリ「ボン、サン」市「ホアンチユウ」ヨリ四里二十六町)ヲ過クレハ道路ハ例ノ赤粘土ニシテ坂ニハ巖石突出ス「ボン、サン」市ヨリ五里二十町ニシテ屈曲セル「エー、シヨン、ガン」河ニ至リ其橋ヲ渡リ又河ノ爲メニ遠ケラレタル二箇所ノ大ナラサル丘陵ヲ踰ユ苟モ耕シ得ヘキ土地ハ皆耕シテ遺ス所ナシ夫レヨリ「シヨウ、フイン」市ノ側方ヲ過キ開墾地ヲ通過ス其他ハ比較的廣大ナル耕作地タリ土壤ハ赤粘土ニシテ土地ノ斜面ハ細小ナル灌木ヲ以テ覆ハル「ブヒヨン、サン」ヲ經テ二里八町ニシテ「ター、ダン」(ター、タン)河アリ小サキ端舟ヲ以テ渡ス此河ヲ渡リテ「クイム、チヨン」市ニ到ル市ハ極メテ景色好キ釜形地ニ位置シ其地ハ三個ノ谷ノ落合ヲ處ナリ道路ハ南方ノ谷ニ沿ヒテ行ク谷ハ次第ニ少シツ、上リテ前記ノ渡場ヨリ一里四町ニシテ山嶺トナリ

同シク三里二町ニシテ谷ノ狭口ニ「シユン、チヨク、コアン」ト稱スル牆壁立チ黃海道ト京畿道トノ境界ヲ示ス此處ヨリ道路ハ密ニ打チ固メタル大粒砂ニシテ良好ノ狀況ニ移リタルヲ認ムヘシ「カー、シヨン」市ヲ經テ丘地ヲ通過ス丘地ハ南ニ向テ低クナリ北方ニハ山脈ノ尖齒狀頭ヲ見ル夫レヨリ「ツアン、タン」市ニ近ツク市ハ「バク、マク、サン」ノ麓ニアリ「カー、シヨン」市ヨリ二里八町ニシテ「イム、チン、ガン」河ノ船渡アリ其河ノ左岸ニ門ヲ有スル石壁ヲ建ツ通路ハ進ミテ丘地ニ沿ヒ「ブハー、チユウ」及ヒ「コー、ヤン」ヲ通過シ尙漢江ノ小支流ヲ横斷シ西門ヨリ京城ニ入ル

三、慶興(豆滿江ノ河口附近)ヨリ義州(鴨綠江口ノ附近)ニ至ル道路(清境經由)

此道路ハ慶興ヲ出ツルノ後三里二町ノ間ハ前記慶興京城間ノ道路ト合一ス

右兩道ノ分岐スル處ハ「ア、オー、デー」ノ河口附近ニシテ夫レヨリ此道路ハ「キヨン、ラン」「オン、シヨ」長「鐘城、會寧及」茂「ムー、サン」ノ諸市及ヒ「チャン、バイ」村ヲ經、然ル後鴨綠江ノ流域ヲ渡リ「カブ、サン」長「ツサン、チン」「カン、ゲー」「ウイ、オン」等ノ市邑ヲ經テ義州ニ到ル

道路ハ「キヨン、オン」市ノ附近ヨリ先ツ諸山ノ前面ヲ通過シ琿春平原ノ北ニ赴ク土壤ハ軟黒土ナルヲ以テ雨後ハ容易ニ泥濘トナリ車轂ヲ沒ス然レトモ泥土ノ下ハ幾世紀ノ間踏ミ固メメラレタル硬土ヨリ成ル琿春平原ヲ過キ諸山ヨリ突出スル支山脈「クイン、モーロー」ヲ踰ユ「クインモーロー」ハ「バン、リン」嶺(滿洲)ノ山脈上ニ屹立シテ狭キ出入口ヲ形ツクリ豆滿江ハ其口ヨリ琿春平原ニ流出ス登降ノ道路ハ頗ル困難ニシテ中ニモ降路ヲ然リトス「ボゼデー」ト稱スル高嶺ヨリ琿春平原全部ノ雄大ナル景色及ヒ南方ニ互ル大山脈ノ雄大ナル景色ヲ望ムヘシ此山脈ノ頂上ハ穹形頭及光形頭群立ス道路ハ更ニ豆滿江ニ降リ然

ル後美麗ナル深草ニ包マレタル狭路ヲ形成シテ西北ニ向ヒ河岸ニ沿ヒテ廻ル行クコト一里四町ニシテ豆満江ノ谷ハ急ニ北ニ曲リ斷崖ヲ以テ圍マレタル峽地ヲ成ス道路ハ此峽地ヲ成ス道路ハ此峽地ヲ右方ニ見テ側傍ノ小谷ニ入ル其谷ハ支山脈ヲ經テ山嶺ニ上ル此支山脈ハ深ク東北ニ突出シ河ヲシテ前記ノ屈曲ヲ爲スニ至ラシメタルモノナリ豆満江ヨリ前記ノ谷ノ峽地ニ於ケル山嶺ニ入ル處ニ「ハンバチニ」ノ關防アリ此山嶺ハ之ヲ「パウレイ」ト呼ビ山低クシテ降路ハ廣キ斜面ニ沿ヒ殆ント不識ノ間ニ谷ニ到ルヲ以テ之ヲ前ノ山嶺ニ比スレハ登降シ易シ

琿春平原ハ豆満江ノ廣大ナル流域ニシテ清國ノ琿春市韓國ノ慶源市其内ニ在リ道路ハ嶺ヲ下リツ、平原ニ位置スル「オン、シヨン」市ニ向ヒ同市ニ達スル前ノ十五町乃至二十町ノ處ニ到リ全ク平坦地トナル處ノ土壤ハ極メテ脆性ニ富ムカ故ニ雨後ハ泥濘甚シ

「オン、シヨン」市ヲ出テ急ニ左折シテ「ヨン、ドン、スイ」河ノ頗ル廣キ谷ニ入ル此谷ハ二里二十八町ヲ過キテ豆満江ニ突出スル山嶺ニ近接ス谷ノ道路ハ平坦ニシテ廣ク且ツ堅牢ナリ周圍ニ在ル山ハ高カラスシテ諸處ニ松林及ヒ樺林アリ河邊ニハ種々ノ樹木アリ嶺ニ達スル中央ニ於テ谷ノ狹キ處ニ永達村アリ此處ハ北方ノ諸山ヨリ突出スル巖石ヲ以テ隘窄セラレ巖石ニハ樹木茂レリ嶺ハ「セイ、グイ」ト稱シ登路ハ狹谷ニ沿ヒテ通行概ネ困難ナラス百歩計リ小川ノ石多キ岸ニ沿ヒテ通過シ其後ハ約二町半ノ間傾斜頗ル緩ナル山側ニ沿ヒテ進ム嶺ヲ下リテ後「シル、ボイン」峠ノ傍ヲ過キ高キ臺地ヲ通行シ更ニ豆満江ノ谷ナル洞關關防附近ニ出ツ此谷ハ開闢地ナリ道路ハ此ノ谷ニ沿ヒ鐘城市ニ到リ尙夫レヨリ五里二十町延長シ豆満江ハ鐘城市ノ上方一里四町ノ處ニ於テ韓國側ノ高地ニ近接シ道ハ五町ノ間一部分ハ人工ヲ以テ構造セ

ラシタル狹キ防水堤ニ沿ヒテ延長ス谷ハ全ク耕地ニシテ時トシテハ稻ノ水田モアリ故ニ道路ハ常ニ耕區ヲ迂廻スル爲メ山ニ近接シ坂ヲ登ルコト三回ニ及ブ鐘城ヲ過クルノ後五里二十町ヲ經テ谷狹クナリ道路ハ東方ヨリ河岸ニ向テ曲リ高地ニ沿ヒテ登ル其坂ハ多クハ著大ナラサルモクニテ通行ノ爲メ著シキ妨害ヲ與ヘテト雖モ北方ヨリノ第二ノ登路ハ甚ク困難ナリ此高地ヲ下リ約三里三十八町ヲ過キテ山ハ河ヨリ遠カリ洶永急ニ轉曲シ美觀ヲ呈シテ岩峽地ニ注流ス道路ハ此處ヨリ左折シテ更ニ廣キ谷ニ沿ヒテ南方ニ向ヒ五里十町ヲ經テ會寧市ニ達ス市ヲ過クレバ直チニ「プハリ、ハト、チヨン」(シヤンリ、ハチエン)河テリ此河ハ頗ル大ナリト雖モ出水ノ時ヲ除ク外ハ徒渉スルコトヲ得ハシ此河ヲ過キテ耕地ノ間ニ平坦ナル谷アリ谷ヲ過クレバ直チニ河ニ臨ミテ斷崖ヲ形ツケル所ノ高地始ル此ノ高地ハ傾斜緩ナル圓狀突起ヲ爲スガ故ニ通行ニ困難ヲ感スル處ハ比較的峻險ナルニ懸分クニシテ險崖四圍ノ間ニ獨立セル扁平ナル臺地シ丘王ニ浦乙下鎮ト稱スル關防アリ道路ハ是等ノ高地ノ長キ斜面ヲ過キテ河岸ニ向ヒスシテ不意ニ左ニ折レ若ク狹キ峽地ニ入りテ更ニ河岸ク大山嶺ニ到ル此處ニテ豆満江ニ沿ヒ約二里三十四町ノ間山脈ヲ其高サハ約千五百呎乃至三千呎ニシテ巖石多シ此山脈ハ「クゼレイ」山脈ト稱シ河ニ並行シテ延長シ河岸ニ向テ多ク支脈ヲ出ス是等ノ支脈ハ樹木ヲ以テ掩ハレ道路ヲ横キリ尙ホ進ミテ七百呎ノ絶壁ヲ形ツクテ終リ其脚部ハ水勢雄大ナル豆満江ノ曲流ヲ以テ洗ハル此ノ如クニシテ道路ハ急ニ第二著ノ支山脈ヲ登リ然ル後屢々屈曲シテ山ニ沿ヒテ進ミ高ク平原ノ上ヲ互リ高地ヲ過ク高地ニハ葡萄及ヒ莓ニ細クレタル多クノ樹木アリシヨリ錯雜ナル空地ヲ互ルニ際シ屢々左方ニ蜿蜒タル頂上ヲ有スル大ナル山脈ヲ見ル其山脈ハ樺林ヲ以テ掩ハレ樹木ハ多クハ針葉樹ナリ又此道路ノ通過スル處ニ時々急流ノ瀑ヲ

タルヲ開ク右方ニハ道ヨリ若干ノ距離ヲ隔テ、大ナル斷崖アリ斷崖ノ後方ニ低キ對岸及ヒ遠キ谷地ノ驚クヘキ「バノラマ」ヲ見ル谷ニハ豆滿江ノ大屈曲ヲナシテ流ル、アリ此處ノ道路ハ能ク人工ヲ加ヘ其方向ノ撰定モ法ニ適ヘリ此處ヨリ平原ニ下リ「シン、ゴフン、サン」（山鎮）村ノ側傍ヲ通過シ更ニ狹谷ニ入り其谷ニ沿ヒ豆滿江ノ著明ナル曲流ヲ横斷セントスルカ如キ狀勢ヲ以テ北ニ向フ此谷ニ沿ヒ「ブリ、バグー」ト稱スル小河アリ道路ハ其傍ヲ過キテ彎曲シ四里十六町ヲ過キテ山嶺ニ接近ス其山嶺ハ突出セル一端ヲ以テ河流ヲ北方ニ遠カラシム道路ハ總テ良好ニシテ始メハ灌木ノ間ヲ通過シ次キニハ次第ニ濃厚ナル森林ニ入り遂ニ谷ノ狹地ヨリ二里二十八町ノ處ニ於テ鬱々タル森林ニ入ル其森林ハ間隙ナキ下生草木ヲ以テ掩ハレ又磊々タル巖石及ヒ大ナル倒木充滿ス道路ハ處ニ依リ狹クナリテ山徑ヲ爲ス然レトモ森林ハ山嶺ニ達セサル前薄クナリ山嶺ニ至レハ只檜及ヒ落葉松ノ美麗ナル喬幹處々ニ散在スルノミ登路ハ長シ然レトモ道路ハ能ク人工ヲ加ヘラレ且ツ赤色ノ疎々タル砂礫ハ打チ固メラレテ道路ヲ堅固ニス夫レヨリ道路ハ直チニ開濶ナル短カキ谷ニ沿ヒ豆滿江ノ岸ニアル大村「シヨン、ゴリー」（西奥）ニ到ル「シヨン、ゴリー」ヨリ茂山マテノ距離ハ僅カニ二里二十八町トス茂山ノ前ニハ只遠クヨリ見ユル傾斜急ナラサル若干ノ小嶺アルノミニシテ其小嶺ハ道路ヲ横キリ其第一登路ハ傾斜極メテ緩ナリ然レトモ其對側ノ斜面ハ非常ニ險峻ニシテ高サ十七間ノ斷崖ヲ形ツクリ道路ハ狹クシテ曲リ且深峽地ニ沿ヒテ下ニ走ル第二登路ハ甚々困難ナラスシテ其頂上ニ至レハ茂山ノ所在ヲ知ルヘシ然レトモ是ヨリ進メハ地方住民耕作ノ爲メニ平原ヲ各ミテ道路ヲ山地ニ寄ラシム是等ノ山地ノ登路ハ大概急ナラスト雖トモ茂山ニ近キ下リ坂ハ附近ニ於ケル最大ノ難所ニシテ始メノ二町半ノ間ハ谷ノ上ニ於テ斷崖ノ絶端ヲ走リソレヨリ急ニ右ニ折レ露出スル花崗塊岩

ニ由リ三十五間乃至四十七間ノ高處ヨリ急ニ谷ニ下ル

谷ヲ下リテ後「ホー、スーラー、チヨン」（トンハ、チヨン）河ヲ渡リテ茂山ニ入ル茂山ヨリ豆滿江岸ニ沿ヒ數十町ヲ經狹クシテ曲リタル峽地ニ入ル此峽地ハ石壁ヲ以テ谷及ヒ河岸ヲ狹ム此處ニ又岸ト高地トノ間ノ曲リタル基底地ノ傍側ヨリ突出スル所ノ支山脈ニ沿ヘル登降路始マル然レトモ茂山ヨリ後ハ道路ハ著シク困難ニシテ且ツ手ヲ施シタル處少ナシ是レ茂山ヲ過レハ郵便路ハ東南ニ折レテ「ホー、スー、ラーチヨン」河ノ岸ニ沿ヒテ鏡城ニ向ヒ豆滿江ニ沿ヒテ上方ニ赴ク所ノ道路ハ只普通ノ里道ノミナレハナリ道路ハ突出スル所ノ巖石ヲ迂廻シテ通行困難ナル岸ノ砂地ニ沿ヒ又河水深カラサル處ハ之ニ近接シテ殆ント認め難キ細線ヲ成シ險阻地及ヒ森林中ノ坂ニ由ル然レトモ是等ノ徑路ハ春季水量増加スルトキハ久ク唯一ノ交通路トナル河ノ上ニハ巖石ノ危ク懸ルコト二回ニシテ此處ヲ通過スルコトハ全ク難シ故ニ道路ハ之ヲ避ケ河ヲ渡リテ對岸ノ清領ニ入ル此處ノ渡船ハ開穿シタル長キ丸太ヲ連結シタルモノナリ夫レヨリ數十町ノ間清國河岸ノ丘地ニ沿ヒ豆滿江ノ凹地附近ニ來リ再ヒ韓領ニ還ル

茂山ヨリ五里ノ處即チ「サン、ナム」（シヤンサメ）村附近ニ於テ河ニ突出スル山角ヲ迂廻シ狹キ曲リタル谷ニ入ル谷ハ側傍ニ巖石ヲ蒙リ其巖石上ニハ松群點在ス谷ノ終リニ於テ道路ハ小サキ坂ヲ爲ス、坂ヲ經テ四方開キタル凹凸一定セサル臺地ニ入レハ山水ノ景色急ニ變ス山ハ左右ヨリ一度ニ開キ尙ホ脈ヲ爲シテ連互シ之ヲ終レハ最モ平坦ナル平原ヲ見ル其平原ハ眼界ノ及フ限り直接ニ西ニ向テ廣カリ處々ニ高地アリテ其中ニハ地平線上ニ尖頭ヲ露ハスモノアリ

前記ノ谷地ニ沿ヒ數十町ヲ通過シ廣サ數歩ノ小河ヲ有スル大ナル凹地ヲ横斷シ「クルテギ」ト稱スル一小

村ニ達ス

「クル、テギ」村ヨリ「チャン、パイ」村マテ四日行程ノ間道路ハ此平原ニ沿ヒテ西南ニ向ヒ其間或ハ坂トナ
リ或ハ河ノ谷ニ降ル坂ノ上ニ登レハ其周圍ハ平荒原ニシテ遠ク四方ニ山アリ高地ノ下ハ四方ヨリ高ヨリ
其高地ハ通過シ難キ山側ニシテ險峻多巖ノ支脈多ク相交ルモノ、如シ道路ハ此處ニ於テ豆滿江ノ最大
支流即チ「ター、ホン、ダシスー」及ヒ「ソー、ホン、ター、ス」南河ヲ横斷ス

道路ハ「チャン、パイ」村ヨリ「サム、デアン」湖ノ傍ヲ過キ豆滿江ノ支流ナル「ソー、ホン、ダン、スー」河ノ
谷ニ沿ヒテ廻リ「チヤル、ミー、ホン」ノ高地ヲ北ヨリ迂廻シテ「ホー、ハイ、ニヤン」嶺ハ踰ユ嶺ハ「チャン
パイ」ヲ距ルコト十三里二十二町、其處ヨリ「トン、ヤン、ゴーリ」村ニ下ル村ハ「チン、パイ」ヲ距ルコト二

十三里二十八町ト稱セラル此地區ニ於テハ道路ハ狹隘ナル林間ノ間道ヲ爲スト雖モ多クハ平坦ニシテ只
「トンヤン、ゴーリ」ノ附近ニ於テニ箇ノ大ナル山地ヲ迎フルノミ、凹地ハ兩側險峻ニシテ「ツテガイ、ムリ」

河附近ニアルモノ通行殊ニ困難ナリ
道ハ「トンヤン、ゴーリ」ヨリ四里六町ニシテ「ホク、ウエ」村ニ行ク此村ハ鴨綠江ノ支流ナル盧川江岸ニテ

リ是ヨリ約三里八町ノ間其河ノ谷ニ沿ヒ下リ行ク、此谷ヲ出テ、五里二十町ニシテ三個ノ河ヲ横キル其
中第三ノモノハ之ヲ「ウジ、チユシ、ムリ」河ト稱ス夫レヨリ同河ヲ傍ニ見テ鴨綠江ノ支流ナル「ホー、チヨ

ン、ガン」河ニ下ル此處ニハ人口稠密ナル處アリ進シテ同支流ノ附近ヲ通過シ九里三十六町乃至十二里四
町ヲ過キ甲山市ニ達ス

甲山市ヲ出ツルハ後道路ハ谷ト共ニ南ニ向ヒ二里三十四町ニシテ西南ニ向ヒ四里六町ニシテ西ニ直行ス

甲山ヨリ二里十四町ノ地ニ始マリ約二十町ノ間ハ絶美ナル榕ノ大樹ノ並木道ニ由ルヲ終レハ谷ハ狹ク
ナリ其右岸ハ連續シテ河ニ近接シ約八町ノ間盧川江右岸ノ附近ニ多巖ノ高カラサル臺地ヲ作り此岸ニ由
テ通過シ難キ地點ニ到リテ止ム其處ニ渡船アリ夫レヨリ河ノ左岸ニ沿ヒテ「ホルン、ガチ」村ノ一部分ヲ
通過シ四里二十六町ノ間河ヲ廻リ夫レヨリ盧川江ノ左支流ノ谷ニ沿ヒテ上ル

道路ハ甲山ヲ出ツルハ砂質ニシテ其後粘土質トナル又多クノ處ニ石礫及キ巖石ノ地區モアリ道路ハ「ホ
ー、リオン」村「ホト、リエン、ツアム」トモ云ヒ甲山ヨリ五里十丁ニ及ヒ「ホト、リシ」(甲山ヨリ六里三十

四町)村ヲ過キ「ホー、リオン」河(「ホー、リオン」ノ谷ヲ通過シ右支流ノ谷ニ入ル右支流ハ約
二十町ノ間深キ峽地ニシテ其峽地ニハ石ノ外ハ罕ニ瘦セタル灌木ヲ見ルケミニシテ其灌木ハ日光ヲ受ク

ルコト少ナシ(峽地ノ方向ハ西ヨリ東ニ向フ)「ホー、リオン」村ヨリ二里八町ノ處ニ「シヨリサト」(シヨク
サ、ゴーリ)村アリ此村ノ端ニ概シテ步行困難ナラサル山嶺ノ登路起ル此ノ登路ハ梯磴及ヒ松ノ林中ヲ通

過スト雖モ林ハ直チニ盡キ坂ノ附近ニ到レハ連續タル耕地ノ曠野開ク「ホー、リオン」村ニ於テ降路始マ
ル此村ヨリ三里二町ノ處ニテ道路ハ「ソン、サン、ドン」村(シヨンサンドム)ヲ通過ス而シテ三里十二町ノ

處ニテ小河ノ谷ヲ渡ル河ハ此處ニ於テ降路ノ通過スル谷ノ小河ト會合ス四里六町ニシテ「ヌン、チト」(ウ
ン、キト)村ノ端ノ附近ニ於テ最後ノ嶺ニ到ル登路始マ五里三十町ノ處「ター、ゴリ」(ターゴリ)村附近

ニ於テ前記小河「トー、ガン、ムリ」河ニ會流ス其會點近傍ニ於テ其小川ノ橋ヲ渡リ夫レヨリ橋ニ依リテ「ト
ト、ガン、ムリ」河ヲモ流ル此河ハ微細ニテ徒渉セラレサル處ヲシ夫レヨリ若干距離ノ間此ノ河ノ谷ニ沿ヒ
峽地ニ入ル此峽地ハ短クシテ深ク「トー、ガリ、ソー」村(甲山ヨリ十一里二十四町)ノ所在地ナル廣キ谷ニ

入ル

道路ハ「ト」ガ、リ「村ノ端ニ於テ」ヌン、チ、ガン「(ウン、イー、ガン)河ノ廣谷ニ入ル此河ノ下流ハ
虚川江ト稱シ甲山市ノ附近ヲ流下スルモノナリ道路ハ」ヌン、チ、ガン「(ウン、イー、ガン)河ノ右岸ニ沿
ヒ上方ニ南ニ向テ登ル此河ハ」ト、ガ、リ「村ニ達セスシテ急ニ南ニ屈折シ一里十四町ノ處即チ」シ
ヨウ、ハン「(シヨウハンニ)村ノ附近ニ於テ」ヌン、チ、ガン「河ノ左支流ノ頗ル廣キ谷ニ入ル此河ハ概
シテ西ニ向フ此河ノ支流ニ」シヨウ、ハン、チヨン「(シヨウハン、ムリ)河ト名ツクルモノアリ廣サ十七間
乃至二十六間アリ道路ハ」キブンゲ「村ニ到ル間ニ於テ此河ノ橋ヲ渡ルコト五回、橋ハ其構造皆頗ル堅牢
ナリ但シ河ハ殆ント徒涉シ得サル處ナク河底ハ大粒ノ圓狀自然石ヨリ成ル道路ハ河岸ノ高臺地ニ沿ヒテ
行ク處數ヶ所アリ而シテ河ハ狹深ナル峽地ノ間ヲ流ル」キブンゲ「村(甲山ヨリ十六里四町)附近ニ於テ
ハ谷ノ岸側ハ急峻ニシテ多クハ樹木ヲ有シ谷底ニ於テモ亦樹木見ラル道路ハ其後多ク粘土石質トナリ處
ニ依リテハ全ク巖石ヨリ成ルモアリ又道路ハ狹臺地ニ沿フコト屢々ニシテ一度ナラス河ヲ横キル」バラ
ムボイ「村(甲山ヨリ二十一里十四町)附近ニ於テ谷ハ著シク廣カリ道路ハ之ニ沿ヒ絶美ニシテ且ツ鬱然
タル深草ノ内ヲ通過ス此村ヨリ三里二町ニシテ谷ノ右岸ニ入ル其處ヨリ」シヨウ、リヨン「(ルベンツオ
ーフ)ハ」セリエン「ト云ヒ」ストレリピーツキー「ハ」ソリニエン「ト呼フ)ノ登路始マル嶺ハ落葉松ノ美麗
ナル大樹林ノ中ニアリ

道路ハ山嶺ヲ通過シ「ウン、サン、ドン」村(甲山ヨリ二十六里二十四町)ニ至ル此處ニ於テ谷ノ廣サハ約二
十町アリ道路ハ夫レヨリ村ヲ出テ、次第ニ河岸ニ近キ來リ遂ニ其河ノ「チヨン、ダム、ガン」河「ルベン

ツオーフ」之ヲ第二長津江ト謂ヒ「ストレリピーツキー」ハ「シヨウ、ムリ」ト云フ)ニ會流スル地點ニ近キ右
岸ニ到ル夫レヨリ岩石地ニ沿ヒ五町ノ間「チヨン、ダム、ガン」ノ右岸ニ沿フ此處ニテハ「チヨン、ダム、ガ
ン」ハ谷ノ右岸ノ大岩石ノ麓ヲ流ル一里十四町ニシテ河ノ谷ハ狹クナリ以後險峻ナル側面ヲ有スル峽地
トナル道路ハ右岸ニ沿フコト九里ニシテ後ハ左岸ニ沿ヒ其内一部分ハ臺地ノ斜面ニ沿ヒ一部分ハ水面上
三十五間乃至四十六間ノ高地ニ沿フ是等ノ高地ハ狹クシテ馬相遇ヘハ其一頭ハ引歸シテ廣場ニ出テ以テ
一頭ヲ通行セシメサルヘカラス五里二十町ニシテ道路ハ河岸ヲ去リ急ニ西ノ方ニ折レ狹キ峽地ニ沿フ峽
地ニハ樹木多シ「コガミチ」村(甲山ヨリ三十三里二十八町)ノ後ニ於テ繁茂セル林地始マリ道路ハ其中ニ
於テ支山脈ヲ登ル其支山脈ハ長津江及ヒ「チヨン、ダム、ガン」兩河ノ分水界ヲ爲シ兩河ハ此ノ支山脈ヨリ
北ニ於テ會合ス又是等ノ河ノ會流點ノ側ヲ通過スル所ノ迂路アリ然レトモ住民ノ言ニ依レハ此道ハ本道
ヨリハ便利ナリト云フ山脈ハ「コガミチ」村ノ入口ヨリ三十三町ノ處ニアリ登降路ハ岩石地ナルカ故ニ通
行困難ナリ九里ニシテ「ベクサム、ドイ」ノ山村アリ

十里ニシテ道路ハ長津江ノ右岸ニ近ツキ其岸ニ沿ヒ一里十四町(方向ハ西南)ヲ行キテ渡場ニ到ル谷ハ其
後廣クナリテ十町ニ互ル處モアリ道路ハ多クノ場所ニ於テ岩石ノ高地ニ沿ヒ其狀況「チヨン、ダム、ガン」
河岸ノ道路ニ似タリ此處ニ於テハ河深甚タ大ニシテ晩秋ト雖トモ一ノ徒涉スヘキ處ナシ

「イー、サン、ツホン」(「イーザンツホン」トモ云ヒ甲山ヨリ三十八里二十二町)村ノ後ニ於ケル河岸ハ其前
ノ五里二十町間ト狀況相同シ道路ハ直チニ長津江ノ左支流「ホー、バオ、ムリ」ト稱スル河ノ谷ニ到リ其河
ヲ徒涉シ三里二町ニシテ谷ノ右岸ノ臺地ヲ遡ル其臺地ハ狹クナリテ道ヲ狹地ニ導ク、登路ノ困難ナル處

ハ只盛地ノ上部ナリト雖モ降路ハ甚ク險阻ニシテ河ノ右岸ノ高地ニ沿ヒ行ク此河ノ谷ハ蜿蜒タリ谷ノ廣サハ始メハ約二町半ニ過キスト雖トモ三里三十二町ノ處ヨリ廣マリテ十町ニ達ス道路ハ岩石地ニ沿フ處數個所アリ然レトモ概シテ良好ニシテ車輛ノ通行ト雖トモ尙ホ便利ナリ長津市(甲山ヨリ四十五里三十二町)ノ前ニテ道路ハ「ホト、バオト、ムリ」河ノ橋ヲ經テ其左岸ニ渡ル此河ノ廣サ約二十三間餘

道路ハ長津ヨリ前記テ河ノ谷ニ沿ヒテ遡リ二里八町ニシテ西北ノ方向ヲ保チ其後ハ殆ント西ニ向フ谷ノ廣サハ平均七町半ニシテ道路ハ始終河ノ左岸ノ附近ヲ走ル此河ニハ兩岸ノ交通ノ爲メ處々ニ橋梁アリ二里十八町ニシテ「ホト、バオ、ムリ」河ノ左支流ヲ橋ニテ渡ル此橋ヨリ約十五町ノ間道路ハ粘土質ノ地ニ由リテ谷ノ岸ノ麓ノ附近ヲ通過ス三里二町ニシテ「オト、マン、ドン」(オトマンシヨン)村ヲ經東「アト、ドク」(アトダク、ガト)或ハ「アルイガ」村ニ至ル此村ハ甲山ヨリ四十八里三十二町ノ處ニアリ谷ハ此村ノ附近ニ於テ狭クナリ平地ニ互ル此平地ニハ松、落葉松及杉生ス只處々ニ孤立ノ旅舎アルノミニテ田野ニハ燕麥ヲ播種ス其處ヨリ「ヤードクニヨン」(ヤートルイガリヨン)嶺ノ登路始マル嶺ハ「アトドク」村ヨリ三里十二町アリ此處ノ道路ハ稜角ヲ有スル大粒石(直徑二尺以上)ヨリ成立シ繁茂セル落葉松及ヒ杉ノ深林ハ連續シテ土地ノ全部ヲ掩ヒ光線ハ樹梢ヲ通過スルコトヲ得ズ登路ハ殆ント困難ナシ嶺ニ登レハ樹木ノ梢頭ヲ除クノ外見ルベキモノナシ降路ハ登路ト同性質ナレトモ其勾配ハ登路ヨリ一倍半急ナリ西牙得村ハ嶺ノ後三三町ノ處ニアリ道路ハ是ヲ過キ始メハ峽地ニ沿ヒ行ク峽地ハ住民多クシテ次第ニ谷ニ廣カル其後江界市(甲山ヨリ六十二里半)ニ達ス谷ニ沿ヒ野生ノ葡萄生スル處多シ其葡萄ハ時トシテ大ナル面積ヲ占領スルコトアリ

「ホト、バオ、ムリ」河ハ其流下スル土地ニ依リテ殆ント副名ヲ有セサルハナク茲ニ掲ケタル長津江ト合流スル地點ニ於テ與ヘラレタル名ナリ

道路ハ江界ヨリ「トン、ガン」(セト、ビヨ、ガン)河ノ渡場ニ向テ住民ノ言ニ依レハ江界ノ上方及ヒ下方ニ徒涉スベキ地點アリ道路ハ河ノ左岸ヨリ始メハ西南ノ方向ニ於テ延長シ河ヨリ一里千四町ヲ距ル山嶺マテハ廣キ谷ニ沿ヒテ上ル其谷ハ稻田トシテ空隙ナク耕サル道ハ車道ニシテ通行便利ニ工事モ行届ケリ然レトモ嶺ヲ踰ユレハ又直チニ人工ヲ施サ、ル狹隘ナル駄道始マル此道ハ粘土石質ノ狹谷ニ由リテ延長ス河ヨリ五里十町ニシテ第二ノ山嶺アリ上ルニ便ニシテ手入レ行キ届ケリ

此嶺ノ後十町ニシテ「シヨ、ン、ダ、ニ」村アリ夫レヨリ谷ハ次第ニ開キテ十五町乃至二十町ノ廣サヲ有シ之ニ流下スル河川ハ何レノ處ニテモ徒涉セラレサルハナシ「シヨ、ン、ダ、ニ」村ヨリ五里十町ニシテ「ドロ、コリ」村アリ此村ヨリ河ノ谷ハ五里二十町ノ間蜿蜒タル峽地ヲ形ツクリ谷ノ岸ハ急峻ニシテ河川ノ一岸或ハ他岸ニ於テ狹キ場所ヲ存ジ其後ニ數多ノ村落アリ道路ハ始終河ノ右岸ニ沿ヒ高地若クハ谷ノ右方ノ險崖ノ附近ヲ通過シ石地ニ由ル處多シ其後「フイン、ガー、サン」及ヒ「トク、ホル」ノ兩村ニ到ル此兩村ハ「ドロ、コリ」ヨリ五里三十町ニ在リテ廣サ二十町マテノ谷ノ中ニ位置ス其後道路ハ又以前ノ性質ヲ有シ即峽地ニ入り盛地ヲ下リ細谷ニ沿ヒテ延長シ一里二十四町及三三町ノ處ニ於テ此河ノ橋ヲ渡リ四里千六町及四里二十六町ノ處ニ於テ河ノ彎曲部ノ弦ニ沿ヒテ二個ノ大ナラサル山嶺ヲ踰ユ渭原(甲山ヨリ八十四里十六町)市ノ西北門ヲ出テ道路ハ橋ニ由リテ渭原江ト稱スル河ノ左岸ニ渡ル其河ハ此處ニテハ到處徒涉スルヲ得ヘシ道路ハ市ヨリ五町ヲ過キ渭原江ノ谷ヲ去リ其左支流ノ峽地ニ沿ヒ三里二十七町ノ

間即チ「ハ、バー、リヨン」嶺ニテ廻ル此嶺ハ渭原江ノ左支流ト鴨綠江ノ左支流トノ分水界ヲ爲ス此峽地ノ方向ハ東北ヨリ西南トス道路ハ此處ニ於テハ之ニ些少ノ修繕ヲ加ヘナハ馬車ノ爲メニ充分便利ナランモ韓人ハ之ヲ爲サスシテ貨物ハ之ヲ駄搬ス嶺ヨリ十二町半ニシテ「シヨツ、ラン、ドン」村アリ其後二里半ノ間五町乃至十町ノ廣サノ低地ニ伴ヒ行ク此ノ低地ハ西北ニ向フ此低地ニ沿ヒテ流ル、所ノ河ハ細流ニシテ「シヨツ、ラン、ドン」村ヨリ二里二十八町ニシテ鴨綠江ニ注ク道路ハ數回鴨綠江ノ大ナラサル橋ヲ渡リ又ハ其河ヲ徒涉シ平地ノ左岸(二里八町ノ處)ニ上リテ鴨綠江岸ニ達ス

其處ヨリ道路ハ高地トナリ鴨綠江ノ谷ノ左岸ノ斜面ニ沿ヒテ次第ニ河ヨリ遠カリ二十町ヲ經テ西南ニ折レ「ナム、ソン、ガン」ノ細流ノ岸ニ沿ヒテ高マル其後ニ於テモ道路ノ地質ハ楚山マテハ粘土質ニシテ只其間處々粘土石質ノ區域アリテ之ヲ中斷スルノミ「シヨツ、ラン、ドン」村ヨリ三里二十二町ニシテ道路ハ「ナム、ソン、ガン」河ヲ横キル此河ハ到ル處徒涉シ得ヘシト雖トモ渡場以下河口マテハ險側ヲ有スル深キ凹地ノ中ヲ流ル然ルニ徒涉場ノ上方ニ於テハ谷ハ十町乃至十五町マテ廣カリ殆ント空隙ナク稻田トナル楚山市ハ甲山ヨリ九十三里三十二町ノ處ニアリ道路ハ此市ヲ經テ「ナム、ソン、ガン」ノ左岸ニ沿ヒ一里四町ノ間東南方ニ向ヒ其後ハ左傍ノ低地ニ入り之ニ沿ヒテ先ツ南方ニ行キ其後次第ニ大弧ヲ畫キツ、西方ニ向フ楚山ヨリ五里二十町ニシテ「タン、ニ、ヨン」嶺アリ嶺ハ甚々險峻車輛ノ運動ハ絶對的思ヒモ寄ラサルコトナリ若シ此ノ嶺ヲ經テ鴨綠江ヲ迂廻セントスルモ其河邊ニ於テハ「タン、ニ、ヨン」嶺ノ支脈ノ巖壁屹立シテ之ヲ妨クルヲ以テ到底不能ノ事ナルヘシ

金砂洞(楚山ヨリ六里四町)ノ後道路ハ石地ニ沿ヒテ鴨綠江ヲ廻リ渡場ニ下ル處甚々困難ナリ河ノ廣サハ百五間深サ五六呎アリ渡場ヨリ道路ハ支山脈ノ嶺ニ向テ進ム此支山脈ハ上部ニ松林ヲ有シ豆滿江ノ灣曲部ヲ塞ク行路ハ河ノ懸巖ノ近傍ヲ耕地ニ山リテ行ク金砂村ヨリ一里二十四町ニシテ道路漸ク河岸ヲ去リ河ノ左支流ノ谷ニ沿ヒ「ムルネイ」嶺ニ赴ク谷ノ地質ハ粘土石質ニシテ嶺ニ近キ處ニテハ砂利ノ量ヲ増ス道路ハ峻險ナル巖側ニ於テ切り出サレタル階段ニ沿ヒ螺旋狀ヲ成シ通行概シテ困難ニシテ只駄獸ノ通行ヲ許スノミ

金砂村ヨリ六里四町ノ處ニ「ブヒョントン」村アリ其村ノ附近ハ谷廣カリテ十五町ニ及ヒ此村ヨリ一里二十四町ニシテ谷又狹クナリ「ブク、サー、リヨン」ノ登路始マル此處ノ道路ハ始メノ十町ノ間ハ低地ニ沿ヒ夫レヨリ嶺マテ即五町ノ間ハ低地ノ臺地ニ沿ヒテ行ク嶺ノ上ヨリ碧潼市及鴨綠江ノ峻岸見ユ其岸マテ直經一里九町アリ降路ハ登路ヨリハ容易ナリ金砂市ハ楚山ヨリ十五里二十町ニシテ之ヲ西門ヨリ出ツレハ道路ハ約十町ノ間鴨綠江ノ左支流ナル「トム、ナム、チヨン」河ノ谷ヲ横キリ而シテ其河ノ河口ヲ橋ニテ渡リ以後十五町ノ間鴨綠江ノ右岸ニ由リテ進ム其處ヨリ道路ハ殆ント直線ニシテ南折シ「アイ、ラン、ゴ」村ヲ通過シ低地ニ沿ヒテ低キ麻田嶺ニ登ル其嶺ハ碧潼市ヨリ二里二十八町ノ處ニアリ道路ハ嶺ヨリ概シテ西北ニ向ヒ狹キ砂利ノ谷ニ沿ヒ行キ碧團堡ニ到ル堡ハ碧潼市ヨリ五里十町ナリ

碧潼市ヲ經テ始メハ稻田ニ沿ヒ同市ヨリ十二町半ノ處ニテ橋ヲ渡リ鴨綠江ノ谷ノ扁平岸ニ上ル其岸ニハ松群アリ鴨綠江ヨリ西方ニ「ノ、ヂキン」村アリ其處ヨリ道ハ南ニ折レ次第ニ其河ノ岸ニ遠カリ微細ナル山嶺ニ上ル其嶺ヨリ二十町ノ處ニテ道路ハ再ヒ鴨綠江岸ニ近ツキ尙ホ二十町ノ間岩石ノ低堤ニ沿ヒ場所ニ依リテハ巖石ノ階段ニ沿フ夫レヨリ道路ハ鴨綠江ノ左岸ノ谷ニ入ル其谷ノ廣サハ約二十町ニ及ヒ稍

全高マシタル土地ヲ形ツクル碧瀧市ヨリ三里二十二町ノ處ニ「ツアンチ」^{昌洲(?)}堡アリ此堡ノ一里前ヨリ道路ハ高カラサル粘土ノ坂ヲ踰ユ

「ツアンチ」堡ヨリ道路ハ鴨綠江ノ谷ノ左岸下附近ヲ行ク堡ヨリ一里十四町ニシテ同河ノ左岸ノ谷ハ盡キ而シテ道路ハ一里九町ノ間高キ狭キ地ニ沿ヒテ行ク其他ハ河ノ險岸ニアリ其高地ノ終リニ於テ左岸ノ斜面ハ一時ニ小サクナリ斜面ヲ形ツクリ道路モ亦其中ニ入ル道路ハ次第ニ西ノ方向ヲ南ニ變シ微々タル支山脈ヲ踰テ「ツアンチ」堡ヨリ四里十六町ニシテ昌城市ニ達ス前記支山脈ハ鴨綠江ノ廣キ灣曲部ニ壅塞スルモノナリ

昌城市ノ南門ヲ出ツルノ後十町ノ間河邊ノ砂質平原ニ沿ヒテ夫レヨリ急ニ鴨綠江ノ左岸ニ上ル又河ニ下リ百三十間ノ間巖石ヨリ成立セル斜面ニ沿ヒ然ル後小村「カブ、アム」ヲ經鴨綠江ニ會流スル河ノ谷ヲ横キル此河ハ何處ニテモ徒涉シ得ヘシ

前記ノ河ヨリ登路始マル之レ鴨綠江ノ左岸ヲ成ス所ノ支山脈ニ赴クモノニテ險峻ナル巖石地ノ全ク人工ヲ施サズルモノナリ約四十六間登リタル後三十町ノ間ハ高地ニ沿ヒ此小山脈ノ上部ニ於テ系ヲ如キ道路ヲ成ス登路合計九十三間餘ニシテ其狭キ部分ハ幅二三歩ニ過キス斜面ハ甚ク急ニシテ草ヲ生シ罕ニ灌木ヲ見ルノミ嶺上ニ二個ノ旅舎アリ降路ハ十町ノ間難シ夫レヨリ石質低地ニ沿ヒ細流「ヨン、チヨン」(エンチヘン)河ノ谷ヲ斜ニ横キリ或時ハ此河ノ右方ノ谷ニ沿ヒテ登ル

昌城市ヨリ三里三十二町ニシテ道路ハ低堤上ニ配置セラレ、稻田ヲ有スル谷ヲ横キリ又徒涉ヲモ爲シ得ル小川ヲ橋梁ニ由リテ渡リ樹木多キ微細ナル支山脈ヲ踰ユ夫レヨリ二十町ノ間谷ニ沿ヒ行ク谷ハ前者ノ如ク「ヨンチヨン」河ノ谷ニ合スル所ノモノナリ其後道路ハ左支原ニ入り之ニ由リテ約三十町ノ間「パンマ、

リヨン」嶺ニ上ル臺地ニヨリ又ハ主ナル支山脈ノ分脈セル山脈ニ近キ處五町ノ間ハ道路粘土石質若クハ巖石質ニシテ登路ノ最モ困難ナル處トス降路ハ十町ノ間高地ニ沿ヒテ行キ其後ハ狭キ砂利ノ谷ニ由ル昌城市ヨリ六里十四町ニシテ「バリマギ」村アリ之ヲ經テ谷ニ沿ヒ西北ニ向テ谷ハ自然ニ廣クナリ二里八町ノ處即チ「ツハン、チヨン、ドン」(ツハン、チエン、ドンク)村附近ニ於テ鴨綠江ニ達シ三十町許同河ノ砂岸ヲ通過シタル後同河ノ峻險ナル左岸下ニ沿ヒ一里十四町ノ距離ヲ除クノ外ハ河ト懸巖トノ間ニ小逕路ヲ成ス

「バリマギ」村ヨリ六里二十四町ヲ通過シ「オクカン」村ニ來リ其村ノ附近ニ於テ鴨綠江ノ岸ヨリ遠サカリ數個ノ微々タル山嶺ヲ踰ユ途ニ小高地ニ到ル其高地ハ鴨綠江ノ左岸ヲ爲スモノナリ義州ニ達スル前一里一町ニシテ小河川ヲ渡リ高カラサル山地ニ出ツ其處ニ義州アリ義州ハ申山ヲ距ル百四十二里二十四町トス

慶興義州間ノ支線ハ左ノ如シ

(イ)慶源市ヨリ「トン、ダアン」村ニ到ル道路(延長七里十八町)

此道路ハ慶源ヨリ一里三十四町ノ間ハ廣開セル谷ニ由リテ行ク此間ノ如キ道路ノ良好ナル處ハ韓國軍ニ見ル所ナリ夫レヨリ「シニユーリ、ミユル、リヨシ」嶺(千六百呎)ノ登路始マリ道ハ狹隘ニシテ屈曲シ險峻ナリ然レトモ登路ハ容易ニシテ且短カシ夫レヨリ四里三十六町ノ間道路ハ時ニ沼地アリト雖トモ更ニ平坦ナル谷ヲ沿ヒ豆瀧江ニ出ツル前ニハ谷ハ狭クナリテ河水之ニ流入スルカ故ニ道路ハ周圍ノ坂ニ由リテ此

場所ヲ迂廻シ以テ險峻ナル降路ヲ爲シ「トンゴアン」村ニ達ス此道ニ沿ヒ往々住民地アリ此道ヨリ二里二十八町ノ處即チ山嶺ノ後ニ於テ西南ニ走ル支線アリ其支線ハ高カラサル嶺ヲ踰エテ「シヨウブフン」河ノ谷ニ赴キ夫レヨリ昌城市ニ到ル此支線ノ延長ハ慶源ヨリ昌城マテ八里二町トス
 (ロ)「シンゴン」村(「オー、ロン、チヨン」慶源間ニ於テ豆滿江畔ニ位置ス)ヨリ昌城市(「オー、ロン、チヨン」河ノ谷地)ニ到ル道路

國人ノ算定スル所ニ依レハ此道路ノ延長ハ十三里二十二町乃至十六里十四町アリ始メハ「オー、ロン、チヨン」河ノ大谷地ニ沿ヒテ行キ其後、右ニ折レ同河ノ小支流ニ沿ヒ小白山嶺ニ登リ其後「シヨウ、ブフン、チヨン」河ノ谷ニ降り其處ニテ又坂ヲ下ルノ後上記慶源道路ノ支線ト合一ス識ル所ニ依レハ此道路ハ概シテ満足ナリ(谷ノ急峻ナル兩側ヲ迂廻スル爲メ登降路アリトハ雖トモ)而シテ小白山嶺ハ「ミユル、ミユル、リヨン」嶺ヨリモ峻險ナリトハ雖トモ降路ノ荷馬車ハ特別ノ困難ナクシテ之ヲ通過ス

(ハ)「ウオガラミ」嶺防ヨリ「ボタウエ」村(「トン、ヤン、ゴーリ」ノ西方四里六町)ニ至ル道路(「ブク、シー、リヨン」嶺經由)

此道路ノ延長ハ三十里二十町ニシテ東南ヨリ「チヨリ、ミー、ボン」山ヲ繞リ其成立ハ大部分ハ林路ニシテ「チャンバイ」及「トン、ヤン、ゴーリ」間ノ道路ニ似タリト雖トモ前者ヨリ遙カニ凸凹多クシテ「ブクレー、リヨン」嶺ハ通行ヲ妨害スルコト大ナリ

(二)「ウオガラミ」及「ボタウエ」間ノ道路(「バク、チュン、シユベイ」嶺經由)

此道路ハ延長三十三里十二町ニシテ前者ノ東方ヲ通過ス而シテ四周ノ地ハ山岳多シ道路ノ方向ハ若干ノ

河流ノ谷地ト一致スト雖トモ小徑ハ斷崖ヲ迂廻シテ高地ニ横ハル此道路ハ二ヶ所ノ山嶺ヲ横斷シ其内「ボタウエ」ノ近側ニアルモノ頗ル困難ナリ但此道ノ便利ナル點ハ處々ニ大ナラサル村落ヲ有スルコトナリ概シテ道路ハ車輛ノ通行ニ困難ナリ前ニ記シタル「ウオガラミ」「ボタウエ」間ノ二道路ハ「ボタウエ」ノ西方ニ於テ前照ノ幹線ニ合一ス但此兩道路ノ東方連絡點ハ未タ詳ナラス

前記三道路即慶源京城間、義州京城間及慶源義州間ノ道路ヲ連絡スル所ノ道路

(イ)阿吾地ヨリ會寧ニ到ル道路(「ハン、ニヨン」經由)

此道路ハ慶源ヨリ三里二十二町ノ處即阿吾地村附近ニ於テ慶源京城間ノ幹線ヨリ分岐シ阿吾地村ノ後ニ於テ幹線ハ「トン、ミヨン、チヨン」河ノ谷ニ渡リ支線ハ尙ホ其谷ニ沿ヒテ行クコト二里八町乃至二里二十八町ニシテ其後「マル、ガエル」河ノ水面ヨリ高キコト約九十間ノ山嶺ニ近ツク「マル、ガエル」河ノ谷ニ下ル道路ハ屈曲甚タ多シ「マル、ガエル」河ハ巖石ノ河床ヲ有シ全ク山川ノ性質ヲ帶フルモノニテ廣サ約六間到ル處徒涉シ得ヘシ嶺ヲ踰ユルノ後ハ砂礫間斷ナク散布シテ通行ヲ妨害スルコト極メテ甚タシ慶源ヨリ十三里二町ニシテ「ハン、ニヨン」村アリ此村マテノ間ニ二箇ノ山嶺アリ一ハ「ツン、チー、コガ」嶺ニシテ比較的險ナラス道路ハ「ウエーベリ」氏カ「ニムチエンハンムリ」「ハーリー、ハンムリ」ノ名稱ヲ與ヘタルニ河川ヲ徒涉シ第二ノ山嶺即チ「オツンゴガ」嶺ニ上ル其際登路ノ始メハ峽地ヲ通過スルコト約百十七間峽地ハ巨石散布シ車輛ノ通行ヲ妨害スルコト甚シ傾斜ハ嶺ノ頂點(八十間半)ニ近ツクニ從ヒ次第ニ増加シテ駄獸ノ通行ヲ許スノミ降路ハ比較的容易ニシテ之ヲ下レハ道路再ヒ「ハリハムリー」河ノ谷ニ入ル其谷ニ「ハン、ニヨン」村アリ此村ヨリ道路ハ細河ノ流域ナル開キタル谷ニ行キ此間坂路ト稱スヘキモノナ

多土壤ハ粘土ニシテ降路ハ便利ナリ慶源ヨリ千八里十二町ニシテ會寧ニ達ス概シテ此道路ハ韓國車輛ノ通行ニ堪ラ

(一〇)會寧ヨリ「ガシニク、多井手」灣ニ到ル道路

此道路ノ延長ハ千六里三千四町乃至二十二里八町ニシテ會寧ヨリ「オン、チン、チヨン」(ウエンサシチエシ)稱ク谷地ニ由リ同名ノ村ノ近傍ヲ過キ然ル後豆満山脈ノ山嶺ニ上ル、谷ニ沿ヘル道路及ヒ山嶺共ニ通行ニ難ナク其後ノ道路ノ狀況ハ未ダ分明チラズト雖トモ韓國ノ車輛ハ之ヲ通行ス道路ハ海ニ達セサルヨリ五里三千町乃至九里三千六町ニシテ若干ノ支線ヲ出シ沿岸ノ諸村ニ分進ス

(一一)會寧ヨリ輪城村ニ到ル道路(富寧經由)

道路ハ會寧市ノ東南門ヲ出テ「ブハリ、ハ、チヨシ」(ミギン、チヤシハシムリ)或ハ「シヤンリチエン」トモ云ラ)ヲ通過ス谷ハ面隙ナク耕サレ道路ハ「ブク」(ウエンサシチエシ)村附近即チ會寧ヨリ二里十四町ノ處ニテ狹隘トナル道ハ堅牢ニシテ處ニ依リテハ石多ク殊ニ河ノ石床ヲ數回横キル處ニ於テ然リトス會寧ヨリ五里三千町ニシテ古豊山關防アリ其後ニ道路ハ「ブーサンリヨン」(ブーサン、リヨン)嶺ニ近ツ多批嶺ハ嵩サ三千呎ニシテ通行シ爲タニ比較的容易ナリ但降路ハ登路ヨリモ便利ナラスシテ距離短カシ此道路ハ富寧(會寧ヨリ千二里十八町)ニ至テハ狹隘ナル小道ニシテ此市ヨリ良好トナリ谷ハ廣ク石少ナシ「ター、ウヨシ」河ニハ氷多シ北里八町ニシテ三回此河ヲ徒涉スルヲ後、道路ハ谷ヲ出テ、輪城村(會寧ヨリ千二里八町)ニ達ス

(一二)茂山ヨリ輪城ニ到ル道路

此道路ハ茂山ヨリ「ホー、スーラーチヨン」(トンハー、チエン)河ノ廣谷ニ沿ヒテ上流ニ向ヒ進ムコト八里三十二町平坦ニシテ且好良ナリ其後豆満山脈ヲ踰エル所ノ「ツ、ハ、ユウリヨン」(チャユレン)嶺アリ登路ハ五六間ヨリ高カラスシテ車輛ノ通行ニ堪ヘ反側ノ降路ハ距離短カシト強トモ能ク手ヲ加ヘラレ甚シキ困難ヲ呈セス其後六里十四町ノ間「ター、チヨン」(ブーレン、ブヘー、ムリ?)河ニ沿ヒ富寧マテ下ル富寧ハ茂山ヲ去ルコト十五里十町此ノ區域ニ於テ道路ハ惡シ然レトモ些少ノ修繕ヲ加ヘハ車輛ヲ通行セシムルニ足ルヘシ

富寧ヨリ輪城村マテノ道路ハ良好ニシテ其狀況ハ會寧輪城間ノ道路ノ部ニ既ニ記述シタルカ如シ

(一三)吉州ヨリ甲山ニ到ル道路

此道路ハ吉州ヨリ先ツ慶興吉州間ノ道路ト並行シ三十町ヲ行キテ小サキ支山脈ヲ踰エ「シヨウ、ブク、チヨン」(シヨブクムリ或ハ南大川?)トモ云フ)河ノ谷ニ沿ヒ殆ント西北々ニ向ヒ數回此河若クハ其支流ヲ徒涉ス徒涉場ノ深サハ一呎半乃至二呎アリ吉州ヨリ五里五町ニシテ「シヨウ、ブク」(シヨブー、チヤンニー)村アリ道路ハ此村ヲ過キテ高カラサル山嶺(二十三間マテ)ニ上ル此山嶺ハ河ノ左岸ニ近接シテ短カキ峽地ヲ爲ス所ノ支山脈タリ村ヨリ二十町ニシテ「シヨウ、ブク、チヨ」(河ニ三個ノ石趾ヲ有スル橋アリ其處ヨリ約一里四町ノ間峽地ニ沿ヒテ進ミ此場所ハ管ニ車輛ノ通行ノミナラス駄獸ノ通行ニモ甚々困難ニシテ又或ル場所ノ如キ道路ハ岩間ニ在リテ甚々狹ク一頭牽車輛ハ此狹キ場所ヲ迂廻シ手ヲ以テ牽キ非常ナル勞力ヲ費シテ河中ヲ上流ニ向テ通行セシメサルヘカラス二里十八町ニシテ道路急ニ河ノ峽地(高サ十一間餘)ニ下ル此處ヨリ「バシヨコリ」村マテ殆ント間斷ナク峽地連續シ只或場所ニ於テ五町或

ハ五町以上廣カルコトアルノミ峽地ノ兩側ハ殆ント絶壁ニシテ巖石ノ露出スル處多ク其巖石ハ樹木ト參差ス道路ノ地質ハ大部分ハ巖石ニシテ道路ハ時ニ一呎半乃至二呎ノ高サヲ有スル階段ニ由リテ行ク又道路ハ河ヲ横キルコト十三回ニ及ヒ其河徒涉シ難キ故ニ(底ハ稜角多キ石ニシテ流レ甚ク急)住民ハ之ニ一箇ノ堅牢ナル橋ヲ架ス然レトモ此河ハ到ル處徒涉ヲモ爲スコトヲ得ヘシ四里六町ニシテ谷ハ稍廣マリ河ノ右岸ニ於テハ大ナラサル臺地ヲ形ツクリ其上ニ「シユーナ」村アリ其後一里二十四町ヲ經テ又「バシヨ、コリ」村アリ此處ニテハ道路ハ或ハ粘土質或ハ粘土石質或ハ石質ナリ河ノ兩岸ニハ樹木アリ樹木ハ河ヲ上ルニ從ヒ漸ク廣葉樹ヨリ針葉樹ニ變ス河ハ殆ント水流激セサル處ナク若干歩ノ間人聲ヲ辨ヘ難キ處多シ「シヨウブクチヨ」河ニ關シテハ「ルベンツオーフ」詳ニ語ラスト雖トモ此川ハ蓋シ吉州市ノ「ブー、マン、チヨ」河ノ方言ナルヘシ

吉州ヨリ十六里四町ニシテ「ハブ、スー」村アリ道路ハ村ニ到リ夫レヨリ「ブク、キヨル、スー」(ブルケルシエウ)河ヲ橋ニ由リテ渡リ臺地ニ到ル臺地ハ此河ノ右岸及ヒ「ナン、キヨル、スー」(「ヒヨウ、ブク、チヨ」)ノ下流ノ名)河ノ左岸ヲ爲ス行路甚ク峻險ニシテ屈折重疊シ登路ノ上部ハ前記ノ橋ノ上高サ五十二間餘ヲ以テ時立ス其處ヨリ道ノ終點タル谷ノ全部及ヒ周圍ノ山岳ヲ見ルコトヲ得ヘシ臺地ノ上ノ地質ハ黒土ナリト雖トモ其處ハ海拔高キカ故ニ燕麥ノミヲ作ル耕地ハ道ニ沿ヒ登路ノ上部ヨリ一方ノ側面ニ連リ其後「ナム、シヨウ、リヨ」嶺ニテ殆ント間斷ナキ林地アリ此林地ハ只耕作ノ爲メ處々ニ伐除シタル部分點在シテ鬱林中ノ「オーシス」ヲ爲ス

林地ハ「ハブ、スー」村ヨリ一里二十四町ノ處ヨリ實際鬱然タル狀況ヲ呈シ道路ノ兩傍ハ沼地ニシテ道路

ハ横木ヲ置キテ作ラレ横木ハ圓狀ナルカ故ニ之ヲ降り行クコト甚ク困難ニシテ馬脚ハ始終其間ニ陥ル村ヨリ三里十二町ニシテ道路ハ「ナム、シヨウ、リヨ」嶺ヲ通過ス此嶺ハ廣ク兩面ノ斜側ハ險峻ニシテ樹木アリ嶺ノ降路ハ沼地少キカ故通行容易ニシテ最早丸太ノ横木ヲ踏ムノ要ナシ降路ノ最モ險峻ナル部分ハ嶺ノ上部ヨリ三十町ノ處ニテ終リ夫レヨリ後ハ樹木多キ低地ニ由リ河ヲ下ル

道路ハ「シー、ヌイン、サー」村ヲ經廣サ五町乃至十町ノ谷ニ沿ヒテ西ニ向フ此處ハ耕地(煙草等)年々ニ増加シ道路ハ之ヲ「シヨウ、ブク」村ヨリ「ナムシヨ、リヨ」嶺ニ到ルモノニ比スレハ著シク良好ナリ此谷ノ河即チ「ブク、キヨル、スー」河ハ流レニ從ヒ之ニ注流スルモノ多キカ故ニ次第ニ水ヲ増シテ速カニ廣サ十七間半深サ一呎乃至二呎ニ達ス道ハ二箇ノ橋梁ヲ渡ル其橋梁ハ構造特異ニシテ一言スルノ要アリ即チ橋ハ各三個ノ開閉スヘキ接合部ヲ有シ橋礎ハ石ヲ填充シタル木函ニシテ橋床ハ丸太ヨリ成ル谷ニ沿ヒ河流ノ下方五町ノ處ニ一橋アリ此橋ハ三個ノ半橋臺ヨリ成リ即チ橋臺ハ一個ノ橋柱及ヒ長キ梁材ヨリ成リ其梁材ヲ以テ桁ヲ支ヘ又梁材傾斜面ハ水流ニ對向スルカ故ニ氷切ノ用ヲ爲ス一里四町ニシテ「ツアム、ムリ」村(吉州ヨリ二十六里十九町)アリ此村ノ後方「ユ、イリ、モ、ギ」村附近ニ於テ橋ニ由リ河ノ左岸ニ渡リ夫レヨリ谷ノ左岸ノ斜面ニ沿ヒ「バン、ドー、リヨ」嶺ニ登ル其登路ハ橋ヨリ起算シテ三十町ノ間ハ雜木繁茂セル林ニ由リテ延長シ嶺ノ頂上「ヨ、イリ、モ、ギ」村附近ニ於ケル橋ヨリ高キコト百七十五間)ニ於テ樹木ナキ廣地アリ其處ヨリ東ハ「ナム、シヨウ、リヨ」嶺ヲ見北ハ地平線上ニ峭立セル三個ノ巨山頭ヲ見ル降路モ亦登路ノ如ク森林ニシテ登路ニ比スレハ通行シ易ク其最モ難所ハ約三十町ノ間ナリトス而シテ降路ノ落着ク谷ハ概シテ西西北方ニ向ヒ廣サハ約十町ニシテ一見開墾後未タ久シキヲ經

サルモノ、如シ夫レヨリ道路ハ「ター、ムン、ドー、イー」村ヲ過ク村ハ吉州ヨリ三十一里十四町ノ處ニアリ其村ヨリ二十町ニシテ「シヤンベリ」村アリ同一里二十四町ニシテ「ター、イン」村アリ同四里十六町ニシテ「ブーシンブホー」(ブーシンボ)堡アリ道路ノ通過スル谷ハ此堡ノ後方ニ於テ次第ニ廣カリ西南ニ向ヒ堡ヨリ一里三十四町ニシテ鴨綠江ノ左支流ナル「ホー、チヨン、ガン」河ノ谷ニ落下ス道路ハ堡ヨリ河ノ左岸ヲ遠カリ「ブクキヨル、スー」河ノ谷及「ホー、チヨン、ガン」河ノ谷ノ右岸ノ斜面ニ沿ヒテ行ク但シ甲山附近即チ谷ノ岸カ河ノ右岸ニ近ツク處ニ到リ道路ハ再ヒ河ニ近接ス而シテ甲山ノ前五町ノ處ニ於テ橋ニ由リ「ホー、チヨン、ガン」河ノ右支流ヲ渡ル此河ハ何レノ處ニテモ渡渉セラレサルハナシ甲山ハ吉州ヲ距ルコト四十里十町

(一)元山ヨリ平壤ニ到ル道路

此道路ハ始メノ一里十四町間ハ元山慶源間ノ道路ト同一體ニシテ其分岐シタル後ハ概シテ西方ニ向ヒ「ヨルンガン」河ノ谷ニ沿ヒ上流ノ方ニ上ル此河ハ橋ニ由リテ之ヲ横キルコト三回橋ハ皆狭クシテ車輛ヲ通セス

元山ヨリ三里十二町ノ處ニ「ヨン、ルン」村(エン、ルン、コリー)アリ「ヨン、ルン、ガン」河ノ谷ハ此村ノ附近ニ於テ狭クナリ村ヨリ二十町ニシテ狭低地ト爲ル是ヨリ道路ハ高ク河ノ上ニ上リ進ム「ヨン、ルン」村ヨリ三里十二町ニシテ「マー、サン、ニヨン」(マー、スイン、エエン)嶺アリ一頭牽二輪車ヲ通セスシテ通行スヘキハ駄獸ノミ急斜面ハ廣葉樹茂鬱ス嶺ヨリ「ラザレフ」灣ノ絶景見エ特ニ其灣ノ北部ハ「ナヒモフ」半島ト共ニ明ニ見ユ三里三十二町ニシテ「マズインゲ」村附近ニ於テ降路ノ最モ急ナル部分ハ盡ク、五

里三十町ニシテ瑣々タル「タン、コガ」嶺アリ松生ス道路ハソレヨリ「マー、チヨン、ドン」村ノ方ニ臨津江ノ水源ノ谷ニ沿ヒテ下リ然ル後方向ヲ北ニ取り同河ノ他ノ水源ノ谷ニ沿ヒテ上ル此河ハ漢江ニ流入ス「コリ、カム、サン、ニー」村ヨリ二里十八町ヲ行キタル處即元山ヨリ十二里十八町ニシテ「ヨン、ブフン、ドン」(エンブードン)村附近ニ於テ登路ノ最モ困難ナル部分始マル此部分ハ粘土石質ノ地ニシテ「アオ一、ビー、ニヨン」嶺ニ登ルモノニテ嶺ハ臨津江ト大同江トノ流域ノ分水界ヲ爲ス處ノ山脈中ニアリ此嶺ニ近ク圓錐形ノ孤立峯ノ上ニ信號格アリ一頭牽馬車ハ此道路ヲ通行セスト雖モ思フニ其通行ニ堪ヘサルニアラス

前記ノ嶺ヨリ一里四町ニシテ微細ナル「ドル、ゴモ、コガ」嶺アリ登降路ハ粘土質ニシテ砂利ノ少量ヲ混スルモノナリ此嶺ハ微細ナル巖石ノ高地上ヲ互リ其高地ハ河ノ左岸ニ在リ「ドル、ゴモ、コガ」嶺ヨリ低ク「サク、トン」河(ソグ、ジヤン、ムリ)トモ云ヒ大同江ノ左支流ナル陽徳江ニ會流ス)ノ谷ハ次第ニ廣カリ地質ハ次第ニ砂利ヲ減シテ粘土ヨリ硬砂ニ變ス道路ハ三里二十二町ニシテ「サク、ドン」河ノ谷ヲ去リ其河ノ右支流ノ低地ニ沿ヒ微細ナル「チイドーニヨン」嶺ニ上ル嶺ノ上ニ深道アリ嶺ヨリ道路ハ陽徳江ノ左支流ノ底地ニ沿ヒテ下ル

阿虎飛嶺ヨリ五里二十町ニシテ陽徳市ニ近ツク道路ハ此市ヨリ始メノ一里九町ノ間ハ陽徳江ノ峽地ニ沿ヒ夫レヨリ二里二十八町ノ處マテノ間ニ二個ノ頗ル廣キ谷ヲ横切ル其谷ニハ數多ノ温泉アリ此谷ハ大ナラサル支山脈ニ依リテ分割セラレ道路ハ殆ント認め難キ坂ニ沿ヒテ其支山脈ヲ踰エ三里二十二町ニシテ「チンコガ」嶺アリ四里二十六町ニシテ道路ハ「シンヌタリ」河ノ谷ヲ去ル此谷ハ其道路ノ坂ヨリ落下シタ

ル處ナリ夫レヨリ道路ハ右支流ノ低地ニ沿ヒ「フリガ、リヨン」嶺ニ登ル其地質ハ大砂粒ナリ道路ハ五里三十町ノ處ヨリ六里三十四町ノ處マテ「ブル、ユー、ガン」(ツホー、チヨン)河ノ峽地ヲ下リ「ハン、ビー」村(陽徳ヨリ七里十八町)ヨリ同河ノ最モ屈曲セル谷ニ由リテ下リ其際多次此川及ヒ其支流ヲ渡ル道路ハ此處ニ於テハ其距離ヲ短縮スル爲メニ河ノ屈曲部ニ沿ハスシテ殆ント直線ニ進ミ其際二個ノ橋梁ノ間ニ於テ河岩ノ谷ノ支山脈ヲ踰ユ、河ハ何レノ處ニテモ徒涉セラレサルハナシ六里十四町ニシテ「パン、ドル、コガ」嶺アリ此嶺ハ最モ著大ナルモノナリト雖モ能ク人工ヲ加ヘテ登ルニ易シ地質ハ粘土石質或ハ硬砂質ナリ

陽徳ヨリ十五里ニシテ「ヒヨクチャン、サガバン」村アリ此村ヨリ成川市マテ「プール、ユー、ガン」河ノ廣キ弓弦部ニ沿ヒ夫レヨリ此弓形ヲ填塞スル所ノ山地ヲ横キル「タン、ニー、ミー」村(「シヨクチャン、サガバン」村ヨリ三里)ヲ過キテ道路ハ二里十八町マテハ屈曲セル峽地ニ沿ヒ「マム、ニヨイ」嶺ニ登ル登降トモ駄獸ニハ差支ナシ四里二十六町ニシテ「ツハコリ」村ニ到リ村ヨリ砂利質ノ道ニテ「ソヌゲ」嶺ニ登ル「シヨクチャン、サガバン」村及ヒ成川市間ハ道路ハ元山平壤間ノ道路中困難ナルモノ、一ツトス

成川市(陽徳市ヨリ二十里十町)ノ南門ヲ出ツルノ後道路ハ多クノ小嶺ヲ踰ユ其小嶺ノ最後ノモノヨリ谷地次第ニ廣カリ江東(成川ヨリ四里六町)附近ニ於テハ約三十町ニ及フ成川ヨリ廣キ谷ニ由リテ進ミ同市ヨリ二里八町ニシテ大同江ノ左岸ヲ爲ス小嶺アリ又二里十八町ニシテ同河ノ渡船アリ河ノ廣サハ百五十間餘深サハ一丈五寸ヨリ一丈四尺ニ至ル

江東ヨリ五里五町ニシテ「トン、グー、デー」村アリ此村ヨリ一里四町ニシテ小嶺アリ道路ハ之ヲ踰ユテ大

同江ノ左岸ノ近傍ヲ通過ス平壤ニ達スル最後ノ三十町ノ間ハ道路ハ大同江岸ニ沿ヒテ行キ其三十町ノ終リニハ河ト河岸ノ斷崖トノ間ノ小道トナル其崖ハ既ニ平壤市ノ北部ヲ爲ス前記道路ノ外平壤市ニ入ルニ西北門ヨリスル一道路アリ平壤ニ達スル前一里四町ノ處ヨリ駄獸ノ通行全ク便ナリト雖モ此道路ハ甚シク迂廻ス

平壤市ハ「トン、グー、デー」村ヨリ五里二十町ニシテ元山ヨリ五十三里二十町

南韓ノ道路 前ニモ記載セシ如ク南韓ニ於テハ陸地交通路北韓ヨリハ多シ然レトモ其精細ナルコトハ歐洲ノ文書ニ未タ記述アルヲ見ス

前記ノ六大道路ヨリ南韓ニ向フモノ四條アリ其三條ハ京城ヨリ半島ノ東南端ニ向ヒ斜ニ延長シテ京城以南ノ半島ヲ横斷ス他ノ一條ハ大ナル街道ニシテ半島ノ西部沿岸ヲ通過ス以上ノ四大道路ノ方向ニ關スル狀況ハ左ノ如シ

一、東部ノ道路 此道路ハ京城ノ東門ヲ出テ漢江ノ右岸ニ沿ヒ楊根市マテ廻リ其間、漢江ノ北支流(シン、ヨン、ガン)ヲ横キル楊根市ヨリ道路ハ漢江ノ南支流(ヨ、ガン)ノ谷ニ沿ヒ廻リ其間一度ナラス河ノ一岸ヨリ他岸ニ渡ル夫レヨリ清風及ヒ丹陽ノ二市ヲ經テ漢江ト洛東江ノ流域ノ分水界ヲ踰ユ洛東江ノ流域ニ入リツ、豐基、榮川、安東、義城、義興、新寧、慶州、蔚山ノ諸市ヲ經由シ日本海岸ニ出テ其海岸ニ由リ機杼ヲ經テ釜山ニ到ル

二、前ノ道路ト終點ヲ同クシ殆ント之ト竝行スル道路 此道路ハ京城ノ南門ヲ出テ漢江ノ左岸ニ渡リ廣州、利川、陰竹、陰城及ヒ槐山ヲ通過ス槐山ヲ出ツルノ後東ニ折レ「ヨウ、ガン」河ノ左源流

ナル「ターリ、チヨン」河ヲ渡リ然ル後、延慶市ヲ過キ洛東江ノ流域ニ移リ開慶市ニ向フ夫レヨリ方向ヲ南ニ取リ咸昌及ヒ尙州ノ二市ヲ經テ善山市ニ到ル善山市ノ附近ニテ洛東江ヲ渡リ仁同市ニ入ル夫レヨリ「クイム、ホー、ガン」河ヲ渡リ大邱ニ來ル其處ヲ出テ慶山市ヲ經、洛東江ノ左源流ナル「ハイ、ヤン、ガン」河ノ谷ニ入り其際二度、河ヲ渡リ其間ニ右岸ニ於テ清道及ヒ密陽市ニ逢著ス夫レヨリ梁山市ヲ經、東萊市ニ來ル此市ヨリ前記ノ道路ト合シ釜山ニ向フ

三、前記ノ二道路ト並行シテ京城ヨリ釜山ニ到ル大街路 此道路ハ京城ノ南門ヲ出テ前記ノ道路ヨリハ稍西方ニ於テ漢江ヲ渡リ然ル後、始興、果川、龍仁、陽智、竹山及ヒ鎮川ノ諸市ヲ經テ清安市ニ到リ其處ヨリ「トン、チン、ガン」河ノ左岸ニ沿ヒ清州ヲ經テ文義市ニ赴ク文義市ヲ過キ前記ノ河ノ左源流ノ谷ニ移リ其處ニテ懷德、沃川、永同及黃淵ノ諸市ニ逢著シ黃淵ヲ出テ、大ナラサル山脈ヲ横キリ金山市ニ到ル市ノ附近ニ於テ「カム、ムン、チヨン」河ヲ渡ル夫レヨリ星州市ヲ過キ又洛東江ノ谷ニ於テ玄風、昌寧及ヒ靈山市ヲ過キ靈山市ノ附近ニ於テ其河ヲ横リ然ル後、金海市ヲ過キテ東萊市ニ着シ此處ニテ前記ノ二道路ト合一ス

四、京城ヨリ康津ニ到ル沿岸道路 此道路ハ始興市マテハ今書キ終リシ道路ト合シ此道ヲ出テテ西南ニ折レ安山市ヲ經、南陽市附近ニ於テ海岸ニ出テ其處ヨリ海岸ニ沿ヒ或ハ海岸ヨリ稍遠キ距離ニ於テ延長シ康津市ニ至ル其間市邑ヲ通過スルコト十七頗ル著大ナル河川ヲ渡ルコト若干

風俗

婚姻 韓人ハ婚姻ヲ以テ人生ノ重要ナル義務ト爲シ婚姻ヲ爲サ、ル者ハ之ヲ成年者ト見做サス近頃マテ特權ヲ有スル階級ニ於テハ其子女七八歳ヲ過クレハ婚姻ノ豫約ヲ爲スヲ常例トシタリシモ其他ノ社會ニ在リテハ此ノ如キ現象ノ目撃セラル、モノナカリキ概シテ現朝時代ニ於テハ支那ニ於テモ同シク數世紀前ヨリモ早婚多ク行ハレ十歳乃至十二歳ノ兒童ニシテ既ニ婚姻ノ徵證タル結髮ヲ爲シタルモノモ珍シカラス勿論此ノ如キ早婚者ノ結婚ハ其結婚後數年間ハ只名義ノミニシテ宛モ露西亞ニ於ケル許婚ノ如キモノナリト雖トモ男子ニシテ既ニ結婚シタル以上ハ年齡ノ幼少ナルニ拘ハラズ相等ノ義務ヲ負ヒ婚姻成立ノ時ヨリ成年者トナリ年齡ヨリ見レハ假令尙乳臭ヲ脱セサル兒童ニ過キスト雖トモ社會ニ出ツレハ忽成年者ニ變化スルコトヲ得此ニ至レハ直チニ兒戲ヲ爲シ同年者ト嬉遊スル等ノ事ヲ廢シ老成ノ態ヲ保タサルヘカラス然レトモ千八百九十四年ニ至リ早婚ヲ制シ婚姻ノ能力ヲ有スル者ハ男子二十歳女子十六歳ト定メタリ

配偶者ノ選定ハ全ク父母ニ屬シ父母ハ子女ノ配偶者ヲ選定スルニハ専ラ家庭ノ位置ヲ標準トシ主トシテ總テノ點ニ於テ權衡ヲ失セサルコトヲ願慮シ其子女ノ意思ヲ顧ルコトナク兩親ハ知人ヲ經テ配偶者タルヘキ者ノ家庭ニ關スル一切ノ事情ヲ探リ選フ所女子ナルトキハ母ハ其家ニ客ト爲リテ赴キ出來得ル限リ其女子ニ接近シテ之ヲ試ミ意ニ適シタル時ハ兩親ハ媒介者即チ雙方ノ知人ニ其家ノ意見ヲ窺ニ探知センコトヲ依頼シ其女子ノ父ニ於テ承諾セントスル時ハ亦男子ノ家ニ到リ其男子ヲ試ミ此ノ如クニシテ雙方承諾シタル時ハ男子ノ父ハ女子ノ父ニ長キ紅色ノ紙(祝事ニ用フ)ニ記載シタル書翰ヲ送ル其書翰ニハ先ツ自身ノ住所姓名ヲ記シ次ニ先方ノ健康ヲ問ヒ便宜ノ時ニ婚姻ノ無事成立ヲ祈ル誠意ヲ表シ便宜ノ時ニ

之ヲ送り尙其書翰ノ終リニハ子息何人内何人ハ結婚シ得ルモ未婚者ナルコト及ヒ此頃知人ヨリ其家ニ女子アルヲ聞知シタルコト等ヲ追記ス此ノ書面ニ對シ女子ノ父ヨリ回答シタルトキハ即チ承諾ヲ表スルモノニテ其回答ヲ受領スル前ナラハ雙方共何等ノ義務ヲ負フコトナク任意ニ拒絕スルコトヲ得ト雖トモ女子ノ父承諾ノ通知ヲ送りタル後ハ男子ハ假令形式的ニ婚姻ノ式ヲ舉ケスト雖トモ既婚者ト見做サル答書ハ甚タ重要ナル意味ヲ有スルモノニテ男子一度其答書ヲ得レハ形式的婚姻ノ式ヲ終ラスシテ死スト雖トモ女子ハ尙ホ寡婦ト見做サル、ナリ

「ルベントツオーフ」曰ク韓國ニハ婚姻ノ媒介ヲ專業トスルモノアリ之レヲ婚姻仲立營業ト稱スルヲ得ヘシ

婚姻ノ契約成立シタルトキハ兩親ノ大ニ配慮スル所ハ儀式執行ノタメ吉日ヲ撰定スルコトニテ是カ爲メニハ久シキ評議ヲ重ネ且ツト筮ニ問ヒテ最モ吉祥ノ日ヲ撰フ其卜定ノ方法ハ通例當事者ノ年齡ヲ算シテ星宿ノ係ル所ヲ究ム而シテ期日定マル時ハ直ニ之ヲ親族知己ニ通知シ男子ハ式ヲ舉クル數日前又叮嚀ニ卜定シタル日ヲ以テ服飾及ヒ織物ヲ女子ニ贈リ女子ハ其織物ヲ自カラ裁縫シテ之ヲ男子ニ送り男子婚姻ノ式日ニ第一ニ之ヲ著用ス是等贈物ハ男子ノ知人之ヲ運搬シ女子ノ親族之ヲ途ニ迎ヒ此際兩者ノ間ニ戲闘ヲ演シ屢死亡者ヲ出スコトアリテ負ケタル方ハ之ヲ以テ不吉ノ徵トス男子ハ其物品ノ贈與ヲ終リタル後從來ノ後背ニ垂レタル頭髮ヲ結束シ廣縁ノ帽ヲ戴ク是レ青年ト爲リタルノ徽章ニシテ男子ハ之ヲ行ヒタル日親族及ヒ父ノ知人ヲ廻訪シ其夜纏遊ヲ設ケテ曉ニ及フ

女子ハ男子ヨリ贈リタル布ヲ以テ自カラ衣服ヲ裁縫シ式ノ前日之ヲ男子ニ送り然ル後親友一人ヲ招キテ

頭髮ノ改装ヲ頼ム此事ハ重大ナルモノニテ吉相巧妙ノ手ヲ有スル處女ヲ選定シテ之ヲ行ハシム

式ノ當日ニハ男子ノ朋友知己ハ皆盛裝シテ定刻ニ男子ノ家ニ赴キ男子ハ多クノ從者ヲ伴ヒ豫メ卜定シタル時刻ヲ以テ家ヲ出テ女子ノ家ニ到ル先行者二人アリテ一人ハ白傘ヲ持シ他ノ一人ハ一羽ノ鳴ノ頭ハ出テ、赤風呂敷ニ包マレタルヲ携ヘ行ク鳴ハ夫婦和睦ノ表章ニシテ色裝ノ赤色ハ祝賀ノ印ナリ但多クノ場合ニ於テハ生禽ニ代フルニ單ニ實物大ノ木造鍍金ノ像ヲ以テシ又窄ナレトモ生キタル若輩ヲ用フルモアリ男子ハ乘馬若クハ一頭馬車ニテ之ニ從ヒ其後ニハ從者行ク從者ハ皆馬上ニアリ男子ノ父モ亦多クノ乘馬從者ヲ從ヘ車馬ニテ行ク人馬ノ員數其他總テ行列ノ盛ナルト否トハ男子ノ身分ニ應ス行列家ニ近ケハ鳴ヲ運フ者先ツ馬ヲ下リテ家ニ入り米ヲ盛リタル大皿ノ上ニ鳴ヲ置キテ直チニ去ル

此時男子ノ父ハ正門ノ前ニ於テ馬ヲ下リ從者皆之ニ倣ヒ男子自身ハ最後ニ馬ヲ下リ然ル後一同東ニ向ヒテ立チ止マリ廣縁ノ帽盛飾ノ服及靴ヲ脱シ常衣ニ更ヘテ女子ノ家ニ入レハ女子ノ父ハ之ヲ迎ヒ男子第一ニ家ニ飾ラレタル室或ハ屋前ノ帳幕内ニ進メハ女子ハ既ニ四人ノ女助手家人及ヒ客ヲ繞ラシテ此ニ在リ男子ハ玆ニ始メテ我カ未來ノ配偶者ヲ見ルナリ

客既ニ集マレハ當事者ヲ盛飾ヲ施シタル高壇ニ導キテ竝座セシム然レトモ當事者ハ式中言葉ヲ交スコトヲ得ス當事者高壇ニ上レハ鳴若クハ若輩ヲ持來リテ之ヲ犧牲トシ低頭シテ互ニ承諾ノ意ヲ證シ然ル後女子ハ男ヲ四拜シ當事者ノ兩親モ亦互ニ四度低頭ノ禮ヲ交換ス大ナル「ジュジュブ」(草ノ名ナラン)ヲ男子ノ前ニ置キ劔製ノ雉子ヲ女子ノ前ニ置キ女助手ハ紅青ノ糸ヲ卷キタル瓢杯ニ酒ヲ盛り數回當事者ニ獻酬セシム之ヲ「賀杯」ト名ク是ヲ以テ式全ク終リ始メテ法律上婚姻ノ成立シタルモノト見做サル

式ヲ了リタル後當事者ハ婚姻契約書ヲ作成ス此證書ニハ赤紙ヲ用ヒ双方之ニ署名シ妻文旨ナレハ單ニ一手ヲ紙上ニ載セテ其形ヲ墨ヲ以テ劃ス此證書ハ之ヲ均シク兩切シテ當事者各其一ヲ取り大切ニ之ヲ保存シ妻ノ手ニ在ルモノハ只其死後ニ於テノミ夫ニ移リ之ニ再婚ノ自由ヲ與フ如何トナレハ夫ハ假令離婚スト雖トモ妻ノ生存中ハ法律上再婚ノ權利ヲ有セサルハナリ然レトモ近來ニ及ヒテハ離婚ノ數増加シ夫タル者ニシテ證書ノ一片ノミヲ有シテ再婚スルノ例甚々些カラヌ時トシテハ夫タル者ハ妻ノ父ニ誓約書ヲ與ヘ妻ニ對シテ變心セサルコトヲ約スルコトアリ

婚姻ノ式了レハ妻ハ直チニ婦人室ニ去リ夫ハ客ノ爲メニ盛大ナル宴ヲ張ル宴酬ニシテ皆與ニ入ルノ時新郎ノ友人ハ不意ニ來襲シテ新郎ヲ屋外ニ曳キ出スコトアリ此際ノ喧騒紛亂ハ言語ニ絶シ妻ノ父ニ於テ多少ノ贖金ヲ出シテ捕虜タル新郎ヲ救フニアラサルヨリハ靜定スルコトナシ此惡戯ノ後少壯ノ友客及其他ノ客ハ新婦ノ家ヲ去リ新郎ノ僕婢モ亦過分ノ贈品金錢ヲ得テ還ル諸客還リテ後新郎ハ別室ニ到リ妻ノ祖先ノ靈前ニ拜ス新郎ハ薄暮ニ至リ花飾リヲ有スル閨房ニ入ル閨房ニハ米ヲ入レタル大皿二個アリテ皿ノ上ニハ各々燭臺ヲ立テ蠟燭ヲ點ス姑クアリテ新婦ノ母及ヒ親戚婦人ハ新婦ヲ送リテ閨房ニ來リ之ヲ夫ニ渡シテ去ル新夫婦ハ是ニ於テ始メテ互ニ相熟視シ共ニ相識ルヲ得ルナリ然レトモ是尙ホ表面上ノ狀態ニ過キス如何トナレハ禮ニ依レハ新婦ハ式ノ當日ニ於テ終始沈黙ヲ守ルノ義務アルノミナラス閨房ニ於テモ尙同様ノ制限ヲ受クルモノナレハナリ式ノ翌日新婦ハ頭髮ノ一辨ヲ改メテ二辨トシ以後生涯此形ヲ變セス

式後第三日新夫婦ハ通例夫ノ父ノ家ニ移ル若シ此時移ラサレハ再ヒ移ルニハ一年ヲ經過スルノ後ニアラ

サレハ能ハス事情ニヨリテハ二年ヲ經ヘキ場合モアリ但何レノ場合ヲ問ハス新夫婦、夫ノ父ノ家ニ入リタル時ハ必ス先ツ祖先ノ靈ヲ拜ス貴顯紳士ハ多ク新婦ト三四日ヲ過シタル後ハ之ヲ棄テ妾ノ間ニ遊興ニ耽ル而モ一人ノ之ヲ非難スルモノナシ

婦人ノ位地 適法ニ婚姻ヲ爲シタル女子ハ下級民階ヨリ出ツル者ト雖トモ夫ニ屬スル地位及身分ヲ享有スルモノニテ近來行ハレタル階級制度廢止前ニ於テモ平民ノ女子ニシテ兩班ニ婚嫁シタルモノハ即チ兩班ノ身分ヲ取得シ其子女ハ父ノ身分ヲ襲踏セリ唯寡婦及奴隸女ハ例外ニシテ婚嫁後、夫ノ身分ニ屬スル權利ヲ享有スルヲ得サリシノミ二人ノ兄弟ノ年長者其弟ノ妻ノ姪ト婚姻スル時ハ尊長タルコトハ夫タル者ノ年齢ニ依リテ定マリ姪ハ其叔母ニ對シテ姉トナリ叔母ハ其姪ノ妹トナル此ノ如クニシテ韓國ニ於テ尊長ト云フコトハ總テ東亞諸國ニ於ケルカ如ク其家族ニ於ケル女子ノ地位ヲ左右スル實際ノ勢力ヲ有ス適法ノ妻ハ夫ノ總テノ資産ニ對シテ共有者トナリ其夫死シテ男子ナキ時ハ其資産ハ妻ノ所有ニ皈ス又妻ハ家族タル女子ノ長ニシテ其女子ハ皆之ニ服従スヘキモノトス

韓國婦人カ婚姻後ニ取得スル權利ハ前ニ記スル所ヲ以テ其全部ヲ盡シ其他ノ方面ニ於テハ婚嫁前ト同シク窮屈ナル生活ヲ爲シ房室ニ蟄居シテ他人ノ出入ヲ許サス其嚴重ナルコト官憲ト雖トモ之ニ近クコトヲ得ス故ニ普通ノ犯罪者逮捕ヲ遁レテ自家ノ婦人室ニ隱匿スルトキハ之ヲ拉シ來ルニ由ナシ唯國事犯ノ場合ノミハ此限ニアラス是レ國事犯者ヲ庇護スル者ハ共犯者ト見做サレ刑法上ノ責任ヲ負擔セサルヘカラサレハナリ概シテ婦人室ヲ犯サ、ルコト、蟄居の生活トハ嚴ニ勵行セラレ必要アリテ自家ノ屋上ニ登ル者ハ豫メ隣人ニ通知シテ窓戶ヲ開カサルコト及ヒ婦人ノ外出セサルコトヲ注意シ婦人(特ニ上流社會ノ

婦人)ハ外出スルコト甚々罕ニシテ且ツ毎回夫ノ許可ヲ得サルヘカラス而シテ上流社會ノ婦人外出スル時ハ面ヲ覆フヲ常トス

夫ハ妻ヲ視ルコト下級者ノ如ク妻ヲ以テ先天的ニ男子ノ要求ト氣隨トヲ充タスタメニ供セラレタルモノノ如ク思考シ妻ハ絶對ニ夫ノ意志ニ服從ス又韓人ノ觀念ニ依レハ夫ハ妻ヲ蔑視スヘキモノトシ重要ナル家事モ一切之ヲ妻ニ計ラサルノミナラス如何ナル場合ニ於テモ妻ト久シク談スルハ男子ノ爲スヘキ道ニアラスト爲ス一家族同居ノ制ハ夫ノ妻ニ對スル待遇ニ於テ禮儀作法ヲ守ラシムト雖トモ夫ハ尙ホ妻ニ對シテ眞ノ愛ヲ現サス故ニ其妻ノ死ニ泣ク者ハ朋友知己ニ嗤笑セララル、ヲ免レス貴族ノ身ニシテ其妻ノ葬式ニ數滴ノ涙ヲ許シタル爲メ只知己朋友ニ擯斥セララル、ヲ恥チ數週間交際場裡ヲ避ケタルカ如キ例モ一再ニアラスト云フ平民ハ諸國ト同シク其言行粗暴ニシテ妻ニ對シテ拳打ヲ加フルコトモ少シトセス男女權利ノ不權衡ナルコトハ如何ナル方面ニ於テモ認メラレ夫ハ妻ニ對シテ毫末モ義務ヲ有セサルニ反シ妻ハ凡テ夫ノ干涉ヲ受ケ且ツ之ニ對シテ嚴ニ義務ヲ履行セサルヘカラス貞操ハ單ニ妻ニノミ要求セラレ妻ハ夫ノ行爲ニヨリ如何ニ侮辱ヲ受クトモ決シテ嫉妬心ヲ起シ反抗スルコトヲ得ス近年マテ夫タル者ハ其妻貞操ヲ破リタル時ハ之ヲ官吏ニ引渡スノ權ヲ有シ官吏ハ之ヲ笞杖ノ刑ニ處シ没シテ官奴トナシ更ニ妾トシテ之ヲ其從僕及ヒ護衛者等ニ與ヘタリ

昔時ハ有婦姦ノ罪ハ今日ヨリモ重ク笞杖ヲ加ヘテ後ニ之ヲ死刑ニ處シタリ

妻ニシテ夫ノ所爲ニ不滿シテ家ヲ出テタル者ハ法律上婚家ニ送ラレ公然笞杖ノ罪ニ處セラレタリ

韓人ノ觀念ニ依レハ教育アル女子ハ夫ト屢々談スヘカラス必要上談スルコトアルモ久シカルヘカラス妻

カ其姻族ニ對スル關係ハ一層窮屈ナルモノニテ舅ノ前ニハ頭ヲ垂レ問ヒアレハ短ク答ヘ久敷婚家ニ在ルト雖トモ尙ホ此作法ヲ變スルコトヲ得ス但姑ニ對シテハ其關係稍々寬大ニシテ之ト談話スルコトヲ許サル而シテ同居ノ兄弟ハ決シテ同胞ノ妻ト語ルコトナシ

妻タル者ノ主要ナル職務ハ貴賤貧富ノ別ナク育兒ト家計ニシテ多クハ手仕事ヲ爲シ自己ノ衣服ノ外夫及ヒ子女ノ衣服ヲモ之ヲ準備ス富家ニ在リテハ女子ハ母タル直接ノ義務ノ外ハ多ク僕婢ヲ使用シ自ラ之ニ當ルコト少ナシ然レトモ富家ノ女子ハ止ムヲ得サル事故アルニアラサレハ外出セス此場合ニ於テモ家長ノ許可ヲ要ス平民ノ妻ハ上流社會ノ者ヨリハ多ク自由ヲ有スト雖モ其代リニ極メテ過激ナル勞役ニ服シ其狀態ハ眞ノ奴隸女トシテ終始休息スルコトナシト云フモ過言ニアラス若シ洒掃食物ノ調理、河水ノ汲ミ運ヒ全家族ノ爲メニ麻布及被服ノ調製ニ加フルニ夏時ハ夫ヲ野外ノ勞ニ助クル等是レ皆妻タルモノ、負擔タルヲ考フレハ休息ノ寸暇ヲ有セサルハ知ルヘキナリ然ルニ願ミテ男子ヲ見レハ夏時ハ只植付收穫ノ勞ヲ乘リ冬時ハ殆ント専ラ薪炭ノ準備ニ從事スルモ其他ノ時期ハ全ク休暇ニシテ親戚知己ヲ訪問シ終日喫煙シ遊戲シ互ニ響應シテ時日ヲ消過ス

女子ハ卑賤ノ地位ニ安シ其不平ヲ起サスシテ能ク忍耐スルコトハ以テ模範トナスヘク概シテ順良勤勉ニシテ夫ノ名譽ト幸福ニ配意ス又彼等ハ第二ノ妻及ヒ妾ノ地位ニスラ甘シ得ルノ氣習ヲ有ス

血統ノ繼續ハ孔教ノ重スル所ニシテ韓人ハ甚シク之ニ關心シ其妻ニ子ナキ時ハ初婚ノ式ノ一部分ヲ行ヒテ第二ノ妻ヲ娶リ其妻ニ出テタル子女ハ第一ノ妻ヲ母ト呼フ其代リニ第二ノ妻ハ第一ノ妻ヨリハ離婚ニモ手數ヲ要セス以前ハ夫ノ死後再婚ヲ爲スニ於テモ之ヲ咎ムルコト少カリキ然レトモ此ニ注意スヘキハ

法律上ノ第二ノ妻ハ甚ク罕ニシテ儀式ヲ要セサル妻ヲ以テ之ニ代用スルモノ多數ヲ占ムルコト是ナリ

妾 韓人ハ資力之ヲ許セハ幾人ニテモ妾ヲ養フコトヲ得妾ハ通例貧家ノ女子ヲ買取ルモノナリ然レトモ此外男子ヨリ懇親ヲ證セラルレハ何レノ女子ト雖トモ其妾トナリ一旦妾トナレハ其取戻ニ關シ兩親ノ談判アリト雖トモ男子之ヲ斥ケテ其女子ヲ抑留シ若シ脱走セントスル者アレハ力ヲ以テ之ヲ制ス然レトモ又之ヲ一方ヨリ見レハ男子ハ其妾ニシテ己レノ意ニ投セサルトキハ任意放逐スルコト得

政府ハ蓄妾ノ風習ニ對シ常ニ放任主義ヲ採ルカ故ニ此風習ハ廣ク蔓延シ公然ノモノトナレリ其後政府ハ單ニ妾ヨリ出テタル子女ニ關スル多少制限的ノ法律ヲ發布シ妾ニ出テタル子ハ三級若クハ五六級以上ノ官職ニ登ルヲ禁シタルニ過キス中等社會ノ男子ニハ解放奴隸ヲ妾トスルコトヲ許ス但其奴隸力其男子若クハ同姓ノ者ニ屬シタルコトナキ場合ニ限ル

蓄妾ノ風習ハ多妻主義ヲ來シ適法ノ婚姻ニ依ル妻ハ通例夫ニ妾アルヲ知ルト雖トモ若シ夫ノ希望ナルトキハ其妾ヲ家ニ入レ及ヒ之ヲ饗應スルコトニモ反對スルコトナシ勿論韓國ニ於テモ時ニハ氣力アル女子アリテ厄介ナル分子ノ家ニ入ルヲ怒リ復讐的行爲ニ出テ家庭紛議ノ原因ヲ作ルト雖トモ斯ノ如キ場合ハ尙ホ稀ナリ是レ女子ハ能ク事ヲ爲スノ力ナキヲ自覺シ不快ヲ除クニハ嫉妬ヲ抑制スルヲ要義トシ且第一ノ妻ハ兎ニ角法律上家族タル女子ノ首位ニ居リ妾ノ子女ハ之ヲ母ト呼フカ如キ權利ノ附隨スルモノアレハナリ

式ヲ舉ケスシテ男女同居スルモノアリ是レ鰥夫ノ再婚ヲ願ハサル者家事ノ爲メニ雇入レタル女子ト同居スルモノニシテ多クハ貧ニシテ式ニ要スル些カラサル經費ノ負擔ニ堪ヘサル者ナリ而シテ一方ニハ近來

マテ寡婦ハ法律ニ依リ再婚ヲ禁シラレタルニ依リ是等ノ鰥夫ノ求メニ應シタリ此ノ如ク此類ノ結合ハ雙方ノ自由意志ヲ以テ成立シタルモノナルカ故ニ或ル場合ニテハ之ヲ保持スル期間甚ク短ク或場合於テハ終身繼續スルモアリ此境遇ニ在ルノ女子ハ普通ノ妾ヨリハ稍重ンセラル

離婚 韓國ニ於テハ離婚認メラレ其實現上流社會ニ多シ原因ノ主要ナルモノハ艱難貧苦ニ堪ヘ得サル女子ノ不順良及ヒ爭鬪ニシテ平民ハ之ヲ懲ラスニ杖若クハ頬打ヲ用ヒ身分アル者ハ寧ロ離婚ノ方法ヲ撰フ其他不貞嫉妬無子及ヒ惡疾モ離婚ノ原因トナル凡テ離婚シタル男子ハ前妻ノ生存中再婚ヲ爲スヲ得ス再婚 男子ニハ再婚ノ禁ナシ但大官ハ妻ノ死後一年時アリテハ三年ヲ經サレハ再婚ヲ許サレスト雖トモ其他ノ者ハ妻ノ死後其喪ヲ終ラストモ再婚ヲ爲スコトヲ得婚姻着手中ノ男子モ豫メ承諾ヲ得タル時ハ其相手方ノ死後再婚スルコトヲ得之ニ反シ女子ハ近來マテ絶對的再婚ヲ禁セラレ夫ノ死後ハ終身其喪ニ服セサルヘカラス此ノ義務ヲ誠實ニ行フ者ハ貞女ノ尊稱ヲ博シ死後特種ノ位牌ヲ立テ、之ヲ紀念ス玆ニ最モ奇ナルハ書面ノ契約ノミニシテ未タ式ヲ舉ケサル女子カ相手方ノ死去ニ因リ婚姻ノ自由ヲ失ヒテ前記ノ規則ヲ適用スルコト是ナリ之レ蓋シ現朝ノ始メヨリ大ナル勞力ヲ得タル孔教ノ主旨ニ基クモノニシテ千四百六十九年ヨリ千四百九十四年マテ君臨シタル成宗王ハ再婚ノ寡婦ヨリ出テタル子女ニ文官登用試験ヲ受クルコト及ヒ官吏タルコトヲ禁シタリシカ千八百九十四年ニ至リ此ノ習慣ハ甫メテ廢セラレ寡婦ニ再婚ヲ許スコト、ナレリ

平民ハ寡婦トナリタル時再婚スルコト法律ニモ習慣ニモ禁ナシ但不自由ナキ平民ハ自重心ニ依リ貴族ニ倣ヒテ窮屈ナル習慣ヲ守ルモノ少ラス然レトモ貧民ノ間ニハ第一饑餓ヲ免ルルタメ殆ント之ニ依ルノ外

途ナキタメ再婚ヲ爲ス者頗ル多シ
 寡婦ニ再婚ノ禁止ハ屢々自殺ノ原因トナリ特權ヲ有スル民階ノ若年ノ寡婦ノ境遇ハ最モ羨ムヘカラサル
 モノニシテ終始惡淡ノ餌トナルノ恐レヲ抱キテ生活シ且ツ亡夫ノ親戚ハ常ニ務メテ之ヲ遠ケントスルノ
 傾キアリ暴力ニ依リ或ハ睡眠ニ乘シテ寡婦ヲ奪フモノ屢々現ハレ此場合ニ於テハ寡婦ハ國ノ習慣ニ依リ
 掠奪者ノ妾トナルノ外ナシ仍テ寡婦ハ此類ノ耻辱ヲ免レ亡夫ニ貞節ヲ示ス爲ニ亡夫ノ葬式ヲ了リタル後
 直チニ自殺ヲ遂クル者アリ此ノ如キ行爲ハ烈婦トシテ稱セラレ之ヲ旌表シ且其子孫ニ教訓ヲ垂ル、爲メ
 國王ノ裁可ヲ經テ堂宇若クハ旌表門ヲ建設ス概シテ韓國婦人ハ名譽ヲ保ツ爲メニ自殺ヲ遂クルノ風アリ
 テ深ク心底ニ根着シ「カトリック」宣教師等ノ言ニ依レハ基督教徒タル婦人ハ屢々宣教師ニ向ヒ女子暴漢
 ノ辱メヲ受ケントスルトキハ自殺スルヲ得ルノ教規ヲ置カンコトヲ請フモノアリト
 自殺ノ方法ハ日本ニ於ケルカ如ク切腹若クハ咽喉ノ切斷ニシテ切腹ハ男子之ヲ爲シ咽喉ノ切斷ハ女子
 之ニ依ル

子女 韓人ハ愛兒ノ情ニ厚ク其子ノ最モ激烈ナル傳染病ニ罹ル時モ之ヲ放任スルコトナク從テ棄兒ハ
 殆ント全ク之レ爲シト云フモ可ナリ若シ其兒ト雖ル、ノ必要ニ迫ラレタル時ハ先ツ之ヲ朋友知己ニ托シ
 實際止ムヲ得サルニアラサレハ奴隸トシテ賣ルコトナシ若シ之ヲ賣リタル場合ト雖トモ後ニ至リ家政好
 況ニ向ヘハ直チニ全力ヲ擧ケテ之ヲ買戻ス韓人ハ概シテ家族ノ多キヲ訴フル者ナク其家族ハ如何ニ多ク
 トモ尙ホ貧窮ノ中ニ家族ノ増加ヲ歡迎ス此ノ如ク韓人ノ子女ヲ愛スルハ管ニ天性ニ出ツルノミナラス子
 孫ハ宗教ノ命スル所ニ依リ祖先ノ祭祀ヲ繼クノ責任アルカ故ニ必要上ヨリシテモ子女ノ多キヲ尙フナリ

故ニ子女ヲ有セサル者ハ親族ノ一人ヲ養子トスルヲ例トス

子女ノ出生

子女ノ出生ハ儀式ノ重要ナルモノニシテ妊婦産期ニ近ツキタルトキハ直チニ軟糲ヲ敷

キタル産室ニ移シ出産ノ時ハ只産婦ノ親戚ナル女二人アリテ出生シタル子女ハ直チニ之ヲ温湯ニテ洗
 ヒ出産ノ幸福ヲ祈ル爲メ種々ノ食物ヲ戶外ニ撒布ス出生ノ時刻ハ正確ニ之ヲ書キ留メテト筮者ニ付シテ
 將來ヲトセシム産婦ニハ出産後蜜湯ヲ與ヘ又體力回復ノ爲メ主トシテ熊膽ヨリ製セラレタル苦味藥ヲ與
 ヘ産後三日目ニ至レハ通例産室ノ敷糲ヲ掃ヒ代ユルニ蒞ヲ以テス産後ハ飯及ヒ乾藻汁ヲ以テ母ヲ養ヒ七
 日乃至十日間ハ知人ト雖トモ産室ニ入ルヲ許サス

子女生レテ三日ハ之ニ飯ヲ與ヘ然ル後始メテ母乳ヲ與フ牛乳若クハ山羊乳ハ韓人未タ之ヲ知ラス又母ニ
 シテ其子ニ乳セサルコトハ極メテ稀ニシテ唯一子ヲ有スル者ニアリテハ其子ノ七八歳時トシテハ十歳乃
 至十二歳ニ至ルマテ之ヲ乳養スルモノ、如シ

産婦ノ體力回復シテ應接ニ堪ユルニ至レハ其知人ハ之ヲ訪問シテ祝辭ヲ述ヘ其出生兒ニ要スル廉價ノ物
 品ヲ贈ル

出生兒一年ヲ經過シテ誕生日ヲ迎フレハ兩親ハ饗宴ヲ設ケテ親戚知己ヲ悉ク招キ招カレタル者通例其子
 ニ被服金錢其他廉價ノ物品ヲ贈ル

子女ハ十二日末日ニ生レタルモノモ一歳ト稱ヘ正月以後ハ之ヲ二歳ニ入ル

命名 男子生ルレハ直チニ命名ス名ニ左ノ種類アリ

一、幼名

幼名ハ出生後直チニ父母ノ希望スル所ノ名ヲ命スルモノニテ其名ノ字ハ玉、善、美、幸、龍、虎、

犬、豚、蛙、末等ノ意味ヲ有スル文字ニシテ龍ハ屢々黃、善、靜等ノ形容詞ト連結スルコトアリ

二、字 字ハ多少秀テタル人物ニ命セラレ、モノニテ通常兒童ニモ之ヲ與フ字ハ他ノ意味ニ解セラル例ハ土龍ハ短足ヲ意味シ蝦蟆ハ肥大ヲ意味シ鷲ハ猛威ヲ意味スルカ如シ

三、官名 男子婚姻スレハ成年ノ資格ヲ得成年ノ資格ヲ得レハ官名ヲ命シテ公簿ニ登錄シ法律上其名ヲ認ム官名ノ要部ハ族ヲ表スル名字ニシテ一字ハ必ス全族共通ノ文字ヲ用ユ此文字ハ同族ノ尊長ニ於テ之ヲ撰ヒ時トシテハ豫メ數世ノ子孫ノタメニ之ヲ定メ置クコトモアリ撰名日ニハ通常祝筵ヲ催シテ親戚知己ヲ響應ス

四、「ツアー、ホー」 此名ハ通例親近ノ間ニ用ヒラル、モノニテ同等者若クハ年少者ニ對シテノミ之ヲ呼フ

五、「ピヨル、ホー」 韓國ノ俗、年長者ヲ呼フニ官名若クハ親近者間ニ用ユル名ヲ以テスルヲ禁シ弟ハ元ヲ呼フニ其兄、子アレハ誰ノ父ト呼ヒ子無ケレハ之ニ別名ヲ與フ其別名ハ官名ノ如キモノニテ教育アル友人相寄り之ヲ定ム

六、「チン、ホー」 「チン、ホー」ハ贊稱ニシテ國家ニ殊勳ヲ樹テタルモノニ死後與ヘラル改名ハ官名ナルトキハ政府ノ許可ヲ要シ「ツアー、ホー」ナルトキハ友人又ハ隣人ノ集會ニ於テ定メ字ハ通例死後之ヲ贊稱ニ改ム

女子ハ幼年ノ時名ヲ有スト雖トモ婚姻スレハ之ヲ失ヒ婚姻後ハ其兩親ト雖トモ幼名ヲ呼ハスシテ多クハ婚嫁地若クハ婚姻成立地ノ郡名ヲ以テ之ヲ呼ヒ夫ノ親戚ハ其妻ノ婚姻前ノ住所タリシ郡名ヲ以テ之ヲ呼

ヒ其他一般ノ人ハ夫ノ名ノ下ニ女ニ對スル敬稱ヲ附スルカ若クハ某(夫)ノ室ト稱シ若シ子アレハ某ノ母ト稱シ女子裁判所ニ出願スル時ハ裁判官ハ職權ヲ以テ便宜上特名ヲ附ス

子女ノ養育 上流社會ニ於テハ男女ヲ別ニシテ養育シ男子ハ八歳若クハ十歳ヨリ之ヲ男子室ニ置キ其男兒ハ始終其室ニアリテ修學ノ事ヨリ眠食ニ至ルマテ此處ニ於テ之ヲ爲サシメ女子ノ室ニ在ルハ男子ノ恥ツヘキコトナルヲ説示シテ女子室ヲ訪問スルヲ禁ス女子ハ亦始終女子室ニアリテ裁縫讀書ヲ學ヒ幼時ヨリ兄弟ト遊戯セサルコト兄弟ト交ルハ男子ヨリ見テ不體裁ナルコト又他人ト接スルハ女子ノ恥辱ナルコトヲ反覆教訓セラル上流社會ニ於テハ女子ノ成年後閉居ノ習慣ハ特ニ嚴守セラレ男子ハ親戚ト雖トモ最モ近親ナルモノニアラサレハ之ニ面接スルコトヲ得ス

男女ノ別ト共ニ子女ノ教養ノ上ニ最モ重要ナルモノハ兩親特ニ父ヲ尊敬スルコトニシテ子女ハ甚々幼少ノ時ヨリ敬親ノ道ヲ教ヘラレ少シニテモ不順ノ行爲アレハ直チニ嚴罰ヲ受ク然ルニ母ニ對スル關係ハ之ト異ナリ子女ハ父ノ如ク之ヲ敬スルノ義務アリト雖トモ尙ホ從順ヲ缺クコトアリ之レ蓋シ主トシテ家ニ於ケル母權ノ父權ノ如ク重カラサルカ故ナリ

子女ノ權利義務 父子ノ關係ハ韓國ノ特性ニシテ詳述スルノ價值アリ即チ子ハ父ノ前ニ於テ坐スルコト喫煙スルコトヲ得ス父ト嬉戲スルヲ得サルノミナラス父ノ前ニハ些カモ自由ノ態度ヲ取ルヲ得ス是故ニ不自由ナキ家庭ニ於テハ常ニ男兒ノ爲メニ室ヲ與ヘ何等ノ羈束ヲ受クルコトナクシテ友人ヲ延クノ自由ヲモ有セシム韓國ニテハ子ハ父ノ召使ニシテ食膳ニ侍リ洒掃ニ從ヒ屏ヲ展フル等ノコトヲ乘ル者モ少カラス出入ニハ父ヲ拜シ父老ヒ又ハ病メハ分時モ之ヲ去ルコトヲ得ス父若シ圍圍ノ人トナリタル時

ハ子ハ其近隣ニアリテ交通ヲ便ニシ慰樂ト物質的ノ供給ヲ爲シ若シ又刑事上ノ犯罪者トシテ拘留セラレタル時ハ其子ハ事件ノ終結マテ獄門ニ晝夜跪坐スルヲ要シ追放ニ處セラル、時ハ之ヲ送ルコトヲ許サルルノミナラス少クトモ途中ニ從フノ義務ヲ有シ事情之ヲ許サハ父ノ所在地ニ家ヲ移シテ居住スル義務ヲ有ス父ニ途ニ遇フ時ハ跪坐シテ塵埃汚泥ヲ顧ミルヲ得ス父ニ對スル言語文章ハ謹テ其辭句ヲ選ヒ呼フニ量モ尊嚴ナル名稱ヲ以テセサルヘカラス

父ヲ敬スルコトハ非常ニ重大ナル義務ニ屬シ官吏ハ之カ爲メ飯省ヲ許サレ父死スル時ハ直チニ其職ヲ辭シ父ニ對シテ最後ノ義務ヲ尽シ且ツ規定ノ喪ニ服スル間ハ一切ノ職務ニ從事スルコトヲ得ス概シテ韓國ニ於テハ敬親ニ勝ル善行ナク能ク親ニ事フル者ハ政府之ヲ賞シテ稅ヲ免シ旌表門時トシテハ堂宇ヲ建立シテ其德ヲ揚ケ卓絶ナル者ニハ官ヲ授ケ或ハ敬稱ヲ與フルニ至ル是ニ由テ之ヲ觀レハ父ノ爲メニ其身ヲ犠牲ニ供スル者ノ些カラサルハ怪ムニ足ラス

父死スレハ長子其家督及ヒ不動產ヲ相續シ兄弟其他ノ家族ヲ子ノ如クニシテ保護シ弟ハ婚姻其他ノ場合ニ於テ兩親ノ資力ニ應シテ多少財產ヲ受ケ兄ノ保護ニ對シテハ凡テ之ニ服從シ之ヲ見ルコト父ノ如クセサルヘカラス兄ハ一家ノ長トナリ年少者ヲ支配シ自身ハ又全家族ト共ニ親戚中ノ尊長者ニ服從ス若シ兄獄ニ投セラレ之ハ追放ニ處セラレタル時ハ弟ハ生父ニ對スルト同一ノ義務ヲ尽サルヘカラス

養子 祖先ノ祭祀ヲ繼續スヘキコトハ孔子ノ教フル所ニシテ韓國ニハ之カ爲メ養子ヲ爲スノ風普ク行ハル法律ニ依レハ養子ヲ確定スル爲メニハ式部省ノ公簿ニ登錄スヘキ規定ナルモ式部省ハ近來既ニ廢セラレタルノミナラス其存在セル時ニモ屢々其手續ヲ省畧シタルコトアリテ養子ハ實際上父方ノ親族悉ク

承諾スルニ依リテ確定ス而シテ法律上ノ養子ハ政府ノ許可ヲ得ルニアラサレハ取消スコトヲ得サルモノニテ且ツ政府ハ之ヲ許スコト甚罕ニ其手續モ甚タ複雑ナリ養子タルヘキ者ハ養親ニ對シテ父方ノ親族ニシテ養親ノ一等ノ親卑屬タルコトヲ要ス此ノ故ニ兄弟ノ子從弟兄ノ子及ヒ再從兄弟ノ子等ハ之ヲ養子ト爲スコトヲ得ルモ兄弟及從兄弟若クハ是等ノ子ヲ養子トナスコトヲ得ス又子ノ妻ヲ有シ子無クシテ死シタル時ハ其死シタル子ノ名義ヲ以テセサレハ養子ヲ爲スコトヲ得ス此場合ニハ前記ノ規定ニヨリ自己ノ兄弟從兄弟等ノ孫ヨリ選定スルヲ要ス換言スレハ死亡シタル子ヨリ視テ養子ト爲シ得ル者ヲ選定セサルヘカラス

乳兒ヲ養子ト爲スコトハ最モ多シ然レトモ之カ爲メ法定年齡ノ制限ナシ養子ハ養親ニ對シテ實子ト同一ノ權利義務ヲ有シ養父ノ死シタル時ハ其遺產ハ養子ニ移リ其他ノ親族ニ移ルコトナシ

養家ニ唯一ノ娘アルトキハ之ヲ養子ノ妻ト爲スヲ常例トス
前記ノ外法律上認メラレサル特種ノ養子アリ此類ノ養子ハ概ネ下級社會ニ行ハレ子ナキ者若クハ女子ノミヲ有スル者老後ヲ托スルノ目的ヲ以テスルモノナリ此場合ニ於テハ何等ノ形式ヲ要セスシテ養子ハ舊名及ヒ實家ニ於ケル親族關係ヲ失ハス是レ貧困ニシテ法律上ノ形式ニ準據スルヲ得サル者ノ爲ス所ニシテ法律之ヲ認メスト雖トモ養親ノ死後家屋家具其他ノ些々タル物品ハ何等ノ遺言ナクシテ尙ホ此養子ニ移ル

葬式 死亡及ヒ葬式ニ際シテハ清國ニ倣ヒ多クノ儀式ヲ行ヒ之ヲ以テ義務ト見做シ爲サル者ハ不正ノ行爲ト同シク裁判ニ附セラレ中ニハ嚴罰ヲ受クル者モ少カラス只兒童竝ニ國俗成年ト認メサル未婚者

ハ例外ニ屬シ其葬式モ簡單ニシテ何等ノ式ヲ用ヒス又多クノ費用ヲ投スルコトナク死亡シタル時ノ夜具ニ死體ヲ包ミ尙之ニ藁ヲ覆ヒテ地中ニ埋ムルニ過キス然ルニ既婚者ハ盛大ナル儀式ヲ以テ墓地ニ埋葬シ其費用ノ大ナル到底貧困者ノ堪フル所ニ非ス故ニ此負擔ヲ容易ナラシムルカ爲メ葬式組合アリテ盛ニ行ハレ組合員ハ毎年葬式基金トシテ一定ノ金錢ヲ拂込ミ組合員死亡スルトキハ其基金ヲ以テ葬式ヲ營ミ死亡者ノ親族ハ其報酬トシテ單ニ組合員ヲ饗應スレハ足ルナリ

死ニ瀕スル者アル時ハ家人ハ其家ノ内外ヲ靜肅ナラシムルノ方法ヲ取り同時ニ習慣又ハ宗教ノ定ムル所ニ依リ葬式ヲ營ムノ準備ニ著手シ死ニ瀕スル者男子ナル時ハ男子ノミ之ヲ看護シ死期ノ迫レルヲ確認シタル時ハ藁ヲ以テ蔽ハレタル幅廣キ板ヲ病室ニ運ヒ細心以テ病者ヲ之ニ移シ夜具ヲ蔽ヒ枕ヲ與フ此際病者ノ顔ハ南ニ向ハシム死亡シタル時ハ綿ヲ以テ口ヲ蔽ヒ以テ死體ニ殘存スル最後ノ息ヲ其中ニ保留スルモノ、如シ是レ韓人ハ最後ノ呼吸ハ死體ニ存在スル有性物質ヲ除却スル爲メニ必要ナリト信スルヲ以テナリ然レトモ家人ハ尙ホ死ヲ驗スルタメ小サキ杖若クハヒヲ以テ顎ヲ押シ下ケ其死ヲ確認シテ後親戚ニ通知ス父死セントスルトキハ其子ハ其父ノ目ヲ蔽フノ義務アリ孝心深キ者ハ豫メ兩親ノ爲メニ「灰リ衣」ヲ準備シ最モ高價ニシテ最モ美麗ナル絹布ヲ選ヒテ之ヲ製ス

家族ニ死亡者アル時ハ唯近親ノミ死體ノ傍ニ在リ大聲ヲ發シテ悲泣シ胸ヲ打テ慟哭ス同時ニ其家ノ者ハ男子モ女子モ奴婢モ皆頭髪ヲ解キ妻妾ハ尙ホ始メ四日ノ間ハ跣歩セサルヘカラス死體ヲ置ク室ニハ小サキ机ヲ運ヒ其上ニハ飯、豆菓子及ヒ酒ヲ各別ニ盛りテ各種三椀ヲ供ヘ其外藁製履物三足、綿製肘三個、麻布三疋紙三枚及褻布ヲ載セ死者ノ名ヲ呼上グルコト三回然ル後食物ハ總テ之ヲ戶外ニ投シ爾餘ノ供物

ハ邸内ニ於テ燒燬ス總テ是等ノ物ハ死者ノ靈及ヒ地下ニ於テ死者ノ靈ヲ十人ノ裁判官ニ導ク役員ニ供スルモノナリ其外一人ハ死者ノ衣服一枚ヲ屋上ニ運ヒ之ヲ展ヘテ左手ニ襟ヲ取り右手ニ横ノ縫目ヲ取り死者ノ靈カ行クヘキ北方ニ向テ死者ノ名ヲ三呼ス是レ蓋シ靈魂ノ再ヒ體ニ復スルヲ希望スルモノナリ然ル後其衣服ヲ以テ死者ヲ蔽フ此時入口ノ戸ニ對シテ天幕ノ如ク奠坐ヲ以テ製シタル幕ヲ張リ中ニ美麗ナル藁藁座ヲ敷キ其奥ニ机ヲ据エ死者ニ種々ノ食物ヲ供ス

韓人ノ信スル所ニヨレハ人ニ三個ノ靈魂アリ死後一ハ追善帳ニ留リ一ハ山靈ノ世話ヲ受ケテ山陵ニ移リ一ハ不明ノ世界ニ十人ノ裁判官ノ前ニ到ル十人ノ裁判官ハ其役員ヲ經テ死者ノ生前ノ行爲ヲ知り淨土若クハ地獄ニ宣告スト云フ

死亡者アル時ハ白色若クハ淡黄色ノ紙ニ記シタル通知狀ヲ親戚知己ニ發シ通知ヲ受ケタル者ハ喪ニ服シ追善ニ參會ス通知ヲ發シタル後其家ニ最モ必要ナルハ忌中ノ準備ニシテ近親ノ一人喪主トナリ服忌及ヒ葬式ノコトヲ指揮ス喪主ハ死者ノ長男當然ノ權ニ依リテ之ヲ勤メ長男アラスシテ長男ニ子アル時ハ其子之ヲ勤ム其子ハ此場合ニ於テハ叔父アリト雖トモ尙ホ首位ニ坐ス其他客ヲ接待シ儀式ノ序秩ヲ監督スル爲メニモ家族ノ尊長者ヲ選ヒ女子ニ關スル秩序ヲ指揮スル爲メニハ女子ヨリ係員ヲ選フ此係員トシテハ死者ノ寡婦之ニ當リ之ナキトキハ長男ノ妻之ニ任ス

死亡者アリタル時ハ其家族ニ作業衣及ヒ一般ニ美麗ナル衣服ノ着用ヲ禁シ皆喪服ニ更フ喪服ハ粗末ナル白色ノ綿衣ニシテ帶ニハ同シ布若クハ傘大ノ長キ麻或ハ繩ヲ用ヒ繩帶ノ兩端ハ地ニ達ス又別ニ二個ノ帶ヲ兩肩ヲ經テ掛ケ下ノ帶ニ結ヒ付ク頭髪ハ指大ノ長キ麻繩ヲ以テ結束シ其兩端ハ頰ニ及ヒ頭ニハ綿布製

若クハ麻布製ノ帽ヲ頂キ帽子ハ上ニ結目ヲ有ス又外出スル時ハ四角形ノ蕨帽子ヲ頂キテ全ク顔面ヲ覆フ足袋モ亦特別ノモノニシテ履物ハ蕨製品ヲ用フ此ノ如キ服装ハ皆白色ヲ用フヘキモノナレトモ實際ニ於テハ淡黄色ノモノヲ用フ是レ韓國ノ織物ハ概シテ獨黄色ナレハナリ杖モ亦喪服ノ一要部タル屬品ニシテ喪ニ服スル者ハ追善及ヒ葬式ノ際必ス携ヘサルヘカラス

死亡ノ當日死體ヲ洗ヒ其衣服ヲ更フ此式ヲ行フ前喪主ヲ除クノ外總テ死體ヲ安置スル室ヲ出テ天幕ノ南側ニ北面シテ立チ痛烈ナル哭聲ヲ揚ケテ天ヲ轟カス死體ニ洗滌更衣ヲ行フ者ハ先ツ手ヲ洗ヒ死體ノ衣服ヲ脱カセ髪ヲ梳リ之ヲ通常ノ通りニ結裝シ櫛ニ殘リタル頭髮ハ叮嚀ニ之ヲ小サキ模樣多キ絹ノ袋ニ入レ而シテ死體ハ香水ニテ洗ヒ手拭ニテ拭ヒ然ル後悉ク手足ノ爪ヲ切り、切りタル爪ハ一個ツ、前記同様ノ袋ニ入レ是等ノ袋(頭髮ヲ有スル者一個爪ヲ有スルモノ二十個)ハ後ニ至リテ悉ク棺ノ内ニ納ム洗體ヲ終レハ之ニ使用シタル手拭及櫛ハ邸内ニ小サキ穴ヲ設ケテ其中ニ埋メ洗水モ亦之ニ投ス洗體終レハ更衣ヲ行フ之カ爲メ死體ハ第一ノモノト同シク蕨若クハ夜具ニテ蔽ヒタル板上ニ移シテ先ツ綿入ノ足袋及ヒ紙ノ底ヲ有スル黒絹ノ靴ヲ穿タセ體ニハ清潔ナル普通ノ綿入ヲ着セ然ル後死體ヲ絹ニテ卷キ又密ナル麻布ヲ以テ之ヲ卷キ其上ニ綿製又ハ絹地ノ襦袢及上等ノ絹ヲ以テ製シタル長衣ヲ着セシム女子ヲ葬ルノ法式モ亦之ニ同シ前記ノ長衣ハ廣帯ヲ以テ結ヒ其帶ハ死亡者官吏ナル時ハ赤ヲ用ヒ然ラサル者ハ其他ノ色ヲ用ヒ地質ハ身分ニ應シテ絹又ハ其他ノ布ヲ用フ但シ女子ノ爲ニハ何レノ場合ヲ問ハス赤トス更衣ヲ終リタル時ハ之ヲ行ヒタル人ハ手ヲ洗ヒ死體ノ傍ニ在ル机上ニ肉片、少量ノ汁及ヒ死者生前ノ事歴ヲ記シタル紙ヲ具フ死者ノ事歴ハ臨席者ヲシテ悲痛ノ感ヲ増進セシムルタメニ最モ悲哀ナル言語ヲ排

列シタルモノナリ之ヲ了レハ死體ノ東方ニ立チテ床上ニ少量ノ酒ヲ撒キ糞粟ヲ以テ死者ヲ養フ不自由ナキ人ハ尙眞珠三個綠玉一個ヲ死者ノ口中ニ入ル是レ眞珠ハ死體ノ腐敗ヲ防クカノ如ク信スレハナリ是ヨリ先キ更衣ノ式ヲ執行スル前喪主ハ非常ニ哭泣シ右手ヲ以テ死者ノ衣服ヲ其右方ヨリ脱セシメ然ル後手ヲ洗ヒ眞珠ヲ入レタル箱ヲ取り糞粟ノ皿ハ給仕者之ヲ携ヘ始メハ東方ヨリ次ニハ西方ヨリ死體ニ近ツキ第三回目ニハ死體ニ面シテ起立シ毎回杖ヲ以テ死者ノ頸ヲ押シ下ケ糞粟及ヒ眞珠ヲ口ニ入レ然ル後清潔ナル綿製ノ手巾ヲ以テ口ヲ緊束ス目ハ黒ノ絹ヲ以テ之ヲ後頭部ニ結ヒ耳ニハ綿ヲ填充シ顔ニハ紗ヲ蔽ヒ頭ハ全ク黒絹ヲ以テ固ク包ミ然ル後衣服ヲ着セ手ハ黒絹ヲ以テ卷キ紐ニテ結ヒ終リニ全體ヲ夜具ニテ蔽フ此式終レハ喪主ハ去ル

死體ノ傍ニハ終夜蠟燭ヲ點シ蕨座ヲ蔽ヒタル椅子アリテ死者ノ被服一枚其上ニ横ハリ机ニハ香爐、香液、酒、櫛、手水鉢(手水ハ朝晩取り換フ)手拭、燭臺ヲ置ク椅子ハ靈魂現ハル、時其休憩ニ供スルナリ衣服ノ上ニ旗ヲ置ク旗ハ廣サ三四臂ニシテ死者ノ靈魂ヲ表ス此處ニ箱ニ人レタル紙ヲ供シ(紙ハ式ノ時ニ燒ク)又机ニ食物ヲ供ス椅子ノ右側ニ長キ棒ヲ立テ、亦絹ノ旗ヲ着ケ白地ヲ以テ死者ノ姓名、敬稱、出生地等ヲ表ス棒ノ長サハ死者ノ地位ニ依リテ差アリ(女子ノ葬式ノ際ハ夫ノ地位ニ依テ定ム)此ノ棒ハ惡魔ヲ除ク爲メ上端ニ二個ノ銳尖ヲ附シ七ノ形ヲ爲ス死體ニハ日夜親戚ノ當直アリ喪ニ服スル親戚ハ皆死體ノ傍側ニアル臥暖爐ニ睡リ死者ノ孫タル者ハ床上ニ臥ス

死亡後通常三日目ニ屍體ヲ棺ニ藏ム其日マテハ毎日數回法事ヲ營ム法事ニハ親戚ノミナラス死者ノ知人モ參同シ參同スルモノハ各自ニ或ハ金錢或ハ紙製品(法事ノ時ニ燒ク)或ハ死者ノ贊辭ヲ記シタル長キ卷

軸ヲ供ス總テ儀式ノ際ニハ死者トノ親等近キ者死體ニ近ク死者ノ知人ハ最後ニ列ス而シテ男子ノ首位ハ喪主ニシテ女子ノ首位ハ女喪主タリ女子ハ室ノ西側ニ男子ハ室ノ右側ニアリテ皆北面シテ立ッ死者ノ諸子ハ皆別々ニ具ヘタル盥ニテ毎回手ヲ洗ヒ供物ヲ爲ス法事ノ時ニハ臨席者ハ莫慮ヲ以テ蔽ハレタル床上ニ坐ス法事了レハ客ヲ饗應ス此時死者ノ疾病ノ經過死亡ノ情況等ニ關シテノ問ヒ一應ニ起ル死亡ノ翌日死者ハ長衣一枚ヲ加フ其色ハ好ミニ依リ赤、空色若クハ黃色トシ其長衣ノ上ニハ覆布ヲ加ヘ女子ナル時ハ袴ヲ穿カセ其上ニ長衣ヲ加ヘテ束帶セシメ胸ハ二ツノ紐ヲ以テ肩ヲ經テ十文字ニ結束ス之ヲ第二ノ更衣トス第二ノ更衣終レハ死體ヲ他ノ板ニ移シ死者ノ衣服ノ内若干ヲ卷キテ枕ニ代ヘ其他ノ衣服ヲ以テ足ヲ卷キ顔面ヲ覆フ然ル後前ニ着セタル衣帶ヲ解ク是レ死者ノ蘇生ヲ希望スルノ意ナリ其後死體ヲ敷物ヲ以テ蔽フ死者ノ脱衣ハ喪主及ヒ近親ノ臨席スル者之ヲ行ヒ死者ノ左肩ヨリ衣服ヲ脱カセ紀念ノタメ泣イテ頭髮ヲ拔ク此際男子ハ西面シ女子ハ東面ス前ニ死體ヲ置キタリシ板ハ室外ニ出タシ老人及ヒ貴賓ハ坐シ少壯者ハ起立ス其時四人ノ讀經師來リ長キ音節最モ悲哀ナル聲ヲ以テ死者ノ生前ヲ彼ス此時香薰シ、酒精ヲ灑キタル紙燒カル

死體ハ死亡ノ第三日棺ニ藏ム韓人ハ棺ヲ作ルニ費用ヲ吝マヌシテ良好ノ材ヲ用ヒ屢々山毛櫨ノ厚キ四枚板ヲ以テ之ヲ製シ棺材ハ皆生前ヨリ之ヲ準備ス棺ノ外部ハ富者ハ黒ヲ以テ之ヲ塗リ貧者ハ單ニ繪具ヲ用ヒテ之ヲ黒クシ棺ノ内部ハ富者ニ在リテハ絹布ヲ張リ其絹布ハ黑色若クハ青色ニシテ四隅ハ赤色又ハ青色トシ貧者ニ在リテハ絹ニ代フルニ厚紙ヲ以テ總テ棺ノ外部ニハ雲ヲ畫シ

入棺ノ日早朝棺ヲ死體ノ在ル室ニ移シテ二個ノ臺ノ上ニ置キ底ニ厚ク木炭ヲ撒キ其上ニ厚紙五六枚ヲ敷キ又其上ニ七星ト稱スル板ヲ置ク七星ト稱スル理由ハ大熊星ノ坐宿ニ象レル七個ノ小孔アルヲ以テナリ此板ノ上ニ綿入蒲團ヲ敷キ其上ニ枕ヲ置ク之ヲ了リタル後死者ノ子弟及ヒ給仕者ハ先ツ手ヲ洗テ死體ヲ運ヒ棺ニ藏ム棺ノ四隅ニハ死者ノ爪頭髮及ヒ生前脱落シタル齒メタル袋ヲ置キ總テ空隙ハ綿及ヒ死者ノ殘衣ヲ以テ之ヲ填充シ天蓋ト稱スル二枚ノ敷物ヲ蔽ヒ然ル後棺蓋ヲ蔽ヒ漆其他蠟ヲ混シタル樹脂ヲ以テ密塗ス塗棺ハ支那ニ於ケルカ如ク死體ヲ家ニ留ムルコト久シキ爲メニ必要ナルモノニテ韓國ノ習慣ハ其葬式ヲ行フニ貧者ハ死後三日中等民ハ九日王族ハ九ヶ月(九ヶ月ノ期間ハ上意ニ依リ短縮セラル、コトアリ)ヲ經過スルノ後タルヲ要ス實際ニ於テハ資産アル人ハ死後三ヶ月又ハ尙多クヲ經過シテ葬リ貧民ハ五晝夜七晝夜若クハ九晝夜ヲ經テ葬リ棺ヲ安置スヘキ場所ヲ家ニ有セサル時ハ邸地ニ置キ降雨ノ時ハ莫坐ヲ以テ之ヲ蔽フノミ

入棺全ク了レハ敷物ヲ蔽ヒ死者ノ頭南ニ向フカ如クニ安置シテ其前ニ屏風ヲ立ツ入棺式ノ際ニハ死者ノ冥福ノタメ祈禱ヲ爲シ其間臨席者ハ痛烈ニ號泣ス式了レハ婦人ハ其室ヲ退キ入棺ヲ行ヒタル人々ハ手ヲ洗ヒ棺側ニ机ヲ据エ食物ヲ供ス此際讀經師ハ死者ノ善事ヲ讀ミ上ケ香ヲ薰シ紙ヲ燒キ列席者中喪主ハ棺側ニ泣キ其他ハ頭ヲ地ニ垂レテ二回ノ禮拜ヲ行フ

普通ノ食時ニハ棺側ノ机ニ種々ノ食物菓實等ヲ供シ家族ハ皆棺側ニ集リテ號泣シ男子タル喪主ハ家ノ最下等室ニ退キテ泣クコトヲ止メス

死亡ノ第四日ニ至レハ骨ヲ髮ヲ解キタル家族ハ更ニ裝髮シ知人及ヒ死者ノ親族ニシテ五等親マテノ者ハ殘ラス棺側ニ集テ禮拜ス其皆集マルヤ香ヤ一齊ニ號泣シ死者ノ子孫其他ノ親族ハ順次家族ノ年長者ノ前

ニ至リ跪坐シテ泣キ以テ愁傷ヲ表シ女モ家族ノ女子ノ年長者ノ前ニ至リ亦此ノ如クス
 四日後ニハ親戚ハ日ニ四回棺側ニ集リテ泣ク棺側ニハ毎朝手水盥手拭及ヒ櫛ヲ具ヘ朝晝夜ノ食時ニハ棺
 側ノ机ニ諸般ノ食物及菓實ヲ供フ此際棺ニ侍スル者手ヲ洗ヒテ禱詞ヲ讀ミ香ヲ薫シ酒ヲ火ニ灑キ列席者
 ハ皆跪坐シテ二拜シ十五分若クハ三十分間痛哭號泣シ然ル後一同立ち退キ喪服ヲ去リテ客膳ニ就ク
 葬式ハ土葬ニシテ火葬ハ以前佛教盛ナリシ新羅及ヒ高麗ノ時代ニハ廣ク行ハレタリシト雖トモ現朝ニ及
 ヒ儒教ノ影響ニ因リテ廢セラレ目今ハ只佛教ノ寺院ニノミ之ヲ存ス
 韓國ニハ露西亞ニ於ケルカ如キ共同墓地ナク富裕ナル貴族ハ其領地内ニ專用ノ墓地ヲ有シ平民ハ處ヲ選
 ハスシテ死者ヲ埋ム

墓地ノ選定ハ韓人ノ關心スル主要ナル問題ニシテ彼等ハ墓地ノ事情ハ死者ノ冥福ニ關シ且ツ家族ノ運命
 ニ影響スルモノト爲シ選定宜シキヲ得レハ其家族ハ財產榮達及ヒ子孫ノ繁盛ヲ得ルモノト思ヘリ故ニ費
 用ヲ吝マスシテ吉祥ナル土地ヲ得ンコトニ務メ豫メ地相家ニ託シテ之ヲ調査セシム地相家ハ細心以テ鑑
 定ヲ遂ケ其土地ノ吉不吉ヲ示シ更ニ死者ヲ埋ムヘキ土地方向ヲ指定ス土地ノ事情モ韓人ノ觀念ニヨレハ
 亦極メテ重要ナルモノナリ概シテ墓地トシテハ景色佳良ナル山ノ南側ヲ貴重シ大官、名族、富豪ハ墓地
 ノ周圍ニ務メテ樹木ヲ植エ時ヲ經テ鬱々タル森林ヲ爲スニ至ラシム是等ノ樹木ハ伐採ヲ禁シ犯ス者ハ嚴
 罰アリ又他人ノ墓地區域内ニ死者ヲ葬ルコトハ絶對的ノ禁制ニ係ル

埋葬所ヲ設備スルニハ種々ノ儀式アリテ之ヲ遵奉シ吉日ヲ選ヒ其日ニハ喪主ハ早朝ニ起キ若干時間號泣
 シタル後親戚及ヒト筮者ヲ伴ヒテ墓地ニ到ル埋葬スヘキ地ノ北側ニハ豫メ高サ一尺ニシテ守護神ヲ現ス
 所ノ碑ヲ建ツ喪主ハ埋葬スヘキ地ニ到リ梅樹ヲ以テ製シタル七本ノ小サキ棒ヲ取り上下ニ各一本中央ニ
 一本隅ニ四本ヲ立テ四人ノ讀經師アリテ中央ノ棒ノ傍ニ酒ヲ供ヘ臨場者ハ頭ヲ地ニ垂レテ之ヲ拜ス其後
 給仕者ハ埋葬スヘキ地ノ傍ニ立テタル柱ニ近ツキ跪坐シテ香ヲ薫シ酒ヲ撒キ小盤ニ紙ヲ焚キ然ル後二回
 ノ低頭敬禮ヲ爲ス讀經師ノ一人ハ跪坐シ東面シテ讀經シ之ヲ終レハ給仕者再ヒ拜禮シ續イテ全員禮ヲ爲
 ス是等ノ式全ク終レハ喪主ハ埋葬所ニ近ツキ痛烈ニ號泣シツ、拜禮ヲ爲シ然ル後埋葬地ノ開鑿ニ看手ス
 開鑿ハ通常甚タ深キニ至ラスシテ其底ニハ砂又ハ土ヲ混スル石灰ヲ厚ク撒布ス
 埋葬スヘキ地ニ祖先ノ墓アル時ハ喪主ハ其墓ニモ供物ヲ獻ス

葬式モ亦豫メト者ヲシテ選ハシメタル日ヲ以テ之ヲ行ヒ葬式ノ前日一定ノ式ヲ濟マシテ棺ヲ宗廟ニ運フ
 宗廟ハ通例家ノ内若クハ其附近ニアリ棺ヲ運ヒタル後出棺マテハ號泣相續キ翌日ハ日出前ニ普通ノ供物
 ヲ爲シ其際臨場者ハ皆再拜シテ痛哭ス日出後亦同一ノ事ヲ行ヒ然ル後女子ハ皆去ル棺ハ廣キ輜輿若クハ
 支架ニ載セテ運ヒ黒色若クハ赤色ノ絹ヲ蔽ヒ棺ノ上ニハ死者ノ帽子ヲ置キ又死者ノ名、敬稱等ヲ表
 スル旗ヲ置ク讀經師ハ出棺ノ時マテ絶エス冥福ヲ禱リ香ヲ薫シ供物ヲ爲シ伏拜ス此式ヲ終ルノ後三十人
 時アリテハ尙多クノ人號令ニ從ヒテ棺ヲ擧ケ其行列ハ歩々徐々トシテ進ム

棺ニ先チテ種々ノ徽章、位牌、松枝ノ把束、多色ノ灯提等ヲ持ツ人夫ノ長列行キ獸皮ヲ着恐ルヘキ木面
 ヲ被ル者列間ニ在リテ惡魔ヲ拂フ棺前ニ接近シテ死者ノ衣服一着ヲ入レタル函從ヒ顯官ノ葬式ニハ尙ホ
 竹ヲ以テ製シ紙ニテ貼リタル實物大ノ馬從フ馬ハ墓地ニ着キタル後之ヲ燒キ灰ハ集メテ墓地ニ投ス列ノ
 兩側ニハ松炬行キ銅貨ノ形ヲ有スル紙片ヲ撒ク棺ノ後ニハ死者ノ子大喪服ヲ着ケテ從ヒ其後ニハ親戚知

己橋與若クハ馬ニテ隨行ス

棺ハ埋葬地ニ到着シタル後其南側ニ於テ蓮ノ上ニ安置シ死者ノ顔北面スルノ位置ヲ取り然ル後之ニ供物ヲ爲シ喪主ハ地ニ投シテ泣ク其他ノ人モ亦埋棺ノ時ニ至ルマテ號泣ヲ續ク棺ヲ地中ニ投スレハ之ニ隨行シ來リタル旗ヲ以テ之ヲ蔽ヒ然ル後喪主ハ棺ニ近ツキ棺ノ側傍ヨリ黒絹ノ卷ヲ投シ再ヒ伏拜ス此時臨場者ハ痛哭セサルヘカラス其後一同墓側ニ到リ墓石ニ向テ立チ墓石ノ前ニハ食物菓物酒ヲ獻ス讀經師ハ手ヲ洗テ墓石ノ前ニ薰香シ再拜シ然ル後跪坐シテ死者ノ安寧ヲ祈ル讀經終リテ後棺ニ石灰、木灰及ヒ白石粉ノ混合物ヲ撒布シ埋棺中ハ絶エヌ太鼓ヲ打ツ棺ノ上ニハ土ヲ高ク盛リテ凸圓形ト爲ス

埋棺了レハ乾魚及ヒ酒ヲ供シ酒ハ墓ニ灑キ乾魚ハ人夫ニ配分ス

墓ハ年々ニ手ヲ加ヘテ之ヲ飾リ墓地ニハ石ヲ敷キ其傍ニハ人物其他ノ彫刻石像ヲ安置ス富者ハ之ニ加ヘテ堂宇ヲ建テ以テ祭祀ノ用ニ供スルモノモ少カラス寡婦死亡シタル時ハ亡夫ノ墓ニ葬リ第二ノ妻モ亦其墓ニ葬ルコトヲ得レトモ義務ニハアラス衣服箱ハ葬式ノ後、家ニ持チ歸リ服忌中ノヲ保管シ其前ニハ物ヲ供ヘ經ヲ讀ム葬式了レハ喪ニ服スル者ハ皆死者ノ家ニ歸リ喪主ハ先行シテ泣イテ是等ノ人ヲ迎ヘ一同集マルヤ否ヤ讀經又始マリ其間皆紙ヲ燒ク其後二三人ノト筮者樂器其他職務用ノ器具ヲ携ヘ來リ死者ノ音聲態度及動作ヲ最モ巧ニ寫シ一代ノ物語ヲ爲ス、續イテ粗末ナル食膳ヲ以ツテ客ヲ饗シ客ハ然ル後去ル

此ノ如クニシテ死者ノ魂魄ノ中一ツハ不可思議ノ世界ニ行キ一ツハ墓地ニ於テ山靈ノ保護ヲ受ケ尙其他ノ一ツハ韓人ノ信スル所ニ依レハ位牌ニ在リト云フ位牌ハ稍長形ノ板ニシテ通例栗ノ木ヲ以テ製シ其材ヲ有シ白色若クハ黒色ニ塗リ漢字ヲ以テ死者ノ名ヲ表記ス位牌ノ兩側ニハ靈魂位牌ニ來ル爲メニ開閉スル戸ヲ設ク貧者ハ栗ノ位牌ヲ買フノ資力ナキヲ以テ厚紙ヲ以テ之ニ代フ位牌ハ葬式ノ時臺ニ載セテ式場ニ運ビ式了リテ家ニ還ス服忌中ハ常ニ位牌ノ前ニ供物ヲナシ服忌ヲ終レハ其位牌ヲ祖先ノ位牌ト同一ノ所ニ置ク祖先ノ位牌ハ四代ニシテ祭ラサルカ故ニ必要消滅シタル時ハ之ヲ墓地ニ葬ル唯高位ノ人ハ永久之ヲ堂宇ニ保ツ

父ノ死亡後二年永キハ三年是ヲ祭ルヲ子ノ義務トシ孝子ハ屢々兩親ノ墓ヲ訪ヒ時トシテハ若干日精進及ヒ讀經ヲ墓地ニテ行フ者アリ又墓ノ附近ニ小サキ家ヲ構ヘ數年之ニ起居スル者アリテ此ノ如キハ正直ノ人トシテ尊敬セラル法事ハ葬式ノ翌日一回、以後十日毎ニ一回新月及ヒ半月毎ニモ一回之ヲ行ヒ死後三ヶ月ヲ經レハ又法事ヲ行ヒ其習日ニ祖先ノ靈ヲ祭ル法事ニハ親戚知己悉ク招カル

改葬 葬式ノ後多年經過シタル後種々ノ原因ニ依リ墓ヲ有利ノ場所ニ移スコトアリ死者ノ子ニ子ナキ時ハ是ヲ亡父不吉ノ地ニ葬ラレタルカ故ナリトシ墓ヲ發掘シテ死體ヲ黒色ヲ帶ヒタルヤ否ヤ驗シ若シ黒ケレハ家族ノ爲ニ大不幸ノ前徵ナリトス墓ノ發掘ハ死者ノ親族ノミ之ヲ爲スヲ得他人ハ之ニ與カルヲ得ス改葬ヲ決シタル時ハト筮者ニ新葬地ヲ選ハシメ亦舊墓發掘ノ爲メ吉日ヲ相セシム改葬ノ前日葬主ハ親戚會合ノ前ニ於テ宗廟ニ供物ヲ爲シ然ル後家族ノ一人ハ會葬ノ時日ト場所ヲ宣ス是レ死者ノ靈魂ヲシテ轉スヘキ場所ヲ知ラシメ之ヲ探スノ煩ナカラシメンカ爲ナリ

墓地發掘ノ當日早朝親戚ハ皆粗服ヲ着ケテ其地ニ到リ葬主ハ大喪服ヲ着ク列席者ハ墓側ニ設ケラレタル

奠座ノ幕ノ下ニ立チ始メハ墓碑ニ供物ヲ爲シ然ル後手ヲ洗テ墓前ニ跪坐シ香ヲ焚キ再拜シ酒ヲ撒キ更ニ再拜シ酒ヲ撒キ徐々トシテ立ツ會葬者ハ此時痛哭ス然ル後墓ノ發掘始マリ棺ヲ出シ注意シテ之ヲ淨拭シ布ヲ以テ之ヲ蔽ヒ棺朽敗シタル時ハ死體ヲ新棺ニ移シ死體骸骨ノミナル時ハ天然ノ形ヲ害ハサルニ注意シテ之ニ衣服ヲ加ヘ棺前ニハ食物ヲ具フ會葬者ハ泣テ再拜ス然ル後之ヲ新墓地ニ運ヒ新墓地ノ儀式ハ第一回ノ葬式ニ同シ會葬ノ翌日葬主及其親戚ハ宗廟ニ於テ普通ノ式ニ依リ供物ヲ爲シテ去ル會葬者ノ衣服ハ三ヶ月ヲ經サレハ更ヘス

韓人ハ兩親ノ墓地ノ秩序ヲ保ツニ配慮シ墓地ヲ再興スル時ハ之ニ物ヲ供ヘ吉日ヲ選フ服忌ニ關シテハ全ク支那ヨリ傳リ來レル嚴重ナル規則アリテ兩親ハ三年ノ喪ニ服シ二年ハ大服一年ハ小服トシ喪中ハ近親ノ者ハ粗末ニシテ一部分ハ破レタル不潔ナル衣服ヲ着ケ只死者ノ諸孫ニハ稍善キ衣服ヲ着クルヲ許サルト雖トモ貴金屬刺繡品及ヒ彩色アル衣服ヲ用フルヲ許サス喪ノ第一日家人ハ斷食シ死者ノ子及ヒ孫ハ三晝夜ノ間嚴重ナル精進ヲ守ル其他ノ疎族ニシテ五月若クハ六月間ノ喪ニ服スル者ハ二晝夜ノ間精進ス父母ノ喪ニ際シテハ酒ヲ飲ミ肉ヲ食ヒ又蔬菜ノ中ニテハ蒜ヲ食スルヲ禁セラル但シ疾病者及ヒ老衰者ハ例外ニシテ食ニ禁ナシ遊興ノ種類ハ總テ之ヲ禁シ夫ハ妻ト別居シ三年ノ喪中ニ生レタル子ハ社會一般ノ擯斥スル所トナル父ノ喪ニ服スル者ハ喪期了ルノ前日全身ヲ洗ヒ翌日早朝親戚集リ一同宗廟ニ赴キ物ヲ供フ其間皆泣テ悲痛ヲ表ス

大服了レハ小服始マリ此時ニ至レハ朝夕ノ供物ヲ止メ子ニ食物ノ禁ヲ解キ大小服終リタル後即三年ヲ經過シタル後ハ喪服ヲ脱シテ之ヲ召使及ヒ墓番ニ配付シ死者ノ衣服ヲ入レタル箱モ之ヲ捨テ又小サキ棒モ

喪ノ終結シタル證トシテ之ヲ破棄ス

父母ノ喪ニ服スル女ハ之ヲ終レハ夫ノ家ニ歸リ處女ナル時ハ結婚ヲ許サル父ノ存在中母ノ喪ニ服スル者ハ十一ヶ月ニシテ父ナキ時ハ三年トス兄弟ノ喪ハ三ヶ月ニシテ死者ノ姉妹息女及ヒ其他ノ親戚ナル女子ニシテ死者トノ父系ニ依ル親族ニ嫁シタル者其喪ニ服セス妻ノ喪ハ半喪即チ一年ニシテ姻族ノ喪ハ三ヶ月ヲ以テ終ル

高位高官ノ者ハ妻ノ死後三年ヲ經過セサレハ再婚スルヲ得ス但シ四十以上ノ者ニシテ子ナキ時ハ一年ヲ經テ之ヲ爲スコトヲ得

父母ノ死亡スル時ニ家ニ在ラサル者ハ其報ニ接スルノ後直チニ喪服ヲ着ケ痛哭シ使者ニ疾病及ヒ死亡ノ狀態ヲ聞キ取り再ヒ痛哭シ喪ニ服スル準備成リタル時ハ孔教ノ法則ニ依リ即時ニ郷家ニ向テ出發シ晝夜二十里ヲ歩マサルヘカラス其旅行ハ途中ノ危險ナキ爲メ夜ヲ避ケテ務メテ晝ヲ選ヒ大街道及ヒ概シテ人口多キ土地ヲ避ケ途中ニテモ人ナキ時ハ絶エス泣クヲ要ス吾郡ノ境ニ近ツキ郷里ナル市町村ヲ見又郷家見ユルニ至ル時ハ激シク泣カサルヘカラス家ニ入レハ先ツ棺ニ近ツキ頭ヲ垂レテ再拜シ然ル後衣ヲ更ヘテ更ニ棺前ニ至リテ祈ル此時マテニ親戚知己集リ來リテ其父母ヲ失ヒタル子ノ手ヲ取りテ泣ク子ニシテ家ニ歸ル能ハサル時ハ其居所ニ留マリテ跪坐シ祈禱シ嗚號シ實家ニ死者ノ子若クハ孫ノ一人在ラサル時ニ限り供物ヲ爲ス葬式ニ後レタル子ハ家ニ寄ラスシテ墓ニ至リ拜禮シ嗚號シテ深甚ナル愁嘆ヲ證示ス死者ハ孫及ヒ其他遠隔ノ親戚ハ自家ニ於テ各別ニ喪ヲ營ミ報知ニ接シタル後三日間ハ朝夕法事ヲ爲シ四日目ニハ供物ヲ爲シ一日ニハ必ス之ヲ祭ル其祭ハ時トシテ三年ノ間繼續スルモノアリ

韓人ハ父母ノ喪ニ際シテハ如何ナル事業ニモ從事スルノ權ヲ有セス即父母ノ喪ニ在ル者ハ之ヲ専ラ悲哀ニ沈ミ他人ト關係スルコトナク又全ク平氣ニテ社會ト交際セサル死人ト見做ス此主義ニ基キ官吏ニシテ其父母ヲ失ヒタル者ハ長期ノ休暇ヲ得或ハ喪中全ク休職スルコトヲ得再ヒ職務ニ入ル時ハ以前ノ職務年月ヲ加算ス父母ヲ失ヒタル者ハ結婚ノ約アリト雖トモ三年ヲ經サレハ之ヲ實行スルコトヲ得ス概シテ喪ニ服スル者ハ他人ヲ訪問スルコトナク他人ノ問ニ對シテハ答ヲ爲サ、ルモ可ナリ人ニ遇ヘハ扇ヲ以テ顔ヲ蔽フ又一切ノ殺生ヲ禁シ毒蛇ト雖トモ之ヲ殺スコトヲ得ス此故ニ時トシテハ汚穢ナル喪服ヲ犯ス虫アリト雖トモ尙之ヲ亡サス

貧民ハ親戚死去ノ後三日間喪服ヲ着ケ四日目ニハ既ニ仕事衣ニ復ス然レトモ結婚ノ元結ハ喪章トシテ白麻ヲ用フ

君主ノ喪 君主ノ喪ハ一般人民ノ喪ト趣ク同クスト雖トモ其莊嚴ナルト隨テ諸事周到ナルトヲ以テ異ナル

君主死期ノ迫リタル時ハ之ヲ別殿ニ移シ嗜好物及ヒ屢々用ヒ來レル物品モ之ニ從フ死スレハ直チニ祭ノ準備ヲ爲シ初期ノ祭ハ宮殿ニ於テ三椀ノ飯ヲ供スルニアリ君主ハ臣民ノ父ト見做サル、カ故ニ全國民ニ三年ノ喪ヲ令ス喪ハ之ヲ二期ニ分チ第一ノ大服ハ死亡ノ日ヨリ葬式マテニシテ其葬式ハ少クトモ死後五ケ月ヲ經サレハ行ハレス大服ノ間ハ國民ニ祖先ノ墓ニ獻供シ又ハ死者ヲ葬ルコトヲ禁セラル婚姻モ亦嚴禁ニシテ諸般ノ祝事歌舞音樂等モ之ヲ禁シ犯罪者ノ笞刑及ヒ死刑ハ之ヲ遷延シ全國一般ニ精進ヲ命シ犯ス者ハ罰セラル但シ貧民ノ爲メニハ例外ヲ設ケ例ヘハ葬式ノ如キモ一切ノ式ヲ省ケハ之ヲ行フコトヲ得

又農業ノ多忙ノ爲メ必要上上諭ヲ下シテ精進ヲ解クコトアリ國民ハ皆喪服ヲ着スルノ義務ヲ有シ華美潤澤ナル衣服ハ絶對的ニ禁セラレ衣服ハ白色ノ麻布ニシテ帽子、帶、履物等モ亦同シク麻布ノ粗製品ナルヲ要シ政府ノ令ヲ待タスシテ此禁ヲ破ル者ハ罰金若クハ禁錮ニ處セラル但女子ハ喪服ヲ着用スルノ義務ナシ第二期ノ喪ニナレハ第一期ニ於テ定メラレタル禁制多クハ解カレ只喪服ヲ着スルコト、總テ遊興ニ關スルコトヲ禁ズルノミ

君主ノ身ニ觸ル、者ハ死刑ニ處セラル、ヲ法トス故ニ死後ニモ之ヲ適用シ死體ノ洗滌死體ヲ木乃伊ニスルコト及ヒ更衣スルコトハ小サキ棒ヲ以テ之ヲ行ヒ死體ニ手ヲ直觸スルコトナシ更衣終レハ細心以テ死體ヲ他ノ室ニ移シ朝夕供物ヲ爲シ之ヲ爲ス間ハ臨席者ハ大ニ號泣シテ痛悼ノ意ヲ表ス棺ハ豫メ生前ヨリ準備シ死ニ至ルマテハ毎月一回厚ク漆ヲ塗リテ保存シ此時之ヲ取出ス

祭リニハ聖朝ノ人及ヒ京城ニ在ル大官ハ皆集リ新王ハ只初期ノ若干日間臨席シ以後ハ王族ノ一人ニ名代ヲ托ス供物ノ時刻ニハ宮廷ニ入ルコトヲ許サレサル人々ハ宮廷ノ周圍ニ集リ號泣シテ痛悼ノ意ヲ證ス地方ニ於テハ宮廷ニ祭祀アル時同一ノ式ヲ行ヒ定日ニ官吏及ヒ名アル人民ハ堂宇ニ集リテ供物ヲ爲シ首都ノ方ニ向テ號泣シ其聲天ヲ驚カス

其後莊嚴ナル葬式ノ準備行ハル韓國ノ王室ニハ其葬墓地ナクシテ各別ニ之ヲ葬ルヲ例トス墓地ノ選定ハ國ニ於テ有名ナル地相家ノ義務ニシテ是等ノ地相家ハ精密ニ且長時間ノト相ヲ行ヒタル後各人別々ニ吉祥地ヲ報告ス新王ハ大臣等ト共ニ其報告ヲ審査シ最モ吉祥ナル場所ヲ決シ其場所決スレハ直チニ墓地ノ豫備事業ニ着手ス此豫備事業ハ既ニ其地ニ葬ラレタル者アレハ其死體ヲ發掘シテ之ヲ地所ニ移ス等ノ事

ニシテ爾後何人ト雖トモ此地ノ周圍四里以内ニ葬式ヲ營ムコトヲ得ス是等ノ處置了リタルトキハ其土地ハ郡長ノ管轄ヲ離レテ陵守ノ看視ニ屬ス陵守ハ一定ノ日ニ供物ヲ爲シ墓ヲ保管シ其管區内ニ警察ノ事ヲ行フモノニテ中央政府ニ直屬ス

墓地選定ノ協議行ハル、間ニ宮廷ニ於テ葬式行列ノ準備ヲ爲シ擔手ヲ集メテ之ヲ訓練ス以前ハ國民皆棺ヲ擔フヲ以テ己レノ義務トシ且ツ名譽トナシタリシカ今ハ壓制的ニ命セラレ頗ル迷惑ヲ感スト雖トモ之ヲ辭スル者ハ嚴罰アリ擔手ハ之ヲ數部ニ區別シ棺ヲ運フ者位牌其他ノ徽章ヲ運フ者等各定ムル所ニ從ヒ各部ハ特種ノ徽章ヲ有シ葬式ノ際混雜ヲ避クル爲メ數週間細カニ之ヲ豫行練習ス

葬式ノ當日首都ノ軍隊皆宮廷ニ集マリ官吏モ亦式ノタメ皆宮廷ニ集マリ新王ハ自ら葬式場ニ臨席スルヲ例トシ大官ハ大喪服ニ於テ式場ニ隨行ス是ニ於テ法律ヲ以テ規定シタル長時間ノ儀式ヲ行ヒタル後戰々燒々死體ヲ棺ニ移シ大ニシテ華麗ナル臺ニ載セ六十人乃至八十人ノ擔手號令ニ依リ一時ニ之ヲ舉ケテ運フ行列ハ徐々トシテ墓地ニ向フ棺ハ甚々重シ故ニ各部相互ニ交替ス

埋棺ハ多クノ供物ヲ爲シ會葬者皆泣ク間ニ行ハル墓ハ研磨シタル石ヲ以テ其内周ト底部ヲ固メタルモノニテ細心留意シテ棺ヲ其中ニ入レ墓ノ上部ニモ亦同様ノ石ヲ疊ム太古ハ棺ト共ニ死者ノ侍婢二人之ニ殉スルノ風習アリシカ後ニハ石像若クハ木像ヲ以テ之ニ代フルニ至リ現今ハ之ヲモ全ク止メタリ墓ノ上ニ五坪餘ノ周圍ヲ有スル小サキ石造建物ヲ設ケ壁ハ白堊ヲ以テ塗リ屋根ハ通常青瓦ヲ以テ覆ヒ以テ定日ニ供物ヲ爲シ香燭ヲ薫スル處ト爲ス建物ニハ前方ニ死者ノ敬稱ヲ有スル一枚ノ板アリ此板ハ以前ハ清國皇帝ノ賜與セシ所ナリ板ハ特定ノ森林ニ培養スル栗ノ木ヲ以テ製ス又墓ヨリ若干距離ヲ隔テ、墓ヲ管理ス

ル官吏ノ舍宅ヲ置ク

休日 新年即チ韓曆正月元日ハ古來祝祭日中ノ最モ主要ナルモノニシテ年齢ノ計算此日ニ始マルカ故ニ各人ノ生活上大ナル關係ヲ有ス故ニ自家ニ於テ元日ヲ過サ、ル者ハ甚々稀ニシテ新年ニハ旅行者ヲ見ルコト甚少ナク若シ貧民ニシテ止ムヲ得サル事故ニ依リ此祝日ヲ途中ニ迎フルコトアル時ハ旅舎ノ主人ハ通例宿泊料ヲ免ス商家ハ元日ノ前日貸借計算ヲ濟マシ其夜ハ互ニ歳暮ノ挨拶ヲ述ヘ元旦ニハ兩親親戚長上朋友知己ニ對シテ最モ擲重ナル祝辭ヲ述フ是レ新年ノ儀式ニシテ缺ク者ハ敵意アリト見做サル儀式ノ重ナルモノハ兩親及ヒ祖先ノ靈前ニ供獻スルコトニシテ各自身分ニ應シテ之ヲ行ヒ兩親ノ墓、家ニ近キ者ハ元旦ニ之ヲ訪ヒテ獻供祈禱シ其距離遠キ者ハ正月月中ニ之ヲ訪ヒテ獻供ヲ行ヘハ義務ヲ盡シタルモノトス獻供ノ禮ヲ終レハ互ニ訪問シ種々ノ遊興ヲ爲シ數日間之ヲ續ク親戚及親友ニハ訪問ヲ爲スヘキモノニテ途中相遇フ者ハ祝詞ヲ述ヘ其訪問スル所親友知己ナルトキハ之ニ滋味ヲ贈リ其家ノ子女ニハ玩具ヲ贈リ貧者ニハ金錢織物等ヲ贈リ僕婢ニハ新年前ニ衣服ヲ與フ新年ノ休暇ハ大概十五日乃至二十日ニ互ル

以前ハ官衙ノ業務ハ新年ノ數日前ヨリ既ニ休止セテレ新年ノ八日ヲ經過セサレハ開始セラレサリキ然レトモ千八百九十五年以來休暇ヲ減縮シテ新年ノ前日ヨリ新年ノ三日マテト爲シタリ
新年ヲ除クノ外韓國ニ於テ行ハル、休日ノ重ナルモノハ次ノ如シ

正月十五日 此日ハ渡橋節ト稱シ夜ニ入レハ首都ノ人、月ノ昇ルヲ待チ出テ、多クノ橋ヲ散步シ道遙遊興夜ヲ徹ス橋上ニハ雜貨及ヒ菓子類ノ店アリテ奇劇手品等ノ見世物モ有リ此日八ツノ橋ヲ渡レハ一

年間不幸ヲ免ルト稱シ又一年間惡魔ノ襲來ヲ避クル爲メ藁人形ヲ作り破衣ニ包ミテ家ヨリ遠キ處ニ棄ツルノ習慣アリ

二月十日 此日ハ専ラ居所ノ裝飾ニ費ス日ニシテ疊ハ總テ新タニシ家具ハ之ヲ清掃シ各自新衣ヲ製ス

三月 此月ハ墓ノ裝飾ヲ爲ス時ニシテ慣例ノ供獻ヲ行フ亦此月ノ三日ハ春ノ始メニシテ皆甚ク愉快ニ之ヲ暮シ互ニ往復シテ饗應ス

四月八日 此日ハ寺院ニ於テ灌佛ノ式アリ市街ノ兒童之ニ參集ス

八月十五日 此日ハ墓地ノ修繕復興ヲ爲ス日ニシテ先祖ニ獻供禮拜ス此日ヲ秋ノ始メト定ム

九月九日 此日ハ菊花ノ節ニシテ富者ハ豫メ菊ノ良種ヲ養成スルコトニ全力ヲ注キ此日ニ至レハ花ハ既ニ滿開ヲ告ク美麗ニシテ大輪ノ逸物ヲ有スル者ハ知人ヲ招待シテ其花ヲ誇示シ潤澤ナル饗應ヲ爲シテ此日ヲ送ル又事故アリテ八月十五日ニ墓地ノ事ヲ營マサリシ者ハ此日ニ之ヲ追施ス

十月一日 此日ニハ「シヤンサン」(神農カ)祭ル「シヤンサン」ハ始メテ農耕ヲ教ヘタルモノナリ此日農具ヲ庭地ニ集メ豫メ注意シテ保管シタル初穂ヲ取り出シ家長ハ祈禱ノ後初穂ヲ家ニ持チ運ヒ饗應ヲ爲ス

冬至 昔ハ此日ヲ新年トシテ祝ヒシカ現今ハ各家ニ豆汁ヲ製シ地方ニ依リテハ熱灰ノ門前ニ撒布スルモノナリ此ノ如クスレハ惡魔ハ熱シテ不幸ヲ家ニ脊負ヒ込ムコトヲ企テスト韓人ハ云フ

其外韓國ニハ國家ノ爲メニ命ヲ致シタル者特ニ十六世紀ノ終期日本軍侵入ノ時ニ於テ國事ニ歿シタル軍

人ノ招魂祭アリテ全國ノ休日ト爲ス

一家ノ祝事 家族ノ祝賀ノ重ナルモノハ誕生日ニシテ富家ニ於テハ各人ノ誕生ヲ祝シ其際知人ヲ招キテ晚餐ヲ供シ盛ナル饗應ヲ爲ス但貧民ハ家長ノ誕生ヲ祝スルノミ 六十一ノ年賀ハ特ニ盛大ナルモノニテ父ノ賀ノ爲メニ破産スル者モ少カラス此際ニ於テハ毫モ費用ヲ吝ムコトナク喜劇家音樂隊舞妓ヲ招キ賀セラル、者ハ新衣ヲ着シ勿體ラシク客室ニ出テ上席ニ坐シ親戚友人其他ノ賀詞ヲ受ク誕生賀ハ通例新年ニ於テ之ヲ行フカ故ニ同時ニ多數ノ賀筵アルヲ見ルニ至ル結婚後六十年ノ賀モ亦特ニ盛大ニ行ハル公然ノ休暇ハ千八百九十五年七月二日ノ法令ニ依リ日曜、李朝ノ紀元日、皇帝ノ誕生日、皇帝ノ宣誓日(陽曆一月七日)及ヒ新年ト定マル

遊興 韓人ハ極メテ演劇興行等ヲ愛好シ俳優業師手品師等ハ到ル處ニ在リテ其人員モ甚多シ然レトモ韓國ニハ眞ニ演劇ノ名ヲ興ヘ得ヘキモノナク「ドラマ」ノ技術ハ尙甚ク幼稚ニシテ舞臺ニハ通常只一人ノ俳優現ハレテ漸次言容ヲ變化シ藝題ニ應スル一切ノ役割ヲ演ス藝題ハ多クノ場合其筋書ヲ揚言シ俳優ハ其演藝ヲ助クル爲メニ巧ミニニ身體ヲ動かシテ勞ヲ厭フコトナシ敏捷ニシテ精妙ナル俳優ハ評判全國ニ噴々トシテ其生計甚ク潤澤ナル者アリ俳優ノ藝ハ頗ル多種ニシテ韓國人ノ生活ヨリ巧ミニ即席ノ脚本ヲ傳ヘ或ハ虎ニ遇フノ狀況ヲ講シ之ヲ演シテ活勢眞ニ逼リ觀客ヲシテ震駭語ナカラシムルアリ或ハ科擧ニ首府ニ赴ク學生ノ風采ヲ表ハシ或ハ收賄官吏ヲ鞭チ或ハ媒介業者及ヒ婚姻着手後ノ兩親ノ奔走ヲ嘲弄ス演劇ノ趣向ハ大概同一ニシテ即チ大官及ヒ裁判官出テ被告タル平民其前ニ現ハレテ笞杖ノ刑ヲ受クル處、家族ノ紛擾、非行ヲ爲シタル夫ノ何トナク不安ナル顔色及ヒ喧嘩好キノ妻女等ニ關スル脚本ハ一般ノ

意ニ投スル題目ナリトス

五七〇

俳優ト爲ル者ハ専ラ男子ニシテ女子ノ役割ハ十三乃至十五歳ノ男子之ヲ演ス又遍歴俳優ハ到ル所ニ目撃セラレ此輩ハ專業ト稱スヘキモノナク事情ニ依リ或ハ輕業師トナリ或ハ音樂師トナリ或ハ手品師トナルカ如ク定マル所ナシ春秋ニハ喜劇ヲ演スル者五人七人ノ團ヲ爲シテ旅行シ市街及ヒ村落ニ入りテ「ドラマ」ヲ演シ支那ヨリ傳リタル猿廻シヲ演シ傀儡ヲ演シ網渡リヲ演シ又跳躍藝等ヲ演ス首府ニ於テハ是等ノ見世物ハ絶ヘス行ハル手品師ハ開演ヲ報スル爲メニハ少指ノ爪ヲ口ニ當テ、吹ク街頭ニ立チテ演劇ヲ爲ス者ハ其動作若クハ物語リノ最モ興味アル所ニ至リ突然之ヲ中止シ皿ヲ公衆ニ廻シテ最負ノ者ニ醜金ヲ乞ヒ若シ希望スル所ノ收入ヲ得サル時ハ屢々其理由ヲ公言シテ演劇ヲ中止シ觀客ヲシテ失望セシムルコトアリ又韓人ハ一家ノ祝事ニ當リ手品師及ヒ輕業師ヲ招クコト多シ

韓人ハ消暇ノ爲メニ種々ノ遊興ヲ爲シ金錢ヲ賭スル遊戯ハ特ニ普ク行ハレ象碁モ亦盛ンニ流行ス象碁ハ支那ニ於ケルモノト趣ヲ同クス圍碁モ亦盛ンニ行ハル、遊戯ニシテ露國ノモノニ似タリト雖トモ其複雜ナルコト同日ノ論ニ非ラス而シテ之ヲ爲ス者特ニ婦人ニ多シ次ニハ骰子ヲ用ユル賭戲竝ニ骨牌等モ行ハレ就中骨牌ハ法律ノ禁制アルニ拘ラス其最モ普及セルモノナルコト爭フヘカラサル事實ナリ骨牌ハ一組八十枚一點色ニシテ其畫像ハ十種ニ分レ各種五枚アリ警戒勤務ヲ爲ス兵士ニハ眠氣ヲ防ク爲メニ特ニ骨牌ヲ公許セラル

典貨戲モ亦省クヘカラサルモノニテ此遊戯ハ一人ヲ選ヒ他ノ伍伴ノ言語動作ヲ模倣セシメ誤リタル時ニ科料ヲ徵スルモノナリ又韓人ハ成年男子ト雖トモ好ンテ紙風ヲ揚ケテ日ヲ暮スコトアリ此遊ヒハ冬ノ一

二ヶ月間北風吹ク時ニ行ハル

小兒ノ遊ヒハ別ニ特質ヲ有スルモノ少ナクシテ最モ流行スルモノハ杖ヲ以テ砂中ニ埋藏シタル指輪若クハ其他ノ物品ヲ探スノ遊戯ナリ又庖厨ノ事竝ニ賓客待遇ニ關スル成年者ノ動作ヲ模スルコト等ハ兒童ノ好ンテ爲ス所ナリ而シテ玩具ノ尤モ愛好セラル、ハ粧飾アリテ且ツ活氣ヲ示ス模造猿トス然レトモ此玩具ハ價高キカ故ニ勿論多クノ人ニ及ハス紙製ノ人形、虎、其他動物ニシテ鮮美ナル彩色ヲ施シ若クハ獸皮ヲ着セタルモノモ亦兒童ノ好物ニシテ特ニ虎ヲ然リトス是等ハ皆簡單ナル玩具ニシテ又其外ニ組繩ノ裝置ニ依リ運動スル所ノ種々ノ玩具モアリ石ヲ入レタル蛇膀胱ハ露國ノ振響玩具ニ該當スルモノニテ盛ンニ行ハル

弓術 弓術ハ盛ンニ行ハレ政府之ヲ獎勵ス一年ノ中、時ヲ期シテ市街及村落ニ競射會ヲ開キ名族竝ニ平民四近ヨリ來集ス此會ニテ優等ノ成績ヲ得タル者ニハ豫メ市街ニテ醜集シ若クハ國庫ヨリ支出シタル費用ヲ以テ賞品ヲ授與ス體力ノ競争モ亦一般ニ行ハレ上流社會及ヒ中等社會ノ人々ハ強弩ヲ張リテ力ヲ試ミ優等者ハ尊敬スヘキ綽號ヲ得平民ハ重量ニ依リテ體力ノ競争ヲ爲ス相撲モ亦盛ンニ行ハレ以前日本ニ於テ有リシ如ク之ヲ業トスル者アリテ名族ノ家ニ養ハレ又ハ市街及ヒ村落ヨリ給料ヲ受ク個人、市街及ヒ村落ハ一定ノ日ヲ期シテ抱ヘノ力士ヲ公開ノ競争ニ出スコトアリ此集會ハ頗ル賑カナルモノニシテ公衆ハ互ニ之ニ賭ス又韓人ハ屢々拳闘ヲ爲シ甲ノ市街闘手ヲ出シテ乙ノ市街ニ對抗シ時トシテハ同一市街ノ甲乙兩區ノ間若クハ甲乙兩村ノ間ニモ行ハレ闘手ノ數二三百人ニ及フコトモアリ闘爭ハ拳ヲ以テ始マルト雖トモ後ニハ杖及ヒ石ヲ投スルニ至ルコトアリ見物人ノ中ニテ過度ニ熱中シ味方ヲ助ケンカ爲メ

ニ拳闘ニ投スル者モ少カラス此ノ如キ有様ヲ以テ遊戯ノ競争途ニ真ノ闘争ニ變シ數日間モ連續スルコトアリテ危險近クヘカラス又僻遠ノ地ニ於テハ屢々村落若クハ市區ノ住民間ニ此争ヲ見ルコトアリ牛鬪鷄鬪等ノ遊戯モ亦韓國ニ存スト云フ

音樂 韓人ハ甚クシク音樂ヲ好ミテ之ヲ勉強ス韓國ノ樂譜ハ支那及ヒ日本ニ於ケルモノト同シク露國ノモノト著シク相違アリテ爲メニ露國人ノ耳ヲ誘ハス韓人ノ觀念ニ依レハ調子ニハ空中ニ飛揚スル鳥ノ緩カニ翼ヲ振フカ如ク一定ノ比例ヲ以テ漸次ニ進ム平調音アリ高ク移動スル音調アリ又高クシテ急激ナル音調アリ韓國ニハ盛シニ流行スル多クノ歌曲アリテ太平曲養德曲壽山等ノ名稱ヲ有ス歌曲ハ多クハ單調ニシテ幾分カ悲哀ヲ含ムト雖トモ頗ル柔軟ナル所アリ

絃器ニハ二十五絃琴アリ「マンドリン」ニ似タル二絃琴アリ又五絃ノ「バイオリン」アリ空氣樂器ノ内ニテ主要ナルモノハ笛及ヒ吸角トス此外樂師ハ皆槌ヲ以テ打ツ銅製樂器太鼓(長太鼓、大太鼓、小太鼓)竝ニ磬音ヲ發スル幼稚ナル樂器及ヒ水ニ瓢片若クハ椰子片ヲ浮ヘテ製シタル樂器(槌ニテ打ツ)アリ

韓國人ハ聽覺甚ク發達シ其隣國ナル支那人ニ反シテ歐羅巴ノ音樂ヲ評スルニ堪ユト云フ
韓人ノ音樂ヲ好ムヤ何レノ村落ニ於テモ太鼓笛吸角等ノ若子ヲ有セサル者ナク農耕ノ間隙ニハ種々ノ脚本ヲ演シ若クハ集會シテ唱歌スルヲ常トス

韓人ハ假聲及ヒ單調音ヲ以テ歌ヒ市街ニハ音樂隊及ヒ歌妓アリ之ヲ個人ノ家ニ招キテ演藝及ヒ歌謠ヲ爲サシム歌妓ハ美服ヲ着ケ頭ヲ飾リ厚ク白粉ヲ塗リ髮粉及ヒ紅等ヲ施シ以テ淺黒キ顔面ヲ晦マス歌妓ハ家ニ居テハ専ラ音樂ニ從事ス宮廷ニハ此類ノ歌妓五十二人ヲ常ニ養フ歌妓ハ多クハ同時ニ舞妓ニシテ他人

ノ歌曲ニ應シ又ハ自ラ歌ヒテ舞ヲ演ス

踊リハ活氣ニ乏シ巧ミナル舞妓ニハ新曲ヲ要求シテ之ヲ演セシムルヲ常トス踊ノ動作ハ徐々ニ且調子善ク輕ク身體ヲ前後ニ進メ以テ足ヲ置キ代フルニアリ舞妓ノ外男子ニシテ踊ル者アリト雖トモ通常男子ハ女子ト共ニ踊ラスシテ獨奏ヲ爲シ之ヲ終レハ去リテ場ヲ舞妓若クハ他ノ同業者ニ讓ル又時トシテハ男女ノ一對若クハ二對ニテ舞ヲ演スルコトアリ其一例ヲ「ルベンツオーフ」ハ次ノ如クニ示セリ曰ク韓國ノ地方官余等ニ興ヲ興ヘンカ爲メニ舞妓ヲ招キタルコトアリ舞妓ハ鬱鬱ナル韓國ノ音樂ニ應シテ踊リタル樂器ハ大太鼓(白耳義)ノ太鼓ニ類スレト横面凸起セリ)二個ノ笛二絃ノ「バイオリン」及若干ノ銅喇叭ニシテ踊リハ二組ニ分レ一組ニ二對ツ、出テ何レモ佛國ノ四人踊ニ類似シタル點ヲ有シ調子善ク身體ヲ動カシ若干時間左右ノ足ヲ交々舉ケテ自ラ踵ヲ搔キタリ此動作モ踊ノ一部分ナルカ如シ後ニ現ハレシ一對ハ前者ニ比スレハ服裝鮮麗ニシテ皆腋下ヨリ垂レタル袴ヲ着ケ頭ニハ鬘ヲ戴キ裝飾トシテハ廣縁ノ帽子ヲ斜ニ被レリ泣クカ如キ音樂ハ漸次ニ速度ヲ増シ踊ル者ハ前ヨリハ眠蠅ニ類スルノ態ヲ離レ姑ク停止ノ後振響器ヲ附シタル玩具ノ細鍊ヲ把リ床上ニ散坐シテ收獲ノ狀ヲ寫シタリ夫レヨリ彼等ハ起立シ鍊ヲ以テ綱渡シヲ爲シ迅速ニ甲點ヨリ乙點ニ移動シ是等ノ動作ヲ終レハ跪坐シテ低頭ノ禮ヲ爲セリト又祝祭日ニハ大官及ヒ一般ニ富裕ナル人ハ歌妓及ヒ舞妓ノ團體ヲ自家ニ招クコトアリ

居所 家屋ハ平家造リニシテ多クハ甚ク低シ

宮廷官衙及ヒ官吏竝ニ貴顯紳士ノ家ハ多クハ煉瓦造リ若クハ木造トス西韓ニ於テハ天然石ノ豐富ナルニ依リ主トシテ之ヲ用ヒテ家屋ヲ建築ス家屋構造ノ配置ハ官吏及ヒ貴顯紳士ノ家ニアリテハ通常瓦葺ノ門

アリテ廣キ邸宅ノ入口ヲ爲シ門ニ對シテ主屋アリ主屋ハ南向フ主屋ノ兩側ニ廡舍及ヒ庖厨アリテ僕婢部屋之ニ屬ス是等ノ附屬建物ハ西向又ハ東向ニシテ主屋ト垂直線ヲ爲シテ位置ス家屋ノ高サハ人ノ身長ヨリ稍々高キノミニシテ屋根ハ三四呎突出シテ庇ヲ作り庇ノ下ニハ廣サ六呎以内ノ廊下アリテ家屋ヲ繞ル暑夏ニハ家人皆廊下ニ出テ、終日此處ニ居リ夜モ又此處ニテ暮スコトアリ貴顯紳士ノ家ニハ高キ瓦葺ノ屋根ヲ有スル美麗ノモノモアリテ其屋根ハ兩端上部ニ屈曲シ中央部ノ梁ハ時トシテ燒土製ノ像ヲ有スルコトアリ此等ノ家屋ハ多クハ美麗ナル樹木ノ間ニアリテ萱類若クハ竹ノ生垣ヲ繞ラス又宅地ハ五六呎ノ高サノ天然石ノ石垣ヲ繞ラシ其石垣ハ漆喰ヲ用ヒス貴顯紳士ノ家ニハ時トシテ二重若クハ三重ノ門ヲ有シ大門ノ兩側ニハ小門アリテ其方角ニ依リ之ヲ東門四門ト呼ビ大門即チ中央門ハ主人及貴賓ノ出入スル所トシ東門ハ親戚知己ノ出入ニ充テ西門ハ僕婢ノ出入ニ專用ス多クノ場合ニ於テ是等ノ家ハ二三重ノ垣ヲ有シ其垣ハ中央ニ門アリ外門ヲ經テ第一邸地ニ到リ中門ヲ經テ第二ノ邸地ニ到リ内門ヲ經テ第三邸地ニ入レハ家アリ

平民ノ家ハ前ニ記スルモノト著シク相違シ憫レナル小屋ニシテ粘土ヨリ成リ低矮ナルカ故ニ注意セサレハ頭天井ニ觸擊セラルヘシ家ノ廣サハ最モ大ナルモノ約四坪餘ニシテ三坪ヲ超エサルモノモ甚々多ク外面ノ高サハ僅ニ約四尺七寸トス建築ノ基幹トシテハ大ナル木柱ヲ掘リ立テ其上ニ大ナル丸太ヲ置キテ重キ屋根ヲ支ヘシム壁ハ通常屋根ヲ葺キタル後ニ作り石ヲ以テ積ミ上ケ石灰ハ缺乏シテ高價ナルカ故ニ葺片ヲ以テ連結シ之ニ粘土ヲ塗ル又時トシテハ厚キ丸太ヲ骨トシ葺ヲ混シタル粘土ヲ塗リタルモアリ若シ基石ヲ設クル時ハ豫メ小石ヲ敷キタル土地ノ上ニ之ヲ据エ此小石ハ貧民ノ爲メニハ即チ床ニシテ富裕ナ

ル者ハ尙其上ニ油紙ヲ敷キ以テ床トナス家屋ノ構造ニ際シ時トシテハ内部ニ一尺二寸乃至四尺七寸ノ深サニ地ヲ掘リ其内ニ桁ヲ置キ桁ノ上ニ床ヲ張ル此類ノ家ハ通例窓ナクシテ前面ニ一二枚ノ戸ヲ設ク又通風孔ノ如キ窓ヲ有スルモアリ屋根ハ稻藁若クハ麥藁ヲ以テ之ヲ覆ヒ瓦ヲ用ヒタルアレハ是富裕ノ證ニシテ此ノ如キハ極メテ少ナク百戸中只二戸ニ過キサルヘシ藁屋根並ニ瓦屋根ハ通常三四呎突出シ柱ニ支ヘラレテ家ノ前面又時トシテハ家ノ周圍ニ廊下ヲ形クル屋根ノ接合部ハ内部ヨリ粘土ヲ以テ塗ル屋根ノ下ニハ時トシテ棚ノ如キ部分ヲ設ケ種々ノ物ヲ置クニ供ス然レトモ多クハ此部分ヲ缺キ屋根ト天井トヲ兼務シ屋根ノ内部及ヒ梁ヲ暴露スルモノナリ但富者ノ家ニ於テハ屋根ノ内部並ニ梁ハ之ヲ塗リ若クハ紙ニテ貼ル

是等ノ家屋ノ構造及ヒ宅地ノ設備ハ二様ニシテ或ハ家屋市街ノ兩側ニ並列シテ其後方ニ光線ノ通過惡ク且不潔ナル小庭ヲ控フルモノアリ或ハ家屋宅地ノ中央ニアリテ其周圍ニ人身ノ一倍半ノ高サヲ有スル萱類若クハ藁ノ編垣ヲ繞ラスモノアリ此種ノ宅地ハ圓形ニシテ此場合ニ於テハ道路ハ甚々シク屈曲ス垣ヲ高クスルハ時トシテハ土壁ヲ通シテ屋内ニ進入スル寒氣ヲ防禦スルカ爲ナリ戸ハ四角形ニシテ木造ノモノアリ紙製ノモノアリ又竹ヲ編ミテ製シタルモアリト雖トモ尤モ多キハ内部ヨリ油紙又ハ白紙ヲ以テ貼リタル木造ノ格子戸トス又戸ニハ二重ナルアリ富家ニハ三重ナルモアリテ外戸ハ一個ノ軸ニ依リテ鉸ヲ以テ上方ニ天井ニ向テ開キ其下端ヲ鉤ニテ屋根ニ懸ク中戸ハ二軸ニシテ内方ニ開カレ兩端ニ鉸ヲ有ス内戸ハ同シク二軸ニシテ壁ノ溝ニ沿ヒテ開閉ス窓ハ甚々稀ナレトモ之アレハ其形甚々小ナルモノニシテ單ニ通風孔ト稱スルモ可ナリ而シテ其形狀ハ四角形圓形八角形等支那風ノモノ

ニテ頗ル狭ク内外ヨリ格子ヲ以テ防キ漁紙若クハ糊セサル紙ヲ以テ之ヲ貼リ日本ノモノト同シク溝ニ沿ヒテ開閉ス玻璃ハ未タ會テ殆ント之ヲ知ル者ナク名族ノ家ト雖トモ之ヲ有スルハ甚タ少ナシ故ニ韓人ハ甚タシク之ヲ珍重シ船舶ヨリ放棄スル麥酒壺等モ好ンテ之ヲ拾ヒ若クハ無償ニテ受ケ又ハ購置シ然ラサレハ蓋ム古キ藥壺モ韓人ハ水晶ノ「ロツプ」ノ如クニ高ク評價シ若シ之ヲ得レハ稀ナル寶物奇品トシテ隣人ニ示ス若シ又窓玻璃ノ一片ヲ得ルコトアレハ實ニ無上ノ幸福トナス窓ハ時トシテ美麗ナル簾戸ヲ有スル者アリ

温ヲ取ルノ方法ハ種々雜多ニシテ家屋ノ地盤ニ石又ハ煉瓦ヲ以テ溝ヲ作り之ヲ粘土ニテ塗り覆ヨリ之ヲ導キテ烟筒ニ連絡ス烟筒ハ臺所ニ反對スル家屋ノ一端ヨリ若干歩ヲ距テ、設ケラレ其構造ハ木幹ニシテ内部ヲ貫鑿シタルモノ若クハ粘土製ノ管ナリ又家ニ依リテハ全ク煙筒ヲ有セサルモアリ此場合ニハ煙ハ粘土若クハ石ヲ以テ縁取りタル壁孔ヲ通シテ放散ス臺所及ヒ竈ハ戶外ニ置カレ其側面ヨリ前記ノ溝ヲ經テ煙ヲ放ツノ仕掛ニシテ煙ハ其溝ヲ温メ煙筒ヲ經テ各部ニ放散ス故ニ竈ニ火アリテ消エサレハ室内ハ常ニ温カナリ然レトモ此暖室法ハ第一溝ノ塗塞粗忽ニシテ不完全ナルトキ煙、床ノ間隙ヲ通過シテ室内ニ充ツルノ不便アリ第二ニハ夏日暑熱ニ堪ヘ難キ苦痛アリ故ニ富裕ナル者ハ別ニ夏日ノ住居トシテ暖室裝置ヲ有セサル居室ヲ備フ

内部ノ構造ハ富豪名族ノ家ニアリテハ前ニモ記シタルカ如ク室ヲ冬時及ヒ夏時ノ用ニ分ツ室ハ總テ狭小ニシテ最佳ノモノト雖トモ縦八呎幅六呎高サ五呎戸ハ高サ三分ノ二幅三十二吋窓ハ高サ二呎廣サ一呎半ニ過キス中等ノ家ハ三個ノ室ヲ有スルヲ常トシ之ヲ臺所寢室及ヒ客室トス客室ハ就中上等ナルモノ

ニテ應接室ヲ兼ヌ富家ニアリテハ右ノ外婦人室ヲ設ケ大地主ノ家ニアリテハ尙ホ應接室ノ設ケアリテ隣人及ヒ其他ノ賓客之ニ集マリ談話シ喫煙シ飲酒シ宛然露園ニ於ケル會場、咖啡室、麥酒室、讀書室ノ代用ヲ爲ス外國人モ亦此室ニ延カル但シ男子ニ限ル此室ノ位置ハ通常庭園ニ突出ス

床ハ富家ニ於テハ疊並ニ虎皮犬皮及其他ノ獸皮ヲ敷キ詰メ内壁ハ赤粘土ニテ塗り若クハ壁紙ヲ以テ貼ル壁紙ハ種々アリテ絹ノ如キ柔ナルモノ板紙ノ如キ厚クシテ且堅キモノ等見ユ又家ノ外部ヨリ紙ヲ貼ルコトモアリ客室ニハ多クハ壁ニ若竹ノ叢ヲ畫ク又壁ニ二枚ノ戸ヲ有スル棚ヲ附設ス富家ノ窓ハ精緻ナル竹簾ノ窓掛ヲ以テ飾ル又時トシテ室ノ間ニ嵌外自在ナル戸ヲ設ケ大ナル一室トナスノ便ヲ有スルモノアリ家屋ノ内部ノ設備ハ頗ル清楚齊整ニシテ其粧飾多クハ單純ナリ即チ椅子腕掛椅子机等ノ家具ハ只上流社會ノ家ニ見ラル、ノミニシテ此場合ニ於テモ其家具ノ數ハ甚タ少ナシ腕掛椅子及ヒ普通ノ椅子ハ常時ニ用フルコト稀ニシテ多クハ祝典等ノ時ニ備フルノミ寢室ニハ衣服掛ニ代用スル棒ヲ設ケテ主人ノ常衣ヲ掛ケ其他ノ物品ハ頗ル粗末ナル箱ニ收メラレ婦人ハ小サキ箱ヲ有シ其中ニ赤及ヒ青ノ上衣ヲ收ム是レ婚姻ノ際必有ノ贈物ナリ大官及ヒ名族ノ家ニハ時トシテ書棚ヲ備ヘ重ニ漢籍ヲ置ク又漆塗ノ棚モアリ壁ニハ稀ニハ卷軸ヲ掛ケタルモアリ其種類ハ支那ノ有名ナル古文學者ノ文章ヲ美麗ニ表ハシタル漢字若クハ大官親友其他有名ナル人物ノ能書ヲ表ハシタルモノナリ

臺所ニ於テ注意ヲ惹クモノハ「アンバク」ト稱スル甕器ナリ此器ハ米麥及ヒ水ヲ容ル、爲メニ具ヘタルモノニテ其容積ノ大ナル成年ノ人其中ニ立ツモ頭ヲ露ハスコトナカルヘシ
以上記述スル所ハ勿論韓人悉ク然リト云フニ非スシテ韓人ノ多數ハ地ヲ以テ床トシ時ニハ之ニ蓆ヲ敷キ

若シ木造ノ床ヲ有スル者ハ藁藁ヲ其上ニ敷ク臺所ハ家屋ノ内部ニ在リテ建坪ノ三分ノ一ヲ占領シ竈ハ壁ニ密接シテ建テラレ鑄鐵製ノ釜ヲ其上ニ置キ同所ノ床ハ四圍ノ地面ヨリ低シ此類ノ生活ニハ日常必須ノ器具ヲ除クノ外別ニ何等ノ調度アルコトナク壁ノ一方ニ繩ヲ以テ水平ノ棚ヲ吊リ之ニ衣服及ヒ其他ノ小道具ヲ載セ又ハ懸ク主人富ム者ナレハ短キ壁ノ下ニ特種ノ箱一對若クハ二對ヲ竝置ス箱ハ鐵及ヒ銅ニテ縁取り前面ヲ鐵ニテ飾リ總テノ財産皆此内ニアリ若シ箱ニ餘ルトキハ衣服ハ壁ニ掛ケテ幕ニテ覆フ家具ノ内韓國固有ノモノトシテ注意ヲ惹クモノハ机ニシテ其机ハ高サ一呎ニ過キス四個ノ稍曲リタル足ヲ有シ其足ハ鋸ヲ以テ二個ツ、連結ス上板ハ圓形若クハ方形ニシテ其端ハ稍平面ヨリ高シ此机ハ盆ニ代用スルコトモアリテ食物ヲ盛リタル小椀ヲ載セテ臺所ヨリ之ヲ運ヒ其用終レハ種々ノ食物ヲ置クニ用ユ右ノ外通常家ノ内ニ見ラル、モノハ隅ニ掛リタル厚紙製ノ箱ニシテ扁平ニシテ取外シ得ヘキ底ヲ有シ外面ハ凸起シ中央ニ紐ヲ付ケテ掛ケタルモノナリ中ニハ帽子ヲ納ム

富家ニ於テハ高サ二尺三寸乃至三尺五寸餘ノ木造若クハ銅造ノ燭臺ヲ有ス燭臺ハ一本ノ棒ニ十字形ノ木片又ハ銅片ヲ貫キタルモノニテ其十字形ハ自由ニ上下ニ移動シ十字形ノ端ニ皿アリテ其上ニ蠟燭ヲ立ツ又其十字形ノ端ニ銅環ヲ有スルモノアリテ之ニ皿ヲ据エ植物油及ヒ馬脂ヲ注キ燈心ヲ用ヒテ點火ス貧家ニテハ木造棚ノ上ニ燈火ヲ備ヘ然ラサレハ手製ノ蠟燭ヲ以テ照ス此蠟燭ハ長サ四尺六寸餘直徑三分ノ一時ノ棒形ヲ爲シ頗ル明ルキモノニテ其光力ニ於テハ恐クハ「ステアリン」蠟燭ニ讓ルコトナシ韓人ハ夏ハ大概家ニ坐セスシテ戶外ニ火ヲ焚キ家族ヲ舉ゲテ其周圍ニ徹夜ス韓人ハ家居ノ慰安テフコトニ就テハ概シテ無意識ナリ第一寢臺ノ皆無ナルコトハ不便中ノ不便ナルモノ

ニテ富者ハ指ノ厚サノ綿蒲團ヲ床ノ上ニ敷キ貧者ハ地上ニ藁藁ヲ敷キテ之ニ臥ス又韓人ハ概シテ衣服ヲ更ヘスシテ臥ス枕ハ藁屑ヲ詰メタル袋ニシテ貧人ハ方形ノ木片ヲ以テ之ニ代フ夜具ハ身代ニ依リ絹若クハ綿布ヲ用ヒ何レモ綿ヲ入レタルモノナリ又罕ニハ虎皮、犬皮及其他ノ獸皮ヲ以テ之ニ代フルコトアリ厚紙ノ夜具モ亦目撃セラル

公舍 官衙及ヒ高等行政官(郡長知縣等)ノ住宅ハ通常ノ家ヨリハ高クシテ宏大ニ屋根モ瓦葺ニシテ個人ノ家屋中ニ異彩ヲ放ツ周圍ニハ高サ一丈一尺斗リノ牆壁ヲ繞ラシ市府ノ北壁附近ノ高處ニ位置シ常ニ南方ニ面シ街路ヨリ門ニ至ルノ間ハ石階ヲ設ク門ニハ中門大門及ヒ二個ノ側門アリ大門ハ只貴賓ノ爲メニ開カル、モノナリ門ノ上ニ四方開キタル櫓アリ瓦ヲ以テ蔽フ此櫓ノ上ニテ朝夕太鼓ヲ打チテ時刻ヲ報ス門ヨリ家屋マテノ間ニハ石疊ノ敷道アリ構内ノ周圍ニハ長屋アリテ部屋之ニ住シ門ニ直面シテ基石ヲ有スル建物ハ即チ主屋ナリ暖室法ハ普通ノ家屋ニ於ケルト同一ナレトモ之ヲ地中ニ設ケテ全ク管ヲ具ヘス煙ハ地下ヲ通シテ稀薄トナリ對側ノ屋基ノ孔ヲ經テ放散シ此時殆ント全ク色ヲ有セス建物ノ周圍ニハ頗ル廣キ有蓋道路アリテ其道路ニ三個ノ石階ヲ導ク家屋ハ長サ三十步乃至六十步廣サ十五步乃至三十步ニシテ正面ノ方向即チ南方ハ暑熱ノ時ニハ常ニ開カレ之ヲ閉ツルニハ通例鈎ヲ以テ屋根ノ下ニ掛ケラルル格子戸ヲ下ス格子戸ノ構造ハ普通家屋ノ外戸ノ如シ家屋ノ他ノ三面ハ空隙ナキ粘土壁ヲ以テ圍ミ罕ニハ煉瓦壁モアリ家屋ノ中央部ニハ最モ廣キ室アリテ應接竝ニ執務ノ爲メニ供シ其兩傍ニアルモノハ即チ住居室ナリ婦人舍ハ主屋ト別ニシテ主屋ノ後部ニアリ狹キ廻廊若クハ小路ヲ以テ主屋ト隔テラレ婦人舍自身モ兩々牆ヲ以テ劃シ其牆ニハ廻廊ニ通スル戸アリ之ヲ經テ直接ニ主屋ニ出入スルコトヲ得

服裝

韓國ノ服裝ハ支那ノ明代(千三百六十八年ヨリ千六百四十四年マテ)ノモノヲ寫シタルモノニシテ下ニ短衣ヲ着シ其上ニ上着ヲ蔽ヒ上着ハ兩側ニ切レ目アリテ膝ニ及ヒ袖ハ甚ク廣シ上着ハ腰ニ於テ帶ヲ以テ結束ス濶袴ハ膝ノ下マテ垂レ狭クシテ緊密ナル行儀ヲ以テ結束セラル之ニ藥製ノ草鞋ヲ加フレハ即チ服裝ノ全部具ハル韓國服制ノ特色ノ一ツハ衣囊及ヒ釧ノ皆無ナルコトニシテ釧ノ代リニハ紐ヲ用フ衣服ノ左衽ヲ以テ右衽ヲ被フコトハ洋服ト同一ニシテ亞細亞ノ他ノ國民ノ衣服着用法ト反對ナリ平民ハ通常短衣ヲ着シ只祝祭日ノ如キ場合ニノミ上着ヲ用フ冬夏ノ衣服ハ別ニ差異ナク冬服ニハ只其地質密ナルモノヲ用フルノミニシテ短衣ニハ羊毛ヲ入レ若クハ綿ヲ着ケタルモノアリ又冬ニハ衣服ヲ重ヌルコト五六對ニ及ヒ北韓ハ深毛獸多キヲ以テ此地方ニテハ毛皮ヲ用フル者多ク凡テ溫暖ノ氣候ニ入レハ一枚ツツ脱衣ス官吏ノ上衣ハ後部ニ切目ヲ有シ官ニ在ラサルモノ、衣服ハ切目ナクシテ縫ヒ塞カル祝日及ヒ訪問ノ時ニハ前記ノ上衣ノ上ニ尙ホ一層袖廣キ上衣一枚ヲ加フ客トシテ他家ヲ訪フトキハ其身代ニ依リ出來得ル丈ケ多クノ衣服ヲ重ヌルノ習慣アリテ時トシテハ下衣二三枚上衣モ二三枚廣袴二三對ニ及フコトアリ

正服モ亦通常服ト異ナルコトナケレトモ只地質ニ上等ノ絹布ヲ採ル文武官吏職務ヲ執行スル時ハ正服ヲ着ケ貴族ハ官衛ニ出頭スル時之ヲ着用ス正服ノ腰邊ノ兩側ニ廣キ紐ヲ縫着シタルハ蓋シ帶刀ニ象レルモノナリ文官ハ軍務ニ關係スル時ニアラサレハ武器ヲ携ヘス武官ト雖トモ亦同シ名族及ヒ官吏ノ通常服ハ其身代ニ依リ或ハ粗末ナル絹ヲ用ヒ或ハ絹布ヲ用フ衣服ノ色ハ多クノ場合ニ於テ白色ナリト雖トモ淡紅色、青色、淡綠色、紫色、褐色、淡黃色モ亦用ヒラレ官吏ノ服色ハ其位階ニ依リ大官ハ青色ヲ主トシ學

位ヲ有スル者ハ青色ノ縵帶ヲ上衣ノ兩側ニ着ク商人及ヒ普通ノ平民ハ白色ノ衣服ヲ用ヒ多クハ綿布ニシテ其喪服ト異ナル所ハ只微青ヲ帶フルニアリ喪服ハ酒サ、ル麻布ヲ以テ製セラレ

帶ハ通常綿布若クハ麻布ヲ以テ製シ然ラサル時ハ細ヲ以テ之ニ代フ名族及ヒ官吏ノ帶ハ絹若クハ錦襪ニテ仕立テラレ廣サ數吋ニシテ金、銀、骨若クハ角ノ帶止ヲ有ス又帶ニハ時トシテ琢磨シタル金銀ノ飾ヲ施シタルモノアリ平民ノ帶ハ綿布若クハ其他ノ高價ナラサル布ヲ以テ之ヲ製ス葬式及ヒ法事ノ時ニハ親戚ハ大ナル葉繩ヲ以テ帶ニ代ヘ頭モ亦葉繩ヲ以テ結フ凡テ身體ノ右側ニ於テ帶ニ袋ヲ掛ケ之ニ煙草燧石煙管扇等ノ物品ヲ入ル

韓人ノ防雨具ハ葉ニテ製シタルモノニテ水ハ其滑カナル表面ヲ流下ス此ノ如キ防雨具ハ支那及ヒ日本ニテモ大ニ用ヒラル

婦人ノ衣服ハ直接ニ膚ニ着ケテ胸部ヲ掩フ所ノ短衣及ヒ濶袴二三對ヨリ成リ濶袴ハ腰ノ稍上部ニ於テ紐ヲ以テ短衣ニ結ヒ付ケラレ婦人ノ濶袴ハ男子ノモノヨリモ稍狭クシテ膝ノ下部ニ於テ足ニ緊着ス是等ノ衣服ノ上ニ尙ホ彩色アル上部服及ヒ甚ク廣キ下部服ヲ纏ヒ下部服ハ腋下ニ紐ヲ以テ結ヒ付ク平民女子ノ下部服ハ短クシテ脚部ヲ現ハスモノアリ特權アル階級ノ女子ノ下部服ハ長クシテ地ニ曳キ其幅非常ニ廣シ女子ノ白衣ハ硬ク糊セラレテ一見骨張リノ如キ觀ヲ呈ス上部服及ヒ下部服ニ用フル地質ハ着用スル人ノ身代ニ依リテ種々アリ又上部服ノ色ハ年齢ニ依リテ差異ヲ有シ新婚婦人ハ薔薇色又ハ暗黃色、三十歳以下ノ女子ハ紫、三十歳以上ノ女子ハ白トシ寡婦ハ年齢ニ關セス白色若クハ灰色ノ麻布ヲ着用スヘキモノトス男子ノ服ニモ女子ノ服ニモ衣囊ナキカ故ニ必需品ヲ保ツ爲メニハ體ノ右側ニ於テ帶ニ袋ヲ掛ケ之

ニ小刀及ヒ虎ノ爪(虎ノ爪ヲ所持スル者ハ吉祥ナルモノト信ス)等ヲ收ム特權アル階級ノ女子外出スル時ハ前記ノ衣服ノ上ニ尙ホ長衣ヲ着ケ其長衣ハ頭ヨリ之ヲ被ヒ顔ハ全ク隠レテ小サキ孔ヨリ外ヲ見ル兒童ノ衣服ハ甚々簡單ニシテ二歳マテハ膝マテノ短衣ヲ着ケ三歳時トシテハ尙ホ晚クマテ上部服ヲ短カメテ袴ヲ加フ夏ニハ九歳乃至十歳マテノ兒童ハ裸體ナラサレハ只腰マテノ短服ヲ着クルノミ前ニ屢々記述シタルカ如ク韓人ノ衣服ハ白色ヲ最モ多シトスルカ故ニ屢々洗濯ヲ促ス洗濯ハ女子ノ仕事ニシテ水ニ灰ヲ加ヘ木片ヲ以テ衣服ヲ打チ洗ヒ上ケタル後ハ之ニ光澤ヲ持タセ且垢ヲ防ク爲メ硬ク之ニ糊ス衣服ハ其大部分ヲ小布片ノ貼合ニテ製シタルモノアリテ平民ニハ此種ノ衣服最モ多ク之ヲ洗濯スルニハ各片ヲ分解シテ個々之ヲ洗濯シ然ル後又之ヲ貼合ス裁縫シタル衣服ハ價モ高クシテ只富者ノミ之ヲ着用ス織縫ハ婦人ノ仕事ニシテ營業的裁縫師アルコトナシ韓國婦人ノ用フル針ハ歐羅巴ノ種類ノ如ク其耳中央ニ位置セスシテ一方ニ偏シ皮革ヲ以テ製シタル針頂ヲ人指シ指ニ穿チテ此針ヲ使用ス

服裝 平民ハ夏ハ足ヲ露出シタル儘履物ヲ穿チ冬ノミ足袋ヲ着ケ室内ニテハ通常履物ヲ脱ス上等社會ノ人々ハ家ニアル時モ常ニ足袋ヲ穿ツ足袋ハ日本及ヒ支那ニ於ケルモノト同シク麻布ノ二等片ヨリ縫ヒ合セラレタルモノナリ韓國ニ於テ最モ廣ク用ヒラル、ハ革鞋ニシテ豈類若クハ稻其他ノ藁ヲ以テ之ヲ製シ苧紐ヲ指間ニ通シテ結束ス此履物ハ甚々輕シト雖トモ破レ易キカ故ニ不便ナリ且ツ足ノ上部ハ露開シテ寒濕ヲ防カサルカ故ニ冬時ニハ適セス稻藁ノ草鞋ハ大概數日ヲ過クレハ破レテ用ヲナサス然レトモ價極メテ廉ナルカ故ニ幾足ヲ購フモ痛痒ヲ感セス藁ノ草鞋ノ外苧繩又ハ楮皮ヲ編ミテ製シタルモノアリ是ハ藁製ノモノヨリ體裁ヨシト雖トモ稍高價ニシテ且ツ少シノ濕氣ニ遇ヘハ用ヲ爲サ、ルカ故ニ其需用甚

々少ナシ又村落ニ於テハ厚キ底及ヒ踵ヲ有スル木製ノ靴アリ又革靴モ見ユ靴ハ外觀美ナラス而シテ草鞋ノ如ク歩行ニ便ナラス而シテ高價ナリ故ニ之ヲ用フル者甚々多カラス

上流社會常用ノ履物ハ支那式ノ羅紗靴、天鵝絨靴、革靴並ニ繩ノ編底ヲ有スル麻布靴ニシテ其禮裝トシテハ羅紗、綿剪絨又ハ黑革製ノ長靴ヲ用フ是等ノ長靴ノ爪先ハ廣クシテ尖リ稍上方ニ向ヒ其脛部ハ短クシテ廣シ新婚者及ヒ學位受得者ハ青色ヲ以テ飾リタル膝マテノ木靴ヲ穿ツヲ常トス

頭飾 韓國ニテハ帽子ヲ被ルハ成年男子ノミノ特權ニシテ婦人及兒童ハ頭ヲ露出シタル儘外出ス「マングン」ト稱スル帽子ハ直徑二呎周圍六呎ニシテ形チハ圓ク六吋ノ廣サ縁及ヒ高サ六吋ノ狹キ帽頂ヲ有ス帽子ハ紐ヲ以テ顎下ニ結ヒ帽頂ハ結束シタル頭髪ヲ蔽フ此帽子ハ暑雨寒ヲ防カス甚々不便ナルモノナリ帽子ハ其地質種々アリト雖トモ竹ノ細線ヲ編ミテ其上ニ黑漆ヲ施シタルモノ最モ多シ黑漆ハ濕氣ヲ防クタメナリ其外豚毛及ヒ普通ノ馬毛ヨリ製シタルモノアリ彩色ヲ有スル帽子ハ白色ノ馬毛ヲ以テ製シ然ル後好ム所ノ色ニ染ム此目的ヲ以テ支那ヨリ白馬ヲ輸入ス喪服ノ帽子ハ竹製ノ白色ノモノニシテ灰色若クハ白色ノ苧布ヲ以テ之ヲ覆フ又大官ノ帽子ハ鍍色ニシテ帽頂ノ上部ハ尖リ其上ニ銀製ノ小サキ鶴或ハ其他ノ鳥ヲ着ケテ飾トシ紐ハ銀琥珀其他ノ寶石ヲ以テ飾ラル小官吏ノ帽子ハ黑色ニシテ帽頂ノ上部ハ扁平ナリ飾ニハ水晶ヲ用フ

官吏ハ前ニ記述シタル種類ノ外「タンゴン」ト稱スル頭飾ヲ付ク此モノハ「フリヂヤ」人ノ帽子ニ似テ毛髮ヲ編ミテ造リタルモノナリ

羅馬法王ノ冕旒ニ似タル帽子アリテ近來マテ貴族專用ノモノトナシタリ尙宮中ニ用ヒラル、一種ノ帽子

アリテ其帽子ハ兩側ニ突出シタル縁ヲ有ス名族ハ帽子ノ紐ヲ空色ノ陶製玉、瑪瑙及ヒ琥珀等ニテ飾ル雨
 天ニハ帽子ノ上ニ油紙ヲ掩フト雖トモ通常天候惡シキ時及ヒ降雨ノ時ハ直徑三呎ノ藁製ノ帽子ヲ用フ此
 帽子ハ甚タ輕ク而シテ幾分カ顔面ヲ蔽ヒテ雨ヲ防クカ故ニ前者ヨリ便ナリ
 冬時韓國特ニ北韓ニ於テハ圓錐狀ノ帽子ヲ用フ此帽子ハ後部ニ廣キ毛皮ノ垂レヲ有スルモノニテ大寒ノ
 時咽喉ヲ防禦ス此帽子ハ上流社會ニ於テハ貂皮若クハ其他ノ彩色アル毛皮ヲ以テ作ル夏ニハ平民ハ種々
 ノ形ノ藁帽子笠帽子及ヒ油紙帽子ヲ被ル

韓人ノ中ニハ著シカラサレトモ眼鏡ヲ用フル者アリ昔ハ眼鏡ヲ知ラサリシカ千八百三十五年ヨリ千八百
 四十年ノ間ニ於テ此品傳來シ千八百四十八年頃ニ至リテハ之ヲ用フルコト流行トナリ現今ニ於テモ上流
 社會及ヒ學者社會ニ於テ廣ク用ヒラル但王ニ謁見スルトキハ之ヲ用フルコトヲ得ス又古風ヲ守ル人ハ人
 ニ面シテ眼鏡ヲ用フルトキハ先ツ其許可ヲ乞フ眼鏡ハ清國式ニシテ玻璃玉太ク銅縁ニシテ紐ヲ有シ其紐
 ヲ以テ後頭部ニ結ヒ付ク

暑夏ニハ女子ノミナラス男子モ亦外出スルニ扇ヲ携フ扇ノ上品ハ絹ヲ以テ製セラレ其柄ハ眞珠ノ彫刻
 ヲ以テ飾ラル但普通品ハ麻布及ヒ油紙ニテ製セラル

理髮 理髮ノ方法ハ階級ノ差別ナク一様ニシテ即チ四方ヨリ頭髮ヲ搔キ揚ケ絹若クハ其他ノ紐ヲ以テ
 頂ニ於テ之ヲ結ヒ拳大ノ一塊ヲ爲ス、頭髮ヲ止ムルニハ珊瑚及ヒ銅ノ止針アリテ高位ノ人ハ金ノ止針ヲ
 用フ官吏及ヒ名族ハ馬毛製又ハ光澤アル糸ヲ以テ製セラレタル黒キ網ヲ以テ結髮ヲ蔽ヒ時トシテハ網ニ
 代フルニ菩提樹ノ纖維若クハ海草ニテ編ミタル圓帽ヲ以テヌ平民ハ或ハ木皮ノ纖維ヨリ製セラレタル網

若クハ輪ヲ額ニ着セ又ハ青草ノ花冠ヲ頂クモアリ有妻者ハ殆ント總テ頸髭及ヒ上髭ヲ蓄ヘ稀ニハ頰髭ヲ
 有スルモアリ頸髭ハ多クハ長シト雖トモ其毛ハ麤キコト馬毛ノ如ク或ハ頰及ヒ顔ノ下部ヲ掩フモノアリ
 ト雖トモ多クノ人ハ單ニ頸ノミニ髭ヲ存ス韓人ハ頸髭ヲ以テ甚タ自慢シ注意シテ之ヲ美ナラシム女子ノ
 頭髮ハ甚タ濃厚ニシテ長キモノヲ美麗トシ其辨髮ハ十六乃至十九「サンチメートル」ノ長サヲ有スル「ピ
 ン」竝ニ環ヲ以テ合束シ富家ノ女子ハ銀製銅製又ハ金製ノ「ピン」ヲ用ヒ頭髮ニハ植物油ヲ塗ル平民ノ女
 子ハ通常ニ二様ノ辨髮ヲ爲シ勞働ニ出ツル時ハ頭頂ニ辨髮ヲ卷キテ枕ヲ作り其上ニ水瓶若クハ其他ノ荷物
 ヲ載ス韓國婦人ハ種々ノ「コスメチック」ヲ知り顔ノ扮粧ノ爲メニハ白粉、紅及ヒ其他ノ油ヲ用フ髭ハ自
 己ノ頭髮ト結合シテ用フルモノニシテ小女ノ間ニモ行ハル

兒童ハ男女ノ別ナク一個ノ辨髮ヲ有シ之ヲ背ニ垂ル此理髮法ハ婚姻前ノモノニシテ結婚セントスル者ハ
 式ノ數日前之ヲ改メテ頂上ニ結髮シ黒色ノ絹紐ニテ之ヲ結フ韓人ハ概シテ頭髮ヲ切ラス然レトモ成年者
 ハ美麗ナル冠ヲ頂ク爲メ頭ノ上部ヲ剃ル

食物 韓人ハ通常一日ニ三回若クハ四回食ス朝ハ淡泊ナル食物ニシテ日中ニハ濃厚ナル食物ヲ供ヘ夕
 星現ハレテ後濃厚ナル晚餐ヲ喫ス食卓ノ席順ハ主人ハ西ニ向テ坐シ其右方ハ尊長者南ニ向テ坐ス之ヲ上
 座トス又主人ト社會上ノ地位相同シキ者ハ主人ニ對シテ坐シ其他ノ者ハ北ニ向テ坐ス食物ハ各人ニ特種
 ノ小机ニ載セテ出サレ食物ハ皆既ニ皿ニ盛ラレテ若干ノ大小椀及ヒ皿ト共ニ其上ニアリ食スル時ハ支那
 人ノ如ク二本ノ箸(骨若クハ木ニテ製ス)竝ニ二枝ノ匕及ヒ小刀ヲ用ヒ汁醬油等ノ爲メニハ陶器製若クハ
 銅製ニシテ長キ柄ヲ有スル匕ヲ用フ但銀製ノ匕ハ其々稀ニシテ地方長官ノ家ニテモ尙之ヲ見ルコト甚少

ナシ富者ハ机ヲ覆フニ布ヲ以テセシテ光澤アル精良ノ紙ヲ用フ家ニ依リテハ眞珠ノ彫刻アル古風ノ机ヲ用ヒ又昔ノ唐式ノ食器ヲ有ス此唐式ノ器具ハ韓國ニ於テ既ニ久シク其製造ヲ禁セラレタルモノニテ此ノ如キ食器ハ何レモ甚タシキ奢靡品ト見做サレ王族ニアラサレハ用フルコトヲ許サレス凡テ食物ニ關シテハ韓人ハ淡泊ナリト云フヲ得ヘク朝晩ニハ米ノ糞汁一皿及ヒ野菜ノ五種ヲ食シ加味ノ爲メニハ印度胡椒ヲ用ヒ富者ハ尙之ニ獸肉魚肉及果實ヲ加フ食物ニハ總テ胡椒蓖麻若クハ薄荷油ヲ混シテ油質多ク「バタ」ハ本來搾乳業ナキ故ニ一言スルノ要ナシト同シク牛乳モ亦牛畜ノ力ヲ衰弱セシムルノ憂アリトシテ之ヲ搾採セサルカ故ニ用ヒス又動物製ノ蠟モ加味品ニ用ヒラル、コトナシ

牛肉ヲ食スルハ多クハ富家ニシテ韓國ニハ牛肉ハ專賣ナルカ故ニ普通ノ國民ハ之ヲ食スルヲ得ス其代リニ豚及ヒ種々ノ野禽類甚タ豊富ニシテ膳ニ上ルコトモ多量ナリ韓人ノ最モ好ム所ハ生肉及ヒ動物ノ内臓ニシテ内臓ハ何ノ原因ニヨリテカ之ヲ珍味トナス生肉ハ通常之ニ種々ノ胡椒ヲ加味シテ食シ魚肉ト雖トモ尙ホ之ヲ生食シ新鮮ナル生魚ヲ胡椒醬油ニ浸シ生キナカラ之ヲ吞ミ込ムモアリ鹽藏魚ハ韓人ノ食物ノ主要ナルモノニテ尙ホ總テノ肉店ニ販賣スル所ノ犬肉モ食物ニ供セラル但猫、栗鼠、狐、鶴及ヒ白鳥ハ之ヲ食スルヲ以テ罪アリトス肉ハ常ニ大片ニ切りタルモノニテ野禽鷄等ハ其儘蒸シ或ハ燒キ内臓モ翼モ之ヲ去ルコトナク之ヲ食フニハ骨ト雖トモ吞ミ込ムコトアリ富者ハ客ニ供スルニ鳥ノ全身ヲ以テス食物ヲ加味スル爲メ豆ヨリ種々ノ醬油ヲ作り又胡椒、芥子及ヒ酢ヲ混シタル「ソース」ヲ製ス

玉蜀黍、粟、蕎麥、米等ヨリ種々ノ團子ヲ製ス米粥ハ韓國ノ晝飯ノ主要部分トシ又或時ハ如何ニシテカ製シタル赤飯アリ米ハ主トシテ之ヲ蒸スカ故ニ全ク乾キタルモノトナル然レトモ水分ヲ欲スル人ノ爲メ

ニハ熱湯ヲ有スル茶碗ヲ供シ之ニテ飯ヲ濕ス又汁ニ素麵ヲ混スルコトアリ野菜ノ中ニテハ豆「キヤベツ」菜服、蕪、菠蔞草、蒜、葱等アリ其外粟、胡桃、樗ノ實、海藻、羊齒葉、筍、大麥ノ嫩芽等モ食物トナル韓國ニハ砂糖ナキカ故ニ甘味ヲ付スルニハ蜜ヲ用フ又食事ノ終リニハ林檎、梨、葡萄、梅、種々ノ草ノ實、桃、小サキ甘瓜等ヲ用ヒ甘瓜ハ皮ヲ去ラス切ラスシテ食フ客ヲ饗スル時ニハ食卓ハ通常造花ヲ以テ飾ラレ其献立ノ一例ヲ掲クレハ煮卵、胡麻及ヒ蜜ヲ混シタル團子、諸種ノ魚類、蜜ヲ加ヘタル蒸飯、山午勞ヲ混シタル鷄汁、糞タル豚ノ足、鷄ノ蒸肉、植物油及ヒ蜜ヲ混シタル粉餅トス又食事ニハ自國産ノ燒酎、蜜及ヒ種々ノ浸酒ヲ供ス而シテ燒酎ハ之ヲ爛シテ出スモアリ然ラサルモアリ又上流社會ハ葡萄酒及ヒ蜜酒ヲ飲用ス

茶ヲ飲ム者ハ甚タ少ナク平民ハ全ク之ヲ用ヒスシテ飯ヲ炊キタル餘汁ヲ以テ之ニ代フ故ニ茶ヲ販賣スル者ハ只支那人若クハ日本人ノ住居スル市街ニ於テ之ヲ見ルノミ

韓人ハ獸肉及ヒ魚肉ヲ保チ竝ニ酒ヲ冷却スル爲メニ夏日氷室ヲ設備ス氷室ハ深キ穴ニシテ上ニ芝士ヲ蔽ヒタルモノナリ氷ヲ有セサル者ハ市街ノ附近ニ大ナル氷庫ヲ有スル所ノ商人ニ就テ之ヲ求ム

制 度

舊時ノ制度 韓國ハ日清戰爭マテ清國ニ對シテ附庸關係ヲ認メシト雖モ其君主ハ歐羅巴ノ列國ヨリ國王ト呼ハレ内治外交ニ於テ完全ナル獨立權ヲ有シ其支那ニ對スル附庸關係ノ微證ト見ルヘキモノハ只數個條ノ形式アルノミニテ即チ朝貢使ヲ發シ種々ノ土宜ヲ送リテ支那ノ曆本ヲ受ケ重要ナル國事及ヒ王

族ノ主要ナル異動アレハ之ヲ支那朝廷ニ報告シ從テ王ノ即位ハ直チニ特使ヲ發シ之ヲ支那皇帝ニ報シテ其決定ヲ請ヒ支那皇帝ハ此場合ニハ常ニ遲滯ナク決定ヲ與ヘ又支那皇室ニ重大ノ事件アルトキハ韓國ハ慶弔使ヲ特派シ支那皇帝亦使節ヲ發シ書ヲ以テ之ニ答ヘ韓國ハ其使節ニ對シ異常ノ禮遇ヲ與フルヲ例トシタリ

使節送遣ノ外、韓國カ支那ニ對シテ受ケタル制限ハ其曆本ヲ用フルニ在リ但其曆本ハ韓國ノ事情ニ應シ多少變改セラレタルモノナリトハ雖モ韓國ハ之ヲ用フルヲ義務トシ公文書ノ日附ハ之ニ依リテ記載シ自國ノ年號ヲ用フルコトヲ得ス又王自身ハ在位中皆「チュウ、サン、チョン、ハー」ト稱シ死後始メテ支那皇帝ニ諡號ヲ受ク其諡號ハ國王ノ承繼者ノ選ヒタル三種ノ中ヨリ支那皇帝ニ於テ之ヲ決定ス此諡號ハ爾後其皇帝ノ名トナリ歴史ニ記載スル所モ此名ニシテ孰レモ四字ヨリ成ル黃色ハ支那皇帝ノ表章タルカ故ニ韓國々王之ヲ用フルコトヲ得ス皇冕モ同理ニヨリ亦然リ韓國ノ君主ハ其領内ニ於ケル凡テノ國民（王族ヲモ含ム）ニ對シテ無限ノ權力ヲ有シ生殺與奪ヲ專斷ス然レトモ孔教ノ主義ニ依リ王ハ其國民ノ運命ニ關シテハ責任ヲ帶ヒ其國民ノ幸福ニ關シテ顧慮シ其危害ヲ防キ且ツ法律ノ施行ヲ監視セサルヘカラス耶蘇紀元第十四世紀ノ終ヨリ千八百九十四年マテ韓國ニ存在セシ治國主義ハ概シテ明朝（千三百六十八年ヨリ千六百四十四年ニ至ル）ヨリ借リ來レルモノナリト謂フヲ得ヘシ

韓國々王ノ表章ハ斧、刀、三叉槍、龍、赤色及ヒ國璽ニシテ初ノ三種ハ行幸ノ時之ヲ捧持シテ先行シ龍ハ玉座ニ彫刻セラレ又支那皇帝與フル所ノ王ノ禮裝ニ縫ヒ出サル

王位ハ死去ニ依リテ止ム但シ時トシテハ生存中自由意思ニ因リテ之ヲ讓リ若クハ外部ノ脅迫ニ依リテ之ヲ放棄スルコトアリ現朝ニ於テハ其子若クハ親戚ノ爲メニ自由意思ニ因リテ讓位セル王四人、廢黜セラレタル王二人ヲ出セリ君主ノ廢黜セラレタル者ハ支那皇帝ヨリ諡號ヲ受クルコトナシ又韓國ニハ王位承繼ニ關スル一定ノ法律アルコトナク王ハ通例生存中ニ自己ノ意見ニヨリ其子若クハ兄弟若クハ伯叔父ノ中ニヌラ其欲スル所ノモノヲ撰ヒテ承繼者ニ指定スルヲ常トス但王妃ニ出ツル王長子ヲ指定スル場合最モ多ク嫡出子ノ廢黜セラレタル例ハ最少シ又王妃ニ男子ナキトキハ王ハ庶子ヲ撰シテ之ヲ承繼者ト爲スコトアリ此場合ニ於テハ後ニ嫡出男子出生スト雖モ其男子ハ承繼ノ權ヲ取得スルコトナシ若シ王、承繼者ヲ定メスシテ死スルトキハ王妃之ヲ定ム承繼者定マルトキハ遲滯ナク北京朝廷ニ報告シテ其確定ヲ請フ女子ハ王位承繼ノ權ヲ有セス

王死スレハ其承繼者ハ尙ホ成年ニ達セスト雖モ直チニ踐祚シ即位ノ公布ハ王ノ死後第七日ニ之ヲ爲ス而シテ王幼少ナルトキハ王大妃攝政シ幼王ノ名ニ依リテ萬機ヲ總攬ス但攝政妃大臣會議ニ出席スル時ハ透明ナル幕ヲ隔テ、着座ス是レ韓俗上流社會ノ女子ハ顔面ヲ露ハシテ他家ノ男子ニ接スルヲ禁スルカ故ナリ

韓國ノ最高政治機關ハ議政府ニシテ王ノ樞密會議タル性質ヲ有ス議官ハ終身其職ヲ有スト雖モ出席スル者ハ其中ノ三人ノミニシテ之ヲ三公ト稱ス三公ハ二三年毎ニ議官中ヨリ順番ニ任命セラル議政府ノ事務ハ二人ノ秘書官、二人ノ秘書官補及ヒ若干ノ下級官吏アリテ之ヲ處理ス

高等政治機關ノ一ツニ中樞院アリ議長一人顧問官二人高級議官六人下級議官八人、等外議官八人ヨリ成リシカ後ニハ其定員ヲ増加シタリ文書ノ事務ハ事務官一人秘書官三人アリテ之ヲ司リ會議ハ一ヶ月一回

宮中ニ於テ開キ國王自カラ出席スルコト多シ

「スキーン、チヨン、オン」或ハ略稱「チヨン、オン」ハ國王ニ屬スル總務局ノ觀ヲ有スルモノニテ國王ト諸官省トノ間ニ在ル傳達機關タリ其官吏ハ之ヲ「スイーン、チー」ト稱シ各官省(議政府及ヒ大臣會議ヲ除ク)ヨリ進達スル事項ノ要領ヲ上奏シ國王ノ命令ヲ諸官省ニ傳達スルノ責ニ任ヌ

國內巡察ノタメ御史ヲ置ク御史ハ高秩ノ大官之ニ任シ其巡視中ハ權力甚タ大ナリ、絶エス各地方ニ微行シ民心ノ趨向、法律ノ施行及ヒ官吏ノ行動ヲ監視シ州ノ長官ニ對シテハ之ヲ黜陟シテ刑ノ審問ヲ加ヘ其
他ノ官吏ニ對シテハ之ヲ罰スルノ權ヲ有シ必要アル時ハ小官ニ對シテ死刑ノ宣告ヲ爲スノ權限ヲモ委セ
ラレ御史ノ報告ハ政府ノ最モ重視スル所ナリ御史ハ其巡視ヲ爲スニ當リ護衛ヲ付ケス平服ヲ着用シテ徒
歩シ以テ旅行ノ目的ト自己ノ所在地ヲ晦匿シ若シ公然行動ヲ爲スノ必要アル時ハ其官職ヲ告ケ印章ヲ示
シテ之ヲ證明ス印章ハ銀材ニ馬ヲ彫刻シタルモノナリ又御史ノ命令ヲ執行スル爲メ若干ノ官吏アリ其官
吏モ亦平服ヲ着ケ到ル處御史ニ追尾シ御史ヨリ召還ヲ受クレハ直チニ之ニ應スルノ準備ヲ有ス

前記ノ外、尙高等政治機關ニ屬スル六曹アリ吏曹、戶曹、禮曹、兵曹、刑曹及ヒ工曹トス是等ノ機關ノ
名稱組織及ヒ管轄事項ハ千七百八十五年發行ノ「チヨン、ソオン、ムン、ヒョウ」ニ依リテ定マル各曹ニ長
官アリ長官ノ下ニ次官一人參事官一人アリ法律ニ依レハ各曹ノ長官若クハ次官ハ毎日其管轄ニ屬スル事
務ヲ王ニ詳細奏上スルノ義務ヲ有シ普通ノ事務ハ職權ヲ以テ專行シ事重大ナルモノハ之ヲ具シテ最高機
關即チ議政府ニ提出ス

千八百八十二年ヨリ千八百八十四年ニ至ルノ間六曹ニ尙ホ二個ノ歐羅巴式中央機關ヲ加ヘ即チ内務部及

ヒ外衙門是ナリ外衙門トハ略稱ニシテ其公稱ハ統理交涉通商事務衙門ト謂ヒ千八百八十年代ニ於テ外國
ト條約ヲ結ヒ京城及ヒ開港場ニ外國代表者ノ駐在シタルニ依リ必要上設置セラレタル機關ナリトス其以
前ハ外交ニ關スル事務ハ中樞院及ヒ禮曹ノ管掌スル所タリ内務部及ヒ外衙門ニ長タル者ヲ督辦ト稱シ從
來ノ六曹ノ長官即「チフ、ハン、シヨウ」ト名ヲ別ニセリ内務部ニ於ケル長官ハ議政府員ノ一人之ニ當ルヲ
以テ内務部設立以來國政ヲ舉ケテ之ニ總ヘントスルノ傾向ヲ現ハスニ至レリ

地方制度ハ全國ヲ八道即チ咸鏡道、江原道、慶尙道、全羅道、忠清道、京畿道、黃海道及ヒ平安道ニ區
分シ各道ニ觀察使アリテ之ヲ治ム觀察使ハ通例之ヲ監司ト稱シ其下ニ二人ノ文武秘書官即チ武官ナル中
軍及ヒ文官ナル都事アリ咸鏡道ノ北部ハ一時按撫使アリテ道ノ長官ヨリ獨立シテ之ヲ治メタルコトアリ
首府ノ所在地ナル京畿道ノ長官ハ同時ニ道内四要塞ノ長官(ユ一、ジユ一)タリ平安道ノ長官ハ同時ニ「プ
一ユン」即チ平壤市長ヲ兼ネ又咸鏡道ノ長官ハ慶興市長ヲ全羅道ノ長官ハ晉州市長ヲ兼ヌ總テ道ノ長官
ハ其管内ノ政治ヲ總括シ長官アラサルトキハ假都事アリテ臨時之ヲ代理ス

市邑ハ之ヲ四等ニ區分シ州府郡縣トス州ニハ牧使ヲ置キ府ニハ府使(完全稱ハ都護府使)ヲ置キ郡ニハ郡
守ヲ置キ縣ニハ縣令若クハ縣監ヲ置ク

清國ノ境界ニ在ル義州及ヒ國ノ東南部ニ在ル慶州ニハ「プ一ユン」ヲ置ク主要ナル市邑安東、昌源、江陵、
永興、寧邊ノ長官ハ之ヲ大都護使ト稱シ道ノ首府ノ長官ハ凡テ判官ト稱シ只平壤ノミハ之ヲ庶尹ト稱
ス

以上記載シタル官吏ヲ等級順ニ擧クレハ左ノ如シ

(一) 觀察使(二) 府尹(府尹?)(三) 之ヲ置クハ只ニ市邑ノミ(四) 大都護府使(之ヲ置クハ五市邑)(五) 牧使

殆ント道長官ヨリ獨立シテ一ノ政治區ヲ爲スモノ京城ノ外五市邑アリ之ヲ五都ト稱ス即チ松都(又開城ト稱シ高句麗朝舊都) 江華、廣州、水原及ヒ春川ニシテ各都ハ二人ノ留守ナル職アリテ之ヲ管理シ留守ノ一人ハ同時ニ道ノ長官タルモノナリ留守ノ職掌ハ文武兩性質ヲ兼ネ其幕僚トシテ中軍一人判官一人之ニ屬ス中軍ハ松都ニ於テハ之ヲ「キヨン、ニー」ト稱シ江華ニ於テモ初メハ之ト其名ヲ同クセリ

新制度 千八百九十四年七月二十三日即チ日本カ京城政府ヲ占領シタル日ヨリ韓國ノ政圈ニ急激ナル變化始マリ日本公使大島ノ提議ニ依リ國王ハ立法部即チ軍國機務處ヲ設置スル令ヲ布キ以テ諸般ノ政務ヲ審議スルコト、セリ此官衙ノ組織ハ議長一人副議長一人議官十人以上二十人以下秘書官三人トシ秘書官ノ一人ハ議長ニ專屬ス各員ハ議案ヲ提出スルノ權ヲ有シ國民モ總テ改革ニ關スル意見ヲ之ニ提出スルコトヲ許サレ其議、國政ニ裨益スル所アルモノニハ其功程ニ應シ官職ヲ約シタリ第一會議ハ千八百九十四年七月三十日之ヲ開キ十月二十九日ヲ終會トシ同年十二月十七日ノ上諭ニ依リ之ヲ廢シ以來改革事務ハ中樞院ニ移リタリ此ノ如ク軍國機務處ノ存在短カ、リシハ吾人ノ知ル所ヲ以テスレハ主トシテ韓國保守黨ノ反對ト大島ノ後任者タル井上ノ受働的態度(假令反對セストモ)ニ原因シタルモノニテ議官モ亦多ク出席不規律ニシテ相互ニ不和ヲ生シ、タメニ其廢止ヲ速カナラシメタリシナリ
前記軍國機務處ノ短期間ノ事業トシテ諸般ノ政務ニ關スル法令二百八件ヲ發布シ皆國王ノ裁可ヲ經テ法

律ノ功カヲ有スルニ至リタリ故ニ其内後日廢止セラレサルモノハ理論上現今ニ於テモ尙ホ有效ナリト認メサルヘカラス是等ノ法令ノ一部分ハ冊子トシテ發布セラレ一部分ハ官報ニ依リテ公布セラレタリ官報ハ從來ノ朝報ヲ千八百九十四年七月二十二日ニ改正シタルモノナリ

軍國機務處ニ於ケル第一着ノ事業ハ行政制度ノ改革ニシテ第一回ノ會議ノ日即チ千八百九十四年七月三十日之ヲ國王ニ提案シタリ其案ニ依レハ議政府ヲ以テ國家ノ最高機關トシ總理大臣アリテ部下ニ四十三人ノ職員ヲ置キ本會議及ヒ中樞院(既ニ改正セラレタル)ノ事務其他ノ政務ヲ處理スルコト、ナシ其管下ニ八衙門ヲ置キテ政務ヲ分擔セシメ各衙門ハ之ヲ數個ノ局ニ分チ凡テ行政各部ハ宮内省ヲ除クノ外皆改正ヲ施スヘキ豫定ナリキ

然レトモ此案ハ實行ノ遲ヒニ至ルノ見込ナク千八百九十四年八月十一日ニハ既ニ本會議自カラ先ツ多クノ改正ヲ始メ其後ハ本會議廢セラレ之ニ代リタル立法會議モ之ニ對シテ諸般ノ變更ヲ實施シタリ

現今ノ制度ハ以下記述スル所ノ如ク千八百九十五年四月ニ始マリタルモノニテ國王ハ千八百九十五年一月七日其實施ヲ約シタリ是レ國王カ數回遷延ノ後清國ノ羈絆ヲ脫スルコト及ヒ政治ノ改革ヲ爲スコトヲ宗廟ニ誓ヒタルノ日ニシテ是等ノ新制度ハ千八百九十五年ノ一年間ニ日本人ノ勢力及ヒ指導ニ依リテ成立シ其後多クノ改正増補(千八百九十六年ニ行ハレタルモノ最モ多シ)ヲ經現今ニ於テハ其實行セラル、モノ甚タ尠ク實際ニ於テハ改革前ノ制度寧ロ甚タ多シト雖モ少クトモ紙上ニ於テハ前記法律ヲ以テ最終ノ確定法律ト見做サル可カラサルナリ

官職 官吏タルコトハ條理上ニ於テハ國民一般ニ許サル